

市原市稲荷台遺跡P地点

2 0 2 1

社会福祉法人 おもいやり福祉会
市 原 市 教 育 委 員 会

い な り だ い

市原市稲荷台遺跡P地点

2 0 2 1

社会福祉法人 おもいやり福祉会
市 原 市 教 育 委 員 会

例 言

- 1 本報告書は、市原市山田橋2丁目4番地5ほかに所在する稲荷台(いなりだい)遺跡P地点の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査は、保育所建設に伴い、社会福祉法人おもいやり福祉会の委託を受け、千葉県教育委員会の指導のもと、市原市埋蔵文化財調査センターが実施した。
- 3 発掘調査は、既調査箇所を除く開発範囲1,592.9㎡のうち、836.8㎡を対象として実施した本調査である。これは、令和元年度に市原市の国庫補助事業として埋蔵文化財調査センターが実施した160㎡の確認調査の結果を受けたものである。
- 4 安全上の問題から、本調査範囲836.8㎡のうち、実際に掘削を行った面積は748.058㎡である。
- 5 調査コードは、確認調査がセ576、本調査がセ578・セ580である。
- 6 発掘調査・整理作業は以下のとおりに行った。
確認調査(セ576) 令和 元年11月18日～令和 元年12月19日 担当 中野喬介
本調査 (セ578) 令和 2 年1月24日～令和 2 年3月27日 担当 中野喬介・齊木 誠
(セ580) 令和 2 年4月2日～令和 2 年5月29日 担当 齊木 誠・中野喬介
整理作業 令和 2 年6月1日～令和 3 年1月15日 担当 齊木 誠
- 7 本書の執筆・編集は齊木が行った。整理作業は齊木のほか、櫻井敦史・小橋健司が従事した。
- 8 挿図中の方位は座標北を、高さは海拔を示している。
- 9 挿図中の平面図及び土層断面の「K」は攪乱を表す。
- 10 挿図中の「GL」は「Ground Level」の略であり、「地山高」を意味する。
- 11 本書内にて記載した色調については、小山正忠・竹原秀雄『新版 標準土色帖』日本色研事業株式会社に準拠している。
- 12 本書内において、()を付した数値は残存値、?を付した数値は推定値を表す。
- 13 本書内の土器実測図において、完形・反転復元実測図は4分の1、断面実測図は3分の1縮尺で掲載している。
- 14 図版2及び3の3次元データ(オルソ画像)は、フルサイズ一眼レフデジタルカメラ(RICOH : PENTAX K-1 Mark II)にて撮影した遺構及び調査区内写真をもとに、Agisoft Metashape Professional(64bit) ver.1.6.1を用いて作成した。
- 15 図版18から24の遺物写真の縮尺は基本的に実測図に準じ、例外は注記している。
- 16 本書に掲載した出土遺物及び図面・写真等の記録類は、市原市教育委員会ふるさと文化課埋蔵文化財調査センター(千葉県市原市能満1489番地)で収蔵・保管している。

凡例 (遺構)	炉火床面	粘土・カマド袖	焼土	炭化材	柱当たり・柱痕跡	硬化面
	● 遺物点(土器)	▲ 遺物点(土製品・瓦)	■ 遺物点(石器・石製品)	★ 遺物点(鉄製品)	◇ 遺物点(種子)	
(遺物)	石製品断面	鉄製品断面	付着炭化物	灰釉・赤彩		
	施釉断面	須恵器断面	黒色処理	● 研磨痕	●● 強い研磨痕	○ 敲打痕

本文目次

1 調査に至る経緯	1
2 遺跡周辺の環境	1
3 調査の成果	
(1) 調査概要	2
(2) 遺構と遺物	5
4 まとめ	64

挿図目次

第 1 図 稲荷台遺跡及び周辺遺跡 位置図	2	第 25 図 SI007 遺構	30
第 2 図 稲荷台遺跡 周辺地形図	3	第 26 図 SI008 遺構	32
第 3 図 調査区全体図	4	第 27 図 SI009 遺構	33
第 4 図 SI001A・B 遺構(1)	6	第 28 図 SI007 ～ 009 遺物	34
第 5 図 SI001A・B 遺構(2)	7	第 29 図 SB001 遺構	35
第 6 図 SI001・001A 遺物	8	第 30 図 SB002 遺構	36
第 7 図 SI001A 遺物	9	第 31 図 SB003 遺構	38
第 8 図 SI001B 遺物	10	第 32 図 SB004・005 遺構	39
第 9 図 SI002 遺構(1)	12	第 33 図 SA001・002 遺構	41
第 10 図 SI002 遺構(2)	13	第 34 図 SB001 ～ 005、SA001 遺物	42
第 11 図 SI002 遺構(3)	14	第 35 図 SD001 遺構	43
第 12 図 SI002 遺構(4)	15	第 36 図 SD002 遺構	44
第 13 図 SI002 遺物(1)	16	第 37 図 SD003 遺構	45
第 14 図 SI002 遺物(2)	17	第 38 図 SD001 ～ 003 遺物	46
第 15 図 SI002 遺物(3)	18	第 39 図 SD004・005 遺構	47
第 16 図 SI002 遺物(4)	19	第 40 図 SK001 ～ 005 遺構	49
第 17 図 SI003 遺構	21	第 41 図 SK006 ～ 010 遺構	51
第 18 図 SI004A・B 遺構	22	第 42 図 SK011 ～ 022 遺構	54
第 19 図 SI004A 遺構	23	第 43 図 SK023 ～ 028 遺構	55
第 20 図 SI003・004A 遺物	24	第 44 図 SK029 ～ 037 遺構	58
第 21 図 SI005 遺構	25	第 45 図 SK038 ～ 042 遺構	59
第 22 図 SI005 遺物	26	第 46 図 SK043 ～ 048 遺構	62
第 23 図 SI006 遺構	28	第 47 図 SK001・004・010・015・031・ 036・038・039・043・048、 遺構外 遺物	63
第 24 図 SI006 遺物	29		

写真図版目次

図版 1		稲荷台遺跡周辺航空写真
図版 2		調査区全体3次元データ(オルソ画像)
図版 3	遺構	SK043 3次元データ(オルソ画像) SI001A・B SI002 SI003
図版 4	遺構	SI001A・B SI002
図版 5	遺構	SI002
図版 6	遺構	SI001A・B SI002 SI003 SI004A・B SI005
図版 7	遺構	SI004A・B SI005
図版 8	遺構	SI006 SI007 SK043
図版 9	遺構	SI006 ～ 009
図版 10	遺構	SI008 SI009 SB001 SK046 SK048
図版 11	遺構	SB001 ～ 003
図版 12	遺構	SB001 ～ 005 SA001 SA002 SK001
図版 13	遺構	SK005 SK006 SK010 SK036 SK039
図版 14	遺構	SK039 SK041 SK043 SK047
図版 15	遺物	SI001A・B SI002
図版 16	遺物	SI002
図版 17	遺物	SI002 SI003 SI005 ～ 009 SB002 SB003 SK039
図版 18	遺物	SI001 SI001A
図版 19	遺物	SI001B SI002
図版 20	遺物	SI002 SI003
図版 21	遺物	SI003 SI004A SI005
図版 22	遺物	SI005 ～ 007
図版 23	遺物	SI008 SI009 SB001 ～ 005 SA001
図版 24	遺物	SD001 ～ 003 SK001 SK004 SK010 SK015 SK031 SK036 SK038 SK039 SK043 SK048 遺構外

表目次

第1表	竪穴建物跡一覧	iii
第2表	掘立柱建物跡一覧	iii
第3表	柵列跡一覧	iii
第4表	溝一覧	iii
第5表	土坑一覧	iv
第6表	出土土器・土製品・瓦・石器・石製品観察表	66
第7表	出土鉄製品観察表	72
第8表	出土種子観察表	72

第1表 竪穴建物跡一覧 ※深度は掘方までの値

遺構 No.	旧遺構 No.	調査コード	挿図 No.	主軸 (m)	×	副軸 (m)	深度 (cm)	主軸方向	柱穴	時期	古い	新しい	備考
SI001A	SI-2	セ 578	4・5	3.60?	×	3.60?	26	N-16°-W	-	Ⅱ期-b	SI001B、SK001・002	SD001	カマド付属鍛冶工房
SI001B	SI-2 SI-9	セ 578	4・5	(3.38)	×	3.72?	32	N-7°-W	3	Ⅱ期-a～Ⅱ期-b	SK001・003	SI001A、SD001・003	鍛冶工房
SI002	SI-1 SI-8	セ 578	9・10・11・12	5.42	×	4.67	67	N-13°-W	8	Ⅱ期-a	SI003		カマド×2付属鍛冶工房
SI003	SI-3	セ 578	17	4.04	×	4.29	26	N-3°-W	4	A期	SK005	SI002、SB002・003、SD002・003	カマド付属鍛冶工房?
SI004A	SI-5	セ 580	18・19	2.65	×	3.44	25	N-10°-E	1	I期	SI004B	SB002・003	カマド付属
SI004B	SI-5b	セ 580	18	2.51	×	-	35	N-3°-E	1?	A期～I期		SI004A、SB002・003	
SI005	SI-6	セ 580	21	2.94	×	3.35	24	N-2°-W	3	A期		SD005	カマド付属
SI006	SI-4	セ 580	23	(2.64)	×	(1.78)	30	N-3°-W	1	Ⅱ期-b			カマド付属
SI007	SI-11	セ 580	25	-	×	-	12	-	-	Ⅳ期-a			カマド付属鍛冶工房?
SI008	SI-7	セ 580	26	3.98	×	(3.00)	22	N-6°-W	-	-	SK047		カマド付属鍛冶工房?
SI009	SI-12	セ 580	27	3.06	×	(1.94)	15	N-16°-W	-	Ⅳ期-a	SK048		カマド付属 B地区63号住居跡と同一遺構

第2表 掘立柱建物跡一覧 ※1尺=30cmで算出

遺構 No.	旧遺構 No.	調査コード	挿図 No.	棟方向	廂	規模 cm (尺)		柱間寸法 cm (尺)			建坪 (㎡) (身舎)	時期	古い	新しい	備考
						企画	桁行×梁行	桁行	梁行	廂					
SB001	SB-2	セ 578 セ 580	29	東西? N-5°-W	-	3×?	608×(208) (20.3×(7.0))	200+206+202 (6.7+6.9+6.7)	-	-	-	Ⅱ期-a			
SB002	SB-1	セ 578 セ 580	30	南北 N-11°-W	1	3×2	650×450 (21.7×15.0)	230+200+220 (7.7+6.7+7.3)	210+240 (7.0+8.0)	240+210+240 (8.0+7.0+8.0)	45.1 (29.3)	Ⅱ期-a	SI003・004A・004B、SK030	SB003、SD002・003	廂は身舎の西面に付属
SB003	SB-3	セ 578 セ 580	31	東西 N-1°-E	-	3×2	592×420 (19.7×14.0)	210+192+190 (7.0+6.4+6.3)	230+190 (7.7+6.3)	-	24.9	Ⅱ期-a ～ Ⅱ期-b	SI003・004A・004B、SB002	SD002・003	
SB004	SB-4	セ 580	32	-	-	-	(398)×(104) (13.3)×(3.5)	180 (6.0)	-	-	-	Ⅲ期-a		SB005	
SB005	SB-5	セ 580	32	-	-	-	(540)×(96) (18.0)×(3.2)	200 (6.7)	-	-	-	Ⅲ期-a ～	SB004		

第3表 柵列跡一覧 ※1尺=30cmで算出

遺構 No.	旧遺構 No.	調査コード	挿図 No.	方向	規模 cm (尺)	柱間寸法 cm (尺)	時期	古い	新しい	備考
SA001	SA-2	セ 578 セ 580	33	東西 N-79°-E	680 (22.7)	220+250+210 (7.3+8.3+7.0)	Ⅱ期-a		SD002	
SA002	SA-3	セ 578 セ 580	33	東西 N-76°-E	756 (25.2)	366+390 (12.2+13)	Ⅱ期-a			

第4表 溝一覧

遺構 No.	旧遺構 No.	調査コード	挿図 No.	長さ (m)	×	幅 (m)	深度 (cm)	主軸方向	時期	古い	新しい	備考
SD001	SD-1	セ 578	35	(10.62)	×	3.18	20	N-40°-W	近世以降?	SI001A・001B、SD003、SK001・002・003		
SD002	SD-2	セ 578	36	(21.52)	×	1.52	16	N-22°-W	中近世以降?	SI003、SB002・003、SA001、SD003・004、SK009・010・030		
SD003	SD-4	セ 578 セ 580	37	(15.14)	×	1.52	32	N-83°-W	中近世以降?	SI001B・003、SB002・003、SK003・005・031	SD001・002	
SD004	SD-5	セ 578	39	(1.56)	×	1.00	16	N-72°-E	-		SD002	
SD005	SD-7	セ 580	39	(0.64)	×	0.98	15	N-35°-W	-	SI005、SK034		

第5表 土坑一覧

遺構 No.	旧遺構 No.	調査 コード	遺構種	挿図 No.	主軸 (m)	×	副軸 (m)	深度 (cm)	主軸方向	時期	古い	新しい	備考
SK001	SK-89 SI-10	セ 578	有天井土坑墓	40	(2.20)	×	1.28	56	N-20°-E	古墳時代終末期～ 奈良時代		SI001A・001B、 SD001	
SK002	SI-2P5 SK-90	セ 578	土坑	40	0.62	×	0.50	34	N-16°-W	～Ⅱ期-b		SI001A、SD001	
SK003	SK-42	セ 578	土坑	40	0.94	×	0.63	50	N-67°-E	～Ⅱ期-a～Ⅱ期-b		SI001B、 SD001・003	
SK004	SK-28	セ 578	土坑	40	1.16	×	0.98	37	-	-			
SK005	SK-30	セ 578	有天井土坑墓	40	2.33	×	1.31	92	N-49°-W	古墳時代終末期～ 奈良時代		SI003、SD003	開口部：2.33 × 1.10
SK006	SK-25	セ 578	地下式坑	41	2.43	×	1.62	45 69	N-23°-W	古墳時代終末期～ 奈良時代			竪坑：0.62 × 0.83 主室：1.81 × 1.62
SK007	SK-2	セ 578	土坑	41	1.59	×	1.11	29	N-43°-E	-			
SK008	SK-91	セ 578	小ビット	41	0.26	×	0.20	53	N-33°-W	-			
SK009	SK-43 (1)	セ 578	小ビット	41	0.29	×	0.27	32	-	-		SD002	
SK010	SK-35	セ 578	土坑墓?	41	1.23	×	1.09	61	-	Ⅳ期-b?		SD002	
SK011	SK-43 (2)	セ 580	土坑	42	0.63	×	0.61	31	-	-			
SK012	SK-63	セ 580	土坑	42	0.46	×	0.44	31	-	-			
SK013	SK-44	セ 580	土坑	42	0.74	×	0.66	28	-	-			
SK014	SK-88	セ 580	土坑	42	0.41	×	0.38	35	-	-			
SK015	SK-74	セ 580	小ビット	42	0.20	×	0.18	14	-	-			
SK016	SK-45	セ 580	小ビット	42	0.32	×	0.26	32	N-15°-E	-			
SK017	SK-64	セ 580	土坑	42	0.60	×	0.50	22	N-88°-E	-			
SK018	SK-86	セ 580	小ビット	42	0.28	×	0.25	45	-	-			
SK019	SK-87	セ 580	小ビット	42	0.32	×	0.28	27	-	-			
SK020	SK-85	セ 580	土坑	42	0.50	×	0.35	49	N-4°-W	-			
SK021	SD-6	セ 580	土坑	42	2.03	×	0.40	23	N-78°-E	-	SK022		溝の可能性あり
SK022	SK-72	セ 580	小ビット	42	0.30	×	0.26	60	-	-		SK021	
SK023	SK-48	セ 580	土坑	43	1.20	×	0.93	47	N-1°-W	-			
SK024	SK-47	セ 580	土坑	43	0.60	×	0.45	29	N-6°-W	-			
SK025	SK-49	セ 580	土坑	43	0.46	×	0.43	25	-	-			
SK026	SK-73	セ 580	土坑	43	1.11	×	0.61	23	N-45°-W	-			
SK027	SK-52	セ 580	土坑	43	1.16	×	0.90	17	N-41°-W	-			
SK028	SK-53	セ 580	小ビット	43	0.41	×	0.28	26	N-17°-E	-			
SK029	SK-84	セ 580	土坑	44	0.50	×	0.34	25	N-6°-W	-			
SK030	SK-71	セ 580	土坑?	44	(0.48)	×	0.38	38	-	～Ⅱ期-a		SB002、SD002	
SK031	SK-34	セ 580	小ビット	44	0.40	×	0.28	69	N-82°-W	-		SD003	
SK032	SK-56	セ 580	小ビット	44	0.44	×	0.41	12	-	-			
SK033	SK-59	セ 580	小ビット	44	0.40	×	0.37	26	-	-			
SK034	SK-83	セ 580	土坑?	44	(0.37)	×	0.59	32	-	-		SD005	
SK035	SK-60	セ 580	土坑	44	1.13	×	1.00	21	-	-			
SK036	SK-18	セ 580	土坑墓?	44	1.26	×	1.16	50	-	Ⅳ期-b?			
SK037	SK-76	セ 580	土坑	44	1.23	×	0.95	20	-	-			
SK038	SK-77	セ 580	土坑墓?	45	0.56	×	0.50	27	-	Ⅳ期-b?			
SK039	SK-75	セ 580	土坑墓?	45	0.93	×	0.90	23	-	Ⅳ期-b			
SK040	SK-78	セ 580	小ビット	45	0.43	×	0.32	64	N-42°-W	-			
SK041	SK-79	セ 580	有天井土坑墓	45	1.78	×	1.53	88	N-46°-W	古墳時代終末期～ 奈良時代			開口部：1.78 × 1.22
SK042	SK-81	セ 580	小ビット	45	0.43	×	0.33	48	N-40°-E	-			
SK043	SK-21	セ 580	地下式坑	46	2.92	×	1.80	110 135	N-65°-E	古墳時代終末期～ 奈良時代			竪坑：2.07 × 1.50 主室：0.85 × 1.80
SK044	SK-82	セ 580	小ビット	46	0.21	×	0.14	25	N-41°-W	-			
SK045	SK-61	セ 580	土坑?	46	0.78	×	(0.35)	39	-	-			
SK046	SK-70	セ 580	土坑?	46	1.17	×	(0.31)	28	-	-			
SK047	SK-69	セ 580	陥し穴	46	2.08	×	0.58	83	N-83°-E	縄文時代		SI008	
SK048	SK-68	セ 580	有天井土坑墓?	46	2.05	×	(0.33)	39	-	古墳時代終末期～ 奈良時代		SI009	B地区25号土坑と同 一遺構

1 調査に至る経緯

社会福祉法人おもいやり福祉会（以下、事業者）は、市原市山田橋2丁目4番地5ほかにおける保育所建設に先行して、令和元年11月5日付けで、文化財保護法第93条第1項の規定に基づく「埋蔵文化財発掘の届出について」を千葉県教育委員会教育長及び市原市教育委員会教育長宛に提出した。届出を受け、市原市教育委員会（以下、市教委）が試掘を実施し、遺構と遺物を確認した。市教委はこの結果をもとに令和元年11月6日付けで千葉県教育委員会（以下、県教委）へ届出を進達した（市教文第1361号）。県教委は市教委と協議を行い、令和元年11月6日付けで事業地内における発掘調査を指示する文書を事業者に通知した（教文第3号の1673）。

指示を受け、遺構の分布と埋蔵文化財の影響を判断するために、事業範囲2,304.62㎡のうちB地区において既に調査を完了した箇所を除く、未調査範囲1,592.9㎡の約10%にあたる160㎡を対象とした確認調査を国庫補助事業として市教委埋蔵文化財調査センターが実施した。確認調査の結果を受けた県教委の指導により、協議範囲は1,322㎡となり、市教委から事業者はその旨が伝えられた（令和元年12月20日付け、市教埋文第841号）。

その後、事業者と市教委が協議を重ねた結果、協議範囲のうち現状保存が困難な836.8㎡を対象として事業者負担による記録保存の措置がとられることが決まり、埋蔵文化財調査センターが本調査を実施することとなった。

2 遺跡周辺の環境

地理的環境

稲荷台遺跡P地点は、埋め立て以前の旧東京湾汀線から南東方向に約3km離れた市原台地上の、白幡川水系によって開析された標高26～27m程度の台地縁辺部に位置する（第1・2図、図版1）。

歴史的環境

稲荷台遺跡周辺の奈良・平安時代の遺跡としては、南西1.3kmに上総国分僧寺跡と寺院の造・運営集落である荒久遺跡、同0.6kmに上総国分尼寺跡と同じく寺院の造・運営集落である坊作遺跡がある。同1.8kmには墓域である諏訪台古墳群が存在する。北東0.9～2.0kmの範囲には、市原郡衙推定地で上総国府推定地のひとつでもある郡本遺跡群や古甲遺跡、国分寺成立以前の四葉単弁蓮華文軒丸瓦が出土した光善寺廃寺跡が所在する。東方0.4kmには廃寺跡を伴う千草山遺跡が、同2.4kmには古代寺院跡と考えられ蔵手刀が出土した南大広遺跡などがある。湾岸の沖積地には古道を検出した市原条里制遺跡や、古道と多数の木器が出土した五所四反田遺跡が存在する（第1図）。

稲荷台遺跡は、これまで数回にわたって発掘調査が行われており、現在Q地点にまで及ぶ（第2図）。今回調査を行ったP地点から北東120mに位置するE地区では、四面廂付建物跡を含む掘立柱建物跡群や、複数の祭祀関連遺構が検出されている。また、37号住居跡からは、内面に連筆された「月」の文字と外面に貞観17（875）年の紀年銘を持つ墨書土器が出土した。調査区内からは大量の緑釉陶器も出土しており、国府関連遺跡と考えられている（浅利ほか2003）。P地点から東に50mに位置するA地区では、桁行5間・梁行2間の掘立柱建物跡が検出された。また、P地点に隣接するB地区及びD地区では、双堂建物の可能性がある掘立柱建物跡が確認されている（須田2006）。G地区及び



- ① 稲荷台遺跡 ② 上総国分僧寺跡 ③ 荒久遺跡 ④ 上総国分尼寺跡 ⑤ 坊作遺跡 ⑥ 諏訪台古墳群 ⑦ 郡本遺跡群
⑧ 古甲遺跡 ⑨ 光善寺廃寺跡 ⑩ 千草山遺跡 ⑪ 南大広遺跡 ⑫ 市原条里制遺跡 (市原地区) ⑬ 五所四反田遺跡 ⑭ 村上遺跡群

第1図 稲荷台遺跡及び周辺遺跡 位置図

J地点では、9世紀第2四半期まで時期が遡る可能性のある、国道297号に並走する古代道跡が見つかっている(浅利ほか2003・牧野2003)。後世に改変されている可能性が高いが、国府域を繋ぐ交通路であったと推測されている。

3 調査の成果

(1) 調査概要

今回の調査は、確認調査の結果を受けて実施したP地点836.8㎡の本調査である(第3図、図版2)。調査区東端はB地区と接する。以前は宅地であったが、調査前の現況は荒蕪地である。基準点測量は座標値(日本測地系)を使用し、方眼杭を打設した。調査は2回に分けて実施し、まず、調査区西側(セ578)の調査を行い、埋め戻し後に調査区東側(セ580)の調査を行った。表土除去は重機を使用し、ソフトローム層を確認面として遺構プランを検出した。遺構の遺存状態は総じて悪く、確認面までコンクリート片を含んだ攪乱が入り込む。とくに調査区東側は攪乱が激しく、住宅の基礎等が残存する。調査区西端のみローム漸移層と暗褐色の旧表土がわずかに遺存する(第4図C-C')。

なお、遺構番号は、整理作業時に新たな番号を付与している。確認・本調査時の遺構番号は各遺構一覧を参照されたい(第1～5表)。また、遺構の時期区分については、平成15年報告(浅利2003)に準拠する。



(昭和51年国分寺台土地区画整理事業現況図500分の1をもとに作成)

第2図 稲荷台遺跡 周辺地形図

(2) 遺構と遺物

竪穴建物跡

SI001A(第4～7図、図版3・4・6・15・18)

調査区の西部に位置する。SI001Bの建替え後の建物と思われ、南側はその覆土を切って構築する。また、SK001・002の覆土を切る。覆土上層はSD001に切られる。

床面までの深度は16cmで遺存状態は悪く、壁溝も存在しない。貼床は竪穴中央部に認められ、焼土粒や山砂・炭化粒を含むことから、SI001Bのカマドを破壊し床材として利用した可能性がある。貼床の南側はSI001Bの床面直上に施される。P1(深度37cm)・P2(同29cm)・P3(同34cm)・P11(同16cm)は本竪穴に伴うピットと思われる。P1・P2・P3は柱穴の可能性がある。P5(深度39cm)・P7(同25cm)・P8(同32cm)はSI001A・001Bのどちらに伴うかは不明である。カマドは西壁に付属するが、遺存状態は非常に悪い。火床面直上にはカマド使用時に堆積したと思われる炭化粒を主体とする層が確認される。

遺物はSI001A・001Bから土師器14,640g、須恵器5,308g、灰釉陶器609g、鉄製品191g、滓類2g、鍛造剥片5片、土製品299g、瓦81g、石器62g、種子2点が出土した。また、縄文土器165g、弥生土器2g、近世陶磁器16g、黒曜石2gが混入する。SI001-1～13は一括取り上げ遺物でありSI001A・001Bのどちらに伴うか定かではない遺物であるが、3の千葉産須恵器の甑と9の羽口、10の磨石、11の鉄滓はSI001Aに伴う可能性がある。12・13は桃核である。SI001Aの遺物の多くは床面直上や貼床・掘方内から出土する。SI001A-1は猿投産の灰釉陶器の長頸瓶であり掘方内から、4・5は同一個体の可能性がある猿投産須恵器の鉄釉系の甕であり床面直上から出土している。7は千葉産須恵器の甕であり、カマドの煙道の補強材として使用されている。9～16は土師器の杯であり、10・13・14は床面直上から、11はカマド右袖脇から、12はP11内から、15はカマドの構築材内から、16は貼床内から出土している。17～19は土師器の皿である。17は完形で、床面直上より出土した。18も床面直上より出土し、19は13の上部に重なった状態で出土している。21は土師器の盤であり、床面直上より出土した。22は土師器の甕、23は土師器の小型甕であり、床面直上より出土している。24～27は釘である。24・25はカマド内の炭化粒主体層より出土した。28は土製支脚である。29は土錘であり、貼床内から出土している。さらに、SI001A・001Bの床面直上の覆土の一部を篩掛けした結果、鍛造剥片が5片出土した。

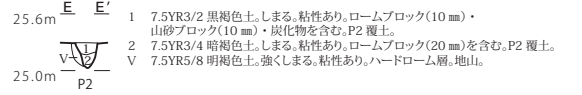
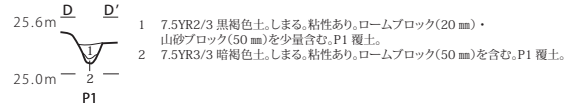
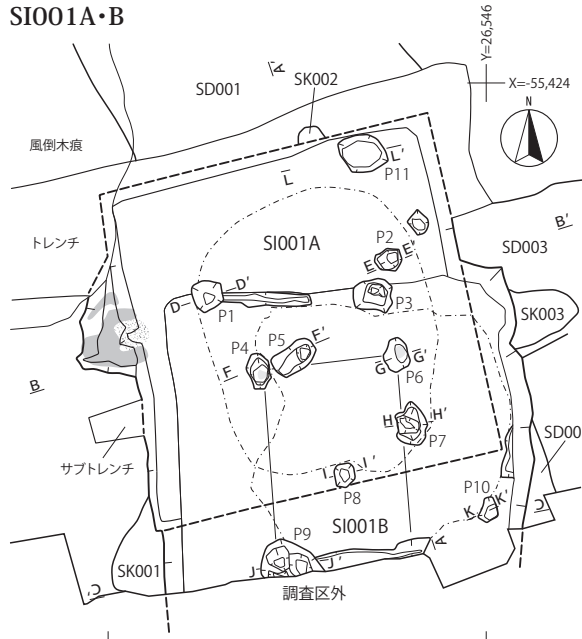
遺構の時期は、Ⅱ期-b(9世紀第3四半期)に属するものと考えられる。羽口や製鉄関連遺物が出土していることから、鍛冶工房と考えられる。

SI001B(第4～6・8図、図版3・4・6・15・18・19)

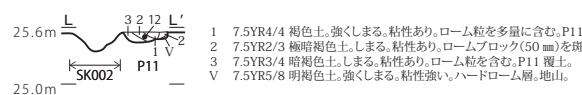
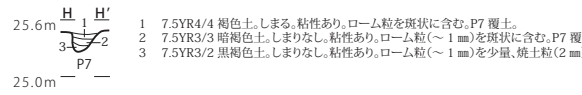
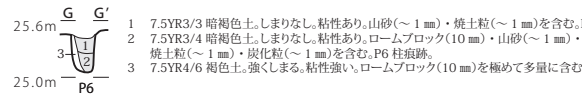
調査区の西部に位置する。SK001・003の覆土を切って構築する。北側はSI001Aに覆土を切られており、その建替え前の建物と思われる。覆土上層はSD001・SD003に切られる。遺構の南側は調査区外へ続く。

床面までの深度は22cmで遺存状態は悪い。壁溝は北壁と東壁の一部に存在する。貼床は竪穴中央部に認められ、北側はSI001Aの床面の直下に施される。P4(深度45cm)・P6(同44cm)・P9(同54cm)・P10(同29cm)は本竪穴に伴うピットと考えられる。P4・P6・P9は柱穴である。P4・P6は

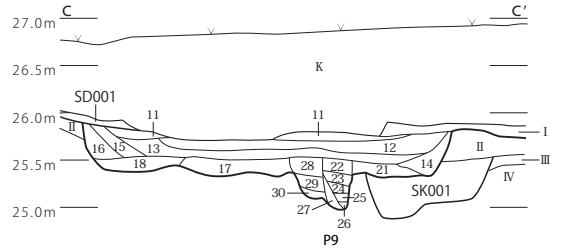
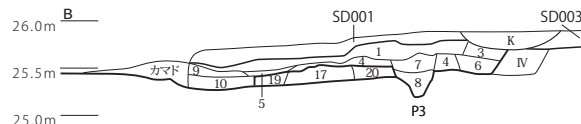
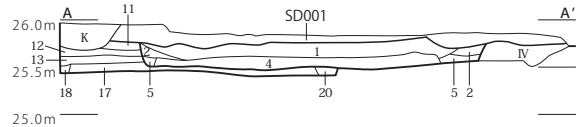
SI001A・B



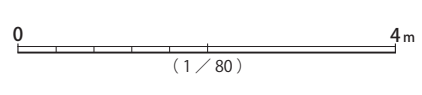
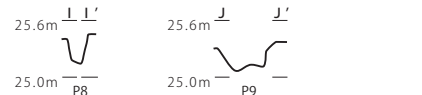
- 1 7.5YR3/3 暗褐色土。しまりなし。粘性あり。山砂(1mm)を多量、焼土ブロック(5mm)を少量含む。P4 柱痕跡。
- 2 7.5YR3/4 暗褐色土。しまりなし。粘性あり。ローム粒(1mm)・ロームブロック(20mm)を含む。P4 柱痕跡。
- 3 7.5YR4/4 褐色土。しまりなし。粘性あり。ロームブロック(10mm)を含む。P4 柱の裏込。
- 4 7.5YR4/6 褐色土。しまりなし。粘性あり。ロームブロック(10mm)を多量に含む。P4 柱の裏込。
- 5 7.5YR4/6 褐色土。しまりなし。粘性あり。ロームブロック(10mm)を多量に含む。P4 柱の裏込。
- a 7.5YR3/4 暗褐色土。しまりなし。粘性あり。ロームブロック(20～50mm)・炭化物(10～20mm)を含む。P5 覆土。
- b 7.5YR3/3 暗褐色土。しまりなし。粘性あり。山砂・焼土粒(1mm)を含む。P5 覆土。
- c 7.5YR3/4 暗褐色土。しまりなし。粘性あり。ローム粒(1mm)を少量含む。P5 覆土。
- d 7.5YR2/2 黒褐色土。しまりなし。粘性あり。炭化粒を少量含む。P5 覆土。
- V 7.5YR5/8 明褐色土。強くしまる。粘性あり。ハードローム層。地山。



- 1 7.5YR4/4 褐色土。強くしまる。粘性あり。ローム粒を多量に含む。P11 覆土。
- 2 7.5YR2/3 暗褐色土。しまりなし。粘性あり。ロームブロック(50mm)を多量に含む。P11 覆土。
- 3 7.5YR3/4 暗褐色土。しまりなし。粘性あり。ローム粒を含む。P11 覆土。
- V 7.5YR5/8 明褐色土。強くしまる。粘性あり。ハードローム層。地山。



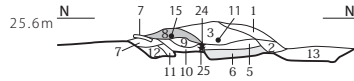
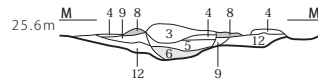
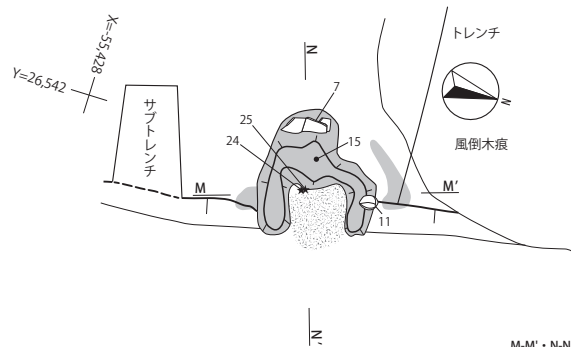
- A-A'・B-B'・C-C'
- 1 7.5YR2/3 暗褐色土。強くしまる。粘性あり。ロームブロック(10～15mm)を多量、焼土粒(2～6mm)を少量含む。SI001A 覆土。
 - 2 7.5YR3/3 暗褐色土。強くしまる。粘性あり。ローム粒を多量に含む。SI001A 覆土。
 - 3 7.5YR4/4 褐色土。強くしまる。粘性あり。焼土粒を少量含む。SI001A 覆土。
 - 4 7.5YR3/2 黒褐色土。強くしまる。粘性あり。焼土粒(3～6mm)を多量、被熱した山砂(2～10mm)・炭化粒(2～4mm)を含む。SI001A 貼床。
 - 5 7.5YR3/3 暗褐色土。強くしまる。粘性あり。焼土粒(1～2mm)・炭化粒(1～2mm)を多量に含む。SI001A 裏込。
 - 6 7.5YR4/3 褐色土。強くしまる。粘性あり。黒色粒(2～6mm)を多量に含む。SI001A 裏込。
 - 7 7.5YR3/3 暗褐色土。強くしまる。粘性あり。焼土粒(2～4mm)・炭化粒(2～4mm)を少量含む。P3 覆土。
 - 8 7.5YR4/6 褐色土。強くしまる。粘性あり。ローム粒(5～10mm)を多量に含む。P3 覆土。
 - 9 7.5YR2/3 暗褐色土。強くしまる。粘性あり。ローム粒を含む。山砂を少量含む。SI001A カマド覆土。
 - 10 7.5YR3/3 暗褐色土。強くしまる。粘性あり。焼土粒・焼土ブロック(10mm)・山砂・山砂ブロック(10mm)を少量含む。SI001A カマド覆土。
 - 11 7.5YR3/2 黒褐色土。強くしまる。粘性あり。ローム粒(2～4mm)を少量含む。SI001B 覆土。
 - 12 7.5YR3/3 暗褐色土。強くしまる。粘性あり。山砂を含む。SI001B 覆土。
 - 13 7.5YR3/3 暗褐色土。強くしまる。粘性あり。ローム粒(5～10mm)・焼土粒を含む。SI001B 覆土。
 - 14 7.5YR3/3 暗褐色土。強くしまる。粘性あり。ローム粒を含む。SI001B 覆土。
 - 15 7.5YR3/3 暗褐色土。強くしまる。粘性あり。ローム粒(2～8mm)を少量含む。SI001B 覆土。
 - 16 7.5YR4/3 褐色土。強くしまる。粘性あり。ローム粒(2～8mm)を多量に含む。SI001B 覆土。
 - 17 7.5YR4/4 褐色土。強くしまる。粘性あり。SI001B 貼床。
 - 18 7.5YR4/4 褐色土。強くしまる。粘性あり。SI001B 貼床。
 - 19 7.5YR3/3 暗褐色土。強くしまる。粘性あり。山砂・山砂ブロック(10mm)・焼土粒・焼土ブロック(10mm)を少量含む。SI001B 貼床。
 - 20 7.5YR3/4 暗褐色土。強くしまる。粘性あり。ローム粒(2～6mm)を少量含む。SI001B 貼床。
 - 21 7.5YR3/3 暗褐色土。強くしまる。粘性あり。ローム粒(1～2mm)を多量に含む。SI001B 貼床。
 - 22 7.5YR3/4 暗褐色土。強くしまる。粘性あり。ロームブロック(5～10mm)・山砂(5mm)を少量含む。P9 覆土。
 - 23 7.5YR3/4 暗褐色土。強くしまる。粘性あり。ロームブロック(10～15mm)を多量に含む。P9 覆土。
 - 24 7.5YR3/4 暗褐色土。強くしまる。粘性あり。ローム粒(1～2mm)を少量含む。P9 覆土。
 - 25 7.5YR3/4 暗褐色土。しまりなし。粘性あり。ローム粒(1mm)を微量含む。P9 覆土。
 - 26 7.5YR3/4 暗褐色土。しまりなし。粘性なし。P9 覆土。
 - 27 7.5YR3/4 暗褐色土。しまりなし。粘性あり。ロームブロック(10～15mm)を微量含む。P9 覆土。
 - 28 7.5YR4/3 褐色土。強くしまる。粘性あり。ロームブロック(10～20mm)を多量に含む。P9 覆土。
 - 29 7.5YR4/3 褐色土。しまりなし。粘性あり。ローム粒(1～3mm)を少量含む。P9 覆土。
 - 30 7.5YR4/3 褐色土。強くしまる。粘性あり。ローム粒(1～3mm)を多量に含む。P9 覆土。
 - I 7.5YR3/3 暗褐色土。強くしまる。粘性あり。ローム粒(2～5mm)を微量含む。旧表土。
 - II 7.5YR3/4 暗褐色土。強くしまる。粘性あり。ローム粒(1～2mm)少量、ロームブロック(10～20mm)を多量に含む。旧表土。
 - III 7.5YR4/3 褐色土。強くしまる。粘性あり。ローム粒(2mm)多量、ロームブロック(10～20mm)を含む。ローム漸移層。
 - IV 7.5YR5/6 明褐色土。強くしまる。粘性あり。ソフトローム層。地山。



第4図 SI001A・B 遺構(1)

SI001A・B

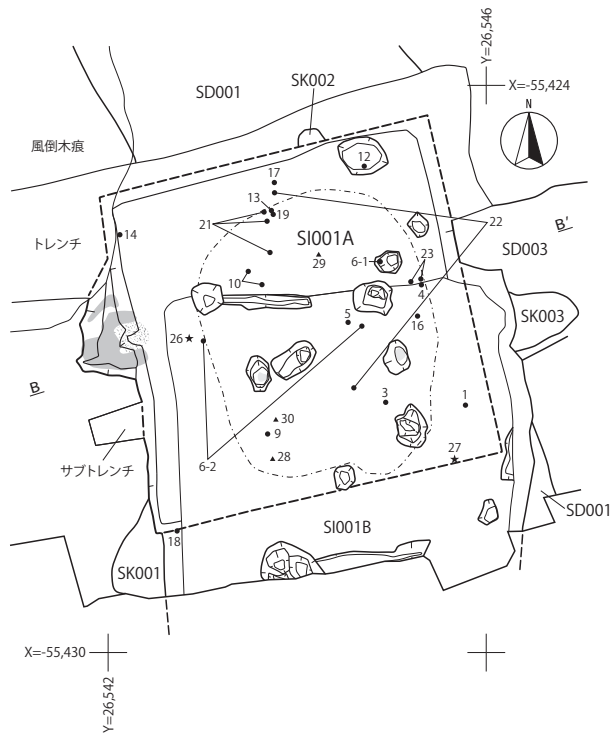
SI001A カマド



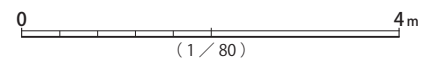
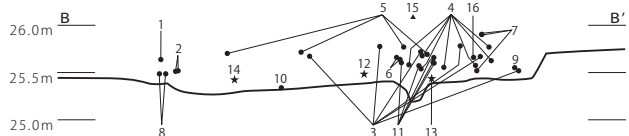
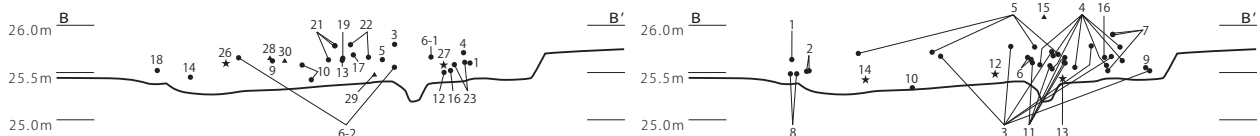
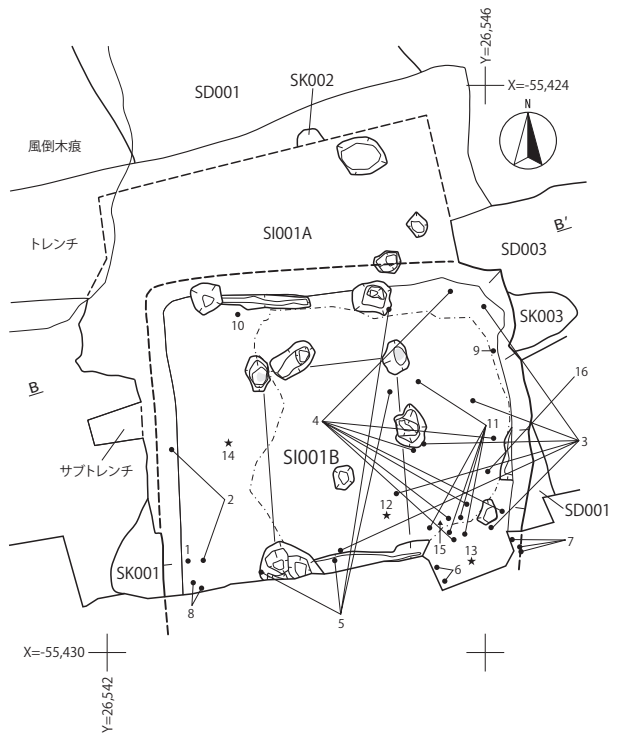
M-M'・N-N'

- 7.5YR3/4 暗褐色土。強くしまる。粘性あり。山砂ブロック・焼土粒(～1mm)・焼土ブロック(10mm)をまばらに含む。カマド覆土。
- 7.5YR2/3 極暗褐色土。しまる。粘性あり。ローム粒・山砂を少量含む。カマド覆土。
- 7.5YR3/4 暗褐色土。強くしまる。粘性なし。焼土粒(～1mm)・焼土ブロック(10mm)・山砂・炭化粒を少量含む。カマド覆土。
- 7.5YR5/4 にぶい褐色土。強くしまる。粘性なし。山砂を極めて多量、炭化粒を少量含む。崩れたカマド構築材。
- 7.5YR2/2 黒褐色土。強くしまる。粘性あり。炭化粒を極めて多量、焼土ブロック(10～20mm)を少量含む。カマド使用時の灰等の堆積物。
- 5YR2/3 極暗赤褐色土。強くしまる。粘性あり。焼土粒・炭化粒を極めて多量に含む。カマド火床面。
- 7.5YR3/4 暗褐色土。強くしまる。粘性あり。山砂・焼土粒を含む。カマド煙道雨水溜め覆土。
- 5YR5/4 にぶい赤褐色土。強くしまる。粘性なし。山砂の層。カマドの燃焼部に面する部分が焼熱する。カマド構築材。
- 7.5YR3/4 暗褐色土。強くしまる。粘性あり。山砂・焼土ブロック(20mm)・炭化粒を含む。カマド構築材。
- 7.5YR4/3 褐色土。強くしまる。粘性あり。焼土粒を少量含む。カマド掘方。
- N3/0 暗灰色土。強くしまる。粘性あり。粘土層。山砂を含む。カマド煙道雨水溜め構築土か。
- 7.5YR4/4 褐色土。強くしまる。粘性あり。ロームブロック(20mm)・焼土ブロック(20～30mm)を含む。カマド掘方。
- 7.5YR3/3 暗褐色土。しまる。粘性弱い。山砂・山砂ブロック(10mm)・焼土粒・焼土ブロック(10mm)を少量含む。SI001B 掘方。

SI001A 遺物出土状況図

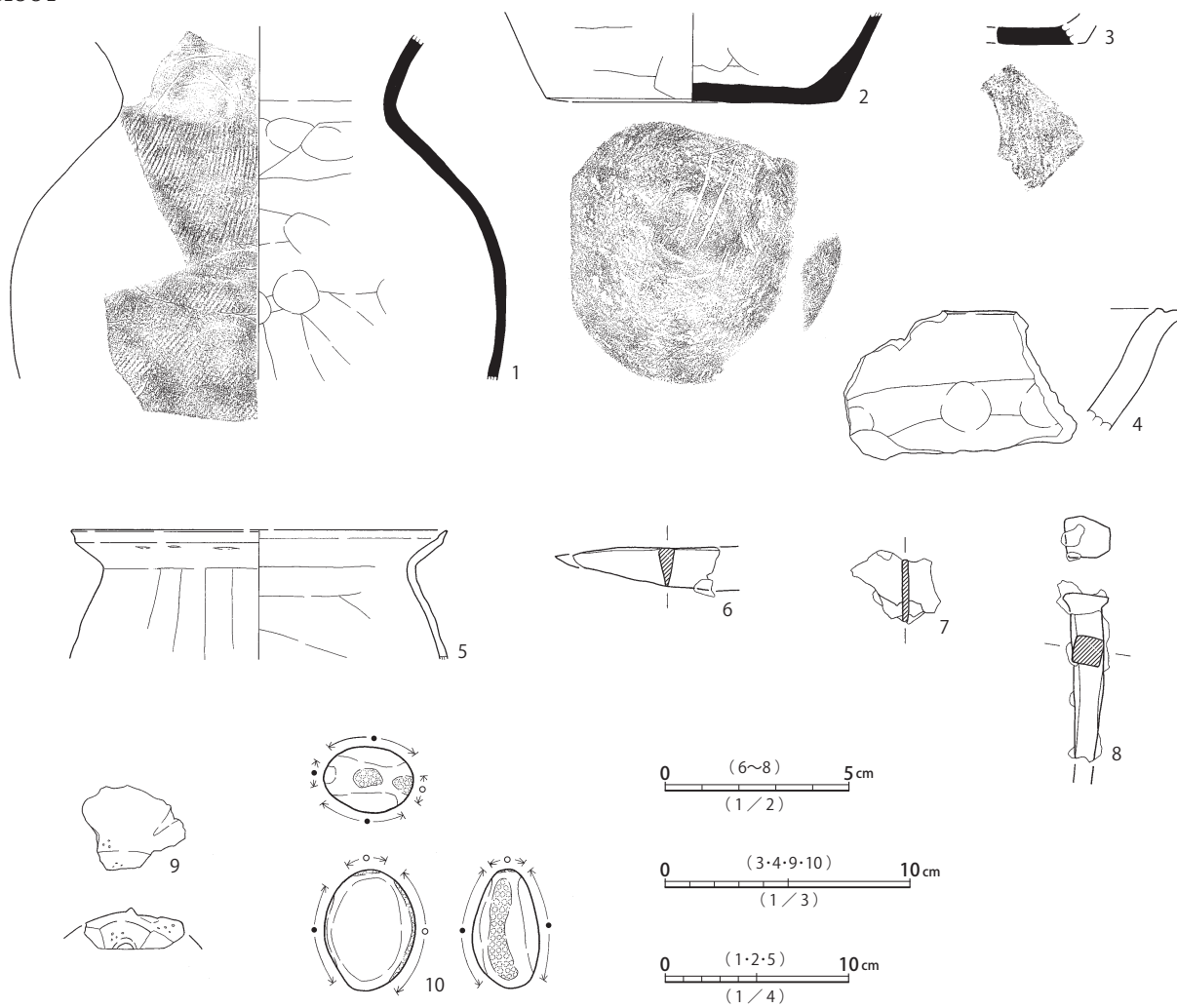


SI001B 遺物出土状況図

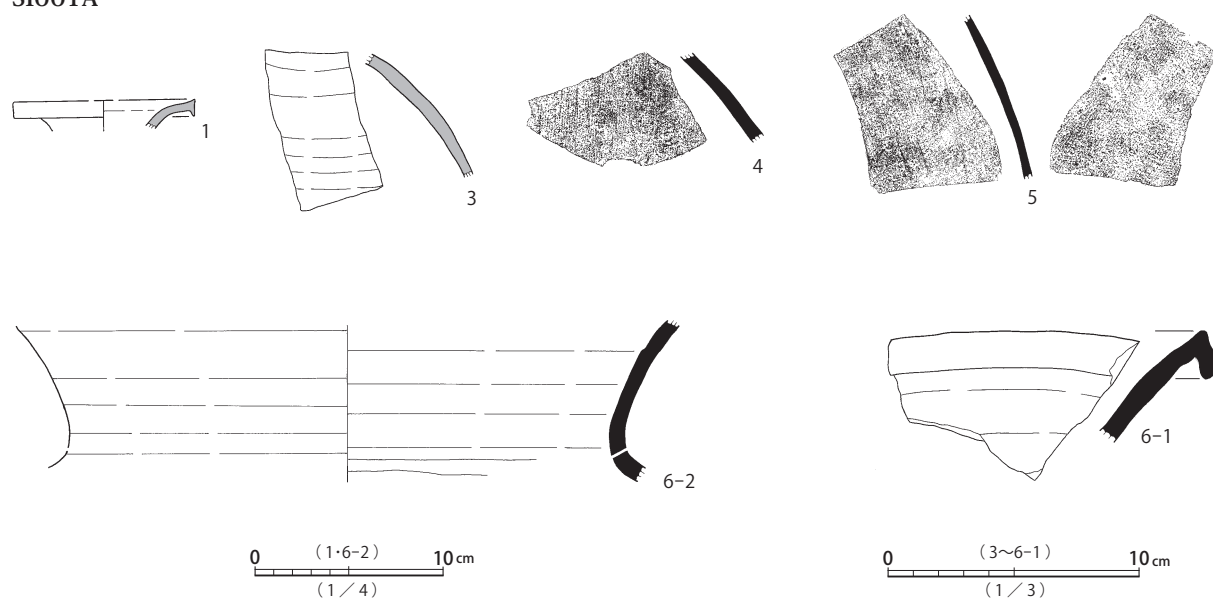


第5図 SI001A・B 遺構(2)

SI001

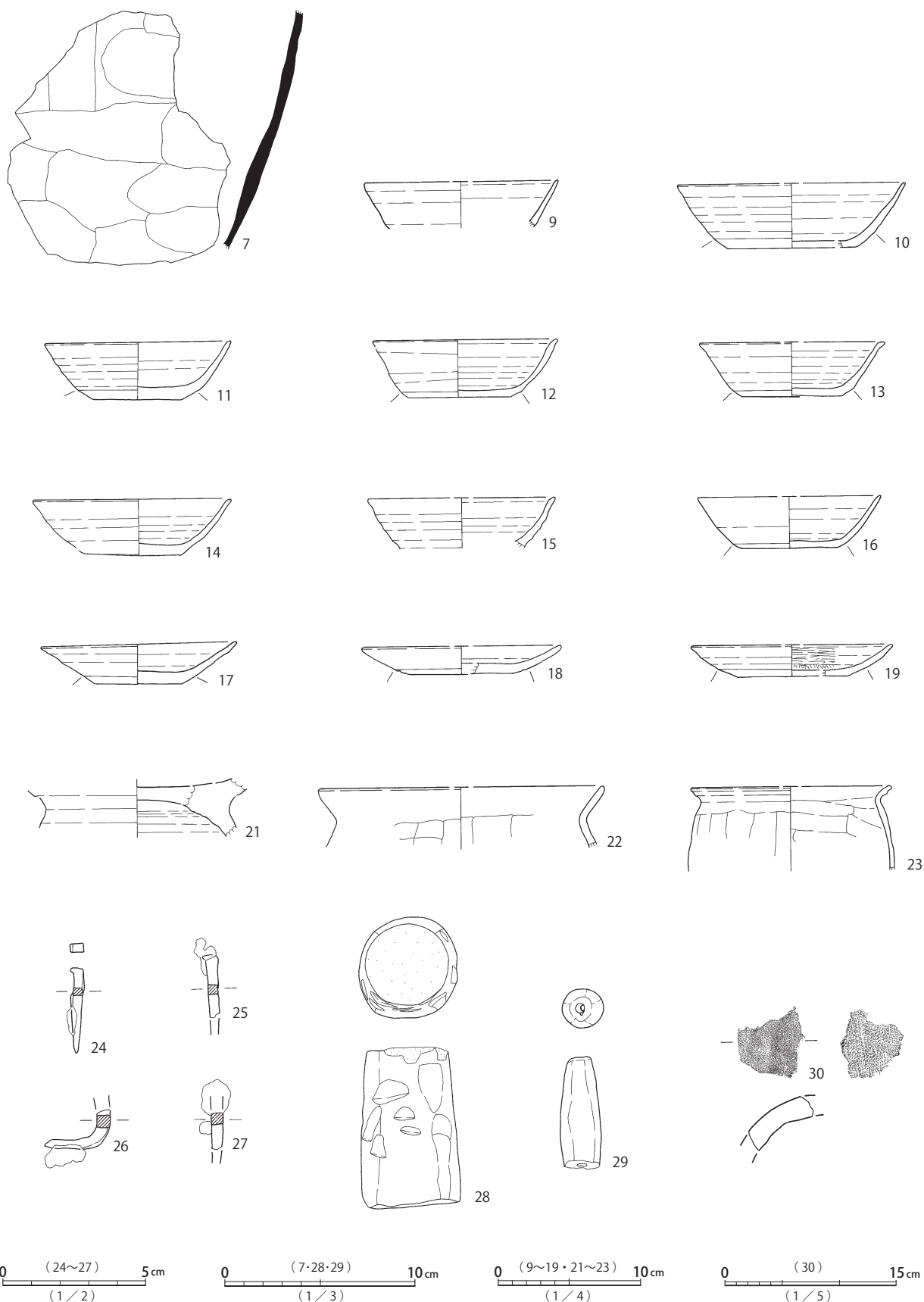


SI001A



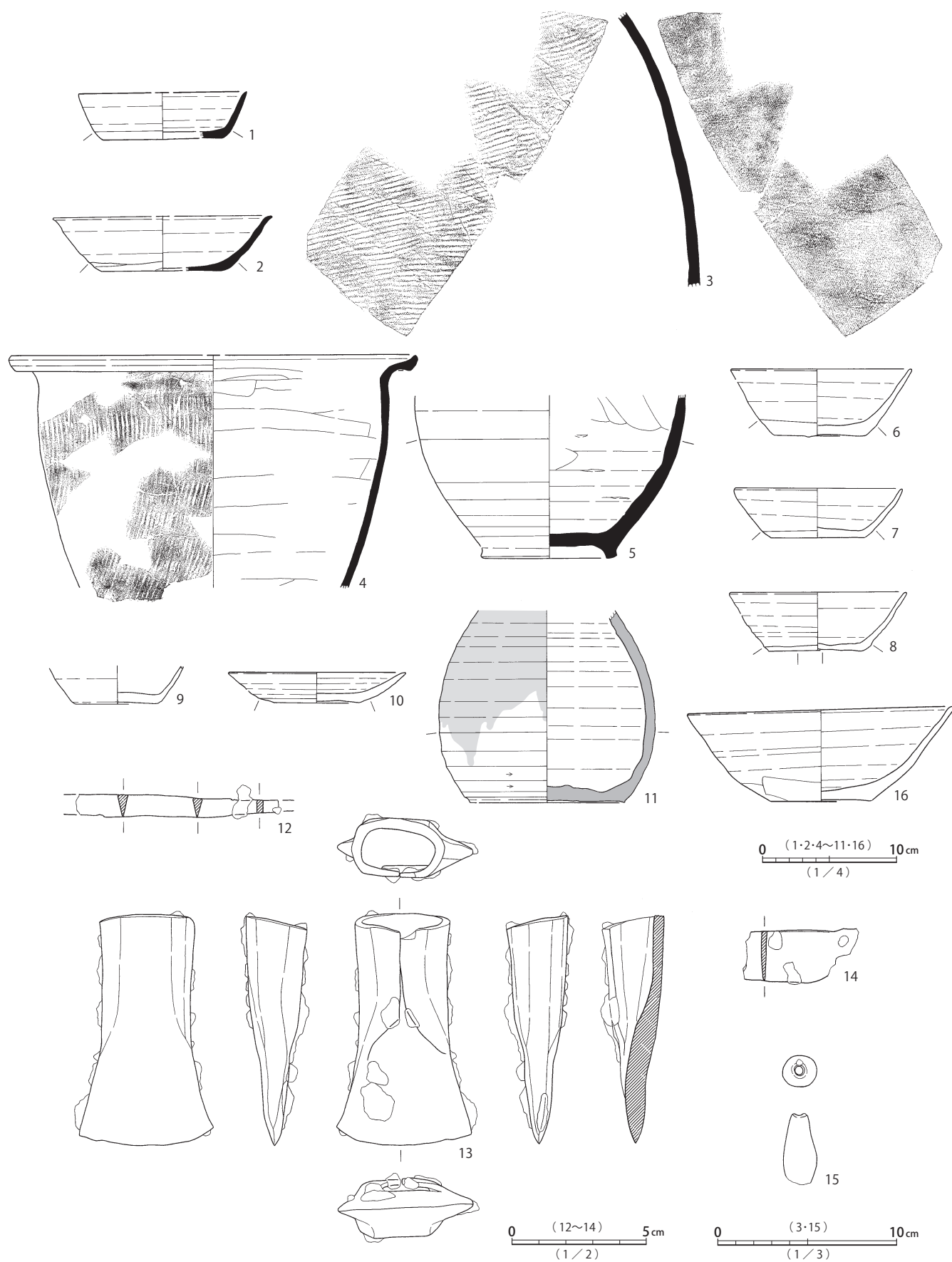
第6図 SI001・001A 遺物

SI001A



第7図 SI001A 遺物

SI001B



第8図 SI001B 遺物

底面に柱当たりがみられ、断面においても柱痕跡が確認できる。P9は複数のピットが重複することから、柱の入替えが行われていたものと推測される。カマドは遺存しない。

SI001-1・2・4～8・13は一括取り上げ遺物ではあるがSI001Bに伴う可能性がある。SI001B-2は千葉産須恵器の杯である。還元が不十分であり、器面が赤褐色味を帯びる。覆土下層より出土した。3は湖西産須恵器の甕、4は千葉産須恵器の甗、5は東海系須恵器の瓶・壺類である。3～5とも破片が散在した状態で出土した。6～9は土師器の杯である。8・9は覆土下層から出土している。10は土師器の皿であり、掘方内より出土した。11は猿投産の灰釉陶器の手付瓶で、覆土中層より出土している。12は刀子、13は鉄斧である。双方とも床面直上から出土している。14は穂摘鎌の可能性のある鉄製品で、掘方内より出土した。

遺構の時期は、Ⅱ期-a～Ⅱ期-b(9世紀第2～3四半期)に属するものと考えられる。鍛造剥片が出土していることから、鍛冶工房と考えられる。

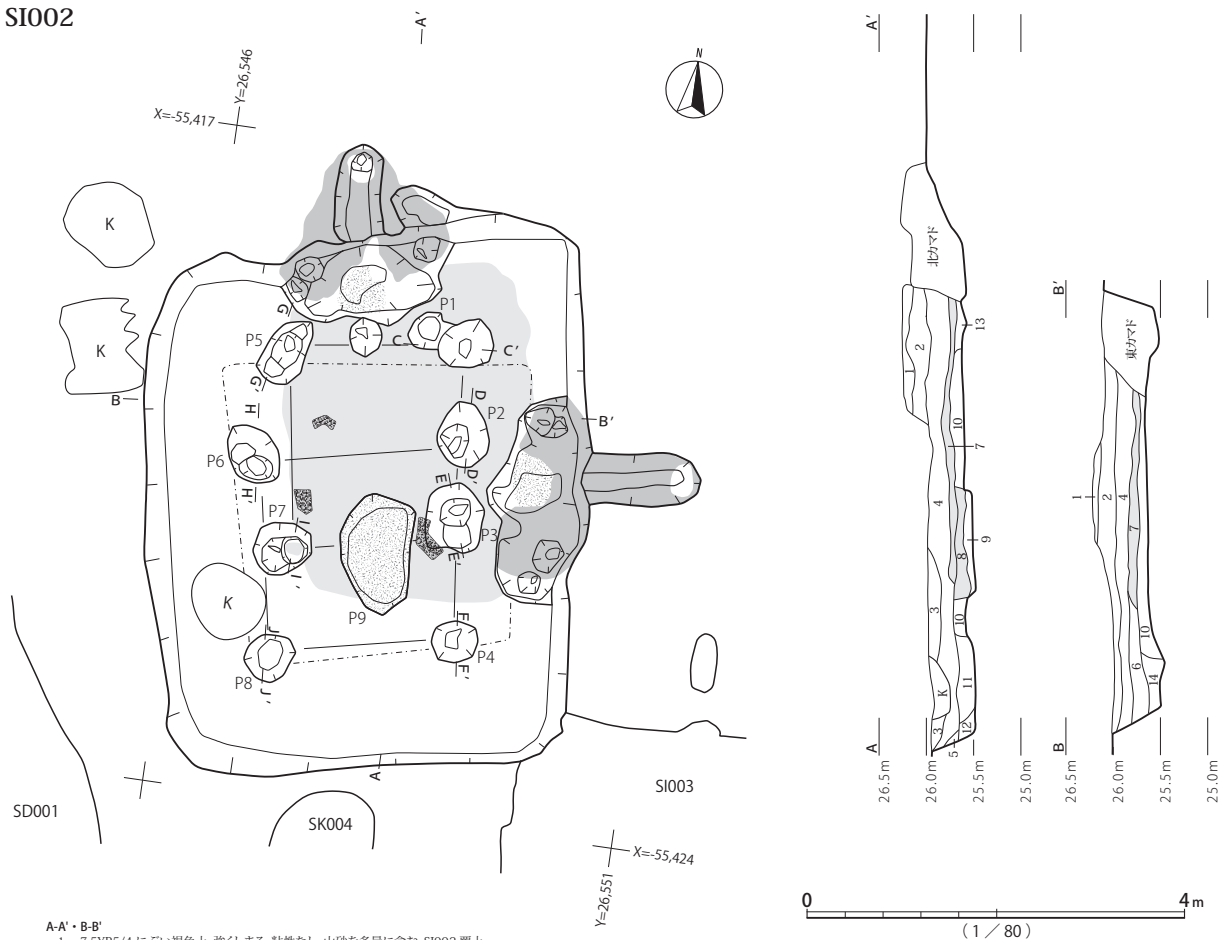
SI002(第9～16図、図版3～6・15～17・19・20)

調査区の西部に位置する。南東部はSI003を切って構築する。

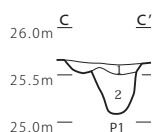
床面までの深度は50cmを測り、遺存状態は良好である。壁溝は存在しない。貼床は竪穴中央部に認められる。また、床面直上には焼土と炭化物を主体とする層が堆積する。掘方は壁際が溝状に深くなる。P1(深度59cm)・P2(同73cm)・P3(同69cm)・P4(同54cm)・P5(同60cm)・P6(同42cm)・P7(同58cm)・P8(同50cm)は柱穴である。P7は底面に柱当たりがみられ、P2・P3・P4・P8では断面において柱痕跡が確認できる。後述するP9やカマドと柱穴の位置関係や、竪穴の埋め戻しの痕跡が確認されないことから、竪穴が南側に拡張されるに伴い、柱穴がP1・P3・P5・P7からP2・P4・P6・P8に移されたものとみられる。竪穴中央部には、鍛造剥片を含んだ焼土と炭化粒が堆積するP9(深度18cm)が存在する。周辺の焼土層からも鍛造剥片が出土していることから、鍛冶用の炉と考えられる。カマドは北壁中央(北カマド)と東壁中央(東カマド)に付属する。どちらも長煙道型のカマドであり、煙道が良好に遺存する。北カマドは右袖の遺存状態が極めて悪いが、火床面及びカマド内面が非常に強く被熱している。火床面直上にはカマド使用時に堆積したと思われる炭化粒を主体とする層が確認される。煙道は土師器の甕を筒状に繋ぎ合わせて構築しており、土圧により潰れてはいるが、ほぼ原形を保っている。東カマドは竪穴拡張時に新たに構築されたカマドとみられる。こちらも火床面及びカマド内面が非常に強く被熱している。火床面は2層に分かれて厚く堆積しており、火床面直上にはカマド使用時に堆積したと思われる炭化粒を主体とする層が確認される。煙道は内面が非常に強く被熱するとともに、天井部が落下した状態で遺存している。

遺物は土師器31,714g、須恵器6,345g、灰釉陶器181g、鉄製品161g、滓類198g、鍛造剥片44片、土製品802g、瓦303g、石器202g、石製品13g、種子5点が出土した。また、縄文土器76g、弥生土器20g、黒曜石1gが混入する。遺物は覆土上層から中層にかけて多く出土している。1は猿投産の灰釉陶器の瓶・壺類であり、覆土下層より出土した。4は湖西産須恵器の甕の破片であり、床面直上から出土している。6・7は千葉産須恵器の甕で床面直上から、9も千葉産須恵器の甗でP2の覆土上層から出土した。11の土師器の杯は完形品で、覆土下層より出土している。12・17も土師器の杯であり、いずれも焼土層内より出土した。24は土師器の皿である。底部に不鮮明ながら「★」も

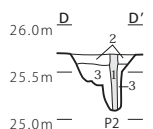
SI002



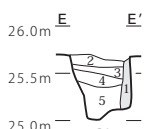
- A-A'・B-B'
- 7.5YR5/4 に近い褐色土。強くしめる。粘性なし。山砂を多量に含む。SI002 覆土。
 - 7.5YR4/3 褐色土。しめる。粘性なし。ローム粒を多量、ロームブロック(5 ~ 15 mm)を少量含む。SI002 覆土。
 - 7.5YR4/4 褐色土。しめる。粘性あり。ロームブロック(2 ~ 10 mm)を含む。SI002 覆土。
 - 7.5YR3/4 暗褐色土。弱くしめる。粘性弱い。ロームブロック(5 ~ 15 mm)をまばらに含む。SI002 覆土。
 - 7.5YR4/4 褐色土。しまりなし。粘性なし。ローム粒を多量に含む。SI002 覆土。
 - 7.5YR3/3 暗褐色土。弱くしめる。粘性弱い。焼土粒(5 mm)を含む。山砂を少量含む。SI002 覆土。
 - 2.5YR3/3 暗赤褐色土。強くしめる。粘性あり。山砂・焼土粒を多量、炭化粒・炭化材を含む。SI002 焼土。
 - 2.5YR4/6 赤褐色土。強くしめる。粘性なし。焼土粒を極めて多量、炭化粒を含む。P9 底面。
 - 7.5YR5/6 明褐色土。強くしめる。粘性なし。被熱したローム層。P9 底面。
 - 7.5YR3/4 暗褐色土。強くしめる。粘性あり。ローム粒・ロームブロック(5 ~ 10 mm)を多量、山砂を少量含む。SI002 貼床。
 - 7.5YR3/3 暗褐色土。しめる。粘性あり。ローム粒・ロームブロック(10 ~ 20 mm)を多量に含む。SI002 掘方。
 - 7.5YR4/6 褐色土。しまりなし。粘性あり。ローム粒・ロームブロック(5 ~ 15 mm)を極めて多量に含む。SI002 掘方。
 - 7.5YR3/4 暗褐色土。弱くしめる。粘性弱い。ローム粒を多量、焼土粒を少量含む。SI002 掘方。
 - 7.5YR2/3 極暗褐色土。しめる。粘性弱い。ローム粒・ロームブロック(5 ~ 25 mm)を多量に含む。SI002 掘方。



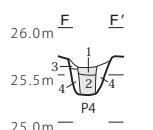
- 7.5YR3/2 黒褐色土。しめる。粘性あり。山砂を含む。ロームブロック(5 mm)を少量含む。P1 覆土。
- 7.5YR3/4 暗褐色土。しまりなし。粘性あり。ロームブロック(10 ~ 20 mm)を多量に含む。P1 覆土。



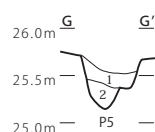
- 7.5YR3/3 暗褐色土。しまりなし。粘性あり。ローム粒・山砂ブロック(20 mm)・焼土ブロック(5 mm)・炭化物を含む。P2 柱痕跡。
- 7.5YR3/4 暗褐色土。強くしめる。粘性あり。ロームブロック(10 ~ 20 mm)を斑状、焼土粒を少量含む。SI002 貼床。
- 7.5YR4/4 褐色土。弱くしめる。粘性あり。ローム粒・ロームブロック(10 ~ 20 mm)を多量に含む。P2 柱の裏込。



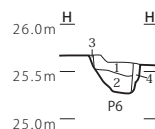
- 7.5YR2/3 極暗褐色土。弱くしめる。粘性あり。ローム粒・ロームブロック(10 ~ 20 mm)を含む。P3 柱痕跡。
- 7.5YR3/4 暗褐色土。強くしめる。粘性あり。ロームブロック(5 mm)を多量、山砂ブロック(50 mm)・焼土ブロック(5 mm)・炭化物を含む。SI002 貼床。
- 7.5YR4/3 褐色土。しめる。粘性あり。ローム粒・ロームブロック(10 ~ 20 mm)を多量、炭化粒を含む。山砂ブロック(50 mm)を少量含む。P3 柱の裏込。
- 7.5YR3/4 暗褐色土。弱くしめる。粘性あり。ローム粒・ロームブロック(10 ~ 20 mm)を含む。P3 柱の裏込。
- 7.5YR2/3 極暗褐色土。弱くしめる。粘性あり。ローム粒を含む。ロームブロック(10 ~ 30 mm)を少量含む。P3 柱の裏込。



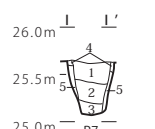
- 7.5YR3/3 暗褐色土。弱くしめる。粘性あり。山砂・炭化物を含む。P4 柱痕跡。
- 7.5YR3/4 暗褐色土。弱くしめる。粘性あり。ローム粒・ロームブロック(5 ~ 10 mm)を含む。P4 柱痕跡。
- 7.5YR3/4 暗褐色土。強くしめる。粘性あり。ロームブロック(5 mm)を多量、山砂ブロック(50 mm)・焼土ブロック(5 mm)・炭化物を含む。SI002 貼床。
- 7.5YR4/6 褐色土。弱くしめる。粘性あり。ローム粒・ロームブロック(10 ~ 50 mm)を多量に含む。P4 柱の裏込。



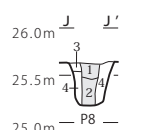
- 7.5YR3/2 黒褐色土。しめる。粘性あり。ローム粒・ロームブロック(20 ~ 50 mm)・山砂を含む。P5 覆土。
- 7.5YR4/4 褐色土。しめる。粘性あり。ローム粒・ロームブロック(20 ~ 50 mm)を多量に含む。P5 覆土。



- 7.5YR4/4 褐色土。しめる。粘性あり。ロームブロック(5 ~ 20 mm)を多量、炭化粒を少量含む。P6 柱の抜き取り痕か。
- 7.5YR4/3 褐色土。しめる。粘性あり。ロームブロック(5 ~ 10 mm)を含む。P6 柱の抜き取り痕か。
- 7.5YR4/6 褐色土。強くしめる。粘性あり。ローム粒を多量に含む。SI002 貼床。
- 7.5YR3/4 暗褐色土。しめる。粘性あり。ロームブロック(5 ~ 20 mm)を含む。P6 柱の裏込。



- 7.5YR 3/4 暗褐色土。しめる。粘性あり。ローム粒・ロームブロック(5 ~ 10 mm)を斑状に含む。P7 柱の抜き取り痕か。
- 7.5YR4/3 褐色土。弱くしめる。粘性あり。ロームブロック(20 ~ 50 mm)を斑状に含む。P7 柱の抜き取り痕か。
- 7.5YR4/4 褐色土。しめる。粘性あり。ロームブロック(20 ~ 50 mm)を多量に含む。P7 柱の抜き取り痕か。
- 7.5YR4/6 褐色土。強くしめる。粘性あり。ローム粒を多量に含む。SI002 貼床。
- 7.5YR4/4 褐色土。弱くしめる。粘性あり。ローム粒を多量に含む。P7 柱の裏込。

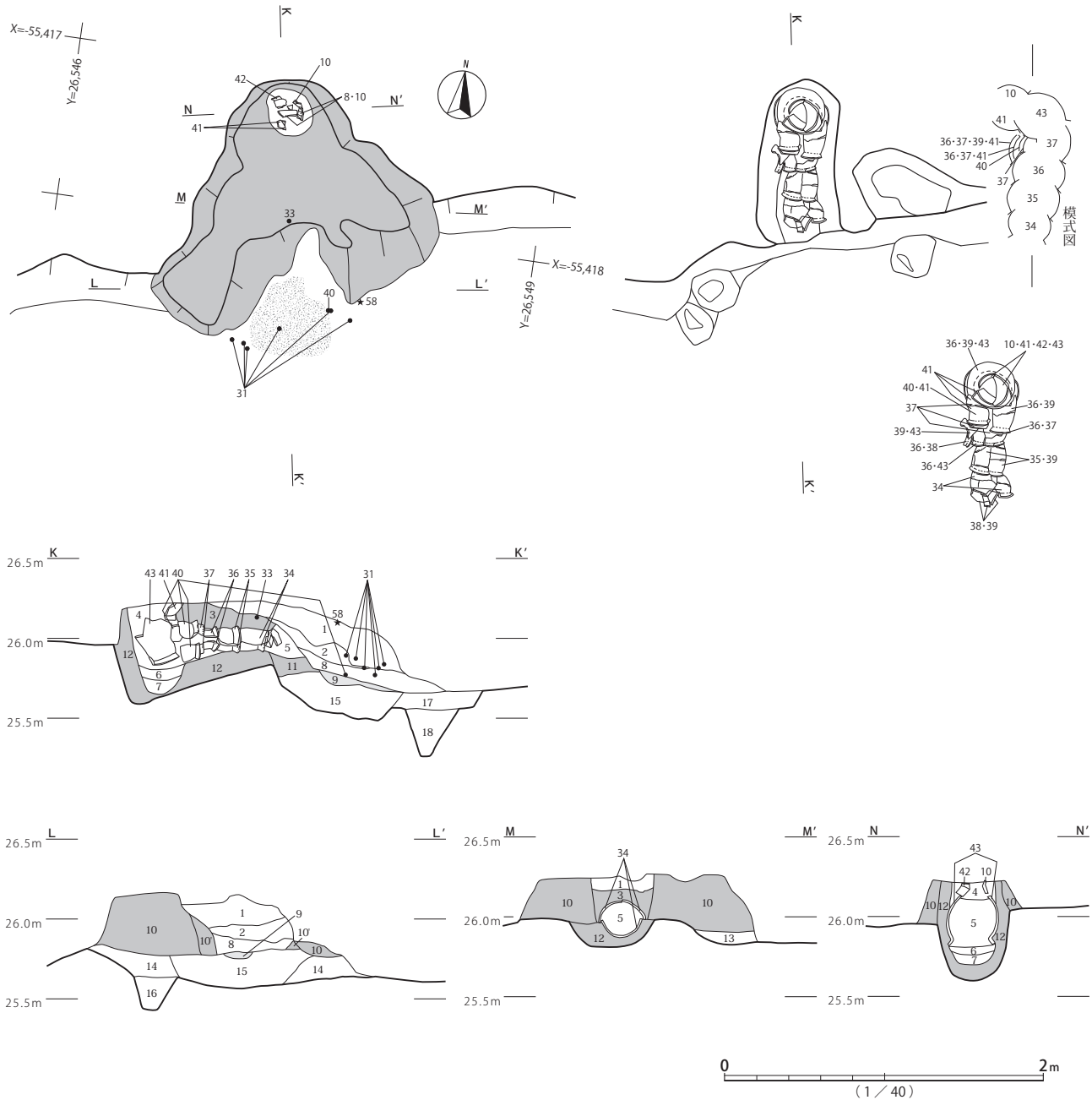


- 7.5YR3/3 暗褐色土。弱くしめる。粘性あり。ローム粒・ロームブロック(5 ~ 10 mm)を斑状に含む。P8 柱痕跡。
- 7.5YR3/4 暗褐色土。弱くしめる。粘性あり。ローム粒を多量に含む。P8 柱痕跡。
- 7.5YR4/6 褐色土。強くしめる。粘性あり。ローム粒・ロームブロック(20 ~ 50 mm)を多量に含む。SI002 貼床。
- 7.5YR4/3 褐色土。しめる。粘性あり。ローム粒を多量に含む。P8 柱の裏込。

第9図 SI002 遺構(1)

SI002

北カマド



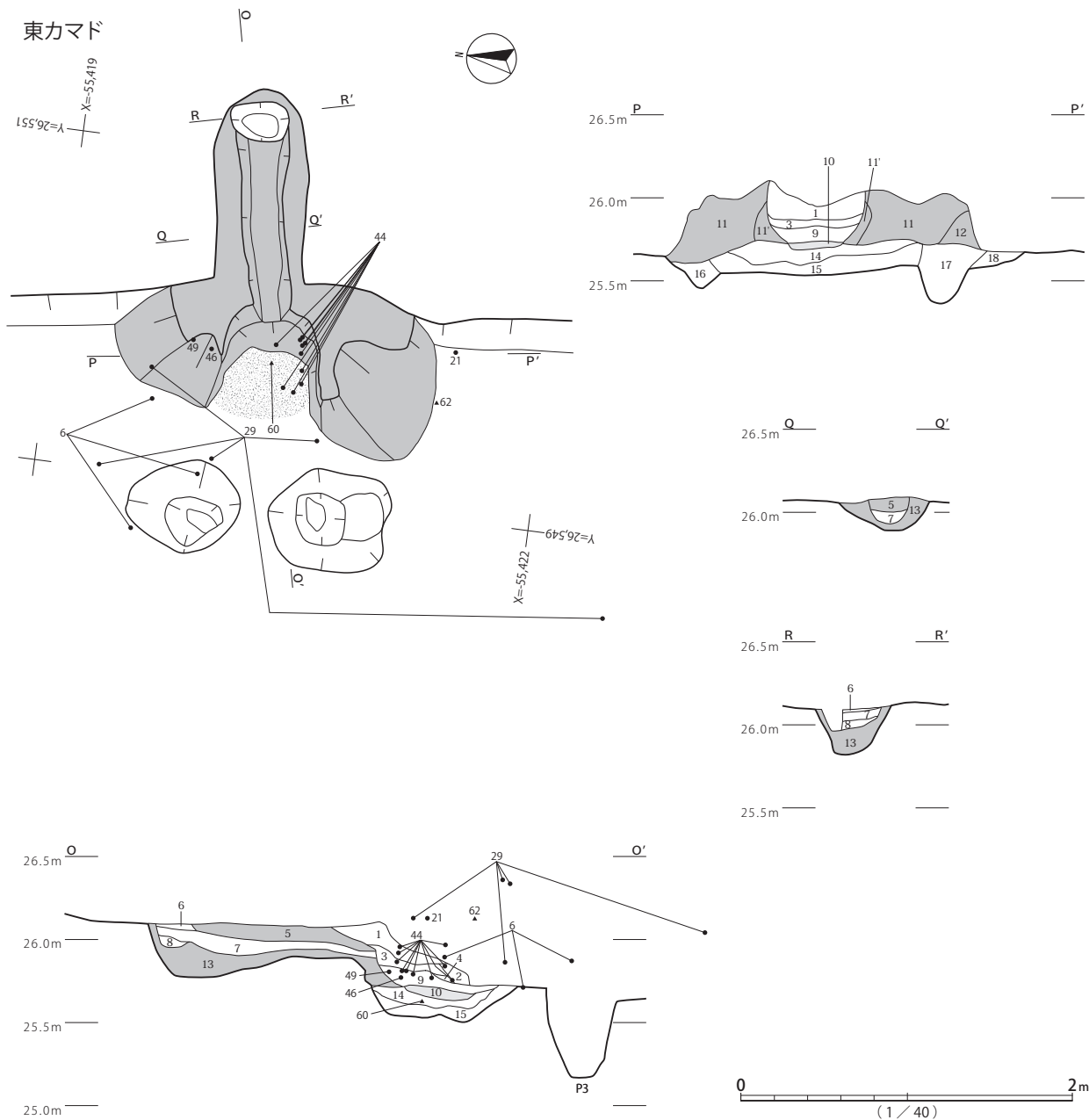
K-K'・L-L'・M-M'・N-N'

- 1 7.5YR4/3 褐色土。しまる。粘性弱い。山砂・山砂ブロック(5～10mm)・焼土粒・焼土ブロック(5～10mm)・炭化粒を斑状に含む。カマド覆土(崩れたカマド構築材か)。
- 2 5YR3/3 暗赤褐色土。しまる。粘性弱い。焼土粒・炭化粒を多量、焼土ブロック(5～10mm)を含み、山砂・山砂ブロック(10mm)を少量含む。カマド覆土(崩れたカマド構築材か)。
- 3 7.5YR6/3 にぶい褐色土。強くしまる。粘性なし。山砂の層。煙道を構成する裏がつぶれたことにより崩落した煙道構築材。
- 4 5YR3/4 暗赤褐色土。しまる。粘性弱い。焼土粒・焼土ブロック(10mm)を多量に含む。炭化粒を含む。カマド煙道覆土。
- 5 5YR2/3 極暗赤褐色土。しまりなし。粘性なし。焼土粒・炭化粒を極めて多量に含む。煙道を構成する裏の内部に堆積した覆土。
- 6 5YR3/4 暗赤褐色土。しまりなし。粘性弱い。焼土粒を多量、炭化粒を含む。カマド煙道雨水溜め覆土。
- 7 5YR3/3 暗赤褐色土。しまりなし。粘性弱い。焼土粒・炭化粒を含む。カマド煙道雨水溜め覆土。
- 8 5YR3/1 黒褐色土。しまる。粘性あり。炭化粒を極めて多量、焼土粒を含む。カマド使用時の灰等の堆積物層。
- 9 2.5YR4/8 赤褐色土。強くしまる。粘性なし。強く被熱した焼土層。カマド火床面。
- 10 7.5YR5/3 にぶい褐色土。強くしまる。粘性弱い。山砂の層。暗褐色土粒・焼土粒・炭化粒を少量含む。カマド構築材。
- 10' 2.5YR5/8 明赤褐色土。強くしまる。粘性なし。強く被熱した10層。カマド構築材。
- 11 2.5YR4/4 にぶい赤褐色土。強くしまる。粘性なし。被熱した山砂の層。山砂ブロック(10mm)を含む。カマド構築材。
- 12 2.5YR4/3 にぶい赤褐色土。強くしまる。粘性弱い。にぶく被熱した山砂の層。ローム粒・山砂ブロック(20mm)を含む。煙道を構成する裏を固定したカマド構築材。
- 13 7.5YR3/3 暗褐色土。しまる。粘性あり。ローム粒を多量、山砂を含み、焼土粒を少量含む。カマド煙道構築材。
- 14 7.5YR3/3 暗褐色土。強くしまる。粘性あり。ローム粒・ロームブロック(10～20mm)を多量、焼土ブロック(20mm)を含む。カマド掘方。
- 15 5YR3/4 暗赤褐色土。しまる。粘性なし。山砂を多量、ロームブロック(20mm)・山砂ブロック(10mm)・焼土粒・焼土ブロック(20mm)・炭化粒を含む。カマド掘方。
- 16 7.5YR3/3 暗褐色土。強くしまる。粘性あり。ローム粒・山砂を含み、焼土粒を少量含む。カマド掘方。
- 17 7.5YR4/3 褐色土。しまる。粘性あり。ロームブロック(20mm)を含み、山砂ブロック(10mm)を少量含む。SI002 掘方。
- 18 7.5YR3/3 暗褐色土。弱くしまる。粘性あり。ローム粒を多量、焼土粒を少量含む。ビット覆土。

第10図 SI002 遺構(2)

SI002

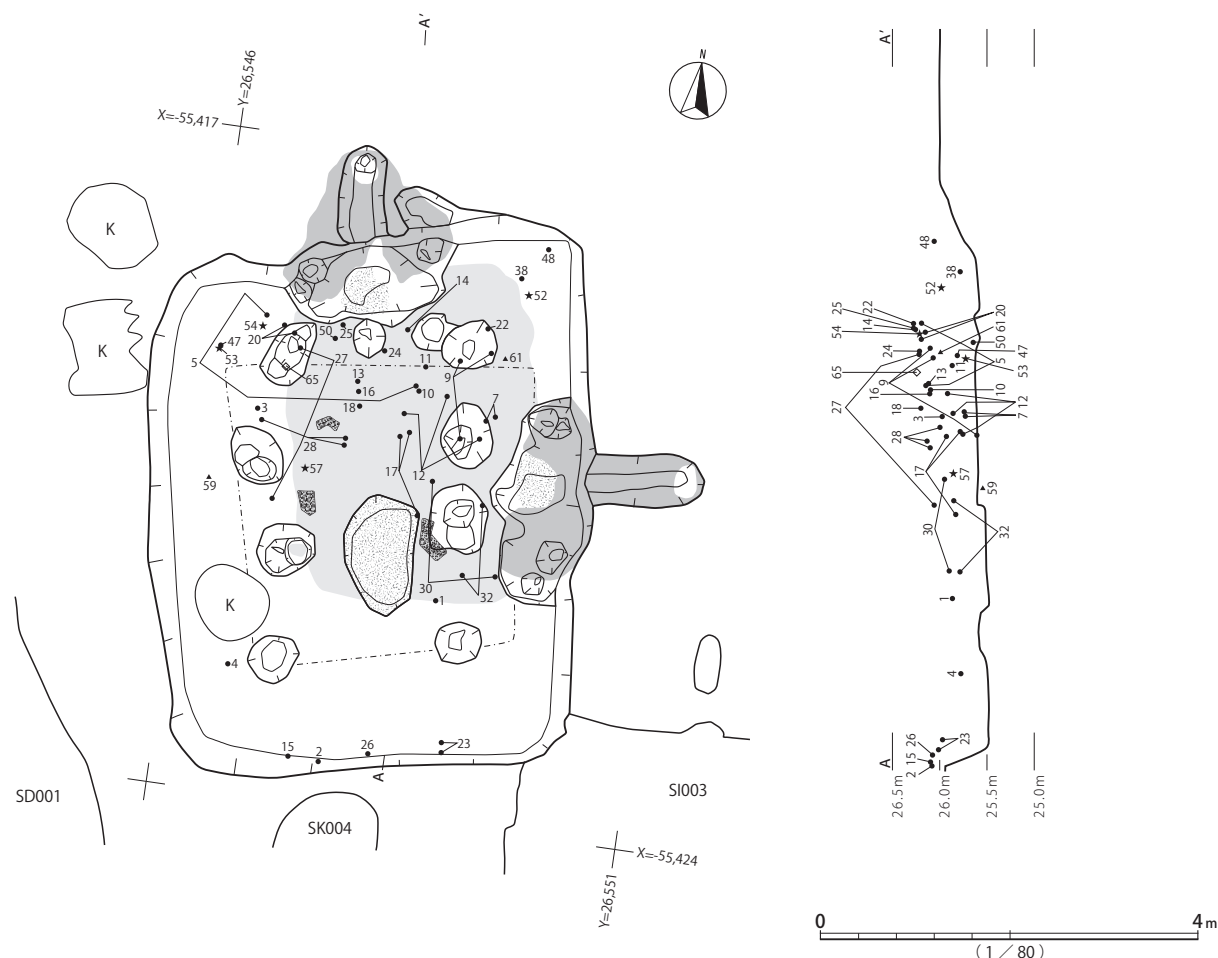
東カマド



O-O'・P-P'・Q-Q'・R-R'

- 1 7.5YR6/4 にぶい橙色土。しまる。粘性あり。山砂を多量に含む。カマド覆土(崩れたカマド構築材か)。
- 2 7.5YR4/4 褐色土。しまる。粘性あり。山砂ブロック(10～20mm)・焼土ブロック(5mm)を含む。カマド覆土(崩れたカマド構築材か)。
- 3 7.5YR3/2 黒褐色土。しまる。粘性あり。山砂を含む。カマド覆土。
- 4 7.5YR6/3 にぶい褐色土。しまる。粘性なし。山砂を極めて多量に含む。カマド覆土(崩れたカマド構築材か)。
- 5 2.5YR4/6 赤褐色土。強くしまる。粘性なし。強く被熱した山砂の層。崩落したカマド煙道構築材。
- 6 5YR3/3 暗赤褐色土。しまる。粘性弱い。山砂・焼土粒を含む。カマド煙道覆土。
- 7 5YR2/3 極暗赤褐色土。しまる。粘性なし。炭化粒を極めて多量、山砂・焼土粒を多量に含む。カマド使用時に煙道に堆積した覆土か。
- 8 7.5YR3/4 暗褐色土。しまる。粘性あり。山砂・焼土粒・炭化粒を含む。カマド煙道雨水溜め覆土。
- 9 5YR3/6 暗赤褐色土。しまる。粘性あり。炭化粒を極めて多量、山砂ブロック(10mm)・焼土粒・焼土ブロック(10～100mm)を多量に含む。カマド使用時の灰等の堆積物層。
- 10 2.5YR3/6 暗赤褐色土。強くしまる。粘性なし。強く被熱した焼土層。焼土ブロック(50mm)を少量含む。カマド火床面。
- 11 7.5YR5/4 にぶい褐色土。強くしまる。粘性弱い。山砂の層。暗褐色土を斑状、炭化粒を少量含む。カマド構築材。
- 11' 2.5YR4/6 赤褐色土。強くしまる。粘性なし。強く被熱した11層。カマド構築材。
- 12 7.5YR3/4 暗褐色土。しまる。粘性あり。山砂の層。ローム粒を多量、山砂ブロック(10mm)を少量含む。カマド構築材。
- 13 2.5YR6/6 橙色土。強くしまる。粘性なし。にぶく被熱した山砂の層。カマド煙道構築材。
- 14 2.5YR4/3 にぶい赤褐色土。しまる。粘性あり。山砂を極めて多量、焼土粒・焼土ブロック(20～50mm)を多量に含む。カマド掘方。
- 15 7.5YR3/3 暗褐色土。しまる。粘性あり。ロームブロック(50mm)・山砂・焼土粒を含む。カマド掘方。
- 16 7.5YR5/4 にぶい褐色土。弱くしまる。粘性あり。山砂を多量、焼土粒を少量含む。カマド掘方。
- 17 7.5YR4/3 褐色土。弱くしまる。粘性あり。山砂を多量、ロームブロック(5mm)を含み、焼土粒を少量含む。カマド掘方。
- 18 7.5YR3/3 暗褐色土。弱くしまる。粘性あり。ローム粒を多量に含む。カマド掘方。

第11図 SI002 遺構(3)

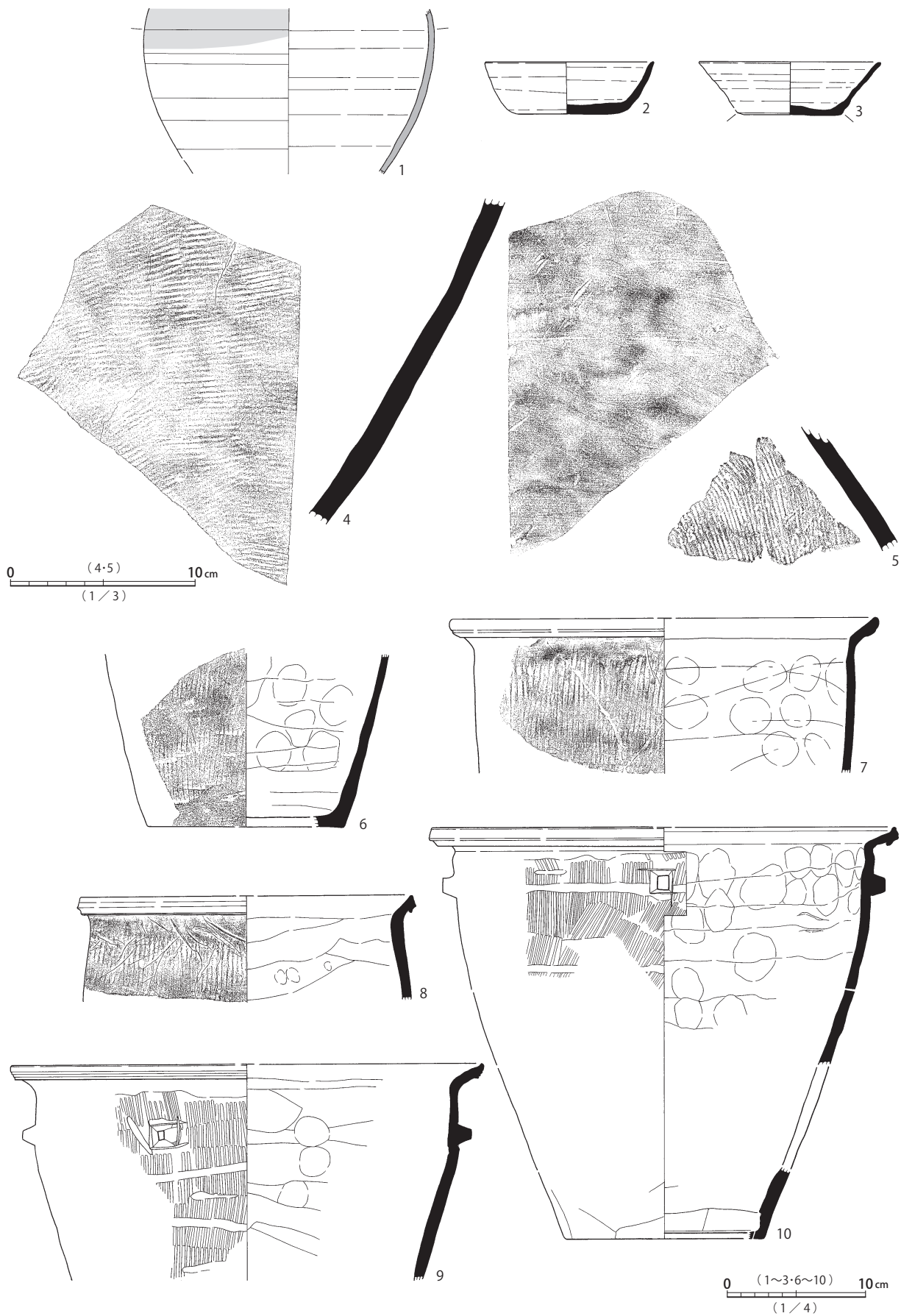


第12図 SI002 遺構(4)

しくは「大」字状の墨書がみられる。27は土師器の鉢であり、内面に赤彩が施される。32の土師器の甕は焼土層内より出土した。31・33も土師器の甕であり、31は北カマド内の炭化粒主体層より、33は北カマドの煙道を被覆する山砂内から出土した。34～43の土師器の甕は北カマドの煙道の構築材である。34～37・41～43及び千葉産須恵器の甕である8・10で煙道の筒状部分を構成し、38～40を補強材として用いている。43を除き大きさ・形状が類似することから、同時期に生産された可能性が考えられる。43は大型で、他の土師器の甕とは様相を異にする。44の土師器の甕は、東カマド内の炭化粒主体層や、カマドの内面に張り付いた状態で出土した。45は土師器の武蔵型の甕であり、東カマド内より出土している。46の土師器の甕と49の土師器の小型甕は東カマド左袖の構築材内から出土した。47・50も土師器の小型甕であり、47は床面直上、50は掘方内より出土している。53は鉄斧であり、床面直上から出土した。55・56は鉄塊系遺物、57・58は椀形滓であり、57は焼土層直上より出土する。59は永田・不入産の須恵器を転用した紡錘車であり、掘方内から出土している。60の土製支脚は東カマドの火床下層から出土した。65～69は桃核である。

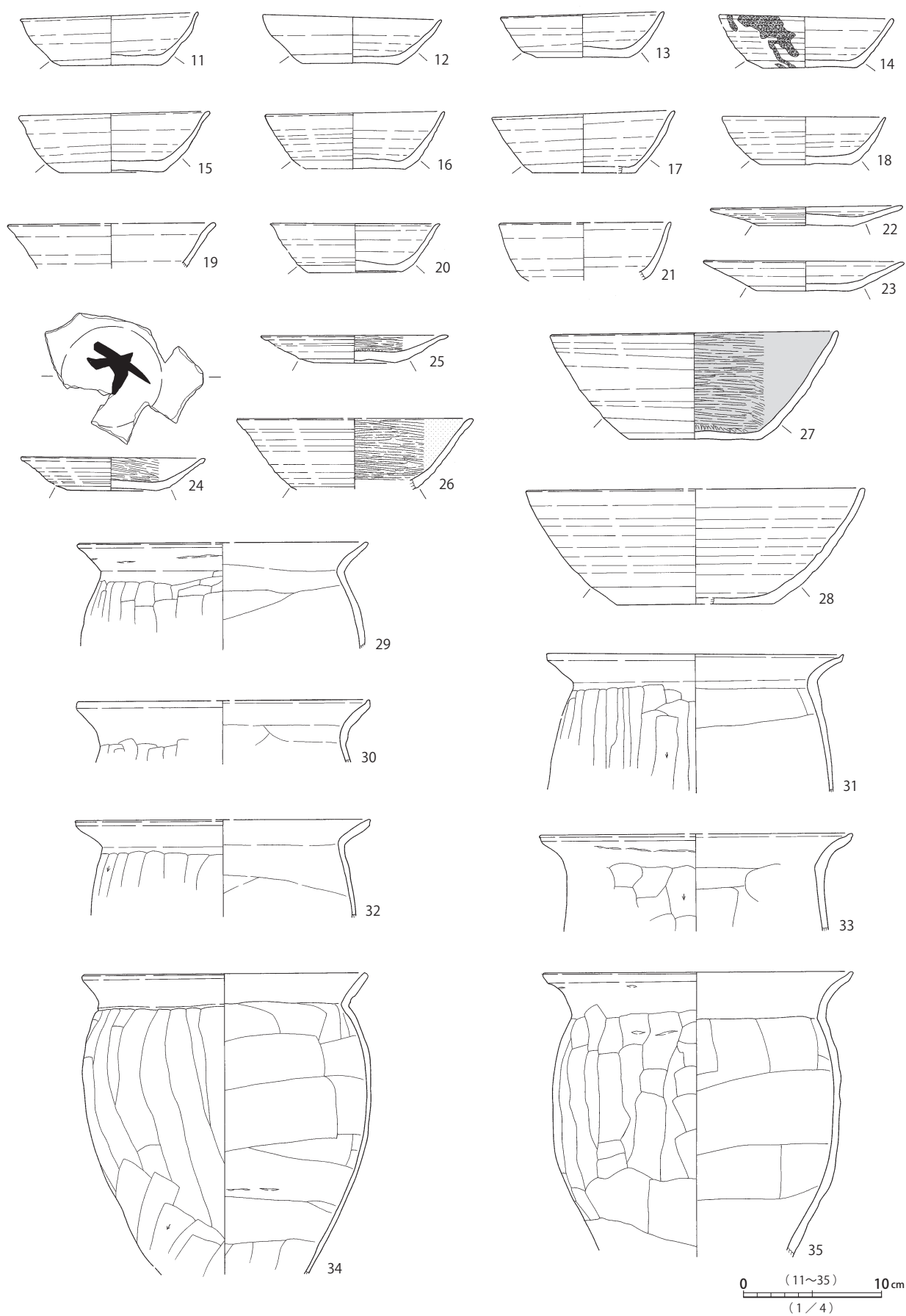
遺構の時期は、Ⅱ期-a(9世紀第2四半期)に属するものと考えられる。竪穴内から製鉄関連遺物が出土することや、炉やカマドの構造等から、鍛冶工房と考えられる。

SI002



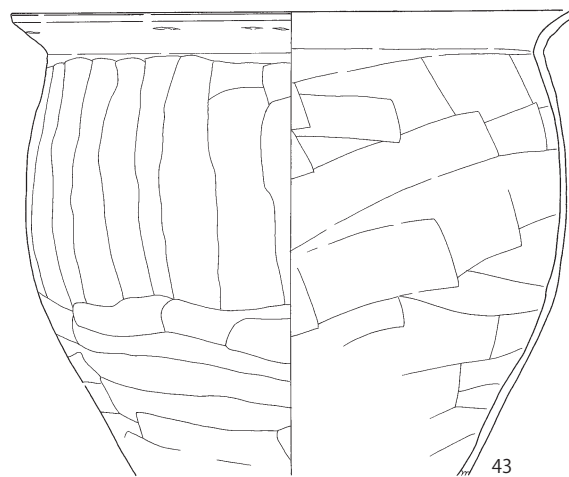
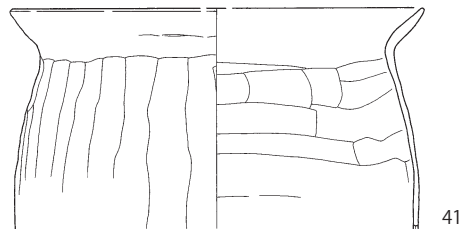
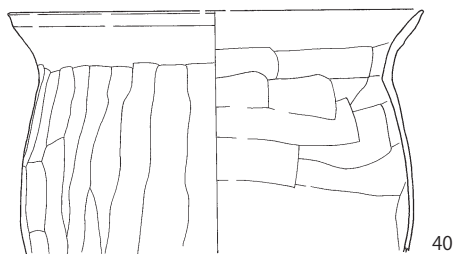
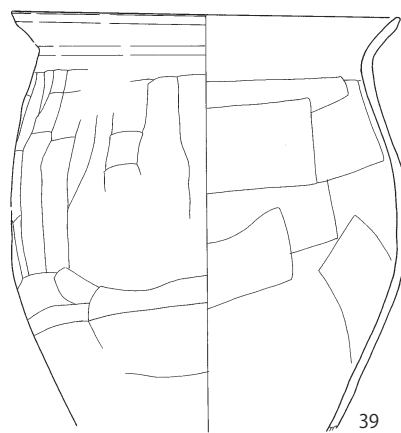
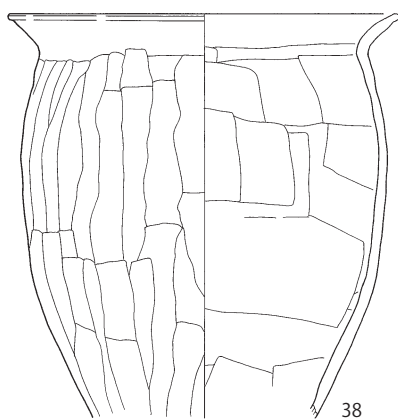
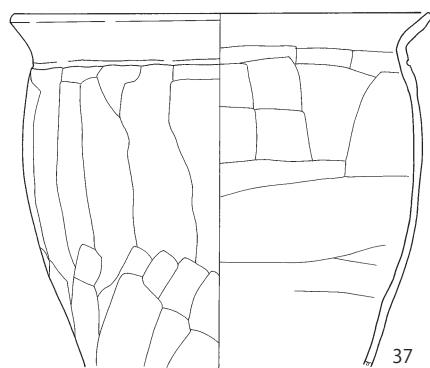
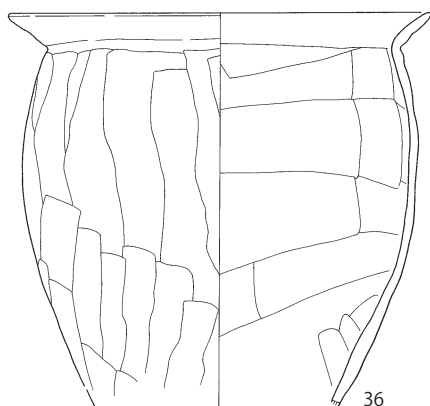
第13図 SI002 遺物(1)

SI002



第14図 SI002 遺物(2)

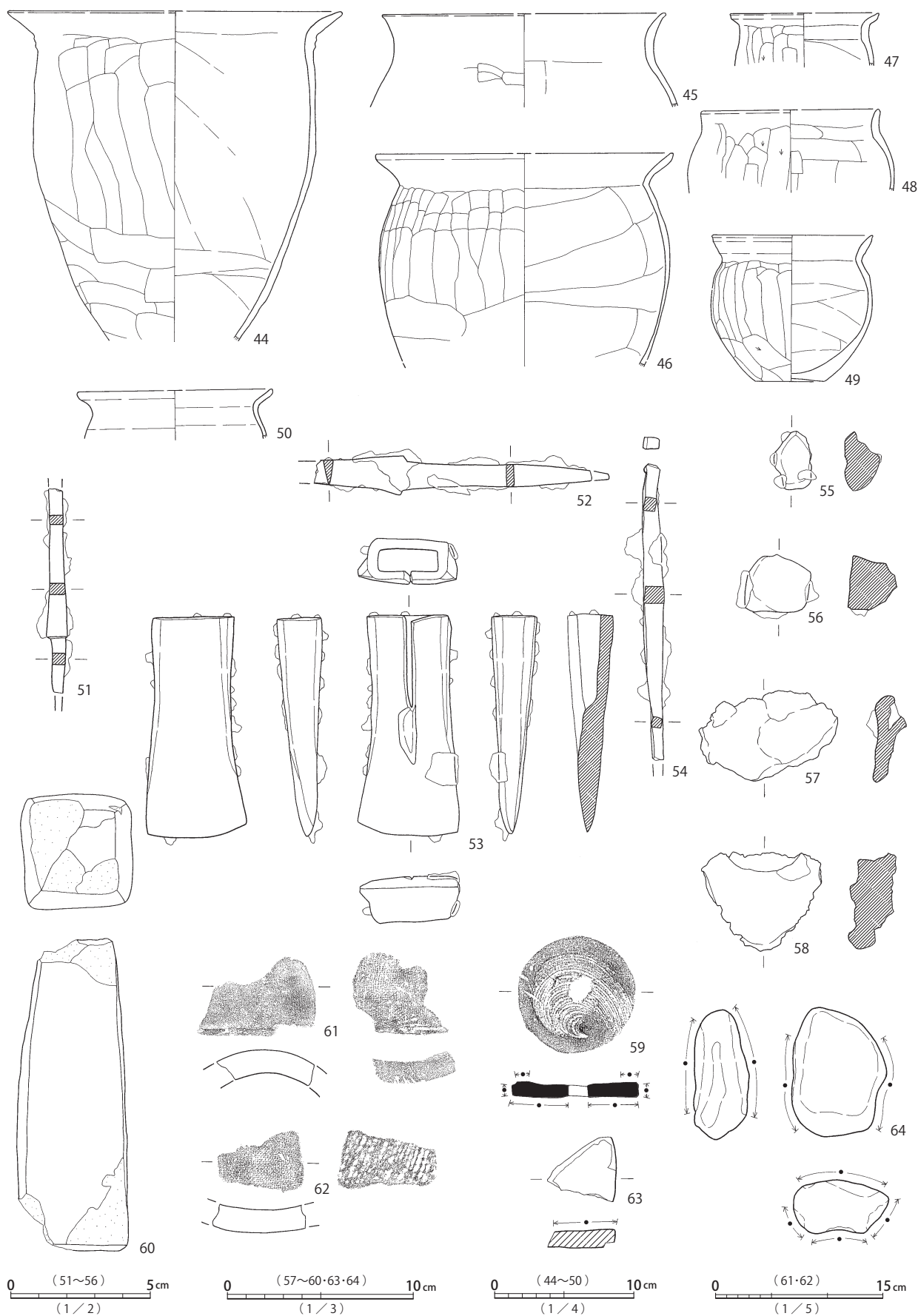
SI002



0 (36~43) 10cm
(1/4)

第15図 SI002 遺物(3)

SI002



第16図 SI002 遺物(4)

SI003 (第17・20図、図版3・6・17・20・21)

調査区の西部に位置する。SK005を切って構築する。また、遺構の北西隅はSI002に、覆土はSD002・003に切られるとともに、内部にはSB002・003の柱穴が構築されている。

床面までの深度は約26cmで遺存状態は悪い。壁溝は北壁の全面と東壁・西壁・南壁の一部に存在する。貼床は床全面に認められるが、南西部のみSD003によって削平されている。P1(深度50cm)・P2(同52cm)・P3(同56cm)・P4(同87cm)は柱穴と考えられる。P1・P2・P3は底面に柱当たりが確認できる。P4は下層のSK005を掘り込んでつくられる。P6(深度18cm)は出入口ピットと考えられる。P5(深度29cm)・P7(同16cm)は竪穴に付属するピットとみられる。カマドは北壁中央に付属する。長煙道型のカマドとみられ、火床面は非常によく焼けた焼土を主体とするとともに、カマド内面も強く被熱している。煙道は雨水溜め部のみが遺存する。また、カマド内からは鍛造剥片が出土している。

遺物は土師器1,346g、須恵器349g、鉄製品8g、鍛造剥片13片、瓦244gが出土した。また、縄文土器13gが混入する。3は須恵器の蓋であり、床面直上から出土した。4～6は土師器の非ロクロ系の杯であり、4は覆土下層、6はカマド内より出土している。8は土師器の須恵器模倣の杯であり、カマドの左袖脇より出土した。10の土師器の杯はSB002に伴う可能性がある。12は土師器の武蔵型の甕であり、覆土下層より出土した。15の土師器の甕は煙道の雨水溜め部から、19の平瓦はカマドの火床内から出土している。18は刀子であり、カマド左袖上から出土した。

遺構の時期は、A期(8世紀第3～4四半期)に属するものと考えられる。鍛造剥片が出土していることから、鍛冶工房の可能性はある。

SI004A (第18～20図、図版6・7・21)

調査区の中央部に位置する。SI004Bの覆土を切っており、その建替え後の建物である。竪穴の上層や南東部は攪乱によって削られるとともに、内部にはSB002・003の柱穴が構築されている。

床面までの深度は14cmで遺存状態は悪い。壁溝は西壁の一部に存在する。貼床は北西部を除いて認められ、中央部はSI004Bの床面直上に施されている。P1(深度19cm)は柱穴と考えられ、断面において柱痕跡が確認できる。カマドは北壁中央に付属する。カマドの右袖はSB003のP6によって削平されている。火床面は焼土と炭化粒が混在した層が厚さ10cmほど堆積しており、カマド使用時に火床の清掃が行われたものと推測される。煙道は構築材の下部と雨水溜め部が遺存する。

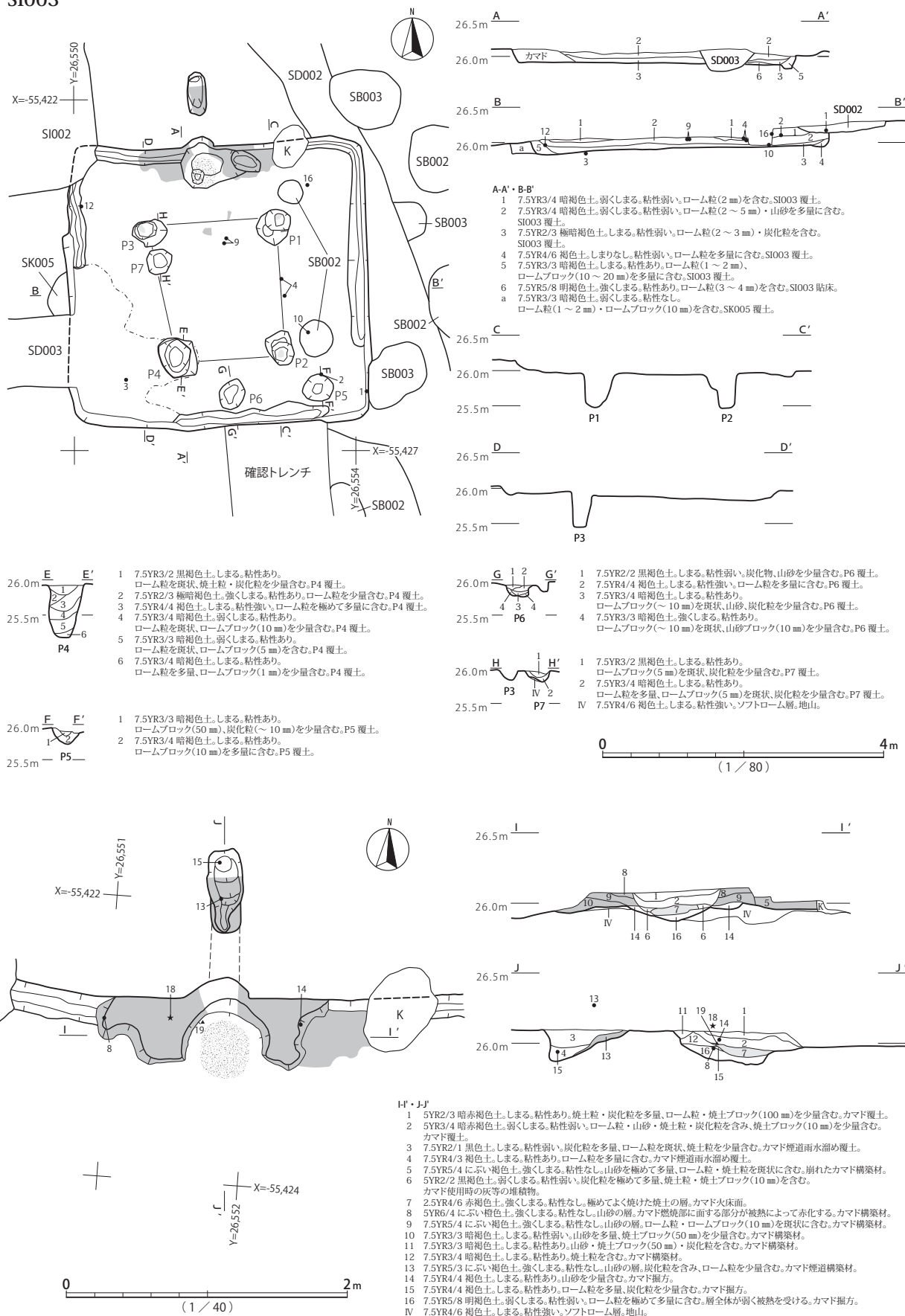
遺物は土師器1,607g、須恵器273g、鉄製品6gが出土した。また、縄文土器43gが混入する。3は土師器の杯である。出土位置からSB002に伴う可能性がある。4も土師器の杯であり、床面直上より出土した。6は土師器の甕である。カマドの内部やカマド周辺から破片が散在した状態で出土している。7・8は刀子である。覆土下層より出土した。

遺構の時期は、I期(9世紀第1四半期)に属するものと考えられる。

SI004B (第18図、図版6・7)

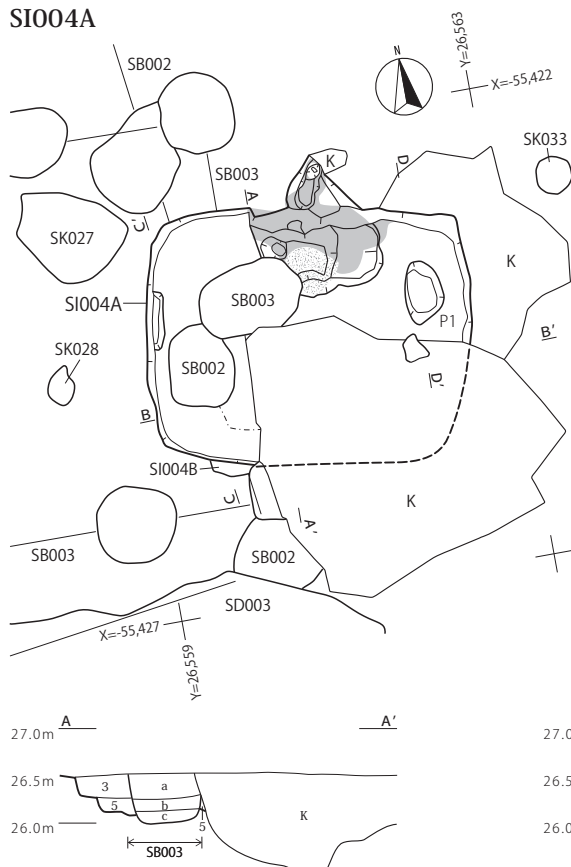
調査区の中央部に位置する。SI004Aに覆土が切られており、その建替え前の建物である。竪穴の南東側は攪乱によって削られるとともに、内部にはSB002・003の柱穴が構築されている。

SI003

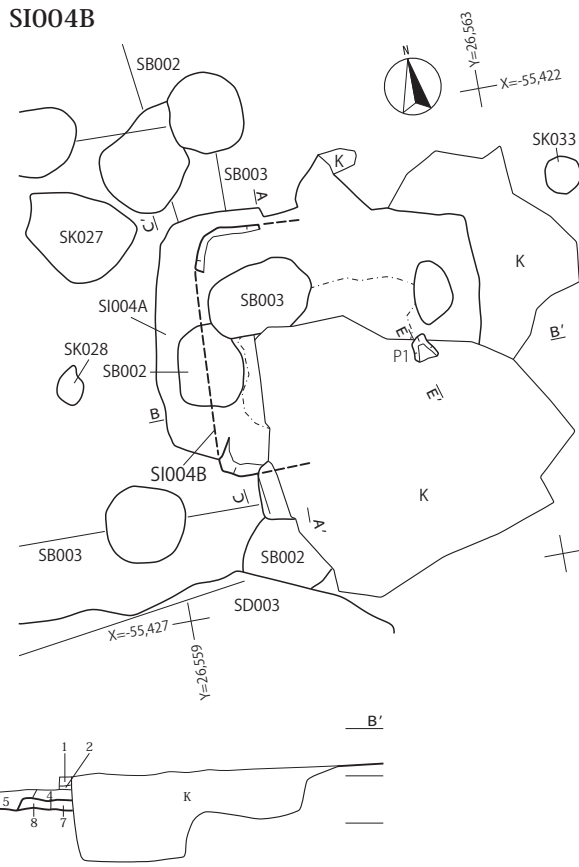


第17図 SI003 遺構

SI004A

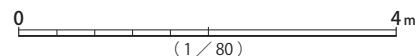
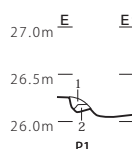
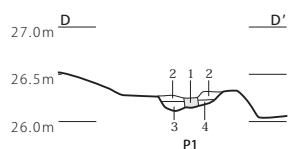


SI004B



A-A'・B-B'・C-C'

- 1 7.5YR2/3 極暗褐色土。しまる。粘性あり。ローム粒を斑状に含み、焼土粒を少量含む。SI004A 覆土。
- 2 7.5YR3/4 暗褐色土。しまる。粘性あり。ローム粒・ロームブロック(2mm)を多量に含む。SI004A 覆土。
- 3 7.5YR2/2 黒褐色土。しまる。粘性弱い。山砂・山砂ブロック(2mm)・焼土粒・焼土ブロック(1mm)・炭化粒を多量、ローム粒・ロームブロック(1mm)を少量含む。SI004A カマド流出土。
- 4 7.5YR4/3 褐色土。極めて強くしまる。粘性あり。ローム粒を多量、炭化粒を少量含む。SI004A 貼床。
- 5 7.5YR3/4 暗褐色土。しまる。粘性あり。ローム粒を斑状に含み、炭化粒を少量含む。SI004A 掘方。
- 6 7.5YR3/3 暗褐色土。しまる。粘性あり。ローム粒を含み、ロームブロック(1~5mm)・炭化粒を少量含む。SI004B 覆土。
- 7 7.5YR4/4 褐色土。極めて強くしまる。粘性あり。ローム粒を極めて多量に含む。SI004B 貼床。
- 8 7.5YR3/3 暗褐色土。強くしまる。粘性あり。ローム粒・ロームブロック(5~10mm)を斑状に含み、山砂・焼土粒・炭化粒を含む。SB003P6 柱の裏込。
- a 7.5YR3/3 暗褐色土。強くしまる。粘性あり。ローム粒・ロームブロック(1~5mm)を斑状に含み、山砂・焼土粒・炭化粒を少量含む。SB003P6 柱の裏込。
- b 7.5YR3/2 黒褐色土。しまる。粘性強い。ローム粒・ロームブロック(2~100mm)を多量、山砂・焼土粒を少量含む。SB003P6 柱の裏込。
- c 7.5YR3/4 暗褐色土。しまる。粘性強い。ローム粒・ロームブロック(2~100mm)を多量、山砂・焼土粒を少量含む。SB003P6 柱の裏込。



第18図 SI004A・B 遺構

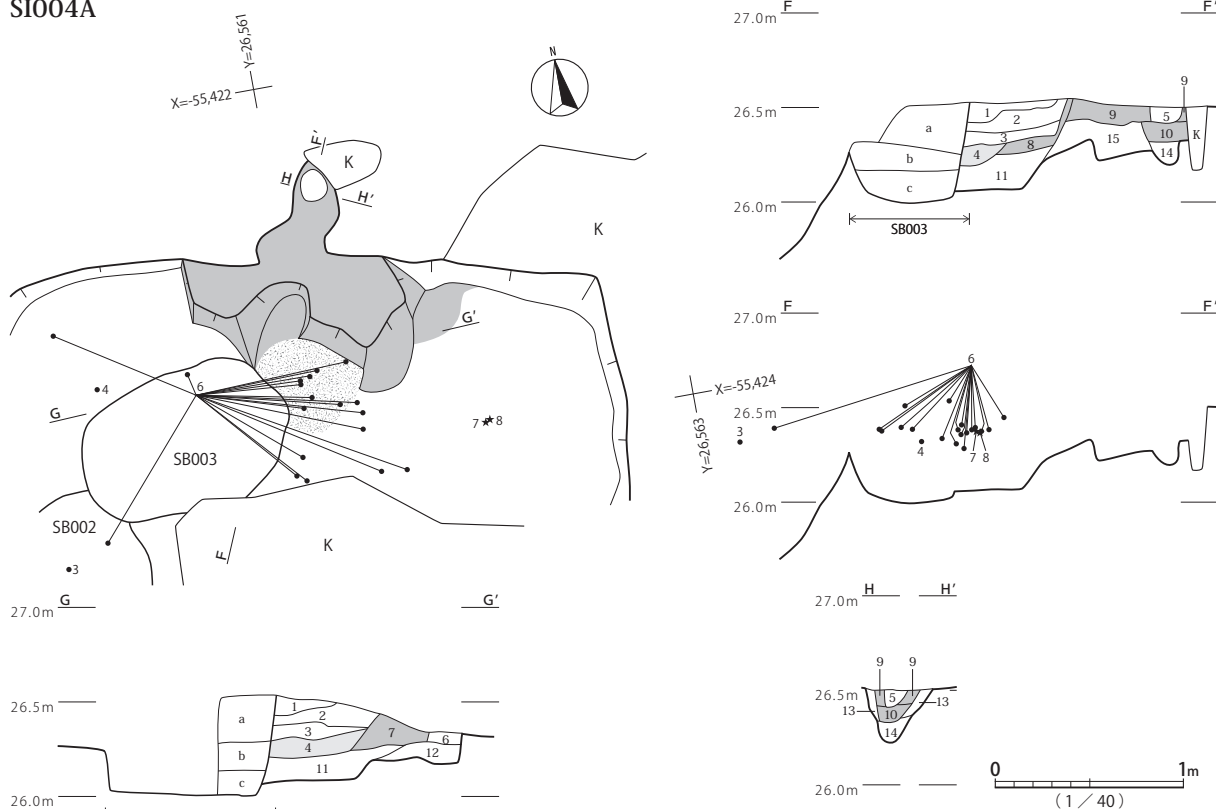
遺構は北西部と南西部の壁面が遺存する。床面までの深度は25cmを測る。貼床は中央部に認められ、SI004Aの貼床の直下に遺存する。P1(深度19cm)は柱穴の可能性があるが、大半が攪乱により削平されているため不明である。カマドは遺存しない。なお、出土遺物は皆無である。

遺構の時期は、SI004Aの建替え前の遺構であることから、A~I期(8世紀第3四半期~9世紀第1四半期)に属するものと考えられる。

SI005(第21・22図、図版6・7・17・21・22)

調査区の中央部に位置する。南西部はSD005に切られる。覆土上層と南東部は攪乱によって削られており、南東部の壁面は遺存しない。

SI004A



F-F'・G-G'・H-H'

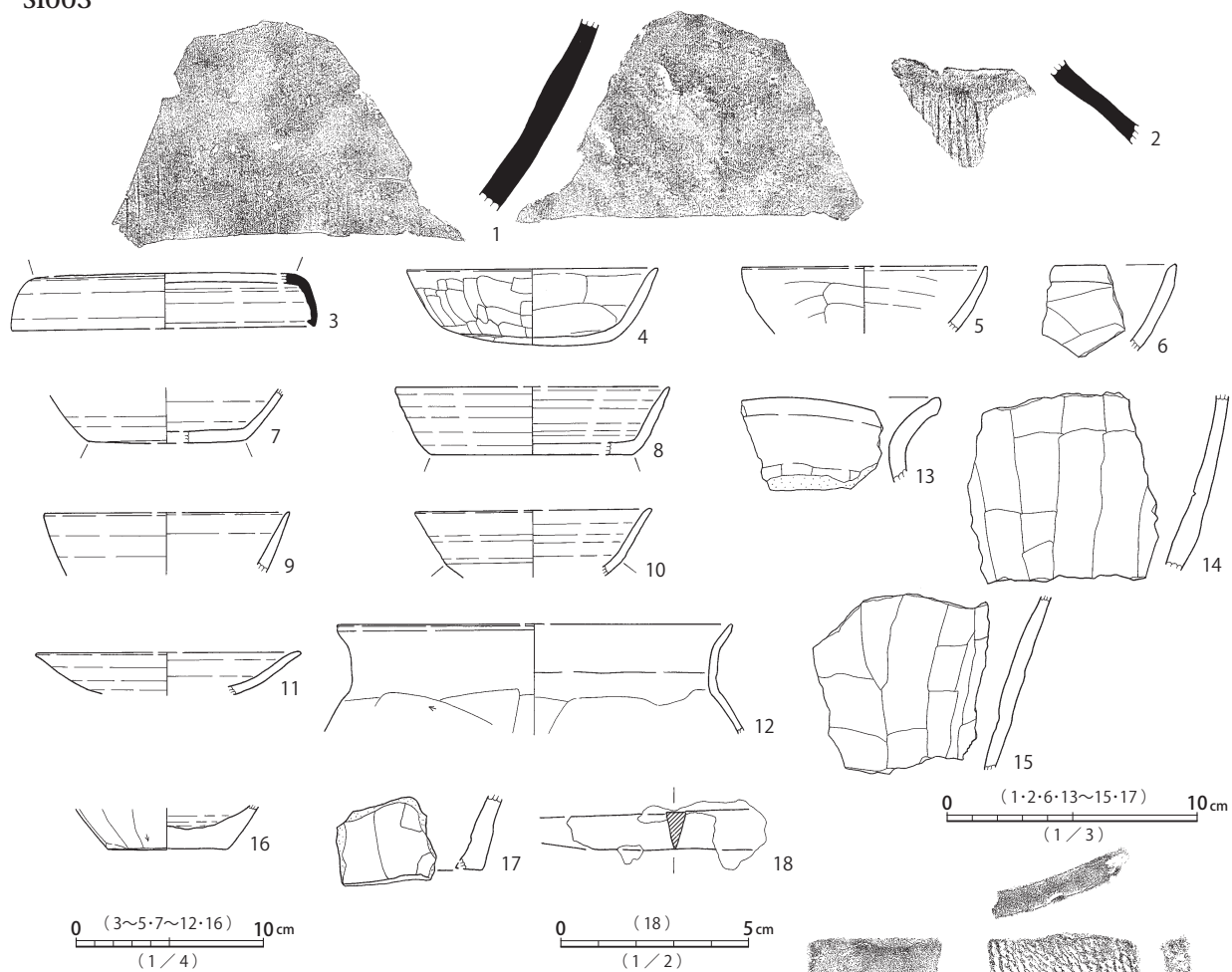
- 1 7.5YR3/2 黒褐色土。しる。粘性弱い。ローム粒を少量含む。カマド覆土。
- 2 7.5YR4/2 灰褐色土。強くしる。粘性なし。山砂を多量、ローム粒・ロームブロック(50 mm)・焼土粒・炭化粒を少量含む。崩れたカマド構築材。
- 3 5YR2/2 黒褐色土。弱くしる。粘性なし。炭化粒を極めて多量、ローム粒・ロームブロック(1 ~ 3 mm)・山砂・焼土粒・焼土ブロック(10 mm)・灰褐色(7.5YR5/2)の煤を含む。カマド使用時の堆積物層。
- 4 2.5YR4/3 にぶい赤褐色土。強くしる。粘性なし。焼土粒・炭化粒を極めて多量、焼土ブロック(2 ~ 10 mm)を含む。カマド火床面。
- 5 5YR2/2 黒褐色土。弱くしる。粘性弱い。焼土粒・炭化粒・炭化材(10 mm)を多量、ローム粒・山砂を含む。カマド煙道雨水溜め覆土。
- 6 7.5YR3/2 黒褐色土。極めて強くしる。粘性なし。ローム粒・山砂・炭化粒を多量、焼土ブロック(150 mm)を含む。カマド周囲のSI004A 貼床。
- 7 7.5YR5/4 にぶい褐色土。極めて強くしる。粘性なし。山砂の層。暗褐色粒(7.5YR3/4)を斑状に含み、焼土粒・炭化粒を少量含む。カマド構築材。
- 8 2.5YR4/3 極暗赤褐色土。強くしる。粘性なし。被熱した山砂の層。炭化粒を含む。カマド構築材。
- 9 5YR4/3 にぶい赤褐色土。極めて強くしる。粘性なし。やや被熱した山砂の層。ローム粒・炭化粒を含む。カマド煙道構築材。
- 10 7.5YR5/3 にぶい褐色土。強くしる。粘性なし。山砂の層。炭化粒を多量に含む。カマド煙道雨水溜め構築材。
- 11 7.5YR2/2 黒褐色土。強くしる。粘性あり。ローム粒・ロームブロック(5 ~ 20 mm)を斑状に含む。カマド掘方。
- 12 7.5YR3/2 黒褐色土。弱くしる。粘性あり。ローム粒を多量、炭化粒を含み、山砂・焼土粒を少量含む。カマド掘方。
- 13 7.5YR4/6 褐色土。強くしる。粘性強い。ローム粒を極めて多量に含む。カマド煙道雨水溜め掘方。
- 14 7.5YR3/2 黒褐色土。強くしる。粘性あり。ローム粒を多量、ロームブロック(5 ~ 15 mm)・炭化粒を含み、焼土粒を少量含む。カマド煙道雨水溜め掘方。
- 15 7.5YR4/6 褐色土。極めて強くしる。粘性強い。ローム粒を極めて多量、ロームブロック(100 mm)を多量、山砂・焼土粒・炭化粒を少量含む。カマド煙道掘方。
- a 7.5YR3/3 暗褐色土。強くしる。粘性あり。ローム粒・ロームブロック(5 ~ 10 mm)を斑状に含み、山砂・焼土粒・炭化粒を含む。SB003P6 柱の裏込。
- b 7.5YR3/2 黒褐色土。強くしる。粘性あり。ローム粒・ロームブロック(1 ~ 5 mm)を斑状に含み、山砂・焼土粒・炭化粒を少量含む。SB003P6 柱の裏込。
- c 7.5YR3/4 暗褐色土。しる。粘性強い。ロームブロック(2 ~ 100 mm)を多量、山砂・焼土粒を少量含む。SB003P6 柱の裏込。

第19図 SI004A 遺構

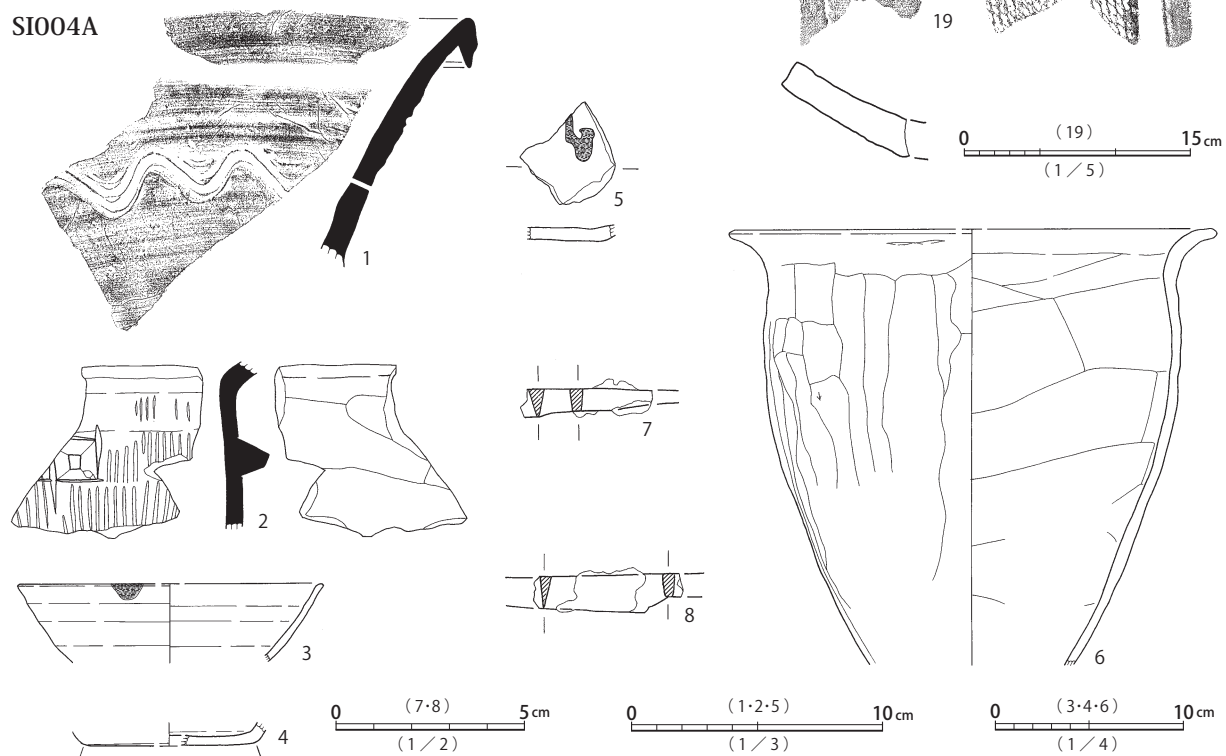
床面までの深度は20cmで遺存状態は悪い。壁溝は全周せず部分的に存在する。貼床は床全面に認められる。掘方は壁際が溝状に深くなる。また、壁際には部分的に焼土が堆積する。P1(深度21cm)・P2(同12cm)・P3(同22cm)は柱穴と考えられる。P1・P3は底面に柱当たりがみられ、P2・P3は断面において柱痕跡が確認できる。P4(深度18cm)は出入口ピットと考えられる。カマドは北壁中央に付属する。長煙道型のカマドである。火床面は焼土と炭化粒が混在した層が堆積しており、カマド使用時に火床の清掃が行われたものと推測される。また、カマドの天井部がカマド内部に崩落している。煙道は構築材の下部と雨水溜め部が遺存する。

遺物は土師器2,259g、須恵器629g、鉄製品59g、土製品101gが出土した。また、縄文土器12gが混入する。1は永田・不入産須恵器の杯で、2は東海産、4は北武蔵産須恵器の甕である。5・6は土師器の非ロクロ系の杯で、5は内面にへう状工具による円弧状のナデが施される。1・5はカマド火床内より、2・4・6は床面直上より出土した。7~12は土師器の甕である。いずれも崩落したカマドの天井部や袖、煙道構築材の内部から出土しており、カマドの補強材と思われる。13・14は刀

SI003

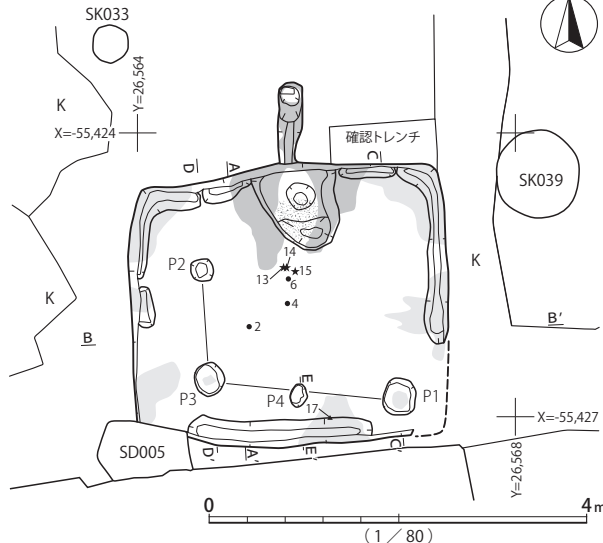


SI004A



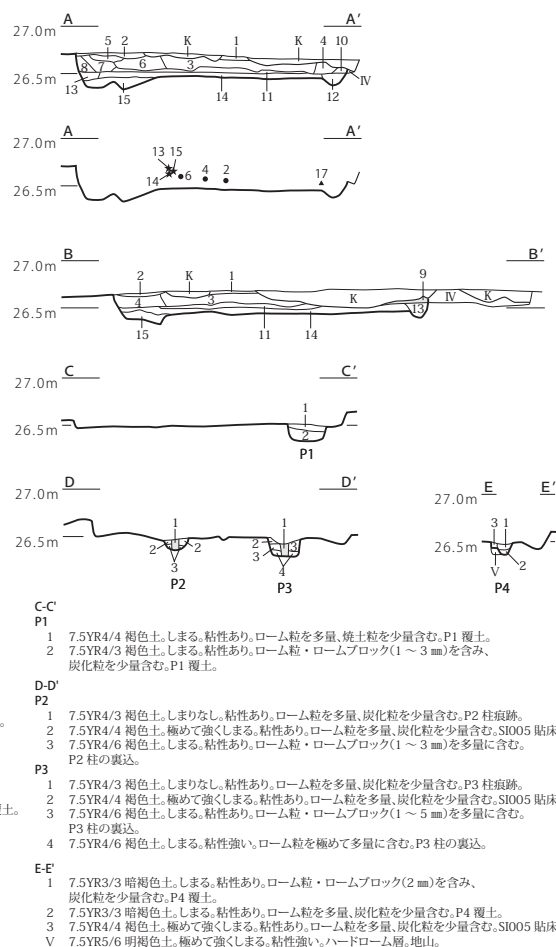
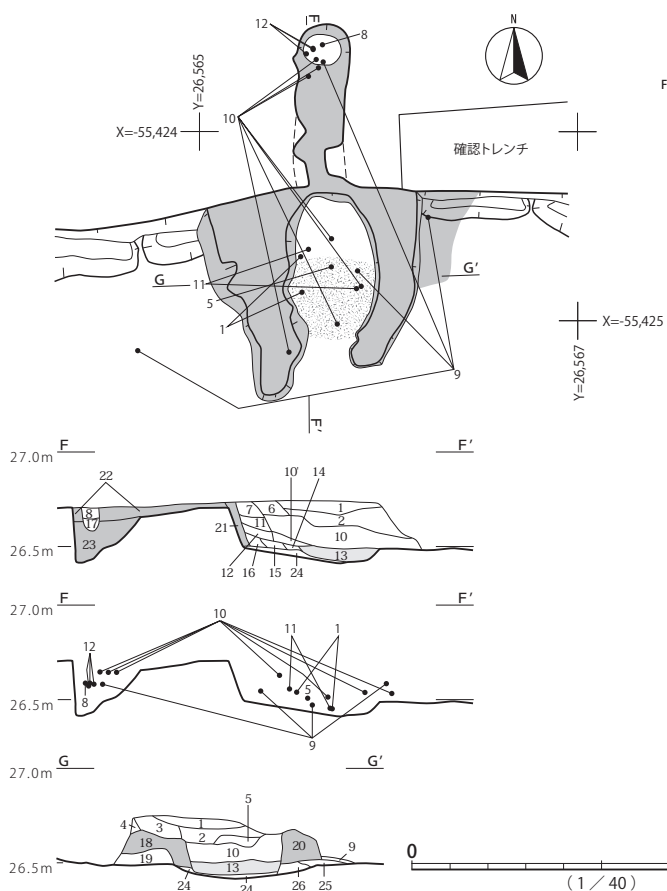
第20図 SI003・004A 遺物

SI005



A-A'・B-B'

- 1 7.5YR2/3 極暗褐色土。しまる。粘性弱い。ローム粒・炭化粒を少量含む。SI005 覆土。
- 2 7.5YR3/3 暗褐色土。しまる。粘性あり。ローム粒を含む。焼土粒を少量含む。SI005 覆土。
- 3 7.5YR3/4 暗褐色土。しまる。粘性あり。ローム粒を斑状に含む。ロームブロック(5mm)・焼土粒を少量含む。SI005 覆土。
- 4 7.5YR3/4 暗褐色土。しまる。粘性あり。ローム粒を斑状に含む。ロームブロック(1mm)・焼土粒・炭化粒を少量含む。SI005 覆土。
- 5 7.5YR4/3 褐色土。しまる。粘性強い。山砂を多量。ローム粒を含む。焼土粒・炭化粒を少量含む。SI005 カマド流土。
- 6 7.5YR3/2 黒褐色土。しまる。粘性あり。ローム粒を斑状・炭化粒を含む。山砂・焼土粒を少量含む。SI005 カマド流土。
- 7 7.5YR3/4 暗褐色土。しまる。粘性あり。ローム粒を斑状に含む。ロームブロック(2mm)・山砂・焼土粒・炭化粒を少量含む。SI005 カマド流土。
- 8 5YR3/4 暗赤褐色土。弱くしまる。粘性弱い。焼土粒を多量。ローム粒を含む。山砂を少量含む。SI005 カマド流土。
- 9 5YR3/4 暗赤褐色土。しまる。粘性なし。焼土粒を多量。焼土ブロック(1~2mm)・炭化粒・炭化物(1mm)を含む。ローム粒を含む。ローム粒を少量含む。SI005 焼土。
- 10 7.5YR4/4 褐色土。しまる。粘性あり。ローム粒を多量。ロームブロック(1mm)・炭化粒を少量含む。SI005 覆土。
- 11 7.5YR3/4 暗褐色土。強くしまる。粘性あり。ローム粒を多量。ロームブロック(1mm)・焼土粒・炭化粒を少量含む。SI005 覆土。
- 12 7.5YR3/3 暗褐色土。しまる。粘性あり。ローム粒を多量に含む。SI005 壁溝覆土。
- 13 7.5YR3/3 暗褐色土。しまる。粘性あり。ローム粒を多量。焼土粒・炭化粒を少量含む。SI005 壁溝覆土。
- 14 7.5YR4/4 褐色土。極めて強くしまる。粘性あり。ローム粒を多量。炭化粒を少量含む。SI005 貼床。
- 15 7.5YR4/4 褐色土。しまる。粘性あり。ローム粒を多量。炭化粒を少量含む。SI005 掘方。
- 16 7.5YR5/6 明褐色土。極めて強くしまる。粘性極めて強い。ソフトローム層。地山。

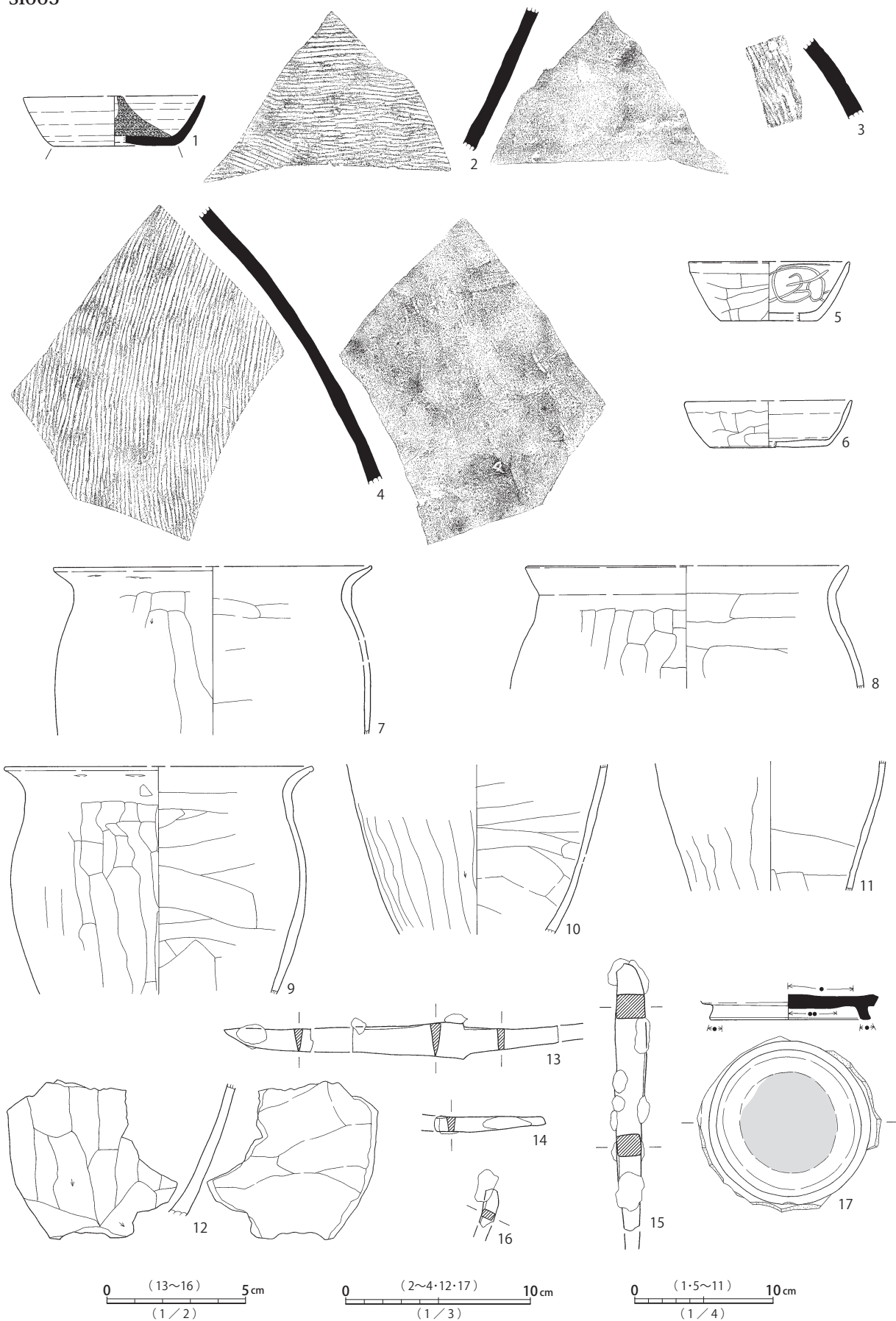


F-F'・G-G'

- 1 7.5YR3/4 暗褐色土。しまる。粘性弱い。ローム粒を含む。山砂・焼土粒・焼土ブロック(5mm)・炭化粒を少量含む。カマド覆土。
- 2 7.5YR3/4 暗褐色土。しまる。粘性弱い。ローム粒・ロームブロック(1mm)を含む。山砂・焼土粒・炭化粒を少量含む。カマド覆土。
- 3 7.5YR3/3 暗褐色土。しまる。粘性弱い。ローム粒・山砂を含む。焼土粒・焼土ブロック(2~10mm)・炭化粒を少量含む。カマド覆土。
- 4 7.5YR4/3 褐色土。しまる。粘性あり。ローム粒を多量。山砂・山砂ブロック(1~3mm)を含む。焼土粒を少量含む。カマド覆土。
- 5 7.5YR4/3 褐色土。しまる。粘性弱い。ローム粒・ロームブロック(2~10mm)・山砂・山砂ブロック(10mm)を含む。焼土粒・炭化粒を少量含む。カマド覆土。
- 6 7.5YR5/4 にぶい褐色土。強くしまる。粘性あり。山砂・山砂ブロック(5~10mm)を多量。ローム粒・焼土粒を少量含む。カマド覆土。
- 7 7.5YR3/3 暗褐色土。強くしまる。粘性弱い。ローム粒・山砂を含む。焼土粒・焼土ブロック(5mm)・炭化粒を少量含む。カマド覆土。
- 8 7.5YR4/3 褐色土。しまる。粘性あり。ローム粒を多量に含む。カマド煙道雨水溜め覆土。
- 9 7.5YR5/4 にぶい褐色土。強くしまる。粘性なし。山砂を極めて多量。ローム粒を含む。流したカマド構築材。
- 10 10YR3/4 暗褐色土。強くしまる。粘性弱い。山砂を極めて多量。山砂ブロック(50mm)・炭化粒を含む。ローム粒・焼土粒を少量含む。崩落したカマド天井部構築材。
- 10' 5YR5/4 にぶい赤褐色土。強くしまる。粘性なし。被熱した山砂・山砂ブロック(100mm)を極めて多量。焼土粒・炭化粒を含む。崩落したカマド天井部構築材。
- 11 7.5YR2/2 黒褐色土。しまる。粘性弱い。焼土粒・炭化粒を含む。ローム粒を少量含む。カマド覆土。
- 12 5YR3/4 暗赤褐色土。しまる。粘性なし。山砂・焼土粒を多量。焼土ブロック(5~10mm)・炭化粒を含む。崩落したカマド天井部構築材。
- 13 2.5YR3/2 暗赤褐色土。しまる。粘性なし。炭化粒・焼土粒を極めて多量。焼土ブロック(2~10mm)を含む。カマド火床面。
- 14 5YR3/2 暗赤褐色土。しまる。粘性あり。ローム粒・炭化粒を多量。焼土粒・焼土ブロック(5mm)を含む。山砂を少量含む。カマド使用時の堆積物層。
- 15 5YR5/2 灰褐色土。しまる。粘性なし。灰(5YR5/2)を極めて多量。焼土粒・炭化粒を含む。焼土ブロック(5mm)を少量含む。カマド使用時の堆積物層。
- 16 5YR3/3 暗褐色土。しまる。粘性弱い。炭化粒を多量。ローム粒・焼土粒を含む。山砂を少量含む。カマド使用時の堆積物層。
- 17 7.5YR3/2 黒褐色土。弱くしまる。粘性弱い。炭化粒を多量。山砂・焼土粒を少量含む。カマド煙道雨水溜め覆土。
- 18 7.5YR5/4 にぶい褐色土。極めて強くしまる。粘性なし。山砂の層。ロームブロック(5mm)を少量含む。カマド構築材。
- 19 7.5YR4/3 褐色土。強くしまる。粘性あり。ローム粒を多量。ロームブロック(2~5mm)・山砂・焼土粒・炭化粒を少量含む。カマド構築材。
- 20 5YR5/4 にぶい赤褐色土。極めて強くしまる。粘性なし。被熱した山砂の層。カマド煙道雨水溜め構築材。強く被熱する。暗褐色土(7.5YR3/4)を斑状に含む。カマド構築材。
- 21 7.5YR5/4 にぶい褐色土。極めて強くしまる。粘性なし。山砂の層。被熱した山砂・被熱した山砂ブロック(2mm)・炭化粒を含む。カマド構築材。
- 22 7.5YR5/4 にぶい褐色土。極めて強くしまる。粘性なし。山砂の層。ローム粒・焼土粒・炭化粒を含む。カマド煙道構築材。
- 23 7.5YR4/2 灰褐色土。しまる。粘性弱い。山砂を多量。炭化粒を斑状に含む。カマド煙道雨水溜め構築材。
- 24 7.5YR3/3 暗褐色土。しまる。粘性あり。ローム粒・山砂・焼土粒・炭化粒を含む。カマド掘方。
- 25 7.5YR3/3 暗褐色土。強くしまる。粘性あり。ローム粒を多量。炭化粒を含む。ロームブロック(5mm)・焼土粒・炭化物(2mm)を少量含む。カマド掘方。
- 26 5YR3/2 暗赤褐色土。しまる。粘性弱い。炭化粒を極めて多量。山砂・焼土粒・焼土ブロック(2mm)を少量含む。カマド掘方。

第21図 SI005 遺構

SI005



第22図 SI005 遺物

子、15・16は釘である。13～15はカマドの焚口付近から、16は壁際の焼土内から出土している。17は東海産須恵器の高台付杯の底部を転用した朱墨パレットである。底部及び高台部が摺り込まれ、赤色顔料が付着している。南壁の焼土内から出土した。

遺構の時期は、A期（8世紀第3～4四半期）に属するものと考えられる。

SI006（第23・24図、図版8・9・17・22）

調査区の南東部に位置する。遺構の南・西側は調査区外へ続く。覆土上層は攪乱によって削られる。床面までの深度は26cmを測る。深度10cmほどの壁溝が東壁に存在する。床面は北壁際と東壁際の一部を除いて硬化面が良好な状態で遺存する。ハードローンを踏み固めて床面を構築したものとみられる。また、北側の床面直上には、厚さ6mmほどの硬化した山砂の層が堆積する。P1（深度33cm）は柱穴と考えられ、底面に直径12cmほどの柱当たりが確認できる。P2（深度10cm）はカマドに付属するピットと思われる。カマドは北壁に付属する。火床面は焼土と炭化粒が混在する層と焼土主体の層に分層できることから、カマド使用時に火床の清掃が行われたものと推測される。煙道は中央部が攪乱によって削られるが、そのほかは意図的に破壊されているものとみられ、内部からは土器や丸瓦などが折り重なった状態で出土している。

遺物は土師器2,418g、須恵器378g、灰釉陶器238g、瓦791gが出土した。また、縄文土器17gが混入する。1はK-90号窯式期に併行する猿投産の灰釉陶器の皿である。底部に「西万」の文字が2列並んで墨書されている。竪穴の北壁際から口縁を上に向けた状態で出土した。2は千葉産須恵器の甕である。カマド煙道内上層で底部を上に向けて出土した。4～12は土師器の杯、13・14は土師器の皿である。3は底面に「大及」と思われる文字が線刻されている。3は底部を下に向け破碎した状態で、11・12は伏せた状態で床面直上から出土し、9も床面直上より出土した。4～8・10・13は煙道内から出土している。6・7は上層から、10は16の真下から出土した。4・5・8・13は2の真下で折り重なって出土しており、とくに5と13は合子状に重なった状態で出土している。16は土師器の甕である。破片が散在した状態で煙道内上層から出土した。17の丸瓦も煙道内上層から出土している。

遺構の時期は、II期-b（9世紀第3四半期）に属するものと考えられる。

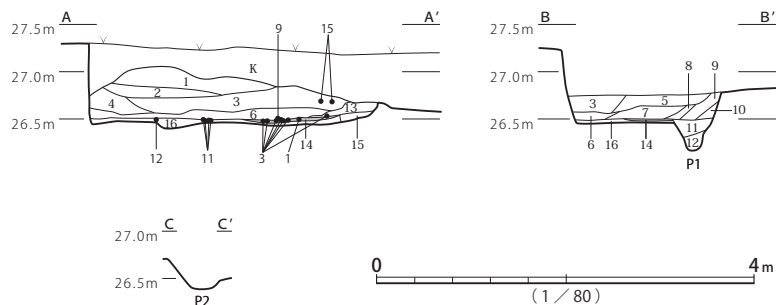
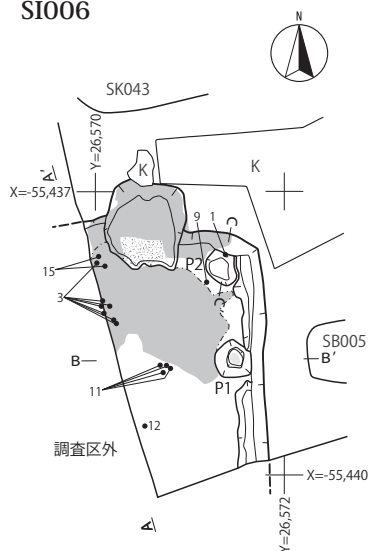
SI007（第25・28図、図版8・9・17・22）

調査区の南東部に位置する。東西両側と覆土上層は住宅基礎によって削られる。

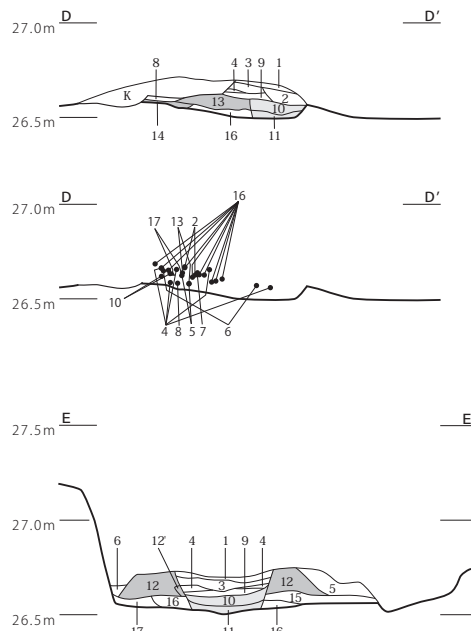
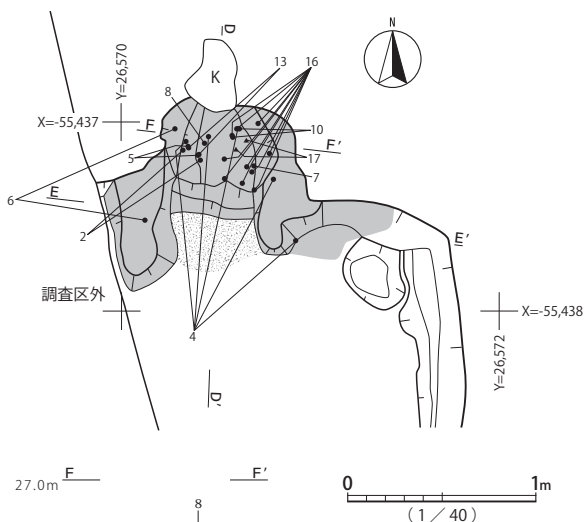
床面までの深度は9cmで遺存状態は極めて悪く、覆土も部分的にしか遺存しない。上部に存在した住宅基礎によって覆土は極めて強く締まる。遺構として明確に遺存するものはカマドの残欠と思われる山砂の塊のみである。カマドの南側には炭化材を主体とし焼土、土器細片を多量に含む層が堆積している。カマドの北側には煙道の残欠と思われる山砂を伴う掘り込みが存在する。また、上記の炭化物主体層からは鍛造剥片が出土している。

遺物は土師器441g、須恵器2g、灰釉陶器131g、鍛造剥片4片が出土した。また、縄文土器11gが混入する。1は猿投産の灰釉陶器の瓶・壺類と思われる。炭化物主体層内から出土した。2・3は土師器の杯である。4は土師器の小型杯であり、内外面に顕著な油煙痕が認められる。2・4は炭化物

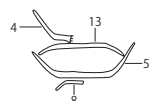
SI006



- A-A'・B-B'**
- 7.5YR2/3 極暗褐色土。しる。粘性弱い。ローム粒・焼土粒・炭化粒を少量含む。SI006 覆土。
 - 7.5YR2/3 極暗褐色土。しる。粘性あり。ローム粒を斑状、山砂ブロック(1 mm)・焼土粒を少量含む。SI006 覆土。
 - 7.5YR3/3 暗褐色土。しる。粘性あり。ローム粒を斑状、山砂ブロック(1 ~ 10 mm)を含む。焼土粒を少量含む。SI006 覆土。
 - 7.5YR3/3 暗褐色土。強くしる。粘性あり。ローム粒・山砂ブロック(5 ~ 10 mm)を斑状に含む。SI006 覆土。
 - 7.5YR4/3 褐色土。しる。粘性強い。ローム粒・ロームブロック(5 ~ 10 mm)を斑状に含む。SI006 覆土。
 - 7.5YR3/2 黒褐色土。しる。粘性強い。ローム粒・炭化粒を多量、焼土粒を少量含む。SI006 覆土。
 - 7.5YR3/4 暗褐色土。しる。粘性強い。ローム粒・ロームブロック(5 ~ 20 mm)を含む。焼土粒・炭化粒を少量含む。SI006 覆土。
 - 7.5YR4/4 褐色土。しる。粘性強い。ロームブロック(20 mm)を含む。SI006 覆土。
 - 7.5YR3/3 暗褐色土。弱くしる。粘性あり。ローム粒を斑状、ロームブロック(1 mm)を含む。焼土粒・炭化粒を少量含む。SI006 覆土。
 - 7.5YR3/3 暗褐色土。弱くしる。粘性あり。ローム粒を斑状、焼土粒を少量含む。SI006 覆土。
 - 7.5YR2/2 黒褐色土。弱くしる。粘性あり。ローム粒・ロームブロック(1 mm)を少量含む。SI006P1 覆土。
 - 7.5YR3/4 暗褐色土。しる。粘性あり。ローム粒・ロームブロック(2 ~ 5 mm)を斑状に含む。SI006P1 覆土。
 - 7.5YR4/4 褐色土。強くしる。粘性あり。ローム粒を多量、山砂を含み、焼土粒を少量含む。SI006P1 カマド覆土。
 - 7.5YR5/3 にふい褐色土。極めて強くしる。粘性なし。山砂を極めて多量に含む。SI006 貼床か。
 - 7.5YR3/4 暗褐色土。強くしる。粘性あり。ローム粒を斑状に含む。SI006 掘方。
 - 7.5YR5/6 明褐色土。極めて強くしる。粘性強い。踏圧され硬化したハードローム層。SI006 床面。

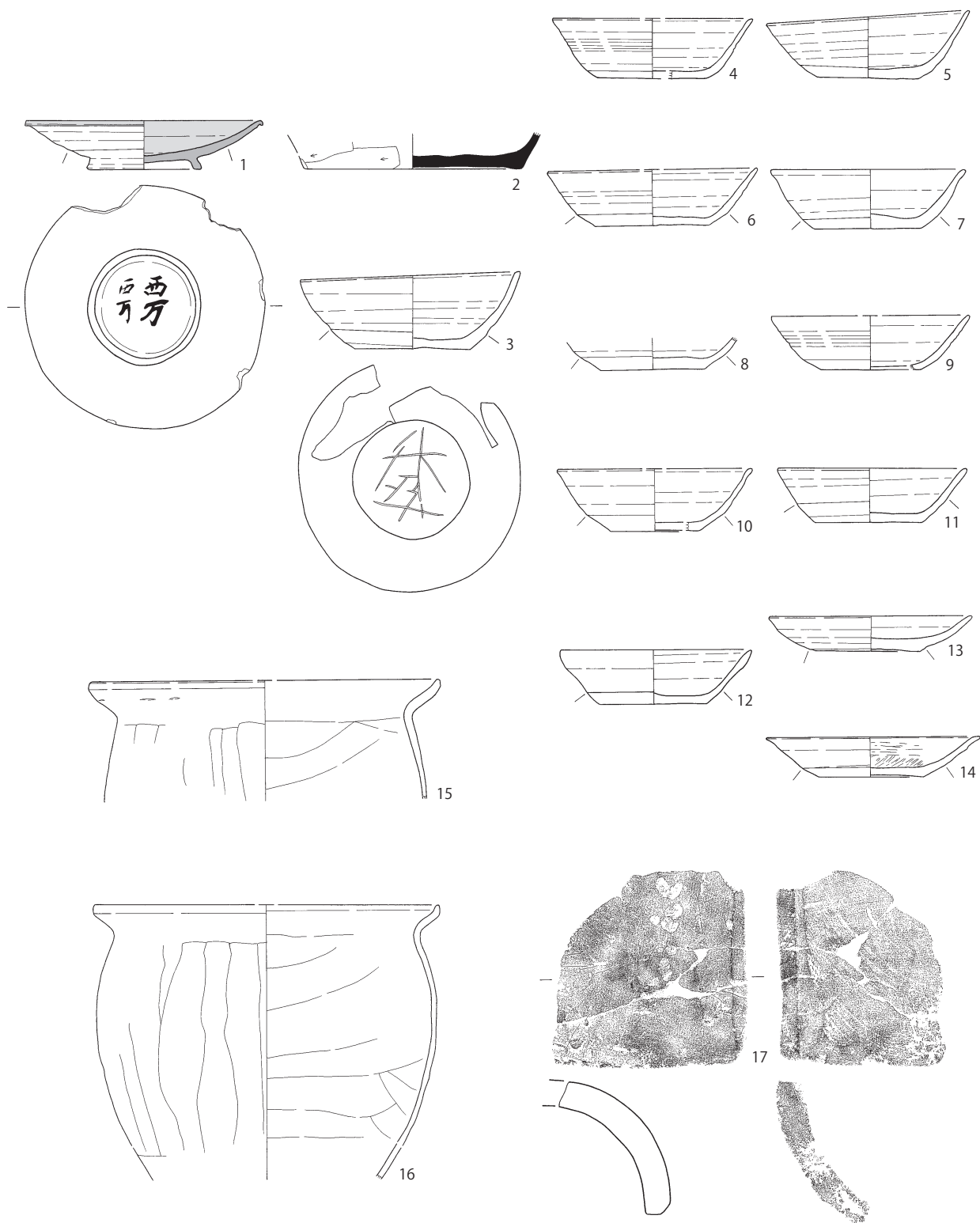


出土状況模式図



- D-D'・E-E'・F-F'**
- 7.5YR3/3 暗褐色土。しる。粘性弱い。ローム粒・山砂・焼土粒を含む。カマド覆土。
 - 7.5YR3/3 暗褐色土。しる。粘性あり。ローム粒を斑状、炭化粒を含む。カマド覆土。
 - 5YR4/3 にふい赤褐色土。しる。粘性弱い。山砂・被熱した山砂を多量に含む。崩落したカマド天井部構築材。
 - 7.5YR3/3 暗褐色土。しる。粘性弱い。山砂を多量、焼土ブロック(5 mm)を少量含む。崩落したカマド天井部構築材。
 - 7.5YR5/6 にふい褐色土。しる。粘性なし。山砂を多量、暗褐色粒(7.5YR3/4)を斑状に含む。流れたカマド構築材。
 - 7.5YR4/4 褐色土。強くしる。粘性あり。ローム粒を多量、山砂を含み、焼土粒を少量含む。流れたカマド構築材。
 - 7.5YR3/3 暗褐色土。弱くしる。粘性あり。山砂・炭化粒を含み、焼土粒を少量含む。カマド煙道覆土(煙道を破壊した際の覆土か)。
 - 5YR2/2 黒褐色土。しる。粘性なし。炭化粒を極めて多量、焼土粒・焼土ブロック(2 mm)を含む。カマド煙道覆土(煙道を破壊した際の覆土か)。
 - 7.5YR3/2 黒褐色土。弱くしる。粘性あり。炭化粒を多量に含む。山砂ブロック(5 mm)を少量含む。カマド使用時の堆積物層。
 - 5YR3/2 暗褐色土。しる。粘性弱い。炭化粒を極めて多量、焼土粒を多量、焼土ブロック(5 mm)を含む。山砂を少量含む。カマド火床面。
 - 2.5YR3/6 暗赤褐色土。しる。粘性なし。焼土粒を多量、炭化粒を含む。カマド火床面。
 - 10YR7/4 にふい黄褐色土。極めて強くしる。粘性なし。山砂の層。カマド構築材。
 - 2.5YR4/6 赤褐色土。極めて強くしる。粘性なし。被熱した12層。カマド構築材。
 - 2.5YR5/6 明赤褐色土。極めて強くしる。粘性なし。強く被熱した山砂の層。炭化粒を少量含む。カマド構築材。
 - 7.5YR5/4 にふい褐色土。強くしる。粘性なし。山砂の層。ローム粒を斑状に含む。カマド煙道構築材。
 - 5YR2/2 黒褐色土。しる。粘性強い。焼土粒・炭化粒を多量に含む。カマド掘方。
 - 7.5YR3/3 暗褐色土。しる。粘性あり。ローム粒を多量に含む。カマド掘方。
 - 7.5YR3/4 暗褐色土。強くしる。粘性あり。ローム粒を斑状に含む。SI006 掘方。

第23図 SI006 遺構

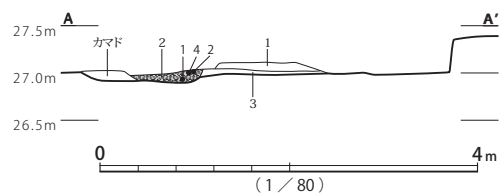
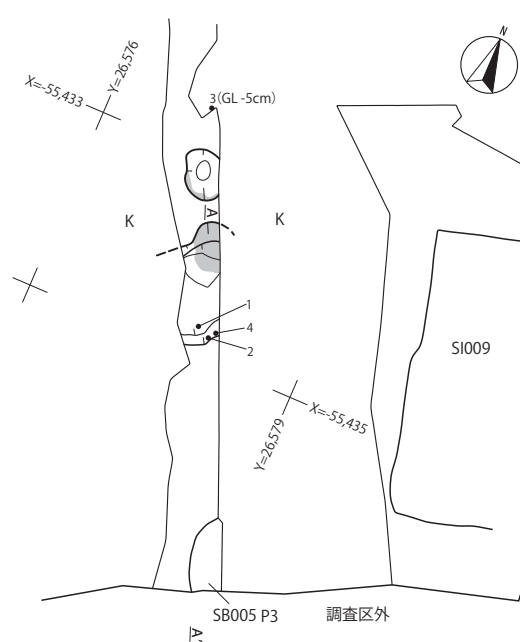


0 (1~16) 10cm
(1/4)

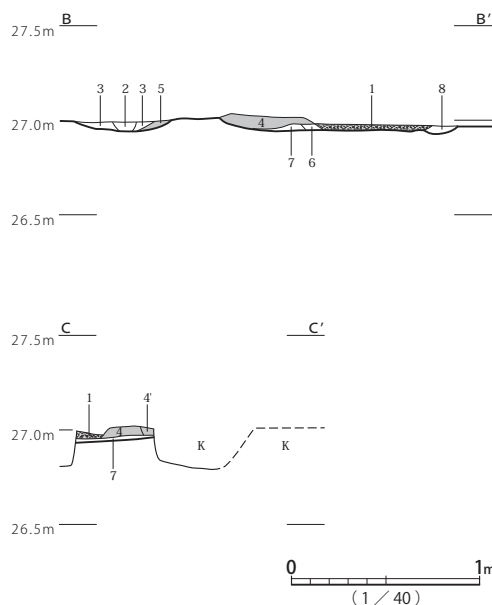
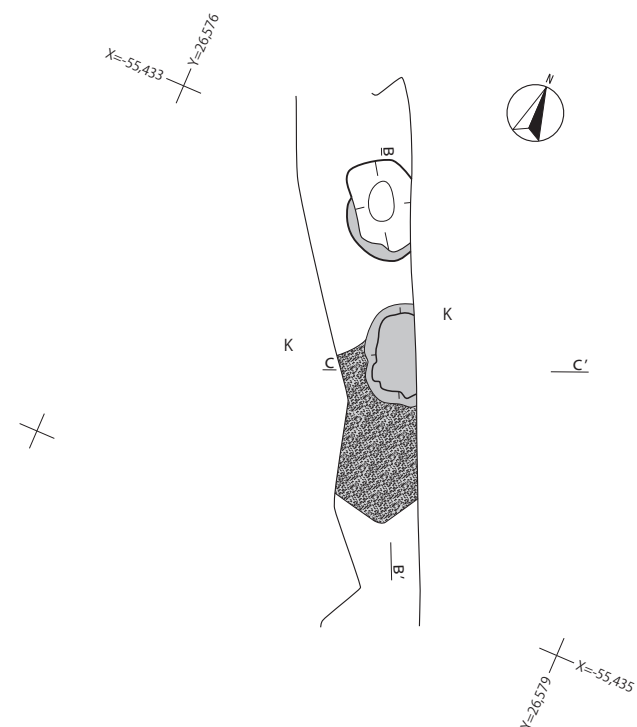
0 (17) 15cm
(1/5)

第24図 SI006 遺物

SI007



- 1 7.5YR3/4 暗褐色土。極めて強くしめる。粘性あり。ローム粒・山砂・焼土粒を含む。SI007 覆土。上層に存在した住宅基礎によって硬化。
- 2 5YR2/1 黒褐色土。極めて強くしめる。粘性なし。炭化物を極めて多量、焼土粒を多量、ローム粒・山砂を含み、ロームブロック(20 mm)を少量含む。SI007 カマド流出土か。上層に存在した住宅基礎によって硬化。
- 3 7.5YR4/4 褐色土。極めて強くしめる。粘性強い。ローム粒を極めて多量、ロームブロック(20 mm)を少量含む。SI007 貼床か。上層に存在した住宅基礎によって硬化。



B-B'・C-C'

- 1 5YR2/1 黒褐色土。極めて強くしめる。粘性なし。炭化物を極めて多量、焼土粒を多量、ローム粒・山砂を含み、ロームブロック(20 mm)を少量含む。SI007 カマド流出土か。上層に存在した住宅基礎によって硬化。
- 2 7.5YR3/2 黒褐色土。極めて強くしめる。粘性あり。炭化物を極めて多量、焼土粒を少量含む。カマド煙道雨水溜め覆土。上層に存在した住宅基礎によって硬化。
- 3 7.5YR3/4 暗褐色土。極めて強くしめる。粘性なし。ローム粒を含み、焼土粒・炭化粒を少量含む。カマド煙道雨水溜め覆土。上層に存在した住宅基礎によって硬化。
- 4 5YR5/4 に近い赤褐色土。極めて強くしめる。粘性なし。山砂の層、焼土粒・炭化粒を少量含む。カマド構築材。上層に存在した住宅基礎によって硬化。
- 4' 5YR4/6 赤褐色土。極めて強くしめる。粘性なし。強く被熱した4層。カマド構築材。上層に存在した住宅基礎によって硬化。
- 5 7.5YR5/4 に近い褐色土。極めて強くしめる。粘性なし。山砂の層、焼土粒・炭化粒・暗褐色粒(7.5YR3/4)を含む。カマド煙道構築材。上層に存在した住宅基礎によって硬化。
- 6 7.5YR4/3 褐色土。極めて強くしめる。粘性あり。ローム粒を斑状、山砂・焼土粒・炭化粒を少量含む。カマド掘方。上層に存在した住宅基礎によって硬化。
- 7 5YR3/4 暗赤褐色土。極めて強くしめる。粘性弱い。焼土粒・焼土ブロック(2 mm)を多量・ローム粒を含み、山砂を少量含む。カマド掘方。上層に存在した住宅基礎によって硬化。
- 8 7.5YR3/4 暗褐色土。極めて強くしめる。粘性あり。ローム粒・ロームブロック(2 mm)を含む。カマド掘方。上層に存在した住宅基礎によって硬化。

第25図 SI007 遺構

主体層上層から出土した。3は遺構付近からの出土である。5は土師器の小型甕で、炭化物主体層内で破碎した状態で出土している。

遺構の時期は、IV期-a(10世紀第1四半期)に属するものと考えられる。本遺構が竪穴建物かどうかの疑いも残るが、鍛造剥片が出土していることから、鍛冶工房の可能性はある。

SI008(第26・28図、図版9・10・17・23)

調査区の東部に位置する。SK047の覆土を切って構築する。遺構の東側は調査区外へ続く。覆土と床面の一部は攪乱によって削られる。

床面までの深度は13cmで遺存状態は極めて悪く、壁溝も存在しない。貼床は竪穴中央部を中心に一部のみ遺存する。ピットはP1(深度25cm)・P2(同24cm)・P3(同13cm)・P4(同15cm)・P5(同30cm)が存在するが、柱穴は不明である。カマドは北壁に付属し、SK047の上部に構築している。長煙道型のカマドとみられる。火床面は焼土と炭化粒が混在する層が厚く堆積することから、長期にわたり使用され、カマド使用時に火床の清掃が行われたものと推測される。煙道は雨水溜め部のみが遺存する。また、カマド内からは鍛造剥片が出土している。

遺物は土師器981g、須恵器127g、灰釉陶器10g、鍛造剥片2片、土製品110g、瓦16gが出土した。また、弥生土器17gが混入する。1・2は土師器の杯であり、カマド右袖脇から出土した。とくに1は破碎した状態で出土している。3も土師器の杯であるが、口唇部と内面に赤彩が施される。4は土師器の蓋である。床面直上より出土した。5は土師器の甕であり、カマド内部から出土している。6は東海産須恵器の甕を転用した硯であり、内面には部分的に墨がみられる。P5の直上から出土した。

遺構の時期は、奈良・平安時代に属するものと思われるが、出土遺物から時期を明確に判断できないため、詳細は不明である。鍛造剥片が出土していることから、鍛冶工房の可能性はある。

SI009(第27・28図、図版9・10・17・23)

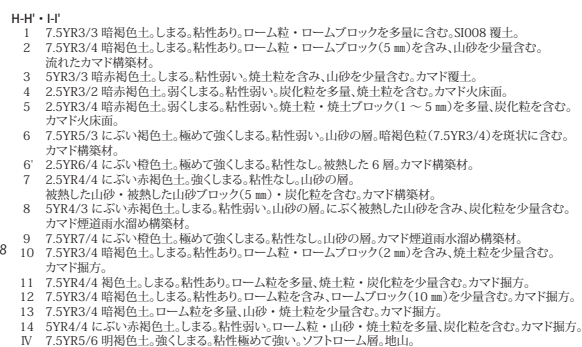
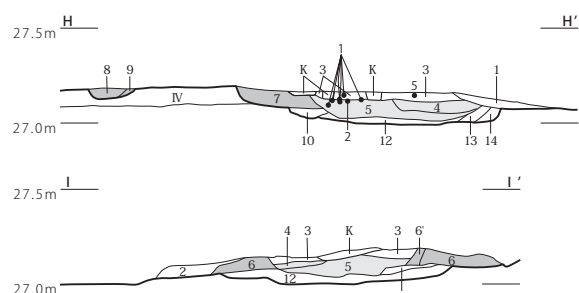
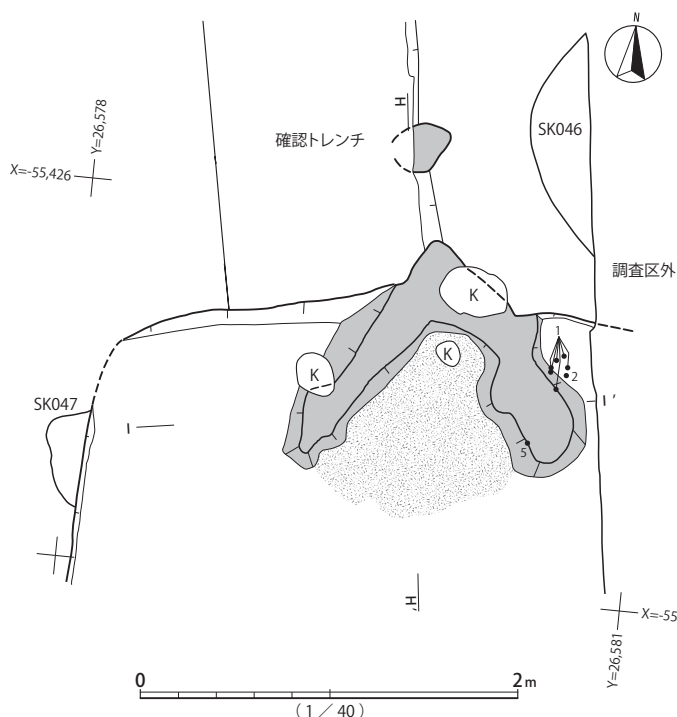
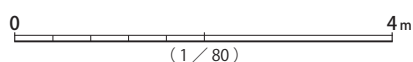
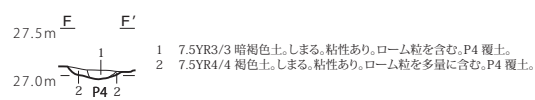
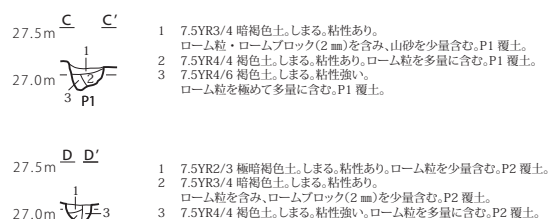
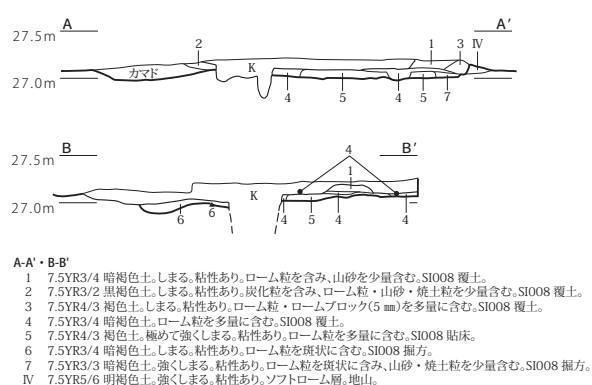
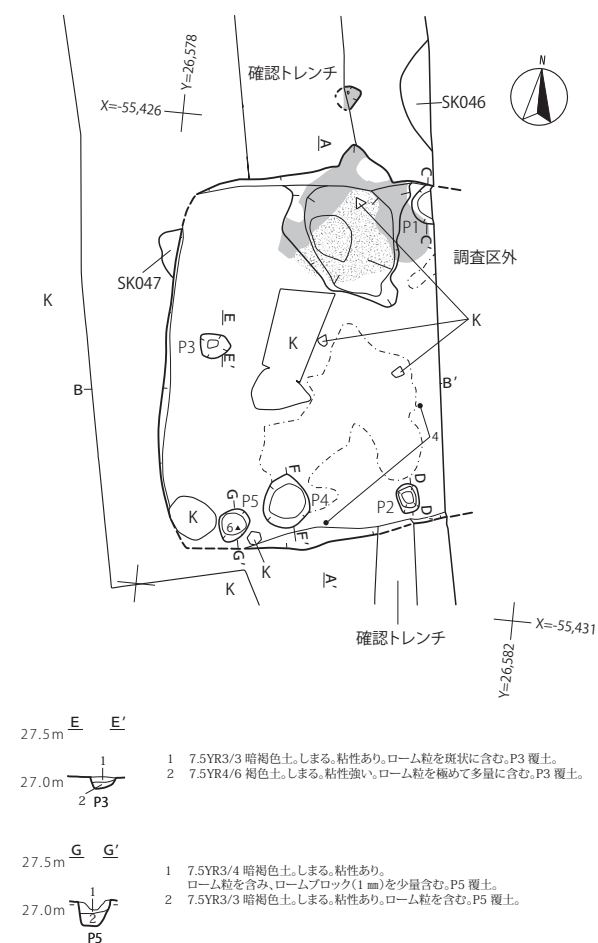
調査区の南東部に位置する。SK048の覆土を切って構築する。覆土と床面の一部は攪乱によって削られる。本竪穴はB地区63号住居跡(浅利ほか2003)と同一遺構とみられ、その場合、規模は主軸3.2m、副軸3.4mほどに復元できる。

床面までの深度は6cmで遺存状態は極めて悪く、壁溝も存在しない。貼床は竪穴中央部の一部のみ遺存する。ピットはP1(深度40cm)・P2(同46cm)・P3(同22cm)が存在するが、柱穴は不明である。P3は掘方掘削時に確認した。カマドは北壁に付属し、SK048の上部に構築している。状態は極めて悪く、カマドの構築材と火床面の一部、煙道の雨水溜め部のみが遺存する。長煙道型のカマドとみられる。

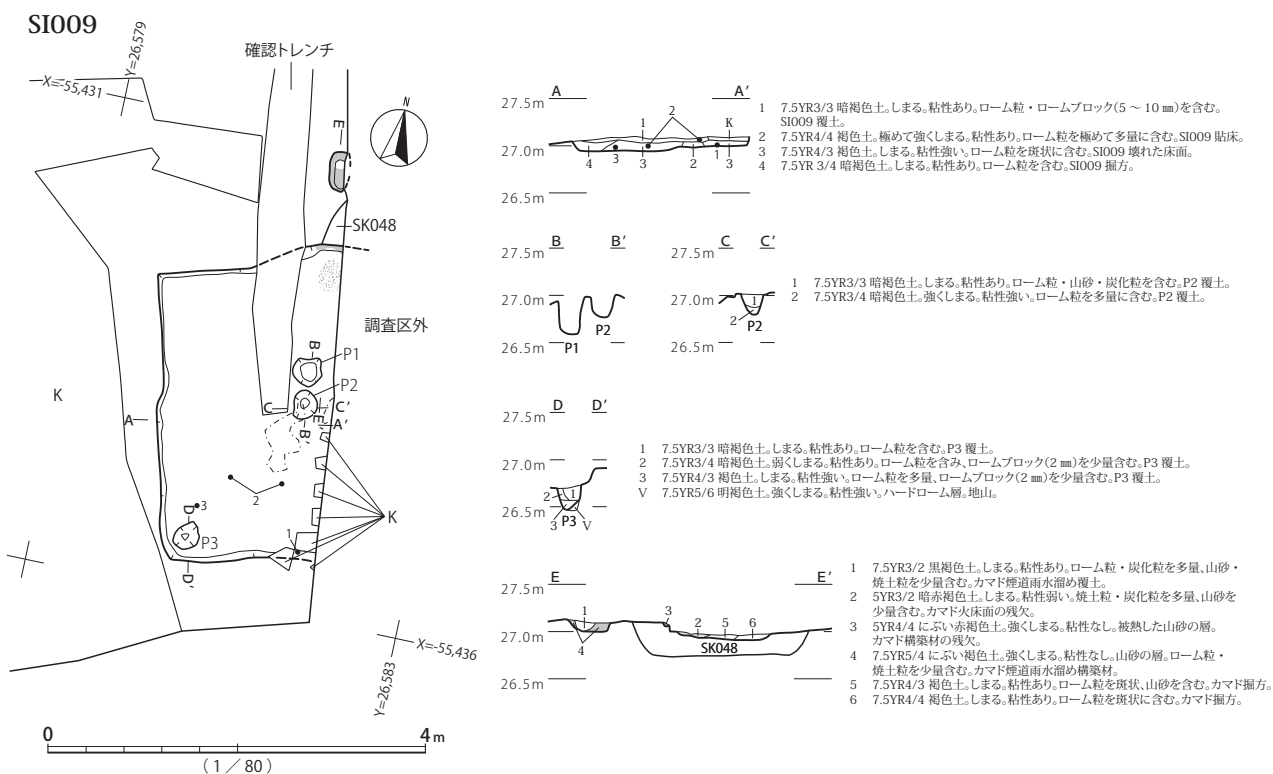
遺物は土師器451g、須恵器156gが出土した。1は猿投産須恵器の鉄釉系の甕、2は土師器の甕、3は土師器の武蔵型の台付甕の脚部である。1は掘方内、2・3は床面直上から出土している。

遺構の時期は、IV期-a(10世紀第1四半期)に属するものと考えられる。

SI008



第26図 SI008 遺構



第27図 SI009 遺構

掘立柱建物跡

SB001 (第29・34図、図版10～12・23)

調査区の北部に位置する。遺構の北側は調査区外へ続く。

一部のみの検出にとどまったが、他の掘立柱建物跡の様相から、棟方向は東西で、桁行3間、梁行2間の建物と想定される。柱間間隔はおおよそ7尺で企画される。柱穴の形状は楕円形や隅丸方形で、最大径はおおよそ75～100cmを測り、断面は逆台形を呈する。深度はP1が50cm、P2が79cm、P3が64cm、P4が79cm、P5が46cmを測る。各柱穴には直径20cm前後の柱当たりが存在し、P5には2つの柱当たりがみられる。また、P4では断面においても柱痕跡が確認できる。

遺物は土師器381g、須恵器45g、灰釉陶器6gが出土した。また、縄文土器64gが混入する。1・2は土師器の杯である。P2の覆土上層より出土した。

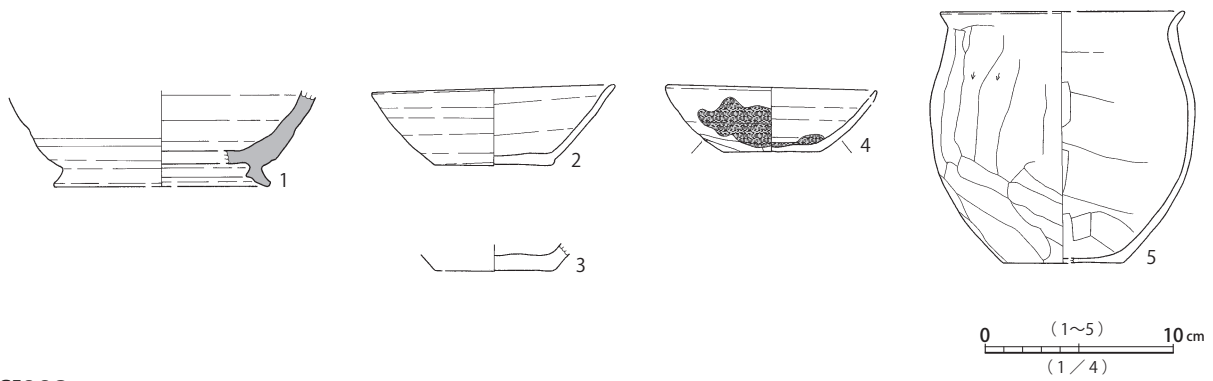
本遺構は、後述するSB002と軸向きがやや異なるが、身舎が同規模であるため、これと併行するか、もしくは移築の可能性がある。したがって、II期-a(9世紀第2四半期)に属するものと思われる。

SB002 (第30・34図、図版11・12・17・23)

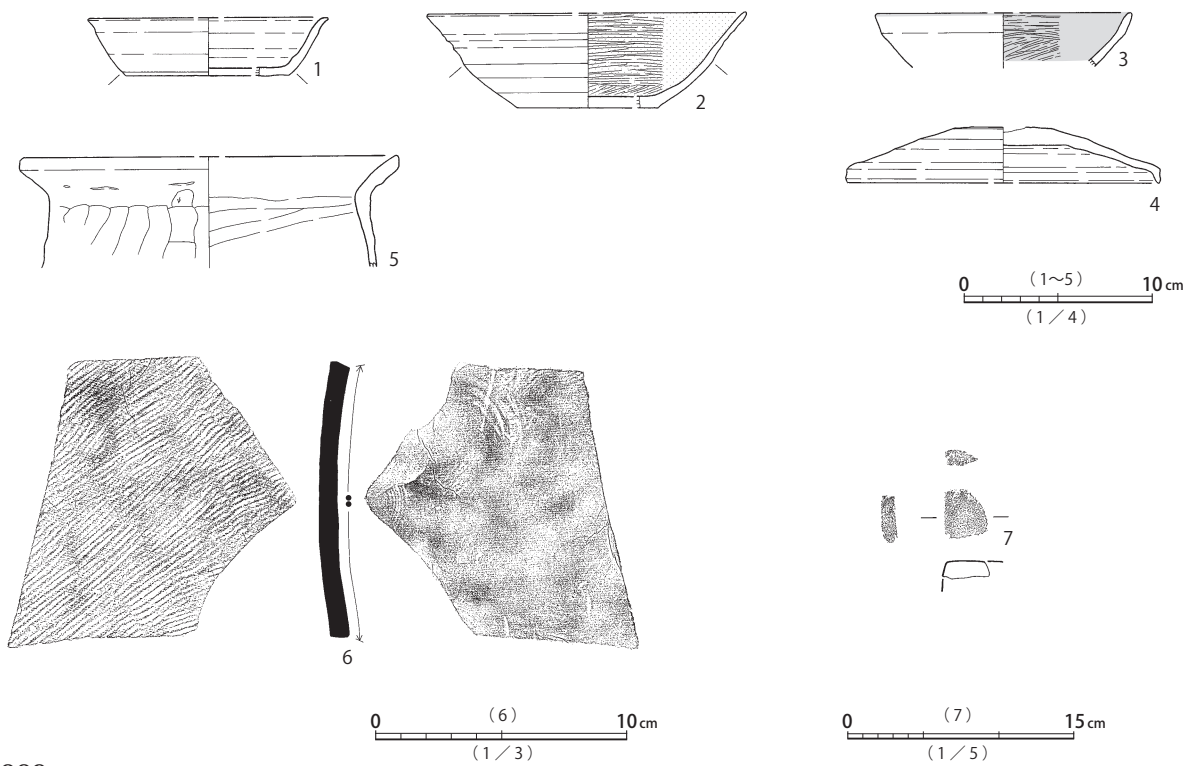
調査区の中央部に位置する。P3はSI004A・004Bを、P10はSK030を、P12・P13はSI003を切って構築する。P2～P4はSB003のP4・P6・P10に覆土が切られる。また、遺構の南・西側はSD002・003に柱穴の覆土を削られる。さらに、P4は攪乱によって柱穴の東側が削平される。

棟方向は南北で、桁行3間、梁行2間の建物である。建物の西面には廂が付属する。柱間間隔はおおよそ7～8尺で企画される。柱穴の形状は楕円形や隅丸方形で、最大径はおおよそ90～120cmを測り、断面は逆台形を呈する。深度はP1が37cm、P2が27cm、P3が51cm、P4が28cm、P5が

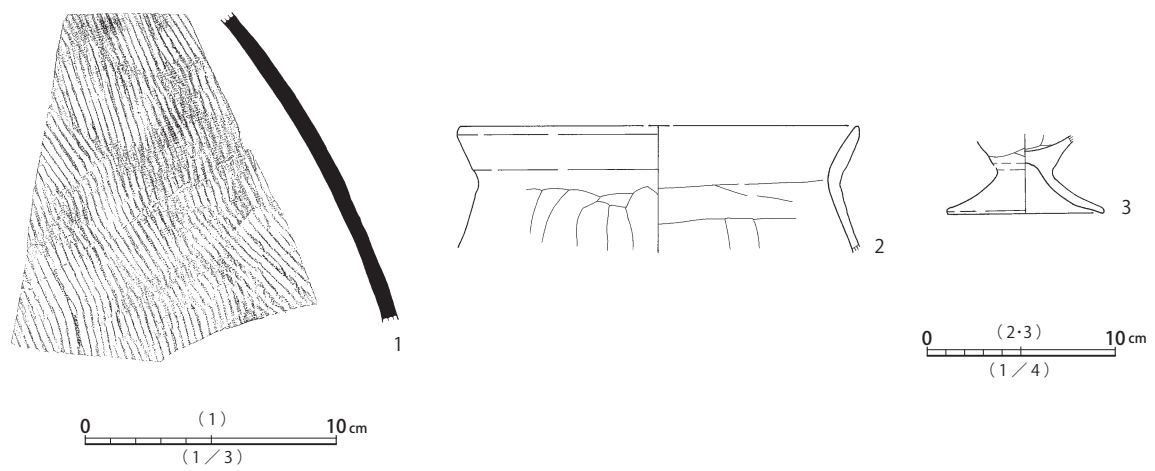
SI007



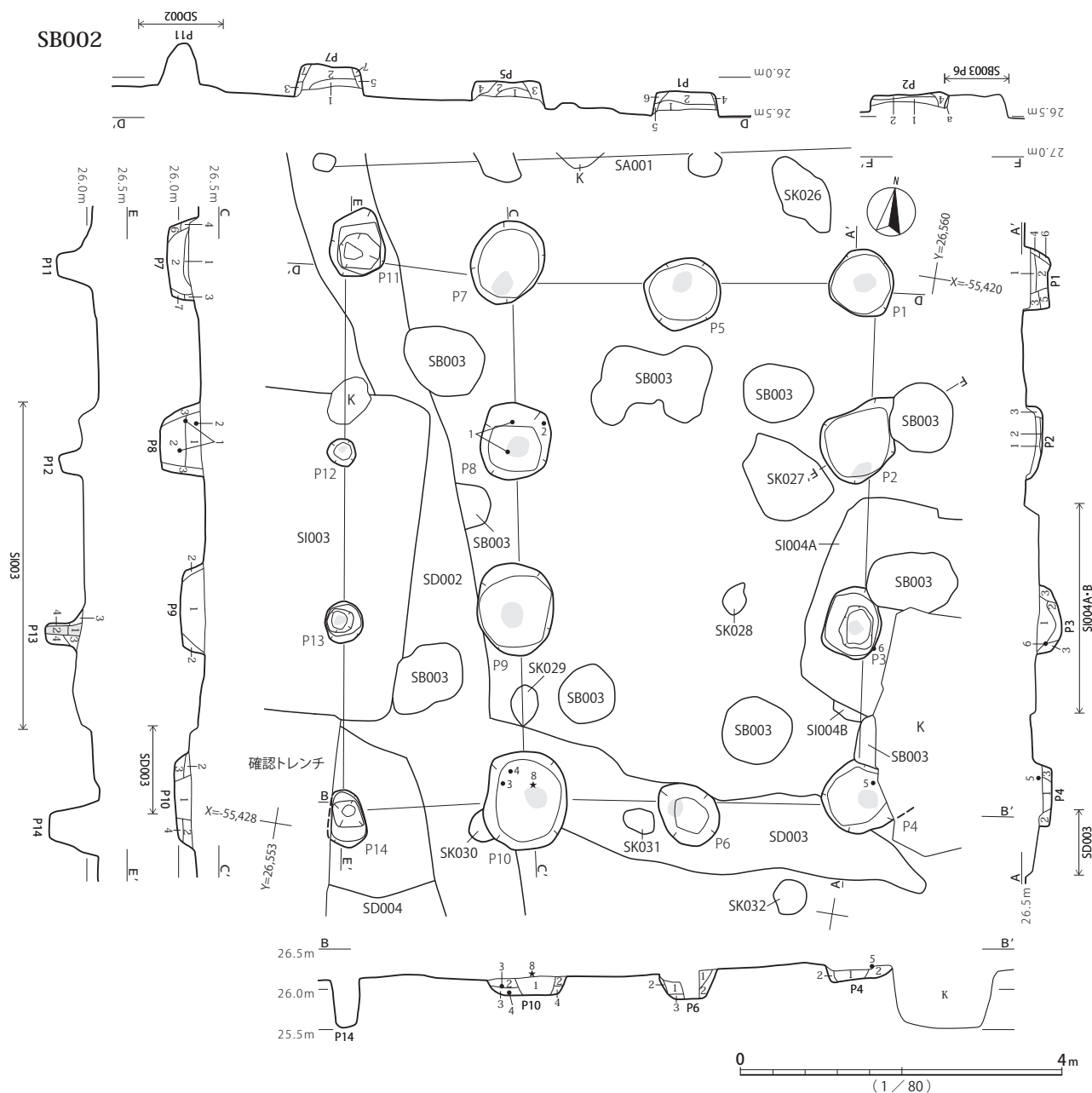
SI008



SI009



第28図 SI007~009 遺物



- P1**
- 7.5YR3/3 暗褐色土。しめる。粘性あり。ローム粒を斑状、ロームブロック(5 mm)を含む。柱の抜き取り痕跡。
 - 7.5YR3/4 暗褐色土。しめる。粘性あり。ローム粒・ロームブロック(1 ~ 10 mm)を多量、炭化粒を含む。柱の抜き取り痕跡。
 - 7.5YR3/3 暗褐色土。強くしめる。粘性あり。ローム粒・ロームブロック(1 ~ 5 mm)を含む。山砂を少量含む。柱の裏込。
 - 7.5YR4/3 褐色土。強くしめる。粘性強い。ローム粒を多量に含む。柱の裏込。
 - 7.5YR3/3 暗褐色土。強くしめる。粘性あり。ローム粒・ロームブロック(1 ~ 5 mm)を含む。山砂・炭化粒を少量含む。柱の裏込。
 - 7.5YR3/4 暗褐色土。強くしめる。粘性あり。ローム粒を含む。ロームブロック(2 mm)・炭化粒を少量含む。柱の裏込。
- P2**
- 7.5YR3/4 暗褐色土。しめる。粘性あり。ローム粒・ロームブロック(2 ~ 50 mm)を含む。焼土粒・炭化粒を少量含む。柱の抜き取り痕跡。
 - 7.5YR4/3 褐色土。しめる。粘性あり。ローム粒を多量、ロームブロック(2 ~ 5 mm)を含む。柱の抜き取り痕跡。
 - 7.5YR3/4 暗褐色土。強くしめる。粘性あり。ローム粒を多量、ロームブロック(2 ~ 5 mm)を含む。柱の裏込。
 - 7.5YR4/3 褐色土。強くしめる。粘性あり。ローム粒を多量、焼土粒・炭化粒を少量含む。柱の裏込。
 - 7.5YR3/3 暗褐色土。強くしめる。粘性あり。ローム粒を含む。SB003P6 柱の裏込。
- P3**
- 10YR3/4 暗褐色土。しめる。粘性弱い。山砂を多量、ローム粒・ロームブロック(2 ~ 20 mm)・炭化粒を含む。焼土粒を少量含む。柱の抜き取り痕跡。
 - 7.5YR3/3 暗褐色土。しめる。粘性あり。ロームブロック(2 ~ 10 mm)を含む。ローム粒・山砂を少量含む。柱の抜き取り痕跡。
 - 7.5YR3/4 暗褐色土。強くしめる。粘性あり。ローム粒・ロームブロック(1 ~ 5 mm)を含む。炭化粒を少量含む。柱の裏込。
- P4**
- 7.5YR3/2 黒褐色土。しめる。粘性あり。ロームブロック(1 ~ 20 mm)を含む。ローム粒・炭化粒を少量含む。柱の抜き取り痕跡。
 - 7.5YR4/3 褐色土。強くしめる。粘性あり。ローム粒を多量に含む。柱の裏込。
 - 7.5YR4/4 褐色土。強くしめる。粘性あり。ローム粒を多量、ロームブロック(1 ~ 5 mm)を含む。柱の裏込。
- P5**
- 7.5YR2/2 黒褐色土。しめる。粘性あり。ローム粒・炭化粒を含む。柱の抜き取り痕跡。
 - 7.5YR3/2 黒褐色土。しめる。粘性あり。ローム粒・ロームブロック(2 ~ 5 mm)・炭化粒を含む。焼土粒を少量含む。柱の抜き取り痕跡。
 - 7.5YR3/3 暗褐色土。強くしめる。粘性あり。ローム粒・ロームブロック(5 ~ 10 mm)・炭化粒を含む。柱の裏込。
 - 7.5YR4/4 褐色土。強くしめる。粘性強い。ローム粒を多量、ロームブロック(10 mm)を少量含む。柱の裏込。

- P6**
- 7.5YR4/3 褐色土。しめる。粘性あり。ローム粒を斑状、炭化粒を少量含む。柱の抜き取り痕跡。
 - 7.5YR4/4 褐色土。強くしめる。粘性あり。ローム粒を多量に含む。柱の裏込。
 - 7.5YR3/2 黒褐色土。極めて強くしめる。粘性あり。炭化粒を含む。ローム粒・焼土粒を少量含む。柱当たり。
- P7**
- 7.5YR3/3 暗褐色土。しめる。粘性弱い。ローム粒を多量、山砂を含む。山砂ブロック(50 mm)を少量含む。柱の抜き取り痕跡。
 - 7.5YR3/3 暗褐色土。しめる。粘性あり。ロームブロック(1 ~ 20 mm)・炭化粒を多量、焼土ブロック(5 mm)を少量含む。柱の抜き取り痕跡。
 - 7.5YR4/4 褐色土。強くしめる。粘性あり。ローム粒を多量に含む。柱の裏込。
 - 7.5YR3/3 暗褐色土。強くしめる。粘性あり。ローム粒を多量、炭化粒を少量含む。柱の裏込。
 - 7.5YR2/2 黒褐色土。強くしめる。粘性あり。ローム粒を斑状、ロームブロック(1 ~ 2 mm)・炭化粒を少量含む。柱の裏込。
 - 7.5YR2/2 黒褐色土。強くしめる。粘性あり。ロームブロック(1 ~ 5 mm)を含む。山砂・炭化粒を少量含む。柱の裏込。
 - 7.5YR3/3 暗褐色土。強くしめる。粘性あり。ローム粒・ロームブロック(2 ~ 10 mm)を含む。炭化粒を少量含む。柱の裏込。
- P8**
- 7.5YR3/4 暗褐色土。しめる。粘性あり。ローム粒を含む。山砂を少量含む。柱の抜き取り痕跡。
 - 7.5YR3/4 暗褐色土。強くしめる。粘性あり。ローム粒を多量に含む。柱の裏込。
 - 7.5YR4/6 褐色土。強くしめる。粘性あり。ローム粒を極めて多量に含む。柱の裏込。
- P9**
- 7.5YR3/3 暗褐色土。しめる。粘性あり。ロームブロック(1 ~ 5 mm)を含む。柱の抜き取り痕跡。
 - 7.5YR3/4 暗褐色土。強くしめる。粘性あり。ローム粒を含む。柱の裏込。
- P10**
- 7.5YR2/3 極暗褐色土。しめる。粘性あり。ローム粒・ロームブロック(5 mm)を少量含む。柱の抜き取り痕跡。
 - 7.5YR3/3 暗褐色土。強くしめる。粘性あり。ローム粒・ロームブロック(10 mm)を斑状に含む。柱の裏込。
 - 7.5YR3/4 暗褐色土。強くしめる。粘性あり。ローム粒・ロームブロック(10 ~ 20 mm)を多量に含む。柱の裏込。
 - 7.5YR4/4 褐色土。強くしめる。粘性あり。ローム粒・ロームブロック(10 mm)を極めて多量に含む。柱の裏込。
- P13**
- 7.5YR3/4 暗褐色土。弱くしめる。粘性あり。ローム粒・山砂・炭化粒を含む。焼土ブロック(5 mm)を少量含む。柱痕跡。
 - 7.5YR3/4 暗褐色土。弱くしめる。粘性あり。ローム粒・ロームブロック(5 mm)を斑状に含む。柱痕跡。
 - 7.5YR2/2 黒褐色土。強くしめる。粘性あり。ロームブロック(5 mm)を少量含む。柱の裏込。
 - 7.5YR4/4 褐色土。強くしめる。粘性あり。ロームブロック(5 mm)を多量に含む。柱の裏込。

第30図 SB002 遺構

SB003 (第31・34図、図版11・12・17・23)

調査区の中央部に位置する。P4はSB002のP2を、P6・P10はSI004A・004BとSB002のP3・P4を、P7はSI003を切って構築する。遺構の南・西側はSD002・003に柱穴の覆土を削られる。また、P10は攪乱によって柱穴の東側が削平される。

棟方向は東西で、桁行3間、梁行2間の建物である。柱間間隔はおよそ6～7尺で企画される。柱穴の形状は楕円形や隅丸方形で、最大径はおよそ75～100cmを測り、断面は逆台形を呈する。P2は3個のピットが重複する。深度はP1が40cm、P2が20cm、P3が39cm、P4が30cm、P5が16cm、P6が53cm、P7が30cm、P8が48cm、P9が39cm、P10が22cmを測る。各柱穴には直径30cm前後の柱当たりが確認できる。

遺物は土師器485g、須恵器258g、灰釉陶器18gが出土した。また、縄文土器10gが混入する。1は須恵器の杯であり、P8の柱の抜き取り痕内から出土した。2は東金子産須恵器の甕である。3は灰釉陶器の蓋であり、P9の柱の抜き取り痕内から出土した。4・5は土師器の杯、6・7は土師器の皿であり、6は底部に「本」もしくは「奉」の墨書が、7は内面に渦巻状の工具ナデがみられる。4はP4の柱の抜き取り痕内、5はP9内、6は2とともにP6の裏込内、7はP6の柱の抜き取り痕内から出土した。

遺構の時期は、出土遺物が9世紀中葉のものを中心とするとともに、SI001Bと軸向きがほぼ同一であり、これと併行するものと捉えられることから、Ⅱ期-a～Ⅱ期-b(9世紀第2～3四半期)に属するものと思われる。

SB004 (第32・34図、図版12・23)

調査区の南東部に位置する。南側は調査区外へ続く。P1はSB005のP1に覆土を切られる。また、攪乱によってP2は柱穴の東側が、P3は覆土上層が削平される。

一部のみの検出にとどまったため、建物の規模・棟方向は不明であるが、桁もしくは梁行が2間以上の建物であったと推測される。P1の形状は隅丸方形で、断面は逆台形を呈する。深度はP1が63cm、P2が18cm、P3が24cmを測る。P1・P2には底面に直径20cm前後の柱当たりがみられ、P1では断面においても柱痕跡が確認できる。

遺物は土師器26g、須恵器26gが出土した。1は土師器の杯である。P1の裏込内から出土している。

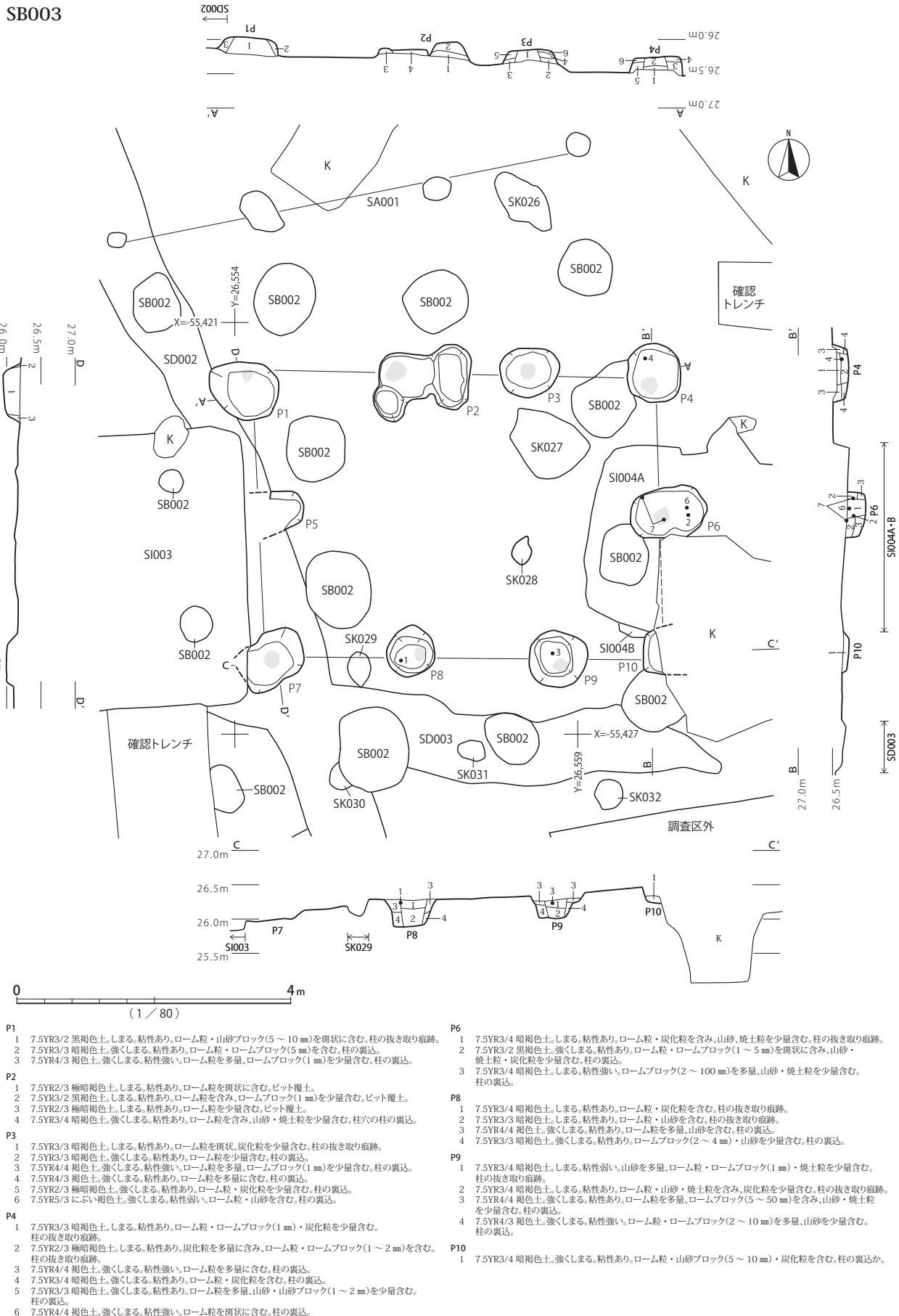
遺構の時期は、近接するB地区43号掘立柱建物跡(浅利ほか2003)と軸向きが近く、併行する可能性があることから、Ⅲ期-a(9世紀第4四半期)に属するものと想定しておきたい。

SB005 (第32・34図、図版12・23)

調査区の南東部に位置する。南側は調査区外へ続く。P1はSB004のP1の覆土を切って構築する。また、P3の覆土上層と柱穴の東側は住宅基礎によって削平される。

一部のみの検出にとどまったため、建物の規模・棟方向は不明である。攪乱により削平されているが、P2とP3の間に柱穴が存在した可能性が高く、桁もしくは梁行が3間以上の建物であったものと推測される。P1の形状は隅丸方形で、断面は逆台形を呈する。深度はP1が31cm、P2が26cm、P3が27cmを測る。P1・P2には底面に直径10cmほどの柱当たりが確認できる。

SB003



第31図 SB003 遺構

The figure shows a detailed archaeological site plan of the Kameyama Site. The main map includes coordinates X=-55,437 and Y=26,572 at the top left, and X=-55,439 and Y=26,578 at the bottom right. A scale bar indicates 0 to 4 meters at a ratio of 1/80. Key features labeled include SI006 (a large rectangular area), SB005 (two circular structures), P1, P2, and P3 (point features). Elevation points are marked as εd (27.5m), Zd (27.0m), and Id (26.5m). A north arrow is present. Two inset plans show cross-sections B-B' and C-C'. Inset B-B' shows a profile from 26.0m to 27.0m with layers numbered 1-6 and feature P1. Inset C-C' shows a profile from 26.5m to 27.5m with layers numbered 1-4 and features K, P3, and IV.

P1

- 1 7.5YR2/3 極暗褐色土。しるまる。粘性あり。ローム粒・ロームブロック(1～2mm)を斑状に含む、P1 覆土。
- 2 7.5YR2/3 極暗褐色土。弱くしるまる。粘性あり。ローム粒を含む、ロームブロック(2mm)・山砂ブロック(2mm)・炭化粒を少量含む。柱痕跡。
- 3 7.5YR2/3 極暗褐色土。しまりなし。粘性あり。ローム粒・ロームブロック(2mm)を含み、炭化粒を少量含む。柱痕跡。
- 4 7.5YR4/3 褐色土。強くしるまる。粘性強い。ローム粒・ロームブロック(2～50mm)を多量に含む。柱の裏込め。
- 5 7.5YR4/4 褐色土。強くしるまる。粘性強い。ローム粒・ロームブロック(2～50mm)を多量に含む。柱の裏込め。
- 6 7.5YR4/6 褐色土。極めて強くしるまる。粘性強い。ローム粒・ロームブロック(2～50mm)を多量に含む。柱の裏込め。

P2

- 1 7.5YR3/3 暗褐色土。強くしるまる。粘性あり。ローム粒を斑状、ロームブロック(2mm)を少量含む。柱の裏込めか。

P3

- 1 7.5YR3/2 黒褐色土。強くしるまる。粘性あり。ローム粒を多量、ロームブロック(1～50mm)を斑状に含む。柱の裏込めか。
- 2 7.5YR2/2 黒褐色土。強くしるまる。粘性強い。ローム粒を含む、ロームブロック(2mm)を少量含む。柱の裏込めか。
- 3 7.5YR4/3 褐色土。極めて強くしるまる。粘性強い。ローム粒を斑状に含む。柱の裏込めか。
- IV 7.5YR5/6 明褐色土。強くしるまる。粘性極めて強い。ソフトローム層、地山。

Archaeological site plan of Site 1 (1/80 scale). The plan shows three pits labeled P1, P2, and P3, each with a cross-section diagram to its right. Pit P1 is on the left, P2 is in the center, and P3 is on the right. The plan includes a north arrow, a scale bar (0 to 4m), and coordinate markers (X=-55,437, Y=26,572 and X=-55,439, Y=26,578). The plan also shows a road labeled '調査区外' (Outside Survey Area) and a road labeled 'SI006'. The cross-sections show the pits' profiles with labels for soil layers (e.g., 1, 2, 3, 4) and features like 'P1', 'P2', 'P3', 'K', and 'SB004'.

-39-

遺物は土師器 162g、須恵器 19gが出土した。1～3は土師器の杯である。3は底部に墨書らしき痕跡が認められる。1はP1内、2・3はP1の裏込内より出土している。

遺構の時期は、SB004より新しいことから、Ⅲ期-a(9世紀第4四半期)以降に属するものと想定しておきたい。

柵列跡

SA001(第33・34図、図版12・23)

調査区の中央部、SB001とSB002・003の間に位置し、SA002とほぼ並行する。P1の覆土上層はSD002に切られる。

本遺構は4個のピットによって構成される。方向は東西で、柱間間隔はおおよそ7～8尺で企画されている。柱穴の形状は楕円形で、直径はおおよそ30～70cmを測る。深度はP1が31cm、P2が29cm、P3が41cm、P4が46cmである。

遺物は土師器27gが出土した。1は土師器の甕で、P3内より出土している。

遺構の時期は、出土遺物より判断することは困難であるが、SI002やSB002と軸向きがほぼ同一であり、これらと併行するものと捉えられることから、Ⅱ期-a(9世紀第2四半期)に属するものと想定しておきたい。

SA002(第33図、図版12)

調査区の北部、SB001とSB002・003の間に位置し、SA001とほぼ並行する。

本遺構は3個のピットによって構成される。方向は東西で、柱間間隔はおおよそ12～13尺で企画されている。柱穴の形状は楕円形で、直径はおおよそ40～60cmを測る。深度はP1が23cm、P2が49cm、P3が35cmである。P2では断面において直径10cmほどの柱痕跡が確認できる。なお、出土遺物は皆無である。

遺構の時期は、SI002やSB002、SA001と軸向きがほぼ同一であり、これらと併行するものと捉えられることから、Ⅱ期-a(9世紀第2四半期)に属するものと想定しておきたい。

溝

SD001(第35・38図、図版24)

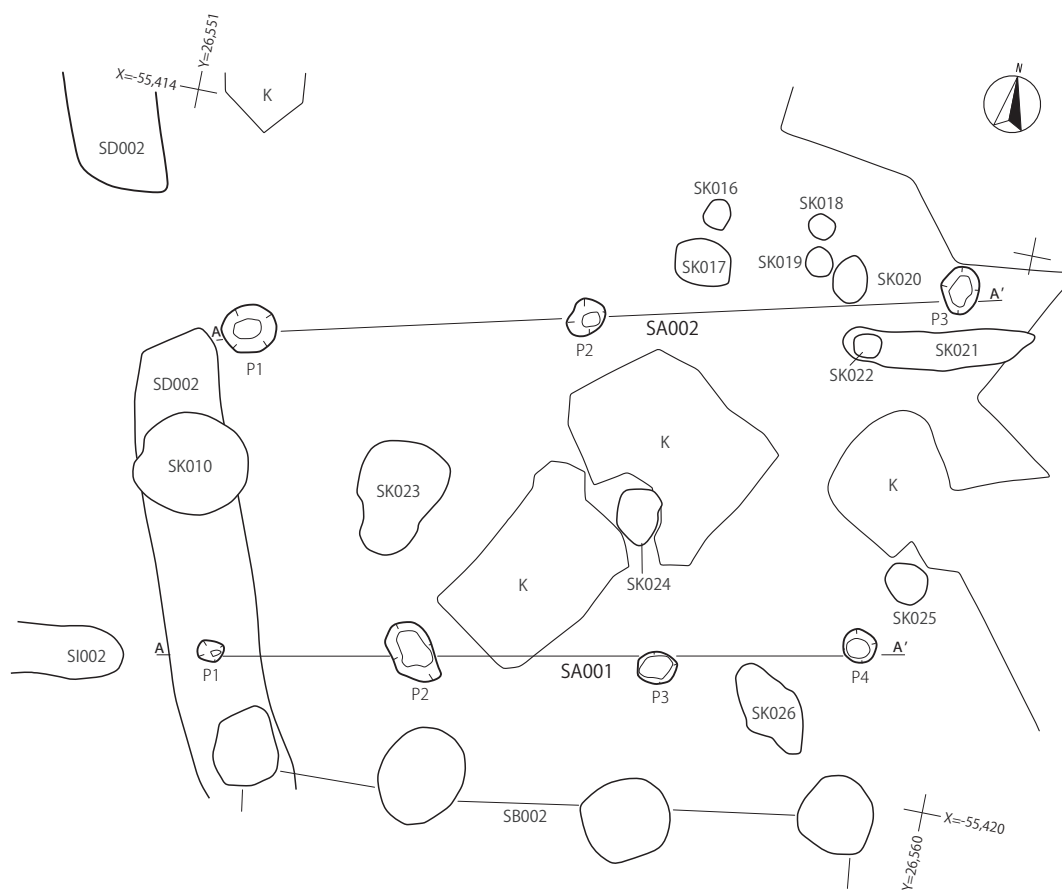
調査区の西部を北西-南東方向に縦断する溝である。SI001A・001B、SD003の覆土を切って構築する。覆土上層は攪乱によって削られる。

深度は20cmで、遺構底面には硬化面がみられることから、道路跡と考えられる。昭和38年の地形図においても遺構と同位置に道路が存在しており、近年まで機能を果たしていたものと思われる。

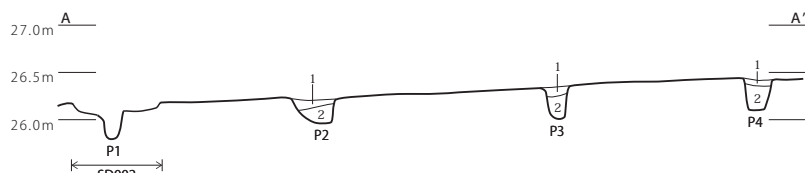
遺物は縄文土器17g、土師器501g、須恵器206g、灰釉陶器5g、土製品13gが出土した。1は猿投産の灰釉陶器の皿、6は千葉産須恵器の甕を転用した砥石である。掲載したものも含め、遺物は周辺遺構からの流れ込みと思われる。

遺構の時期は、状況から近世以降に構築されたものと思われる。

SA001・002

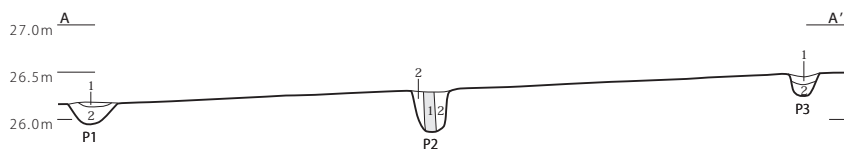


SA001

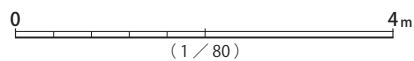


- P2**
- 7.5YR4/4 褐色土。しる。粘性あり。ローム粒を多量、ロームブロック(1～2mm)を少量含む。P2 覆土。
 - 7.5YR4/3 褐色土。しる。粘性あり。ローム粒を多量、炭化粒を少量含む。P2 覆土。
- P3**
- 7.5YR3/3 暗褐色土。しる。粘性あり。ローム粒・ロームブロック(2～5mm)を含み、山砂・焼土粒・炭化粒を少量含む。P3 覆土。
 - 7.5YR2/3 極暗褐色土。しる。粘性あり。ローム粒を含み、ロームブロック(1～10mm)を少量含む。P3 覆土。
- P4**
- 10YR3/3 暗褐色土。しる。粘性あり。ローム粒を含む。P4 覆土。
 - 7.5YR3/3 暗褐色土。しる。粘性あり。ローム粒・ロームブロック(1～5mm)を斑状、炭化粒を含む。P4 覆土。

SA002

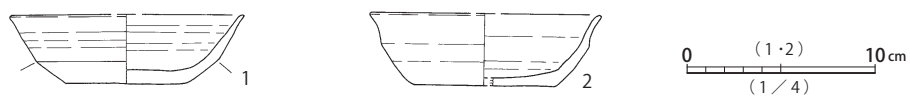


- P1**
- 7.5YR3/3 暗褐色土。しる。粘性あり。炭化粒を多量に含む。P1 覆土。
 - 7.5YR3/4 暗褐色土。しる。粘性あり。ローム粒を少量含む。P1 覆土。
- P2**
- 7.5YR3/2 黒褐色土。弱くしる。粘性あり。炭化粒を含み、ローム粒を少量含む。P2 柱痕跡。
 - 7.5YR4/4 褐色土。強くしる。粘性あり。ローム粒を多量に含む。P2 柱の裏込。
- P3**
- 7.5YR4/3 褐色土。しる。粘性あり。ローム粒を少量含む。P3 覆土。
 - 7.5YR4/6 褐色土。しる。粘性強い。ローム粒を多量に含む。P3 覆土。

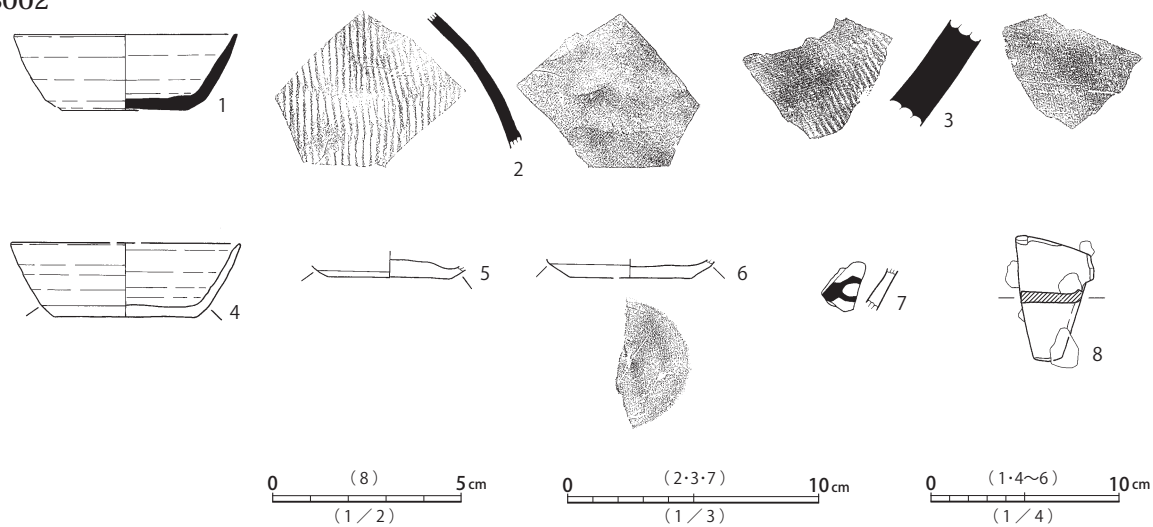


第33図 SA001・002 遺構

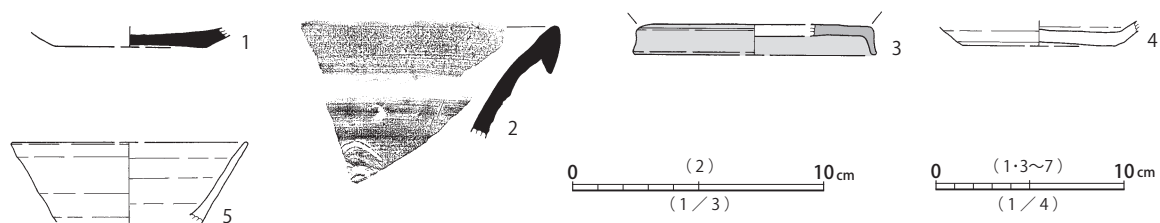
SB001



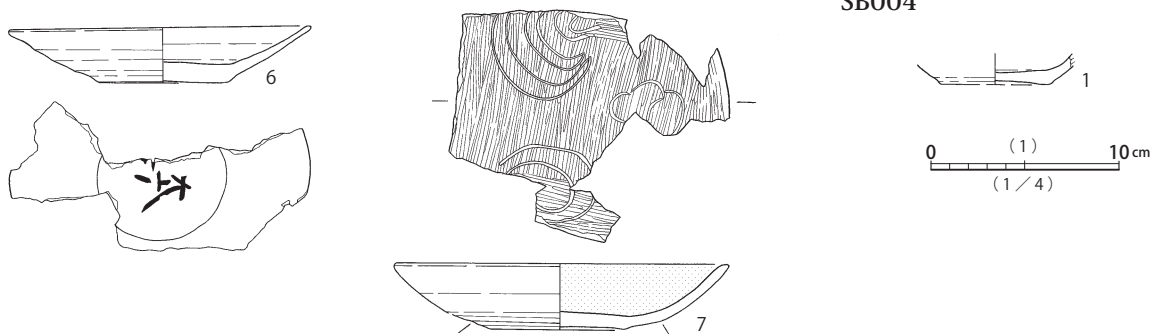
SB002



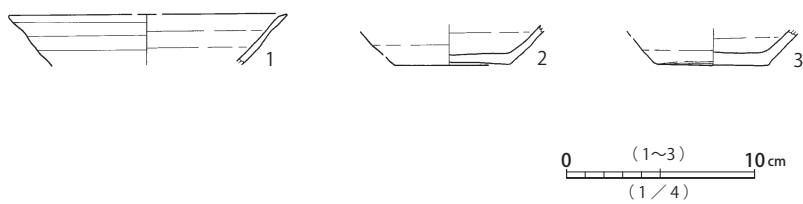
SB003



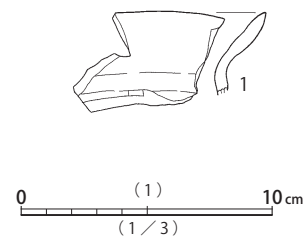
SB004



SB005

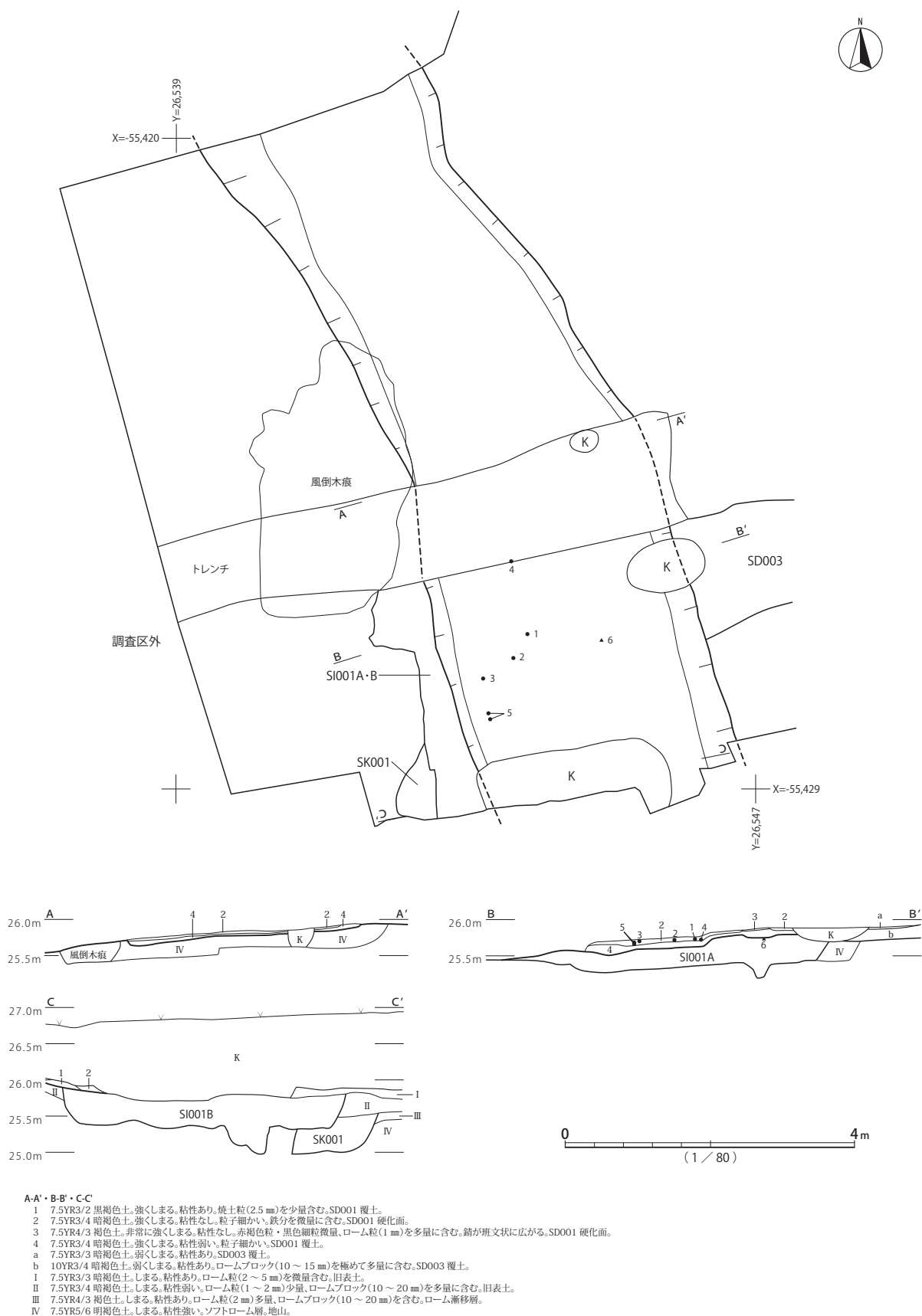


SA001

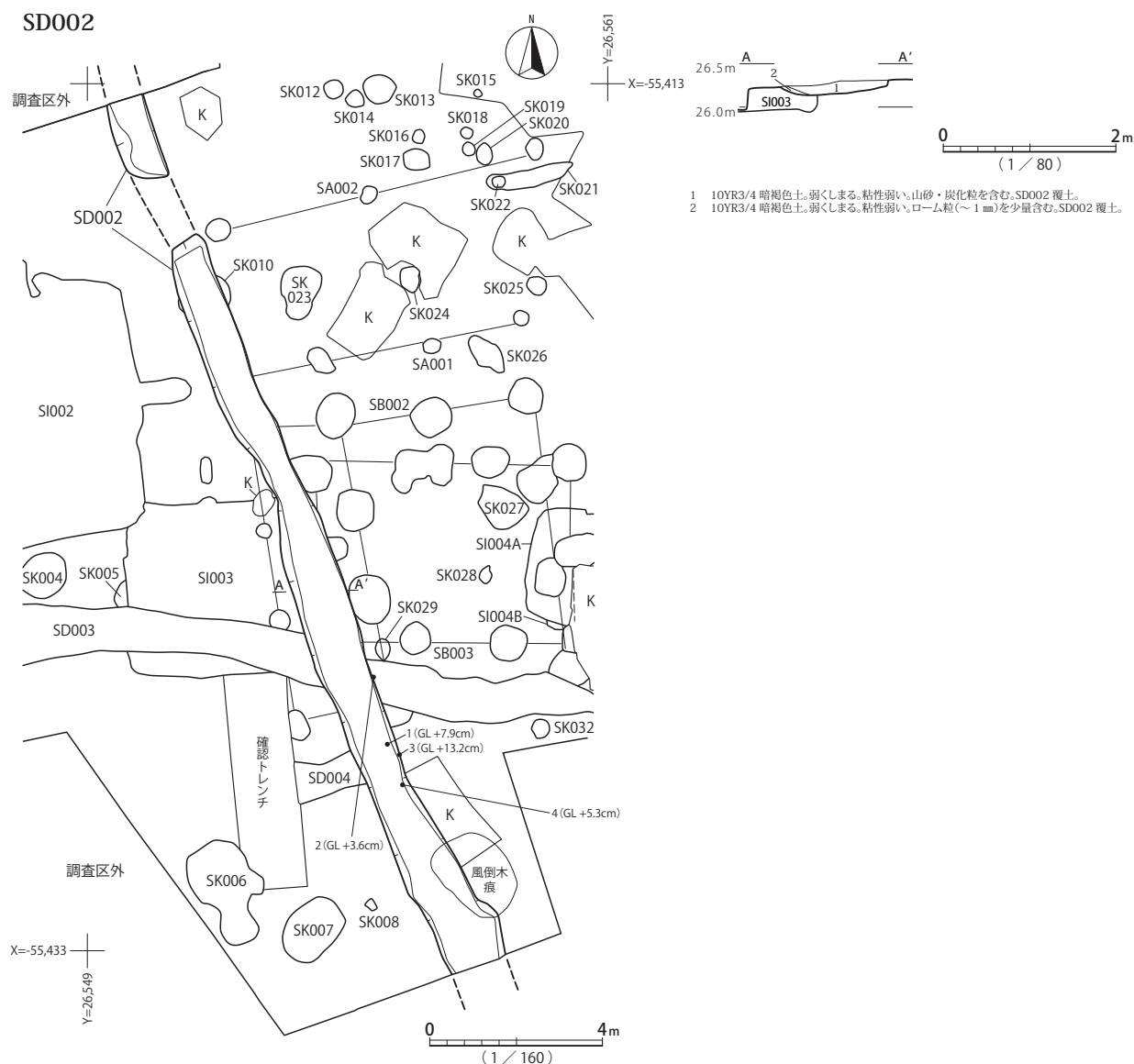


第34図 SB001~005、SA001 遺物

SD001



第35図 SD001 遺構



第36図 SD002 遺構

SD002 (第36・38図、図版24)

調査区の西部を北西-南東方向に縦断する溝である。SI003やSB002・003、SA001、SD003・004、SK009・010・030の覆土を切って構築する。

深度は16cmで遺存状態は悪い。北側の一部は覆土が遺存せず、遺構が途切れている。

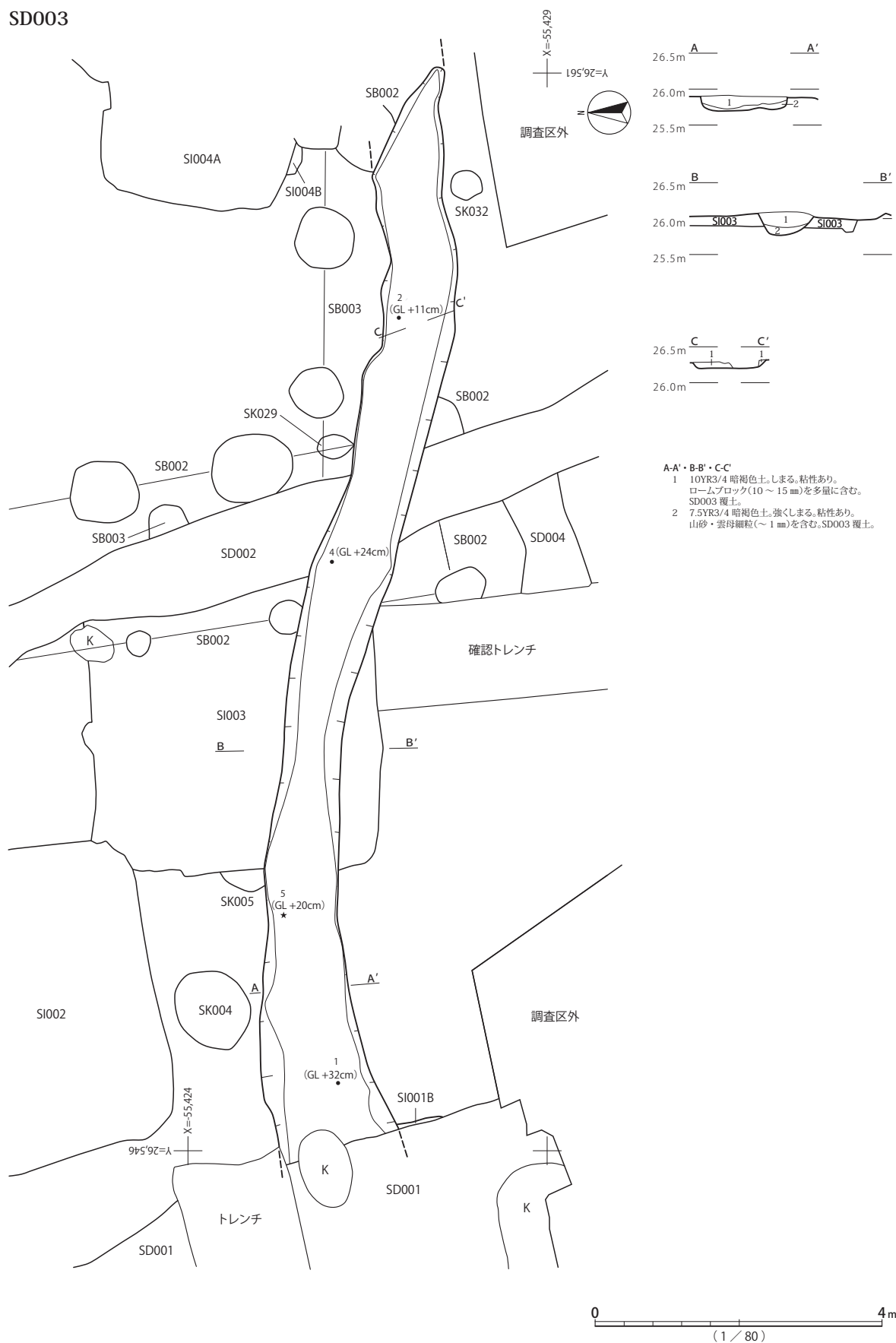
遺物は土師器286g、須恵器168g、灰釉陶器18g、滓類15g、瓦28g、石器77gが出土した。5は鉄塊系遺物、6・7は磨石である。掲載したものも含め、遺物は周辺遺構からの流れ込みと思われる。

遺構の時期は、状況から中近世以降に構築されたものと思われる。

SD003 (第37・38図、図版24)

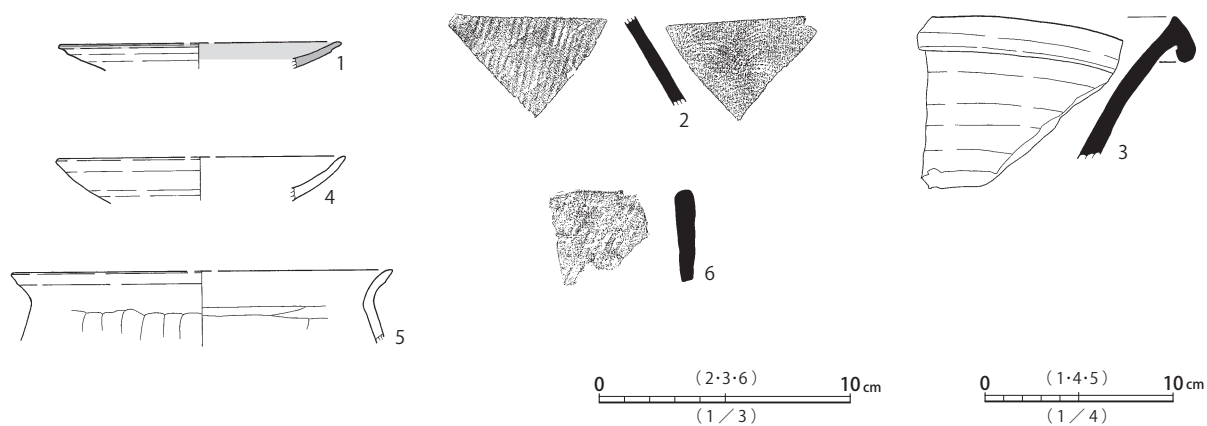
調査区の南部を東西方向に通る溝である。SI001A・001B・003やSB002・003、SK003・005・031の覆土を切って構築する。また、西端はSD001に、中央部はSD002に覆土を切られる。

SD003

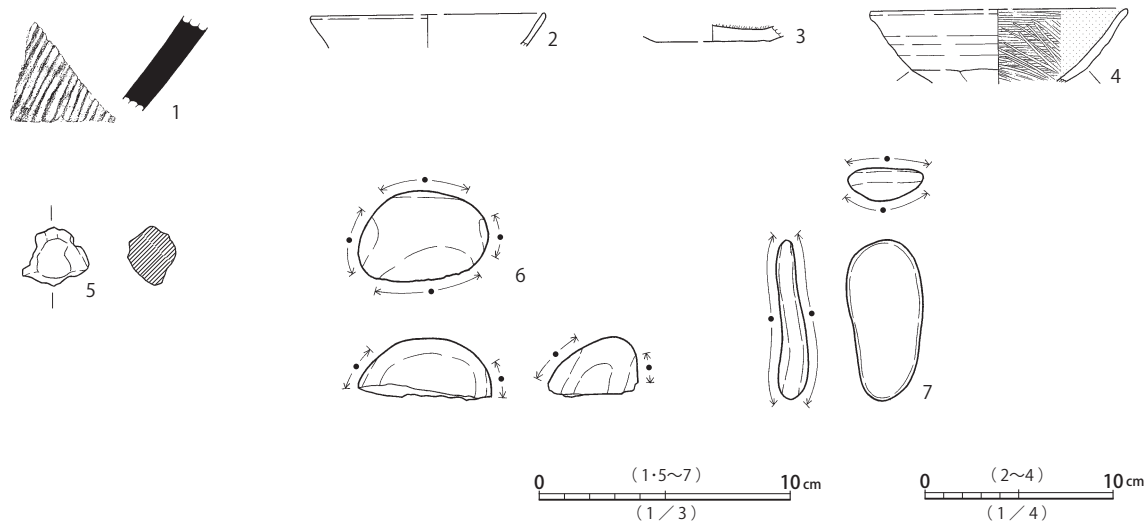


第37図 SD003 遺構

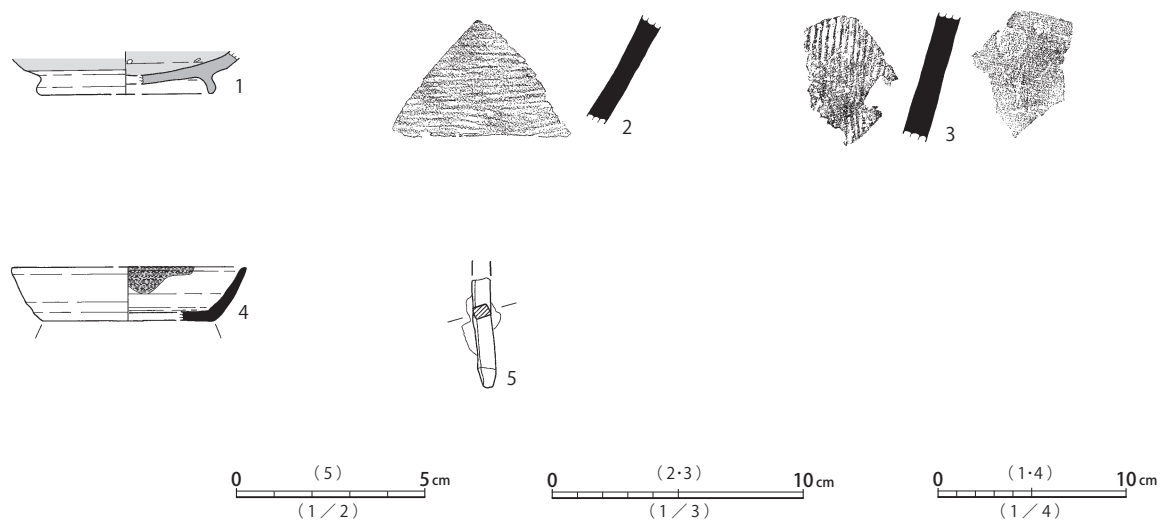
SD001



SD002

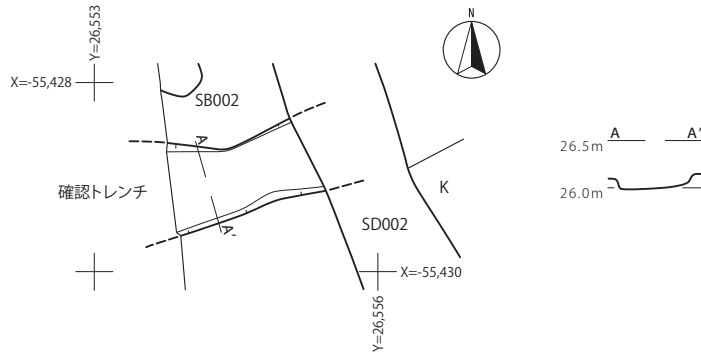


SD003

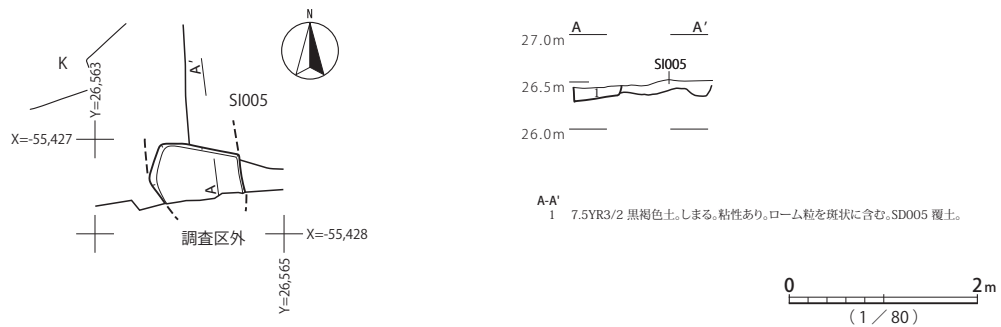


第38図 SD001～003 遺物

SD004



SD005



第39図 SD004・005 遺構

深度は最大で30cmを測るが、東に向かうにつれ浅くなり、東端は上端と下端が集束する。

遺物は縄文土器22g、土師器342g、須恵器135g、灰釉陶器85g、鉄製品2gが出土した。1は猿投産の灰釉陶器の碗、4は永田・不入産須恵器の杯、5は釘である。掲載したものも含め、遺物は周辺遺構からの流れ込みと思われる。

遺構の時期は、状況から中近世以降に構築されたものと思われる。

SD004（第39図）

調査区の南西部を東西方向に通る溝である。西端は確認トレンチ、東端はSD002に切られる。

深度は16cmで遺存状態は悪い。なお、出土遺物は皆無である。

遺構の時期は不明である。

SD005（第39図）

調査区の中央部を北西-南東方向に通る溝である。SI005とSK034の覆土を切って構築する。遺構南側は調査区外へ続く。土坑の可能性も否定できないが、確認調査（セ576）において検出した溝である確SD001（中野2021）と同一遺構の可能性があることから、溝として扱う。

深度は10cmで遺存状態は悪い。北端は上端と下端が集束する。なお、出土遺物は皆無である。

遺構の時期は不明である。

土坑

SK001（第40・47図、図版12・24）

調査区の西部に位置する。覆土上層はSI001A・001Bに切られる。南側の一部は調査区外へ続く。

有天井土坑であり、形状は長方形を呈する。東側はローム層をくり抜いた天井部がわずかに遺存し、底面が1段深くなる。また、壁面は外側に張り出している。本遺構は土坑墓と思われる。

遺物は縄文土器14g、土師器61g、須恵器21gが出土した。1は土師器の杯の底部である。掲載したものも含め、遺物は周辺遺構からの流れ込みと思われる。

遺構の時期は、SI001A・001Bに覆土を切られることや、他の有天井土坑墓が竪穴建物に先行することから、古墳時代終末期から奈良時代に属するものと思われる。

SK002（第40図）

調査区の西部に位置する。覆土上層はSI001Aに切られる。

楕円形の土坑である。2個の円形の土坑が重複する可能性があるが、断面上では確認できない。出土遺物は皆無で、遺構の用途・時期は不明であるが、SI001Aに切られることから、Ⅱ期-b（9世紀第3四半期）以前に構築されたものと思われる。

SK003（第40図）

調査区の西部に位置する。覆土はSI001BとSD003に切られる。

楕円形の土坑である。遺構の用途等は不明である。

遺物は土師器21gが出土しているが、遺構に伴うものかは不明である。なお、小片のため掲載していない。

遺構の時期は不明であるが、SI001Bに切られることから、Ⅱ期-a～Ⅱ期-b（9世紀第2～3四半期）以前に構築されたものと思われる。

SK004（第40・47図、図版24）

調査区の西部に位置する。SI002とSD003の間に存在する。

円形の土坑であり、底面までの深度は16cmを測る。床面には小ピットが存在し、遺構上端からピット底面までの深度は37cmである。遺構の用途等は不明である。

遺物は土師器36gが出土した。1は土師器の椀である。覆土上層から出土しており、遺構に伴わない可能性が高い。

遺構の時期は不明である。

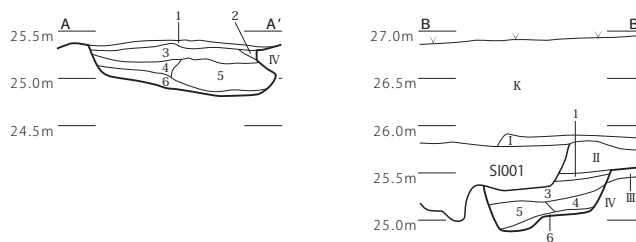
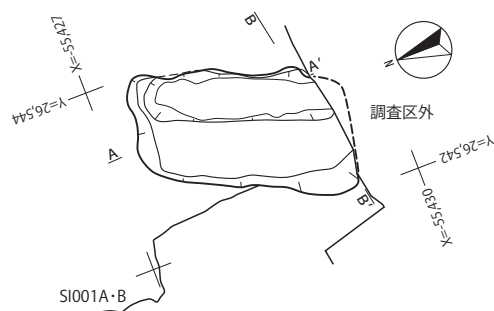
SK005（第40図、図版13）

調査区の西部に位置する。覆土はSI003とSD003に切られる。

有天井土坑であり、形状は長方形を呈する。東側はローム層をくり抜いた天井部が遺存し、底面が1段深くなる。また、壁面は開口部に対して内側に入り込む。本遺構は土坑墓と思われる。

遺物は土師器8gが出土しているが、周辺遺構からの流れ込みと思われる。なお、小片のため掲載

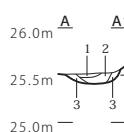
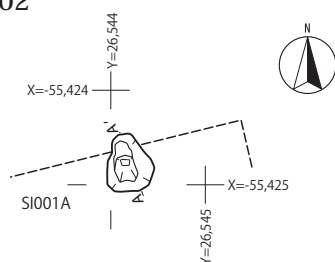
SK001



A-A'・B-B'

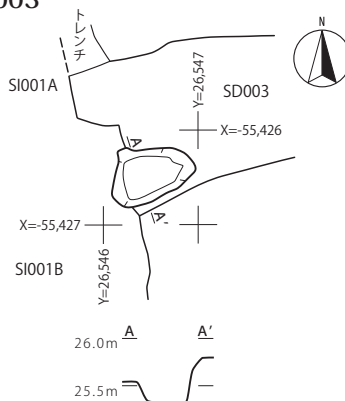
- 1 7.5YR3/3 暗褐色土。しまる。粘性あり。ローム粒を含む。天井崩落後の覆土。
- 2 10YR4/6 褐色土。しまる。粘性あり。ロームブロック(15～30mm)を多量に含む。天井崩落後の覆土。
- 3 10YR3/4 暗褐色土。しまる。粘性あり。ローム粒を含む。天井崩落後の覆土。
- 4 7.5YR3/4 暗褐色土。しまる。粘性あり。ローム粒を多量に含む。天井崩落後の覆土。
- 5 7.5YR4/4 褐色土。強くしまる。粘性強い。ロームブロック(20～100mm)を多量に含む。崩落した天井部。
- 6 7.5YR3/4 暗褐色土。しまる。粘性あり。ローム粒を多量に含む。天井崩落以前の覆土。
- I 7.5YR3/3 暗褐色土。しまる。粘性あり。ローム粒(2～5mm)を微量含む。旧表土。
- II 7.5YR3/3 暗褐色土。しまる。粘性弱い。ローム粒(1～2mm)少量。ロームブロック(10～20mm)を多量に含む。旧表土。
- III 7.5YR4/3 褐色土。しまる。粘性あり。ローム粒(2mm)多量。ロームブロック(10～20mm)を含む。ローム漸移層。
- IV 7.5YR5/6 明褐色土。しまる。粘性強い。ソフトローム層。

SK002

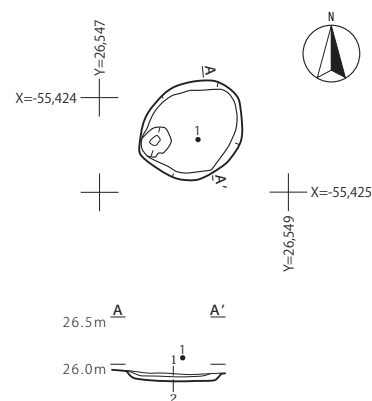


- 1 7.5YR2/3 極暗褐色土。しまる。粘性あり。ローム粒・焼土粒を含む。SK002 覆土。
- 2 7.5YR3/2 黒褐色土。しまる。粘性あり。山砂を多量。山砂ブロック(10～20mm)・焼土粒・焼土ブロック(10～20mm)・炭化粒・炭化材(10～20mm)を含む。SK002 覆土。
- 3 7.5YR4/3 褐色土。しまる。粘性強い。ローム粒を多量。ロームブロック(10～20mm)を斑状に含む。SK002 覆土。

SK003

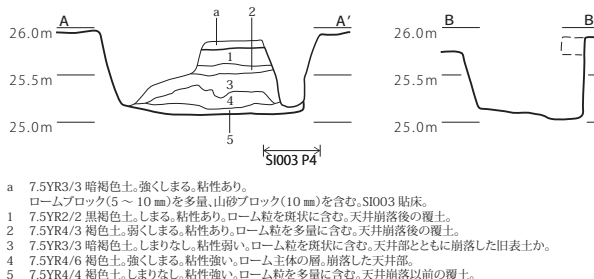
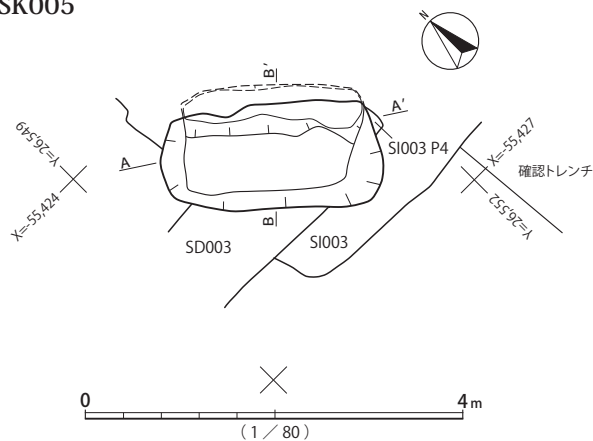


SK004



- 1 7.5YR3/3 暗褐色土。しまる。粘性あり。ローム粒を含む。SK004 覆土。
- 2 7.5YR3/4 暗褐色土。しまる。粘性あり。ローム粒を含む。山砂を少量含む。SK004 覆土。

SK005



- a 7.5YR3/3 暗褐色土。強くしまる。粘性あり。ロームブロック(5～10mm)を多量。山砂ブロック(10mm)を含む。SI003 貼床。
- 1 7.5YR2/2 黒褐色土。しまる。粘性あり。ローム粒を斑状に含む。天井崩落後の覆土。
- 2 7.5YR4/3 褐色土。弱くしまる。粘性あり。ローム粒を多量に含む。天井崩落後の覆土。
- 3 7.5YR3/3 暗褐色土。しまりなし。粘性弱い。ローム粒を斑状に含む。天井部とともに崩落した旧表土か。
- 4 7.5YR4/6 褐色土。強くしまる。粘性強い。ローム主体の層。崩落した天井部。
- 5 7.5YR4/4 褐色土。しまりなし。粘性強い。ローム粒を多量に含む。天井崩落以前の覆土。

第40図 SK001～005 遺構

していない。

遺構の時期は、A期に属するSI003に切られることや、他の有天井土坑墓が竪穴建物に先行することから、古墳時代終末期から奈良時代に属するものと思われる。

SK006（第41図、図版13）

調査区の南西部に位置する。

地下式坑であり、形状は竪坑が方形、主室が隅丸方形を呈する。主室は竪坑の北側に存在し、竪坑よりも一回り大きくつくられる。主室の東側はローム層をくり抜いた天井部がわずかに遺存する。主室の床面は竪坑よりも20cmほど深くなる。

遺物は土師器3gが出土しているが、周辺遺構からの流れ込みと思われる。なお、小片のため掲載していない。

遺構の時期は、有天井土坑墓と同時期と考えられることから、古墳時代終末期から奈良時代に属するものと思われる。

SK007（第41図）

調査区の南西部に位置する。

楕円形の土坑であり、床面までの深度は28cmを測る。床面には小ピットが存在し、遺構上端からピット床面までの深度は29cmである。出土遺物は皆無で、遺構の用途・時期は不明である。

SK008（第41図）

調査区の南西部に位置する。

楕円形の小ピットである。出土遺物は皆無で、遺構の用途・時期は不明である。

SK009（第41図）

調査区の南西部に位置する。覆土上層はSD002に切られる。

円形の小ピットである。出土遺物は皆無で、遺構の用途・時期は不明である。

SK010（第41・47図、図版13・24）

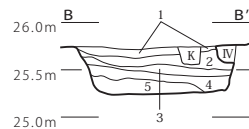
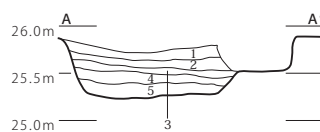
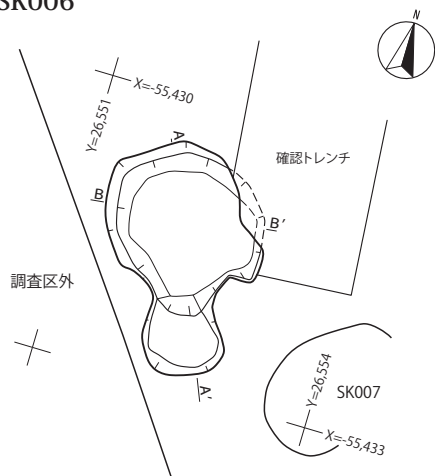
調査区の西部に位置する。覆土上層はSD002に切られる。

円形の土坑である。断面は逆台形を呈する。覆土はローム粒やロームブロックを主体としており、人為的な埋め戻しが想定されることから、土坑墓の可能性はある。

遺物は土師器213g、須恵器11g、灰釉陶器2g、滓類5gが出土した。1は土師器の足高高台土器の脚部、2は鉄滓である。

遺構の時期は、SK039と遺構が類似することから、IV期-b（10世紀第2四半期）に属するものと推測される。

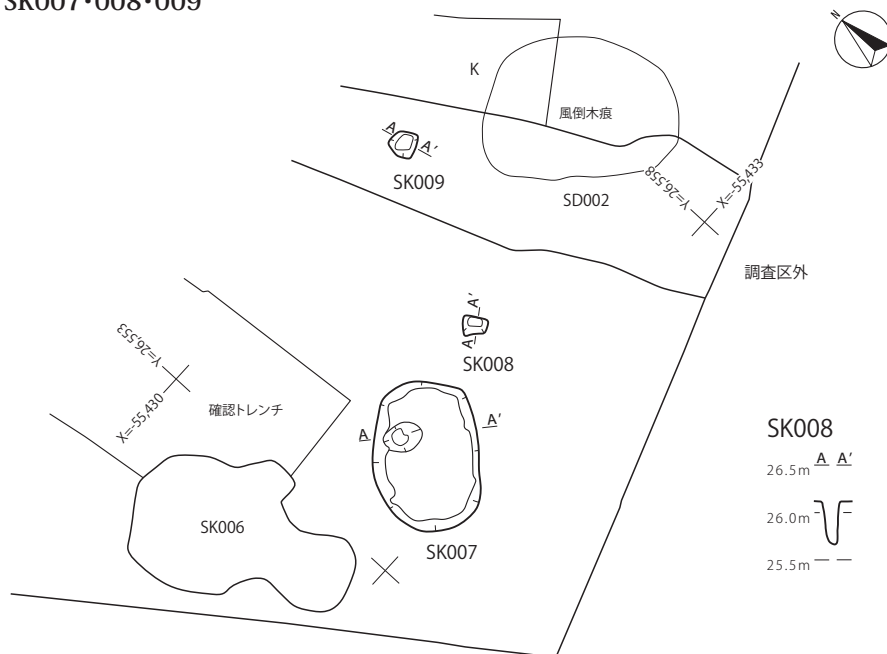
SK006



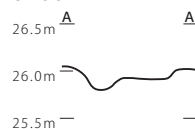
A-A'・B-B'

- 1 7.5YR3/2 黒褐色土。弱くしめる。粘性あり。ローム粒を多量、ロームブロック(5～20mm)を少量含む。SK006 覆土。
- 2 7.5YR3/3 暗褐色土。弱くしめる。粘性あり。ロームブロック(5～20mm)を含み、焼土粒を少量含む。天井崩落後の覆土。
- 3 7.5YR3/2 黒褐色土。弱くしめる。粘性あり。焼土粒を多量、ローム粒を少量含む。天井崩落後の覆土。
- 4 7.5YR3/4 暗褐色土。しめる。弱くしめる。粘性あり。ローム粒を斑状に含む。天井崩落後の覆土。
- 5 7.5YR4/6 褐色土。強くしめる。粘性強い。ロームブロック(20～100mm)を多量に含む。崩落した天井部。
- IV 7.5YR5/6 明褐色土。強くしめる。粘性強い。ローム層。SK006 天井部。

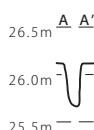
SK007・008・009



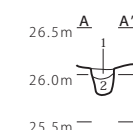
SK007



SK008

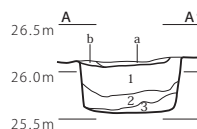
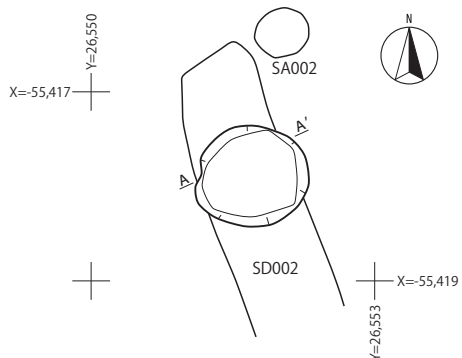


SK009

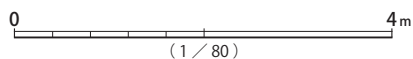


- 1 7.5YR3/3 暗褐色土。しめる。粘性あり。ローム粒を斑状に含む。SK009 覆土。
- 2 7.5YR2/3 極暗褐色土。弱くしめる。粘性あり。ローム粒を少量含む。SK009 覆土。

SK010



- a 10YR3/4 暗褐色土。弱くしめる。粘性弱い。山砂・炭化粒を含む。SD002 覆土。
- b 10YR3/4 暗褐色土。弱くしめる。粘性弱い。ローム粒(～1mm)を少量含む。SD002 覆土。
- 1 7.5YR3/4 暗褐色土。しめる。粘性あり。ロームブロック(10～15mm)を多量に含む。SK010 覆土。
- 2 7.5YR3/4 暗褐色土。しめる。粘性あり。ローム粒を多量に含む。SK010 覆土。
- 3 7.5YR4/4 褐色土。しめる。粘性あり。ローム粒・ロームブロック(10～20mm)を多量に含む。SK010 覆土。



第41図 SK006～010 遺構

SK011 (第 42 図)

調査区の北部に位置する。SB001 の P3 と P4 の間に存在する。
円形の土坑である。出土遺物は皆無で、遺構の用途・時期は不明である。

SK012 (第 42 図)

調査区の北部に位置する。
円形の土坑である。出土遺物は皆無で、遺構の用途・時期は不明である。

SK013 (第 42 図)

調査区の北部に位置する。
円形の土坑である。出土遺物は皆無で、遺構の用途・時期は不明である。

SK014 (第 42 図)

調査区の北部に位置する。
円形の土坑である。出土遺物は皆無で、遺構の用途・時期は不明である。

SK015 (第 42・47 図、図版 24)

調査区の北部に位置する。覆土上層は攪乱によって削られる。
円形の小ピットである。遺存状態は悪く、遺構の用途等は不明である。
遺物は 1 の土師器の杯のみが出土した。なお、遺構に伴うものかは不明である。
遺構の時期は不明である。

SK016 (第 42 図)

調査区の北部に位置する。
円形の小ピットである。出土遺物は皆無で、遺構の用途・時期は不明である。

SK017 (第 42 図)

調査区の北部に位置する。
楕円形の土坑である。出土遺物は皆無で、遺構の用途・時期は不明である。

SK018 (第 42 図)

調査区の北部に位置する。
円形の小ピットである。出土遺物は皆無で、遺構の用途・時期は不明である。

SK019 (第 42 図)

調査区の北部に位置する。
円形の小ピットである。出土遺物は皆無で、遺構の用途・時期は不明である。

SK020（第42図）

調査区の北部に位置する。

楕円形の土坑である。用途等は不明である。

遺物は弥生土器21gが出土しているが、遺構に伴うものかは不明である。なお、小片のため掲載していない。

遺構の時期は不明である。

SK021（第42図）

調査区の北部に位置する。SK022の覆土を切って構築する。

長大な楕円形の土坑である。形状から溝の残欠の可能性も考えられる。出土遺物は皆無で、遺構の用途・時期は不明である。

SK022（第42図）

調査区の北部に位置する。覆土上層はSK021に切られる。

円形の小ピットである。出土遺物は皆無で、遺構の用途・時期は不明である。

SK023（第43図）

調査区の中央部に位置する。

楕円形の土坑である。2個の土坑が重複しているものとみられる。用途等は不明である。

遺物は縄文土器12gが出土しているが、遺構に伴うものかは不明である。なお、小片のため掲載していない。

遺構の時期は不明である。

SK024（第43図）

調査区の中央部に位置する。覆土上層の一部が攪乱によって削られる。

楕円形の土坑である。出土遺物は皆無で、遺構の用途・時期は不明である。

SK025（第43図）

調査区の中央部に位置する。

円形の土坑である。出土遺物は皆無で、遺構の用途・時期は不明である。

SK026（第43図）

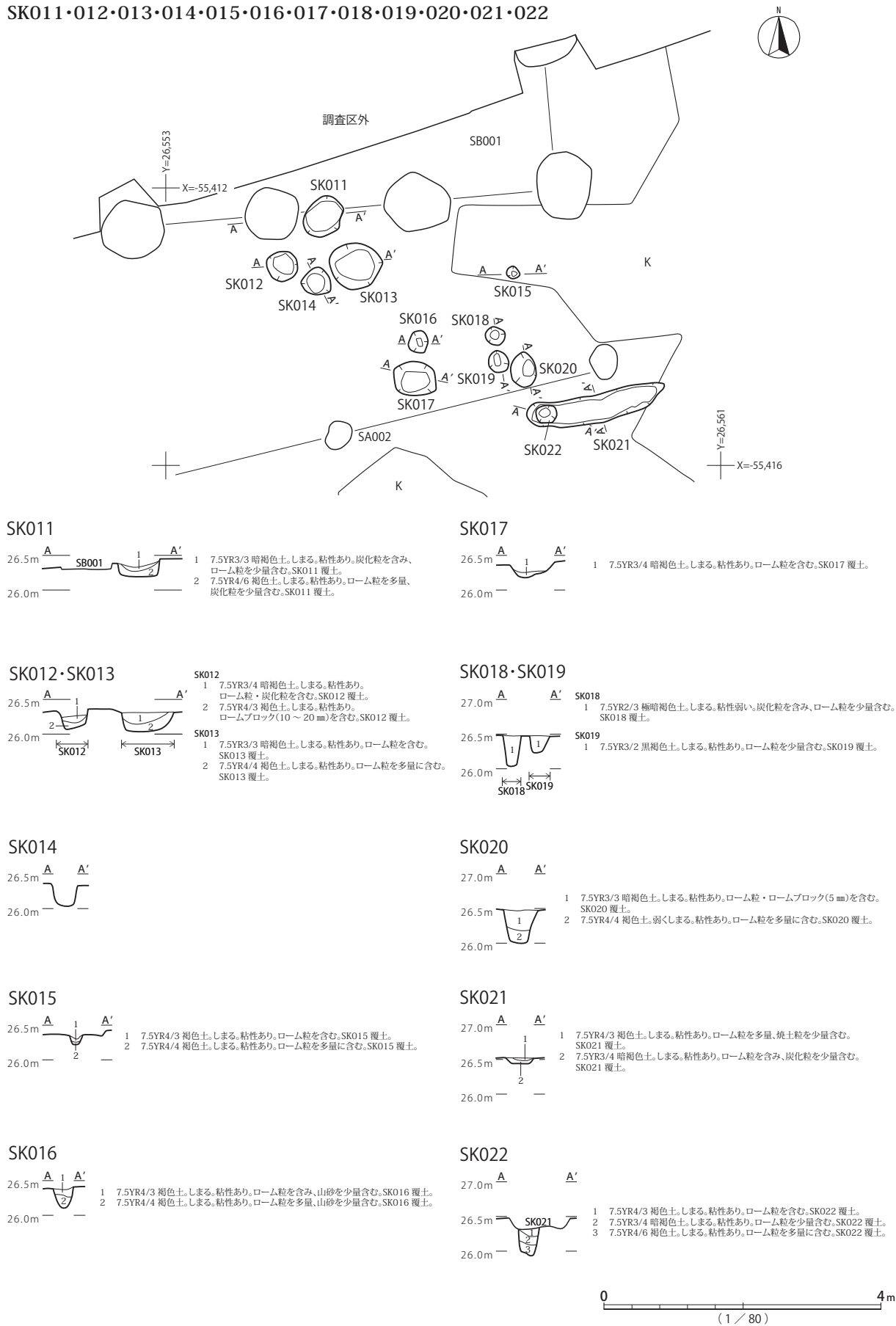
調査区の中央部に位置する。

楕円形の土坑である。出土遺物は皆無で、遺構の用途・時期は不明である。

SK027（第43図）

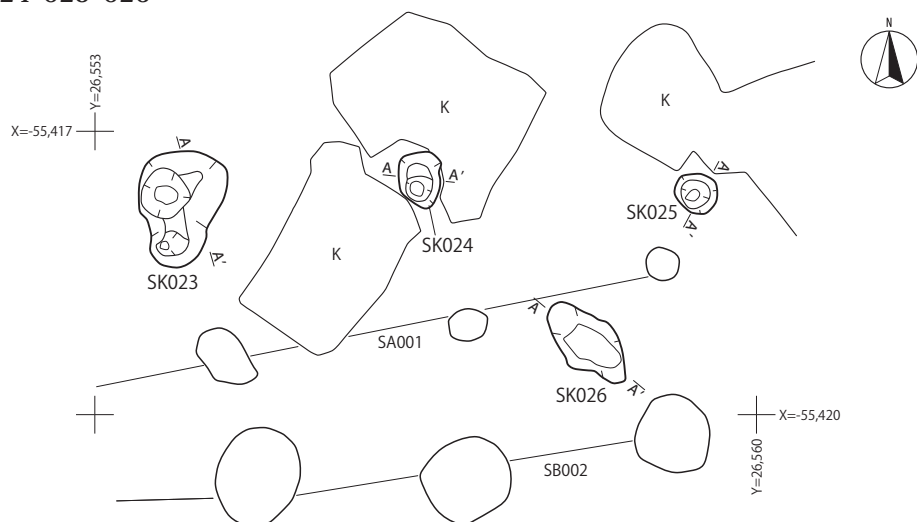
調査区の中央部に位置する。

SK011・012・013・014・015・016・017・018・019・020・021・022

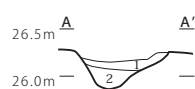


第42図 SK011~022 遺構

SK023・024・025・026

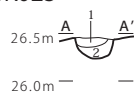


SK023



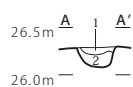
- 1 7.5YR3/4 暗褐色土。しまる。粘性あり。ローム粒を含む。SK023 覆土。
- 2 7.5YR4/3 褐色土。しまる。粘性あり。ローム粒を多量、焼土粒・炭化粒を含む。SK023 覆土。

SK025



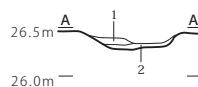
- 1 10YR3/3 暗褐色土。しまる。粘性あり。ローム粒を含む。SK025 覆土。
- 2 7.5YR3/3 暗褐色土。しまる。粘性あり。ローム粒・炭化粒を少量含む。SK025 覆土。

SK024



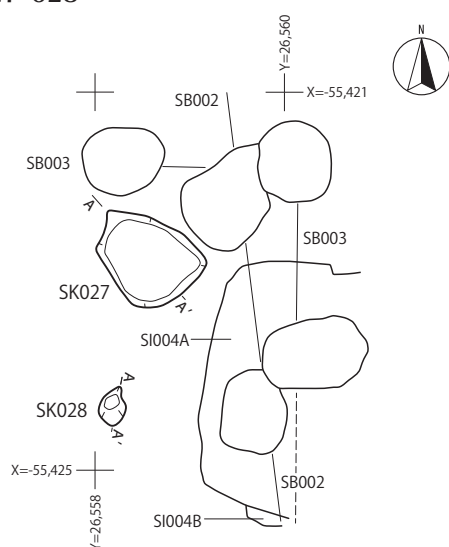
- 1 7.5YR4/4 褐色土。しまる。粘性あり。ローム粒を多量に含む。SK024 覆土。
- 2 7.5YR3/4 暗褐色土。しまる。粘性あり。山砂を少量含む。SK024 覆土。

SK026

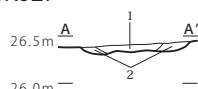


- 1 7.5YR3/3 暗褐色土。しまる。粘性あり。ローム粒を含み、炭化粒を少量含む。SK026 覆土。
- 2 7.5YR4/4 褐色土。しまる。粘性強い。ローム粒を多量に含む。SK026 覆土。

SK027・028

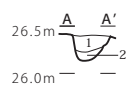


SK027

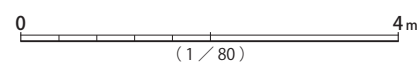


- 1 7.5YR3/3 暗褐色土。しまる。粘性あり。ローム粒を多量、焼土粒・炭化粒を少量含む。SK027 覆土。
- 2 7.5YR4/3 褐色土。しまる。粘性あり。ローム粒を多量に含む。SK027 覆土。

SK028



- 1 7.5YR3/4 暗褐色土。しまる。粘性あり。ローム粒を多量、炭化粒を少量含む。SK028 覆土。
- 2 7.5YR4/3 褐色土。しまる。粘性強い。ローム粒を多量に含む。SK028 覆土。



第43図 SK023～028 遺構

楕円形の土坑である。出土遺物は皆無で、遺構の用途・時期は不明である。

SK028 (第43図)

調査区の中央部に位置する。

楕円形の小ピットである。用途等は不明である。

遺物は土師器の甕4gが出土しているが、遺構に伴うものかは不明である。なお、小片のため掲載していない。

遺構の時期は不明である。

SK029 (第44図)

調査区の中央部に位置する。

楕円形の土坑である。出土遺物は皆無で、遺構の用途・時期は不明である。

SK030 (第44図)

調査区の中央部に位置する。覆土上層はSD002に、東側はSB002のP10に切られる。

円形の土坑とみられる。出土遺物は皆無で、遺構の用途・時期は不明であるが、SB002に切られることから、Ⅱ期-a(9世紀第2四半期)以前に構築されたものと思われる。

SK031 (第44・47図、図版24)

調査区の中央部に位置する。覆土上層はSD003に切られる。

楕円形の小ピットである。用途等は不明である。

遺物は1の猿投産須恵器の甕のみが出土した。覆土上層から出土している。なお、遺構に伴うかは不明である。

遺構の時期は不明である。

SK032 (第44図)

調査区の中央部に位置する。

円形の小ピットである。出土遺物は皆無で、遺構の用途・時期は不明である。

SK033 (第44図)

調査区の中央部に位置する。

円形の小ピットである。出土遺物は皆無で、遺構の用途・時期は不明である。

SK034 (第44図)

調査区の中央部に位置する。覆土上層はSD005に切られる。南側は調査区外へ続く。

円形の土坑とみられる。出土遺物は皆無で、遺構の用途・時期は不明である。

SK035（第44図）

調査区の北東部に位置する。覆土上層は攪乱によって削られる。

円形の土坑である。出土遺物は皆無で、遺構の用途・時期は不明である。

SK036（第44・47図、図版13・24）

調査区の中央部に位置する。覆土上層の一部が攪乱によって削られる。

隅円方形の土坑である。断面は逆台形を呈する。覆土はローム粒やロームブロックを主体としており、人為的な埋め戻しが想定されることから、土坑墓の可能性はある。

遺物は土師器179g、須恵器28g、瓦39gが出土した。1は土師器の小型杯、2は土師器の椀、3は平瓦である。

遺構の時期は、SK039と遺構が類似することから、IV期-b（10世紀第2四半期）に属するものと推測される。

SK037（第44図）

調査区の中央部に位置する。

楕円形の土坑である。出土遺物は皆無で、遺構の用途・時期は不明である。

SK038（第45・47図、図版24）

調査区の中央部に位置する。

円形の土坑である。覆土はローム粒やロームブロックを主体としており、人為的な埋め戻しが想定されることから、土坑墓の可能性はある。

遺物は土師器104gが出土した。1は土師器の杯であり、覆土下層より出土している。

遺構の時期は、SK039と遺構が類似することから、IV期-b（10世紀第2四半期）に属するものと推測される。

SK039（第45・47図、図版13・14・17・24）

調査区の中央部に位置する。

円形もしくは隅丸方形の土坑である。覆土はローム粒やロームブロックを主体としており、人為的な埋め戻しが想定されることから、土坑墓の可能性はある。

遺物は土師器249g、須恵器4g、鉄製品9gが出土した。1～3は土師器の杯である。3は完形品で、内面に粗いヘラミガキと不徹底な黒色処理が施される。4は土師器の椀である。5は鉄製帯金具の鉸具である。1は覆土上層、2・3・5は覆土中層より出土し、5は1の直下から出土している。

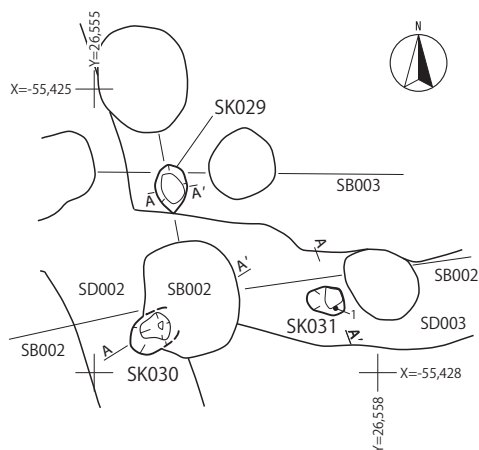
遺構の時期は、IV期-b（10世紀第2四半期）に属するものと考えられる。

SK040（第45図）

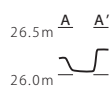
調査区の中央部に位置する。

楕円形の小ピットである。出土遺物は皆無で、遺構の用途・時期は不明である。

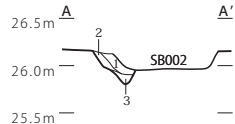
SK029・030・031



SK029

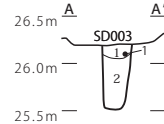


SK030



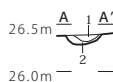
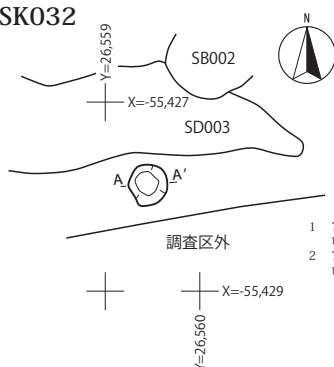
- 7.5YR3/2 黒褐色土。しまる。粘性あり。ローム粒を斑状に含む。SK030 覆土。
- 7.5YR3/4 暗褐色土。しまる。粘性弱い。ローム粒を少量含む。SK030 覆土。
- 7.5YR4/4 褐色土。しまる。粘性あり。ローム粒を多量に含む。SK030 覆土。

SK031



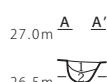
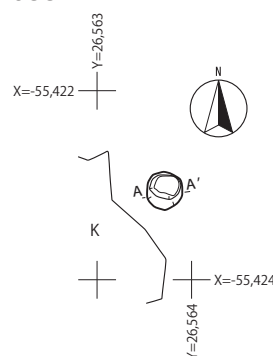
- 7.5YR3/4 暗褐色土。弱くしまる。粘性あり。ロームブロック(10 mm)を含む。SK031 覆土。
- 7.5YR3/4 暗褐色土。弱くしまる。粘性あり。ローム粒を含む。SK031 覆土。

SK032



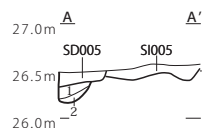
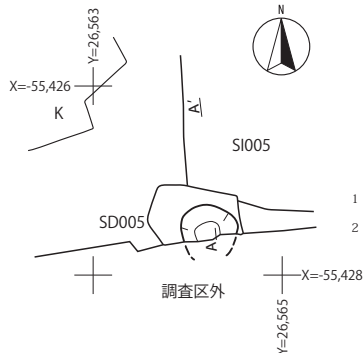
- 7.5YR3/3 暗褐色土。しまる。粘性あり。ローム粒を斑状に含む。SK032 覆土。
- 7.5YR4/3 褐色土。しまる。粘性あり。ローム粒を多量に含む。SK032 覆土。

SK033



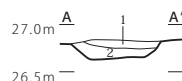
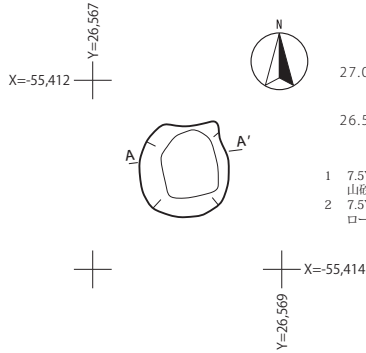
- 7.5YR2/3 極暗褐色土。しまる。粘性あり。ローム粒を少量含む。SK033 覆土。
- 7.5YR3/4 暗褐色土。しまる。粘性あり。ローム粒・ロームブロック(1 mm)を含む。SK033 覆土。

SK034



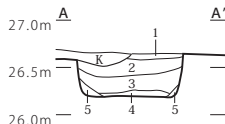
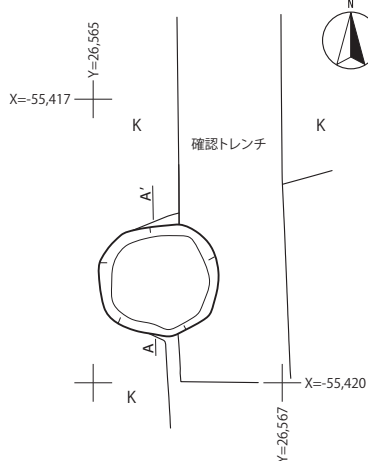
- 7.5YR3/2 黒褐色土。しまる。粘性あり。炭化粒を多量、ローム粒を含む。SK034 覆土。
- 7.5YR4/3 褐色土。しまる。粘性強い。ローム粒を多量に含む。SK034 覆土。

SK035



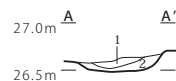
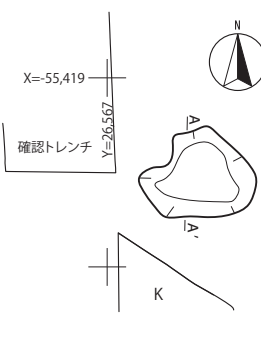
- 7.5YR3/2 黒褐色土。しまる。粘性あり。山砂を少量含む。SK035 覆土。
- 7.5YR4/3 褐色土。しまる。粘性あり。ローム粒を多量、山砂を少量含む。SK035 覆土。

SK036

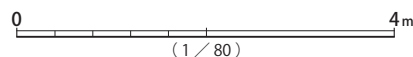


- 7.5YR2/3 極暗褐色土。しまる。粘性あり。ローム粒を多量、焼土粒を含む。SK036 覆土。
- 7.5YR3/3 暗褐色土。しまる。粘性あり。ロームブロック(5 ~ 10 mm)を多量に含む。SK036 覆土。
- 7.5YR3/4 暗褐色土。しまる。粘性あり。ロームブロック(5 ~ 30 mm)を多量、炭化粒を含む。SK036 覆土。
- 7.5YR4/6 褐色土。強くしまる。粘性あり。ローム粒・ロームブロック(3 ~ 15 mm)を多量、炭化粒を少量含む。SK036 覆土。
- 7.5YR2/3 極暗褐色土。しまる。粘性あり。ローム粒を多量に含む。SK036 覆土。

SK037

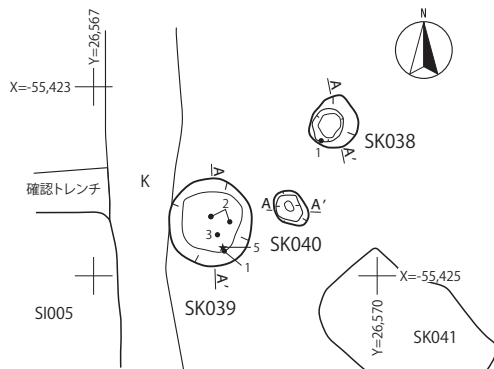


- 7.5YR4/3 褐色土。しまる。粘性あり。ローム粒を多量、ロームブロック(1 ~ 2 mm)を含み、焼土粒・炭化粒を少量含む。SK037 覆土。
- 7.5YR4/6 褐色土。しまる。粘性あり。ローム粒を多量に含む。SK037 覆土。

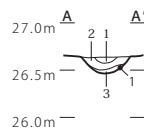


第44図 SK029~037 遺構

SK038・039・040

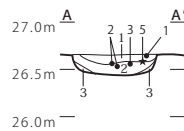


SK038



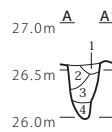
- 1 7.5YR3/4 暗褐色土。しまる。粘性あり。ローム粒・ロームブロック(1～5 mm)を多量、山砂・炭化粒を少量含む。SK038 覆土。
- 2 7.5YR3/2 黒褐色土。しまる。粘性あり。ローム粒・ロームブロック(2～5 mm)を含み、焼土ブロック(5 mm)・炭化粒を少量含む。SK038 覆土。
- 3 7.5YR4/4 褐色土。しまる。粘性強い。ローム粒・ロームブロック(5～10 mm)を極めて多量に含む。SK038 覆土。

SK039



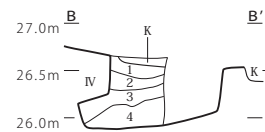
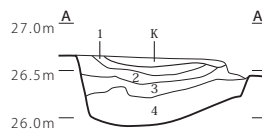
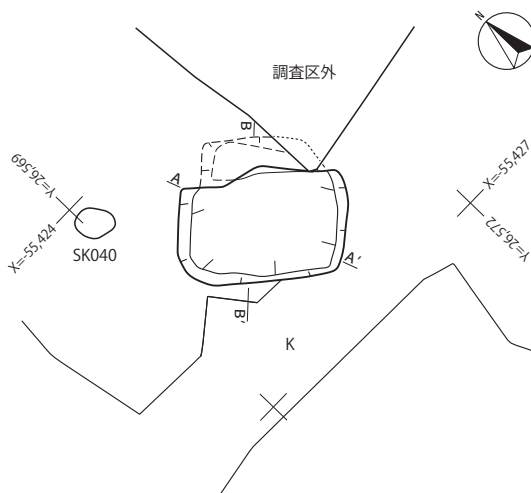
- 1 7.5YR3/3 暗褐色土。しまる。粘性あり。ローム粒を斑状、山砂ブロック(10 mm)・炭化材(5～20 mm)を少量含む。SK039 覆土。
- 2 7.5YR3/2 黒褐色土。しまる。粘性あり。ローム粒・ロームブロック(2～10 mm)を多量、炭化粒を含む。SK039 覆土。
- 3 7.5YR3/4 暗褐色土。しまる。粘性強い。ローム粒を多量、ロームブロック(1～10 mm)を含む。SK039 覆土。

SK040



- 1 7.5YR2/2 黒褐色土。しまる。粘性あり。ローム粒・ロームブロック(5 mm)を含む。SK040 覆土。
- 2 7.5YR4/3 褐色土。しまる。粘性強い。ローム粒・ロームブロック(2～10 mm)を多量に含む。SK040 覆土。
- 3 7.5YR3/2 黒褐色土。しまる。粘性あり。ローム粒・ロームブロック(2～5 mm)を含む。SK040 覆土。
- 4 7.5YR4/3 褐色土。弱くしまる。粘性あり。ローム粒を多量に含む。SK040 覆土。

SK041

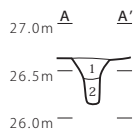
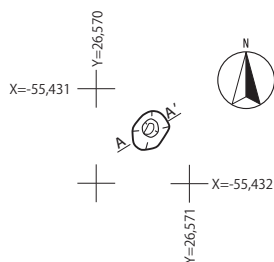


A-A'・B-B'

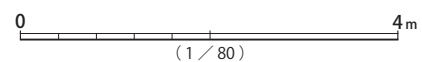
- 1 7.5YR2/2 黒褐色土。しまる。粘性弱い。ローム粒・ロームブロック(1～2 mm)を含む。天井崩落後の覆土。
- 2 7.5YR2/3 極暗褐色土。しまる。粘性あり。ローム粒・ロームブロック(1～15 mm)を含む。天井崩落後の覆土。
- 3 7.5YR3/4 暗褐色土。しまる。粘性あり。ローム粒・ロームブロック(5～50 mm)を多量に含む。天井部とともに崩落した旧表土か。
- 4 7.5YR4/3 褐色土。強くしまる。粘性強い。ローム粒・ロームブロック(5～200 mm)を極めて多量に含む。崩落した天井部。

IV 7.5YR5/6 明褐色土。強くしまる。粘性極めて強い。ローム層。SK041 天井部。

SK042



- 1 7.5YR3/4 暗褐色土。しまる。粘性あり。ローム粒を含み、焼土粒・炭化粒を少量含む。SK042 覆土。
- 2 7.5YR4/3 褐色土。強くしまる。粘性あり。ローム粒を多量に含む。SK042 覆土。



第45図 SK038～042 遺構

SK041（第 45 図、図版 14）

調査区の中央部に位置する。覆土上層の一部が攪乱によって削られる。東側は調査区外へ続く。

有天井土坑であり、形状は長方形を呈する。東側はローム層をくり抜いた天井部が遺存する。床面は西端から中央に向かってなだらかに傾斜し、中央部から東側は平坦になる。東側の壁面は開口部に対して内側に入り込んでいる。本遺構は土坑墓と思われる。

遺物は土師器 31g、須恵器 22g が出土しているが、周辺遺構からの流れ込みと思われる。なお、小片のため掲載していない。

遺構の時期は、他の有天井土坑墓が竪穴建物に先行することから、本遺構も古墳時代終末期から奈良時代に属するものと思われる。

SK042（第 45 図）

調査区の東部に位置する。

楕円形の小ピットである。出土遺物は皆無で、遺構の用途・時期は不明である。

SK043（第 46・47 図、図版 3・8・14・24）

調査区の南東部に位置する。覆土上層の一部が攪乱によって削られる。

地下式坑であり、形状は竪坑が隅丸方形、主室が長方形を呈する。主室は竪坑の東側に存在し、ローム層をくり抜いた天井部が完存する。玄門は竪坑・主室壁面に対して 1 段内側に入り込む。竪坑の床面は上端西辺から東に向かって傾斜し、玄門より西に 90cm ほどの部分からは平坦になる。主室の床面は竪坑よりも 10cm ほど深くなり、入口部分には深さ 10cm 程度の溝が存在する。

遺物は土師器 58g が出土した。1 は土師器の足高高台土器である。掲載したものも含め、遺物は周辺遺構からの流れ込みと思われる。

遺構の時期は、有天井土坑墓と同時期と考えられることから、古墳時代終末期から奈良時代に属するものと思われる。

SK044（第 46 図）

調査区の南東部に位置する。

楕円形の小ピットである。用途等は不明である。

遺物は土師器の甕 6g が出土しているが、遺構に伴うものかは不明である。なお、小片のため掲載していない。

遺構の時期は不明である。

SK045（第 46 図）

調査区の東部に位置する。北側は調査区外へ続く。

円形の土坑とみられる。出土遺物は皆無で、遺構の用途・時期は不明である。

SK046 (第 46 図、図版 10)

調査区の東部に位置する。東側は調査区外へ続く。

円形の土坑とみられる。出土遺物は皆無で、遺構の用途・時期は不明である。

SK047 (第 46 図、図版 14)

調査区の東部に位置する。覆土上層はSI008に切られる。

長方形の土坑である。断面は逆台形を呈する。形状から陥し穴とみられる。

遺物は土師器の甕 4g が出土しているが、周辺遺構からの流れ込みと思われる。なお、小片のため掲載していない。

遺構の時期は、縄文時代に属するものと考えられる。

SK048 (第 46・47 図、図版 10・24)

調査区の南東部に位置する。覆土上層と底・壁面の一部はSI009に切られる。東側は調査区外へ続く。本遺構はB地区25号土坑(浅利ほか2003)と同一遺構とみられ、その場合、規模は主軸2.4m、副軸1.0mほどに復元できる。

長楕円形の土坑と思われる。既報告では有天井土坑墓の可能性が指摘されている。(浅利ほか2003)。

遺物は土師器 66g、須恵器 10g が出土している。1 は土師器の杯である。見込み部に墨書がみられるが判読はできない。掲載したものも含め、遺物は周辺遺構からの流れ込みと思われる。

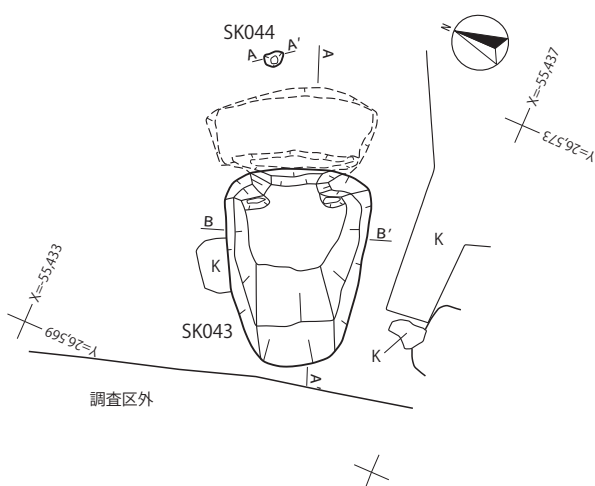
遺構の時期は、SI009に覆土を切られることや、他の有天井土坑墓が竪穴建物に先行することから、古墳時代終末期から奈良時代に属するものと思われる。

遺構外出土遺物 (第 47 図、図版 24)

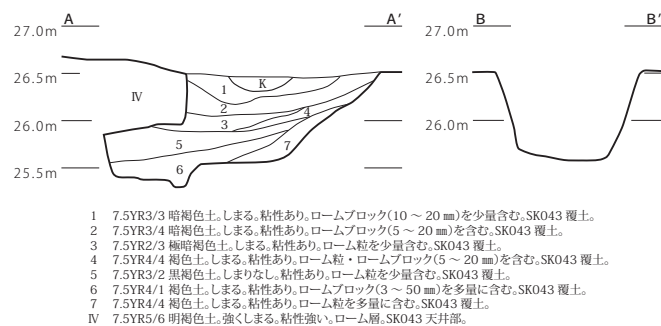
今回の調査では、表土内や攪乱内から多数の遺物が出土した。

1 は永田・不入産須恵器の杯、2 は猿投産須恵器の甕の口縁部である。3・4 は土師器の杯の小片で、3 は底部に、4 は内面に墨書がみられるが判読はできない。5 は土師器の小型碗、6 は中近世の土師質土器の鉢である。7 は板状鉄製品、8 は棒状鉄製品であり、9 は錆膨れが顕著だが鉄製品とみられる。10 は丸瓦である。

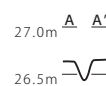
SK043・044



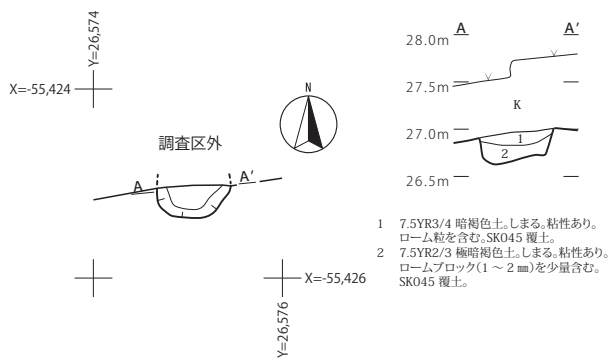
SK043



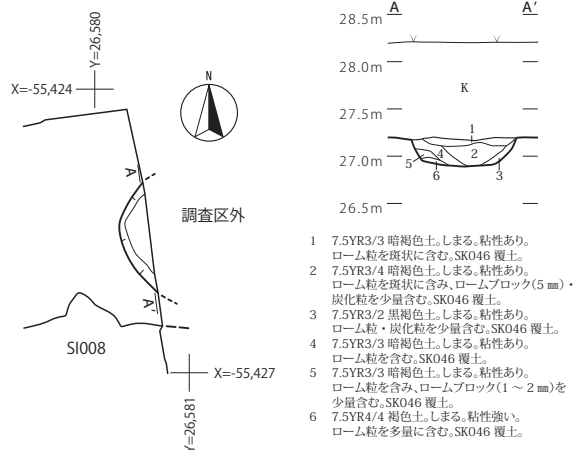
SK044



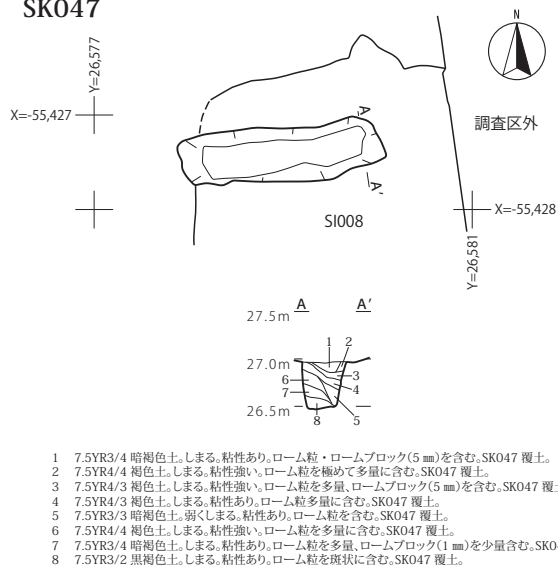
SK045



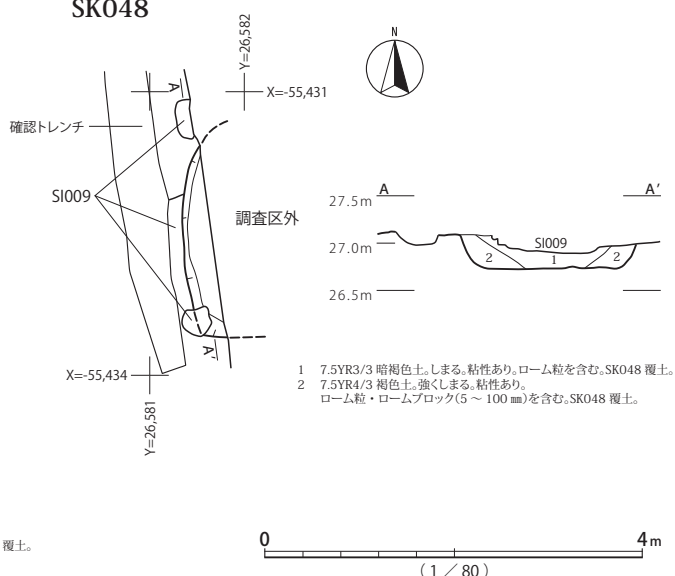
SK046



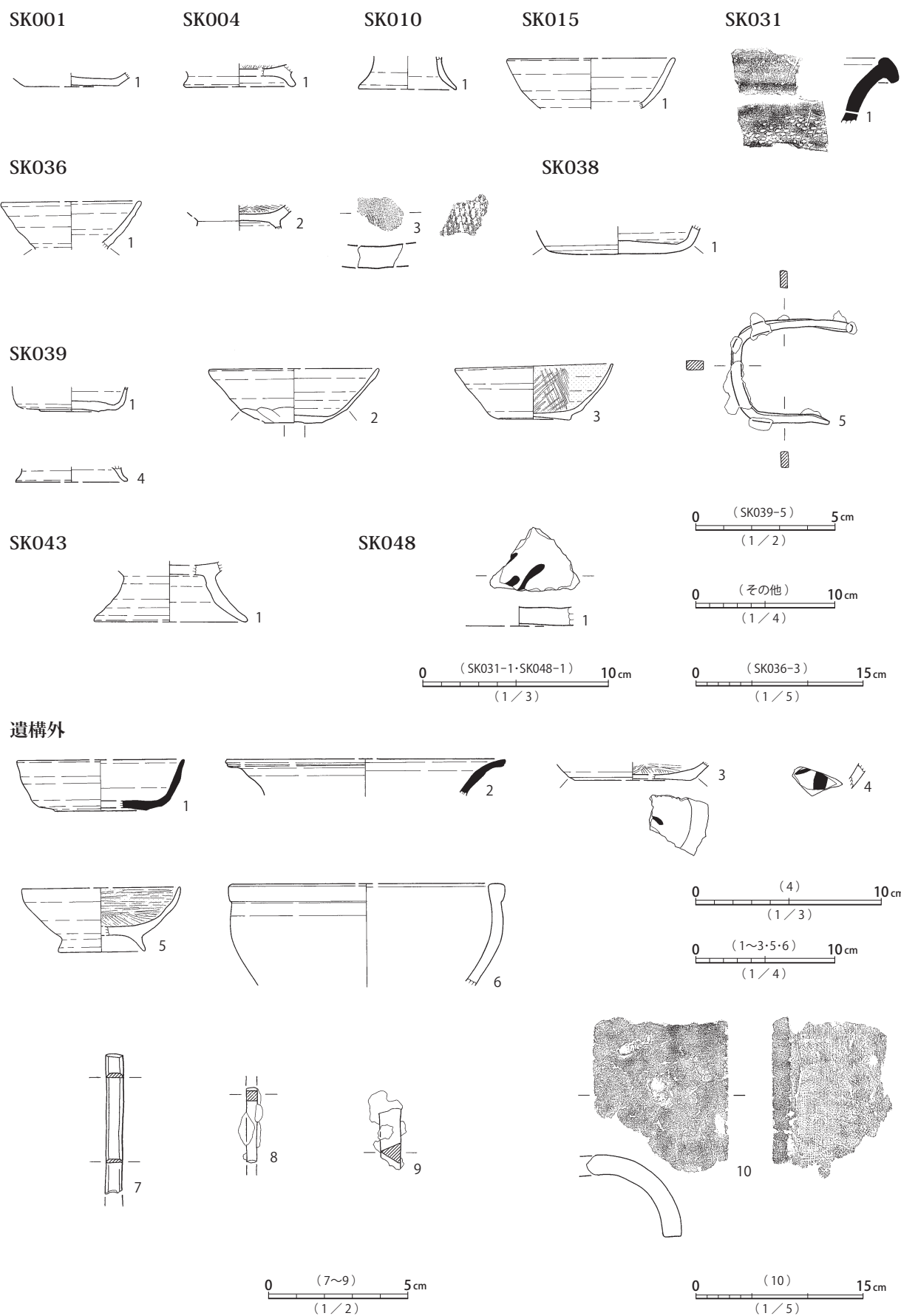
SK047



SK048



第46図 SK043～048 遺構



第47図 SK001・004・010・015・031・036・038・039・043・048、遺構外 遺物

4 まとめ

今回の調査では、竪穴建物跡11棟、掘立柱建物跡5棟、柵列跡2列、溝5条、土坑48基を検出した(第3図、第1～5表)。

縄文時代では、陥し穴であるSK047がつくられる。今回の調査で検出した縄文時代の遺構はこの1基のみであるが、稲荷台遺跡では縄文時代の陥し穴が数基ほど検出されており(浅利ほか2003)、希薄ながらも遺跡全体に縄文時代の遺構が存在しているものと思われる。

古墳時代終末期から奈良時代では、有天井土坑墓であるSK001・005・041・048や地下式坑であるSK006・043が展開しており、P地点周辺が墓域として利用されていたことがうかがえる。SK001・005・048は上層の竪穴建物よりも先行することから、これらがつくられた後に、一帯が墓域から集落へと変化したものと思われる。

A期(8世紀第3～4四半期)は、SI003・005が該当する。建物の主軸はほぼ真北を向き、土師器の非ロクロ系の杯が出土する。これらはP地点一帯が墓域から集落域へと変化した最初期の竪穴建物群と思われる。

I期(9世紀第1四半期)は、SI004Aが該当する。小規模の竪穴建物であり、攪乱が激しく不明な点も多い。主軸は竪穴建物群の中で唯一磁北に対して東側に振れている。

II期-a(9世紀第2四半期)はSI002、SB001・002、SA001・002が該当する。遺構は台地縁辺部を中心に位置する。SI002は竪穴中央に炉が付属し、製鉄関連遺物が出土するなど鍛冶工房と考えられる竪穴建物である。カマドの煙道には土師器の甕が構築材として使用され、竪穴拡張に伴う柱穴の移し替えがみられることなどから、長期間にわたり使用されていたものとみられる。SB002、SA001・002はSI002と軸向きがほぼ同一であり、SB001はSB002と平行もしくは移築の可能性が考えられる建物であることから、これらは鍛冶工房であるSI002と関連した施設と推測される。とくに、SB002はSI002が位置する西面に廂を有することから、関連性が深い建物と思われる。

II期-a～II期-b(9世紀第2～3四半期)はSI001BとSB003が該当する。遺構は台地縁辺部に位置する。SI001Bは製鉄関連遺物が出土することから、鍛冶工房の可能性はある。両者とも主軸方向がほぼ同一であり、関連性がうかがえる。これらは、II期-aのSI002とSB001・002と同様に、鍛冶工房とその関連施設という関係性が推測される。

II期-b(9世紀第3四半期)はSI001AとSI006が該当する。台地縁辺部に位置するSI001AはSI001Bの建替え後の建物であり、羽口や製鉄関連遺物が出土することから、鍛冶工房の可能性はある。SI006は墨書を有する灰釉陶器の皿や線刻を伴った土師器の杯が出土するなど、他の竪穴建物とは異なった要素を有している。建物の主軸方向は、SI001Aが磁北に対して西側に振れるのに対し、SI006はほぼ真北である。SI001Aは傾斜部につくられていることから、軸向きがやや振れているものと思われる。

III期-a(9世紀第4四半期)はSB004が該当し、SB005も含まれる可能性がある。竪穴建物はみられない。SB004は双堂建物の可能性があるB地区43号掘立柱建物跡(浅利ほか2003・須田2006)と隣接しており、軸向きも似通うことから、関連した建物の可能性がある。SB005はSB004の建替え後の建物とみられる。

III期-b(9世紀末～10世紀初頭)に該当する遺構はみられない。

IV期-a(10世紀第1四半期)はSI007とSI009が該当する。台地縁辺部に遺構がみられなくなり、
竪穴建物は台地中央側につくられる。両建物とも主軸は磁北に対して西側に振れている。

IV期-b(10世紀第2四半期)はSK039が該当し、SK010・036・038も属する可能性がある。これ
らは土坑墓と思われる。竪穴建物や掘立柱建物がみられなくなることから、P地点一帯はIV期-aを
もって集落としての機能が終わり、IV期-bから再度墓域へと変化したものと考えられる。

以上、P地点における遺跡の変遷について概観した。その中でもとくに注目されるのは、II期の鍛
冶工房と思われる竪穴建物跡と掘立柱建物跡の関係である。それぞれが別個の目的でつくられたと
は考えにくく、鍛冶工房と関連施設というような関係性の建物群であったと思われる。これらの建
物は台地縁辺部につくられ、建替えを繰り返しながら、鍛冶に関わる行為が行われていたものと推
測される。また、今回の調査では緑釉陶器は出土しなかった。このことから、稲荷台遺跡の西縁
辺にあたるP地点一帯は、E地区を中心とする官衙的祭祀空間とは異なり、国府関連遺跡の維持・管
理のための集落域であったと考えられる。

今回の調査によって、稲荷台遺跡の運営集落の一端について迫ることができた。今後は、調査の
進展を期待するとともに、今回の成果も踏まえた稲荷台遺跡の総合的な評価が必要になるものと思
われる。

参考文献

- 浅利幸一1987「市原市稲荷台遺跡(旧市原郡)」『房総における歴史時代土器の研究』房総歴史考古学研究会
浅利幸一2003「稲荷台遺跡時期区分と変遷」『市原市稲荷台遺跡』市原市教育委員会
浅利幸一ほか2003『市原市稲荷台遺跡』市原市教育委員会
小川浩一2008「稲荷台遺跡M地点」『平成19年度市原市内遺跡発掘調査報告』市原市教育委員会
小川浩一2014「稲荷台遺跡(L-2地点)・(L-3地点)」『平成25年度市原市内遺跡発掘調査報告』市原市教育委員会
小川浩一2020「稲荷台遺跡O地点」『令和元年度市原市内遺跡発掘調査報告』市原市教育委員会
小川浩一2020『市原市稲荷台遺跡O地点』市原市教育委員会
小川浩一2021「稲荷台遺跡Q地点」『令和2年度市原市内遺跡発掘調査報告』市原市教育委員会
木對和紀2017『市原市稲荷台遺跡L8地点』市原市教育委員会
近藤 敏2014「稲荷台遺跡(N地点)」『平成25年度市原市内遺跡発掘調査報告』市原市教育委員会
近藤 敏2015「稲荷台遺跡(L5地点)・(L6地点)・(L7地点)」『平成26年度市原市内遺跡発掘調査報告』市原市教育委員会
櫻井敦史2006「稲荷台遺跡K地点」『平成17年度市原市内遺跡発掘調査報告』市原市教育委員会
須田 勉2006「平安時代における国衙祭祀の一形態 ―千葉県稲荷台遺跡の検討―」『考古学の諸相Ⅱ 坂詰秀一先生古稀記念
論文集』坂詰秀一先生古稀記念会
高橋康男2007「稲荷台遺跡L地点」『平成18年度市原市内遺跡発掘調査報告』市原市教育委員会
田中清美2015『市原市稲荷台遺跡L1・L4地点』市原市教育委員会
鶴岡英一2000「稲荷台遺跡」『平成11年度市原市内遺跡発掘調査報告』市原市教育委員会
鶴岡英一ほか2016『上総国分僧寺跡Ⅱ』市原市教育委員会
中野喬介2021「稲荷台遺跡P地点」『令和2年度市原市内遺跡発掘調査報告』市原市教育委員会
牧野光隆2003「稲荷台遺跡」『平成14年度市原市内遺跡発掘調査報告』市原市教育委員会

第6表 出土土器・土製品・瓦・石器・石製品観察表

通稱 No.	図 No.	図 版 No.	注記	種別	器種	外面の特徴	内面の特徴	透存 度	焼成 度	器面色調	口徑	最大径	器高	底径	重量 (g)	胎土	産地 型式	備 考
S0001	1	6	18		甕	胴部平行タキ後、頸部横方向ナド。	無文当員痕上から胴部下位を斜め方向、胴部を横方向ナド。	1/5 未清	良好	10YR6/4 にぶい黄褐色ナド。	-	26.8?	-	-	(145.8)	白色小粒多量、石英細粒・細砂混じる。還元しない。	千歳産	反転復元。
S0001	2	6	18		甕	胴部下位を横方向ヘラケズリ。底部に窯記号あり。	無文当員痕上を横方向ナド。	1/5 未清	良好	2.5YR5/3 にぶい褐色ナド。	-	-	-	15.8?	(307.8)	白色細粒・長石小粒混じる。還元しない。	千歳産	一部復元。
S0001	3	6	18		甕	底部中央を円形、外周を円弧状に切り抜く。	底部ナド。	小片	普通	2.5YR5/3 にぶい褐色ナド。	-	-	-	-	(16.6)	石英小粒・細砂多量、白色小粒混じる。やや粗く硬い。	千歳産	
S0001	4	6	18		甕	体部ヘラナド。指環状痕付く。頸部横方向ナド。口唇部に沈み入る。	横方向ナド。	小片	良好	5YR6/6 褐色	-	-	-	-	(80.7)	白色細粒・石英細粒・角閃石混じる。硬い。		
S0001	5	6	18		土師器	胴部に輪郭が残る。胴部縦方向ヘラケズリ後、頸部横方向ナド。	ヘラ状工具で横方向ナド。	1/5 未清	良好	2.5YR6/6 褐色	20.2?	20.6?	-	-	(56.2)	褐鉄鉱中粒・白色細粒・石英細粒混じる。		反転復元。
S0001	9	6	18		土製品	作への接合部分のみ透存。襷縁跡消す。		小片	良好	19YR4/2 灰黄褐色	長さ (3.3)	最大径 (4.1)	厚さ (1.4)	-	(14.5)	白色細粒多量混じる。砂質で細い。		
S0001	10	6	18		石器	正面・裏面と片側面を磨る。上面・片側面に敲打痕。		小片	良好	5YR2/2 灰白	長さ 4.9	厚さ 2.7	-	-	62.2	結晶質凝灰岩。		
S0001A	1	6	18		灰釉陶器	長頸部。ヨコナド。折り返し口縁。灰釉。	ヨコナド。	小片	良好	5YR2/2 灰白	9.5?	-	-	-	(11.3)	微塵粒・白色小粒混じる。硬密。	猿投産	反転復元。
S0001A	3	6	18		灰釉陶器	短い頸。体部上位をヨコナド。	ヨコナド。	小片	良好	5YR4/4 にぶい赤褐色	-	-	-	-	(19.2)	白色細粒混じる。硬密。		
S0001A	4	6	18		須恵器	平行タキ。	当員痕上を丁寧に横方向ナド。	小片	良好	底：2.5Y6/1 黄灰 裏：2.5Y6/1 黄灰	-	-	-	-	(18.3)	微塵粒・白色中～小粒混じる。	猿投産	該軸系、No.3 と同一問題の可能性高い。
S0001A	5	6	18		須恵器	平行タキ。	同心円文状当員痕上を丁寧に横方向ナド。	小片	良好	底：2.5YR5/3 にぶい赤褐色 裏：2.5Y6/1 黄灰	-	-	-	-	(21.4)	微塵粒・白色中～小粒混じる。	猿投産	該軸系、No.4 と同一問題の可能性高い。
S0001A	6-1	6	18		須恵器	横方向ナド。折り返し口縁。	横方向ナド。降灰。	小片	良好	2.5Y3/1 オリーブ黒	-	-	-	-	(62.1)	白色小粒・細砂混じる。焼き締まる。	南比企産	
S0001A	6-2	6	18		須恵器	頸部横方向ナド。体部上位降灰。	横方向ナド。	小片	良好	2.5Y3/1 オリーブ黒	-	-	-	-	(132.9)	白色中～小粒・細砂混じる。焼き締まる。	南比企産	
S0001A	7	7	18		須恵器	胴部縦方向ヘラケズリ後、下位を横方向ヘラケズリ。	ヘラ状工具で斜方向ナド。	1/5 未清	良好	2.5YR5/6 明赤褐色	-	-	-	-	(86.2)	褐鉄鉱大～小粒・白色細粒混じる。	千歳産	
S0001A	9	7	18		土師器	杯	ヨコナド。	杯	普通	10YR7/3 にぶい黄褐色	13.4?	13.6?	(3.2)	9.5?	(14.9)	褐鉄鉱小粒多量、石英細粒混じる。		反転復元。
S0001A	10	7	18		土師器	杯	ヨコナド。底部から体部下位にかけて右回転ヘラケズリ。	1/5	良好	2.5YR7/6 褐色	15.7?	16.0?	4.5	8.9?	(52.5)	石英細粒・褐鉄鉱小粒混じる。骨針微塵混じる。		永田・不入根降灰。
S0001A	11	7	15		土師器	杯	ヨコナド。	3/4	良好	2.5YR7/6 褐色	12.9	13.1	3.9	6.0	(158.3)	白色小粒・石英細粒混じる。		反転復元。
S0001A	12	7	15		土師器	杯	ヨコナド。底部から体部下位にかけて右回転ヘラケズリ。	3/4	良好	2.5YR7/6 褐色	12.8?	13.0?	4.0	7.1	(116.0)	白色小粒・細砂混じる。硬い。		一部復元。
S0001A	13	7	18		土師器	杯	ヨコナド。口縁部が若干端反る。底部から体部下位にかけて右回転ヘラケズリ。	1/3	良好	2.5YR7/6 褐色	12.8?	13.0?	3.8	7.0?	(61.8)	白色小粒・褐鉄鉱中粒混じる。		反転復元。
S0001A	14	7	18		土師器	杯	ヨコナド。底部から体部下位にかけて右回転ヘラケズリ。	1/4	良好	2.5YR7/6 褐色	13.8?	14.0?	3.9	6.7	(60.0)	白色小粒・褐鉄鉱中粒・石英小粒混じる。		一部復元。
S0001A	15	7	18		土師器	杯	ヨコナド。底部から体部下位にかけて右回転ヘラケズリ。	1/5	普通	2.5YR5/3 にぶい褐色	13.0?	13.1?	(3.6)	7.9?	(21.1)	白色小粒多量、褐鉄鉱小粒・石英小粒・骨針微塵混じる。		反転復元。
S0001A	16	7	18		土師器	杯	体部ヨコナド。底部から体部下位にかけて右回転ヘラケズリ。	1/3	良好	2.5YR7/4 にぶい褐色	12.6?	12.8?	3.6	6.6	(60.8)	白色小粒多量、石英小粒混じる。骨針微塵混じる。		反転復元。
S0001A	17	7	15		土師器	皿	ヨコナド。底部中央に回転糸切痕が残る。	完形	良好	2.5YR7/6 褐色	13.7	13.9	2.8	6.0	160.0	白色小粒・骨針混じる。		
S0001A	18	7	18		土師器	皿	ヨコナド。底部から体部下位にかけて左回転ヘラケズリ。	1/5	普通	10YR6/4 にぶい黄褐色	13.8?	14.0?	2.0	7.0?	(36.4)	白色小粒・骨針混じる。		反転復元。
S0001A	19	7	18		土師器	皿	ヨコナド。口縁部がやや狭くナド稀める。底部から体部下位にかけて右回転ヘラケズリ。	1/5	良好	10YR7/4 にぶい黄褐色	14.0?	14.1?	2.2	7.2?	(22.8)	白色小粒混じる。角閃石微塵混じる。硬密。		反転復元。
S0001A	21	7	18		土師器	鉢	体部に高台を接合。高台は内面のヨコナド痕が顕著。	1/5 未清	良好	5YR6/6 褐色	-	-	(4.0)	-	(145.0)	白色中～小粒多量、石英小粒・細砂混じる。やや粗く硬い。		反転復元。
S0001A	22	7	18		土師器	甕	体部縦方向ヘラケズリ。頸部横方向ナド。	小片	良好	2.5YR5/4 にぶい褐色	19.8?	-	-	-	(28.5)	白色小粒多量、石英小粒混じる。骨針微塵混じる。		反転復元。
S0001A	23	7	18		土師器	小甕	体部縦方向ヘラケズリ後、頸部横方向ナド。口縁部をナド稀め、口唇部がやや玉縁状となる。体部に二次焼成による焼付着。	小片	普通	5YR5/4 にぶい赤褐色	14.0?	14.4?	-	-	(49.0)	白色小粒多量、褐鉄鉱中粒・石英小粒混じる。		反転復元。
S0001A	28	7	18		土製品	支脚	円錐状で、側面をヘラナド。下面は無調整。上面は穴堀。	1/2	良好	2.5Y7/4 浅黄	高さ 5.1	最大幅 (8.4)	飛行 4.9	-	(250.8)	白色小粒・褐鉄鉱小粒混じる。軟質。		
S0001A	29	7	18		土製品	土罐	横に粘土塊を付けて成型したと思われる。外面を軽くナド。	3/4	普通	10YR7/4 にぶい黄褐色	長さ 5.8	短径 2.0	厚さ 2.1	-	(21.7)	褐鉄鉱小粒・石英小粒・角閃石・骨針混じる。		
S0001A	30	7	18		瓦	丸瓦	上面：ナド調整。	小片	普通	2.5YR7/6 褐色	-	布長 (5.8 × 5.3)	-	-	(80.7)	褐鉄鉱中粒・石英細粒・細砂混じる。やや軟質で還元しない。		
S0001B	1	8	19		須恵器	杯	ヨコナド。底部から体部下位にかけて右回転ヘラケズリ。火傳入る。	1/5 未清	良好	2.5Y6/2 灰黄	12.4?	12.5?	3.4	8.9?	(20.3)	褐鉄鉱大～中粒少量、骨針微塵混じる。硬密。	永田・不入根 IV 期	反転復元。
S0001B	2	8	19		須恵器	杯	ヨコナド。口縁下位を強くヨコナドし、口縁部が端反り気味となる。底部から体部下位にかけて手持ちヘラケズリ。	1/4	良好	5YR4/6 赤褐色	16.1?	16.2?	4.1	9.0?	(66.0)	褐鉄鉱中粒・白色細粒・石英細粒混じる。	千歳産	反転復元。
S0001B	3	8	19		須恵器	甕	胴部平行タキ。	1/5 未清	良好	2.5Y7/1 灰白	-	-	-	-	(255.3)	白色小粒混じる。小礫微塵混じる。硬密。	湖西産	

遺構 No.	構 図 No.	注記	種別	器種	外面の特徴	内面の特徴	焼成 度	器面色調	寸法 (cm)			重量 (g)	胎土	産地 型式	備 考
									口径	最大径	器高	底径			
S1003	2	20	S3C4	須恵器	裏	構方向ナデ。	小片	良好	75YR4/1 褐灰	-	-	-	-	(203)	白色細粒多量、石灰細粒・褐鉄鉱小粒混じる。還元しない。
S1003	3	20	S3D3	須恵器	裏	底面から体部にかけて手持ちヘラケズリ。口縁部構方向ナデ。	小片	良好	75Y4/1 灰	1607	1627	3.07	13.97	(220)	白色細粒混じる。
S1003	4	20	17・713・7T一括×3・714×3	土師器	杯	底面から体部にかけて手持ちヘラケズリ。口縁部構方向ナデ。	3/4	良好	75YR5/6明褐	131	133	4.1	8.3	(112.9)	褐鉄鉱大～中粒、白色細粒混じる。骨針微量混じる。
S1003	5	20	S3B3Cベルト一括	土師器	杯	底面から体部にかけて手持ちヘラケズリ。口縁部構方向ナデ。	小片	良好	75YR6/4にぶい褐	1297	1317	-	-	(177)	白色細粒・褐鉄鉱混じる。
S1003	6	20	S1カマド1	土師器	杯	体部を手持ちヘラケズリ。口縁部構方向ナデ。	小片	良好	75YR6/6にぶい褐	-	-	-	-	(88)	白色細粒・褐鉄鉱中粒混じる。
S1003	7	21	S3B1一括×5	土師器	杯	ヨコナデ。底面回転ヘラケズリ。	1/5	普通	75YR6/4にぶい褐	-	-	8.47	(44.2)	(44.2)	白色細粒・褐鉄鉱小粒・細線混じる。
S1003	8	21	S3カマド8	土師器	杯	ヨコナデ。底面回転ヘラケズリ。	小片	普通	10YR7/4にぶい黄褐	1447	1457	3.6	10.87	(31.8)	褐鉄鉱小粒・白色細粒・石灰鉄鉱混じる。やや軟質。
S1003	9	21	7T1・7T2	土師器	杯	ヨコナデ。	小片	良好	5YR5/4にぶい赤褐	1307	1327	-	-	(203)	白色細粒多量、褐鉄鉱混じる。
S1003	10	21	7T5	土師器	杯	ヨコナデ。口縁部下位を強くナデ締め、端反り気味となる。	1/5	良好	75YR6/6にぶい黄褐	1247	1267	-	-	(165)	白色細粒多量、金華石微小少量混じる。
S1003	11	21	7T一括	土師器	皿	ヨコナデ。	1/5	良好	10YR6/4にぶい黄褐	1407	1427	-	-	(180)	白色細粒・石灰鉄鉱・細線混じる。
S1003	12	21	S3A2×2	土師器	裏	胴部直立し、口縁部を外反させる。頸部構方向ナデ後、胴部上位を構方向ヘラケズリ。	未測	良好	5YR5/6明赤褐	2097	-	-	-	(55.5)	褐鉄鉱大粒・白色小粒混じる。砂質でやや軟質。
S1003	13	21	7T6	土師器	裏	頸部の強い構方向ナデにより口縁部は直立気味となる。胴部縦方向ヘラケズリ。	小片	良好	5YR5/4にぶい赤褐	-	-	-	-	(19.9)	褐鉄鉱中粒・石灰鉄鉱混じる。
S1003	14	21	S3カマド7	土師器	裏	胴部縦方向ヘラケズリ。	小片	良好	5YR5/6明赤褐	-	-	-	-	(51.7)	褐鉄鉱中粒・白色細粒・石灰鉄鉱混じる。やや粗い。
S1003	15	21	S3カマド5	土師器	裏	底面右回転系切痕調整。胴部下方ヘラケズリ。	小片	良好	5YR4/3にぶい赤褐	-	-	-	-	(46.1)	褐鉄鉱中粒・石灰鉄鉱混じる。骨針微量混じる。
S1003	16	21	S3B6	土師器	裏	底面右回転系切痕調整。胴部下方ヘラケズリ。	小片	良好	75YR6/6にぶい黄褐	-	-	6.4	-	(128.4)	白色細粒・石灰小粒混じる。骨針微量混じる。
S1003	17	21	7T一括	土師器	皿	胴部下位を構方向ヘラケズリ。	小片	良好	75YR7/6にぶい黄褐	-	-	-	-	(12.8)	白色小粒混じる。
S1003	19	21	S3カマド3×2	瓦	平瓦	凸面：縄タタキ。掘りR。10条10股(5cm四方)。側面：彫形台座端が凸面側に1/3状に残る。	1/5	良好	2.5Y6/2黄	布長 (9.7)	1.9	-	-	(244.1)	褐鉄鉱大粒・白色小粒混じる。砂質でやや軟質。
S1004A	1	21	S5表土一括×2	須恵器	裏	胴部ヨコナデ。波状交差する。折り返し口縁、下方に突る。	1/5	良好	5Y5/1 灰	-	-	-	-	(144.7)	長石中粒多量、骨針混じる。焼き締まる。
S1004A	2	21	S5D区一括	須恵器	皿	全面平行タタキ。頸部構方向ナデ。胴部下に四角鍾状の突起を盛り付け。	小片	良好	75YR5/2灰褐	-	-	-	-	(49.1)	白色小粒・小線混じる。硬い。
S1004A	3	21	S518	土師器	杯	ヨコナデ。油煙痕付着。	小片	良好	75YR6/6にぶい黄褐	1607	1617	-	-	(14.5)	白色小粒・石灰・角閃石混じる。
S1004A	4	21	S516	土師器	杯	底面回転ヘラケズリによりやや丸みを帯びる。	1/5	良好	外面：7.5YR5/6明褐 内面：7.5YR4/1 灰	-	-	9.07	-	(33.0)	白色細粒多量、小線少量混じる。硬い。
S1004A	5	21	S5A区一括	土師器	杯	底面右回転系切痕調整。	小片	良好	5YR7/6 褐	-	-	-	-	(5.4)	褐鉄鉱中～小粒多量、白色小粒混じる。金華石微量混じる。やや軟質。
S1004A	6	20	15・17・20～25・カマド一括一括	土師器	裏	頸部に輪痕が残る。胴部下方ヘラケズリ後、頸部構方向ナデ。	1/5	良好	5YR5/6明赤褐	2527	2587	-	-	(808.2)	白色細粒多量、石灰鉄鉱混じる。やや粗い。
S1005	1	22	17 S616×2・21	須恵器	杯	ヨコナデ。底面回転ヘラケズリするが中央にわずかに回転系切痕残る。火槽痕あり。	1/2	良好	2.5YR1 灰白	1307	1317	3.6	8.97	(79.3)	白色小粒・細線混じる。軟質。
S1005	2	22	S6B・A区一括	須恵器	裏	全面平行タタキ。	小片	良好	N5Y 灰	-	-	-	-	(115.4)	白色小粒多量、褐鉄鉱中粒混じる。焼き締まる。
S1005	3	22	S6C区一括	須恵器	裏	平行タタキ。	小片	良好	灰：N3 暗灰 裏：7.5Y7/1 灰白	-	-	-	-	(14.1)	長石小粒混じる。
S1005	4	22	S67	須恵器	裏	全面平行タタキ。体部上位に反れる。	1/5	良好	75Y4/1 灰	-	-	-	-	(200.5)	長石中～小粒多量混じる。焼き締まる。
S1005	5	22	S6カマド体面一括・23・カマド内ドノ一括	土師器	杯	口縁部構方向ナデ。底面から体部にかけて手持ちヘラケズリ。	1/5	良好	5YR5/6明赤褐	1147	1167	4.2	6.87	(53.8)	白色細粒・石灰鉄鉱・褐鉄鉱中粒混じる。
S1005	6	22	S66×2・S6A区一括	土師器	杯	口縁部ヨコナデ。底面から体部にかけて手持ちヘラケズリ。	1/5	良好	75YR7/6 褐	1207	1227	3.3	8.47	(20.8)	褐鉄鉱中粒・白色小粒混じる。軟質。
S1005	7	22	S6A区一括・カマド一括・カマドソノ一括	土師器	裏	胴部構方向ナデ。胴部下方ヘラケズリ。	1/5	良好	5YR4/4にぶい赤褐	2287	2297	-	-	(60.7)	白色細粒・石灰鉄鉱・褐鉄鉱小粒混じる。
S1005	8	22	S632・A区一括・D区一括・カマド一括	土師器	裏	胴部構方向ナデ。胴部縦方向ヘラケズリ。	1/5	良好	75YR5/4にぶい褐	2287	-	-	-	(90.6)	石灰小粒多量、褐鉄鉱大～中粒・骨針混じる。
S1005	9	22	S69・24・25・30・D区一括・体面一括	土師器	裏	胴部構方向ナデ。胴部縦方向ヘラケズリ。	1/5	良好	5YR5/4にぶい赤褐	2207	2227	-	-	(217.0)	白色細粒・石灰鉄鉱・褐鉄鉱小粒混じる。
S1005	10	22	17・12・13・14・26・一括一括	土師器	裏	胴部下方ヘラケズリ。	1/5	良好	75YR4/2 灰褐	-	-	-	-	(458.2)	石灰小粒多量、小線混じる。やや粗い。
S1005	11	22	S617・20・カマド火床面一括	土師器	裏	胴部縦方向ヘラケズリ。	1/5	良好	75YR4/2 灰褐	-	-	-	-	(83.1)	石灰小粒多量、褐鉄鉱大～中粒混じる。粗い。
S1005	12	22	S636・38・40・S6A区一括×2	土師器	裏	胴部下方、下位を構方向ヘラケズリ。胴部下位に焼付着。	小片	良好	内面：7.5YR4/2 灰褐 外面：7.5YR7/4 にぶい黄褐	-	-	-	-	(49.8)	白色小粒・褐鉄鉱中粒混じる。
S1005	17	22	S610	土製品	転用体。蓋台付き及び底面中反を帯る。特に縁部は厚い。蓋の掘りが顕著。掘り面に灰色顔料付着(5YR5.0にぶい赤褐)。	ヨコナデ。見込みが揃る。	1/4	良好	10Y6/1 灰	-	-	8.6	(101.0)	(101.0)	白色小～細粒混じる。骨針微量混じる。硬密。
S1006	1	24	S41	灰釉陶器	皿	ヨコナデ。口唇部をやや折り返す。底面から体部下位にかけて回転ヘラケズリ後、高台を付け、接合部をヨコナデ。底面に「四方」を大小2列彫る。	ほぼ 完形	良好	2.5Y8/2 灰白	157	159	3.3	7.6	(229.0)	微黒粒・白色小粒混じる。硬密。
															須磨高台付杯を転用。

遺構 No.	図 No.	図 No.	注記	種別	器種	外面の特徴	内面の特徴	透存 度	焼成	器面色調	寸法 (cm)			重量 (g)	胎土	産地 型式	備考		
											口径	最大径	器高	底径					
S1006	2	24	22 S4.22・23	須臾器	甕	体部下位を横方向にヘラケズリ。 ヨコナデ。底部から体部下位にかけて回転ヘラケズリを施すが、底部中央に回転糸切隅が残る。底部に焼成前線刻。「大」が、底部から体部下位全体に油煙痕が付く。	ナデ。 ヨコナデ。口縁部から体部中央位にかけて全体に厚く油煙痕が付く。	1/5 未滿	良好 S1YR4/2 灰褐	良好 S1YR6/6 褐	-	-	-	14.6	(314.5)	白色小粒多量、石英小粒・褐鉄鉱大～小粒混じる。	千歳産	一部復元。	
S1006	3	24	17 S4.4-1×2.4-2×2.4・5 ・1・5-2×4.4・5・3・5-4 ×3・3・4・A区一括×3	土師器	杯	ヨコナデ。底部から体部下位にかけて右回転ヘラケズリ。一部に油煙痕付く。	ヨコナデ。見込み扁平。底部全面と体部の一部に油煙痕付く。	4/5 良好	良好 S1YR6/6 褐	良好 S1YR6/6 褐	14.7	14.8	4.9	7.9	(183.9)	白色細粒多量混じる。		反転復元。	
S1006	4	24	22 S4.18・21・24・39・47	土師器	杯	ヨコナデ。底部から体部下位にかけて右回転ヘラケズリ。	ヨコナデ。見込み扁平。底部全面と体部の一部に油煙痕付く。	1/4	良好 S1YR6/4 にぶい褐	良好 S1YR6/4 にぶい褐	13.3?	13.4?	4.0	7.3?	(128.9)	白色細粒・金雲母・骨針混じる。		反転復元。	
S1006	5	24	17 S4.26・27・A区細方一括・カマド一括	土師器	杯	ヨコナデ。底部から体部下位にかけて回転ヘラケズリ。	ヨコナデ。見込み扁平。	ほぼ 完形	良好 S1YR7/6 褐	良好 S1YR7/6 褐	13.4	13.6	4.0	6.2	(152.0)	白色小粒・石英細粒混じる。		反転復元。	
S1006	6	24	22 S4.35×2・29×2	土師器	杯	ヨコナデ。底部から体部下位にかけて回転ヘラケズリ。	ヨコナデ。	1/3	良好 S1YR7/6 褐	良好 S1YR7/6 褐	13.9?	14.0?	3.8	7.6?	(43.5)	白色細粒・褐鉄鉱小粒・金雲母細粒・骨針混じる。		反転復元。	
S1006	7	24	17 S4.14	土師器	杯	ヨコナデ。底部から体部下位にかけて右回転ヘラケズリ。	ヨコナデ。見込み境をやや強くヨコナデ。	ほぼ 完形	良好 S1YR6/6 褐	良好 S1YR6/6 褐	12.8	13.0	4.0	6.9	(171.1)	白色細粒・石英細粒混じる。		反転復元。	
S1006	8	24	22 S4.28×2・2・カマド一括	土師器	杯	ヨコナデ。底部から体部下位にかけて右回転ヘラケズリ。	ヨコナデ。	1/5	良好 S1YR6/6 褐	良好 S1YR6/6 褐	-	-	-	6.8?	(38.9)	白色細粒・石英細粒・骨針混じる。		反転復元。	
S1006	9	24	22 S4.9・A区一括	土師器	杯	ヨコナデ。底部から体部下位にかけて右回転ヘラケズリ。	ヨコナデ。	1/5	良好 S1YR6/6 褐	良好 S1YR6/6 褐	13.1?	13.3?	3.6	6.8?	(31.9)	白色細粒・褐鉄鉱小粒混じる。		反転復元。	
S1006	10	24	22 S4.41×2・2・42×2	土師器	杯	ヨコナデ。底部から体部下位にかけて右回転ヘラケズリ。	ヨコナデ。	1/5	良好 S1YR6/6 褐	良好 S1YR6/6 褐	12.8?	13.0?	4.2	6.0?	(36.0)	白色小粒・石英微粒混じる。		反転復元。	
S1006	11	24	17 S4.2-1×3・2・2・2・3・2-4	土師器	杯	ヨコナデ。底部から体部下位にかけて右回転ヘラケズリ。	ヨコナデ。見込み扁平。	4/5	良好 S1YR6/6 褐	良好 S1YR6/6 褐	12.6	12.7	3.8	7.1	(138.0)	白色細粒・石英微粒混じる。		反転復元。	
S1006	12	24	17 S4.3	土師器	杯	ヨコナデ。底部から体部下位にかけて右回転ヘラケズリ。	ヨコナデ。	ほぼ 完形	良好 S1YR6/6 褐	良好 S1YR6/6 褐	12.8	12.9	3.6	7.1	(144.6)	白色小粒・長石小粒・褐鉄鉱小粒・石英細粒・骨針混じる。		反転復元。	
S1006	13	24	17 S4.25×7・27	土師器	皿	ヨコナデ。底部から体部最下位にかけて右回転ヘラケズリ。油煙痕付着。	ヨコナデ。油煙痕付着。	ほぼ 完形	良好 S1YR6/6 褐	良好 S1YR6/6 褐	13.4	13.5	2.4	7.0	(155.6)	白色細粒・石英小粒・骨針混じる。		反転復元。	
S1006	14	24	17 13T一括	土師器	皿	ヨコナデ。口縁部下位を強くナデ締め。口唇部が鋭く外反気味となる。底部から体部下位にかけて右回転ヘラケズリ。	見込み丸く作る。全面ヘラミガキ。 胴部縦方向ナデ。	2/3	良好 S1YR6/6 褐	良好 S1YR6/6 褐	14.4	14.4	2.7	6.8	(112.5)	白色小粒多量、褐鉄鉱小粒・石英細粒混じる。硬い。		反転復元。	
S1006	15	24	22 S4.6×2・7×2	土師器	甕	胴部に輪縁が残る。胴部縦方向ヘラケズリ後、頸部横方向ナデ。口縁部直立気味。	胴部縦方向ナデ。	未滿	良好 S1YR5/3 にぶい赤褐	良好 S1YR5/3 にぶい赤褐	23.3?	23.5?	-	-	(128.9)	白色細粒・石英小粒混じる。やや粗い。		反転復元。	
S1006	16	24	22 S4.13・16・18・20・30・31・32・43・44・46・カマド一括・煙道一括	土師器	甕	胴部縦方向ヘラケズリ後、下位を横方向ヘラケズリ。胴部横方向ナデ。	胴部へラ状工具で横方向ナデ。	1/5 未滿	良好 S1YR5/4 にぶい赤褐	良好 S1YR5/4 にぶい赤褐	22.8?	23.0?	-	-	(290.7)	白色細粒多量、石英小粒混じる。やや粗い。		反転復元。	
S1006	17	24	22 S4.15・17×4	瓦	丸瓦	凸面・ナデ調整。右側面に沿って幅 11mm ほど深くヘラケズリ。	凸面・布目縁。その下に糸切縁。広端面に沿って幅 15mm ほど深くヘラケズリ。右側面に沿って幅 10mm ほど深くヘラケズリ。	1/5 未滿	良好 S1YR6/2 灰黄褐	良好 S1YR6/2 灰黄褐	広端幅 (13.7)	布長 (16.0×11.0)	2.2	2.2	(790.9)	白色細粒・小粒多量、骨針微量混じる。ザリザリした印象。	側面分類D、広端面分類B(範囲ほか2016)。	側面分類D、広端面分類B(範囲ほか2016)。	
S1007	1	28	22 S11.1	灰軸陶器類	杯	胴部下位を回転ヘラケズリ。高台貼り付け。	ヨコナデ。径 4cm 程度の隆起。	1/5 未滿	良好 2SY6/1 黄灰	良好 2SY6/1 黄灰	-	-	-	11.3?	(130.6)	微黒粒・白色小粒混じる。硬密。	猪牧産	反転復元。	
S1007	2	28	17 S11.1 カマド一括×7・S11.1 3×9	土師器	杯	ヨコナデ。口縁部下位をやや強くヨコナデ。底部右回転糸切縁無調整。	ヨコナデ。	2/3	良好 S1YR6/6 褐	良好 S1YR6/6 褐	12.8	12.9	4.1	6.2	(93.4)	褐鉄鉱大粒・白色細粒・石英小粒混じる。骨針微量混じる。		一部復元。	
S1007	3	28	22 S11.5	土師器	杯	ヨコナデ。底部右回転糸切縁無調整。油煙痕付着。	ヨコナデ。見込み境をやや強くヨコナデ。油煙痕付着。	1/4	良好 S1YR6/6 褐	良好 S1YR6/6 褐	-	-	-	6.3?	(55.7)	白色小粒・石英細粒・細礫混じる。角閃石微量混じる。		一部復元。	
S1007	4	28	17 S11.2×2・表土一括	土師器	小型杯	胴部下方向ヘラケズリ後、下位を斜方向ヘラケズリ。	胴部へラ状工具で横方向ナデ。	2/3	良好 S1YR5/4 にぶい赤褐	良好 S1YR5/4 にぶい赤褐	11.0?	11.2?	3.4	5.2	(77.8)	白色小粒・石英小粒混じる。		一部復元。	
S1007	5	28	22 S11.1 カマド一括×13・S11.1 細方一括	土師器	小型甕	胴部下方向ナデ。	胴部へラ状工具で横方向ナデ。	1/4	良好 S1YR4/4 にぶい赤褐	良好 S1YR4/4 にぶい赤褐	12.8?	14.0?	1.33	6.3?	(108.5)	白色小粒・石英細粒・細礫混じる。やや粗い。		反転復元。	
S1008	1	28	17 S7.12・14・15・16・18・19	土師器	杯	ヨコナデ。口縁部下位をやや強くナデ。底部から体部下位にかけて右回転ヘラケズリ。	ヨコナデ。口縁部をナデ、口唇部を尖らす。	1/2	良好 S1YR7/6 褐	良好 S1YR7/6 褐	12.6?	12.7?	3.1	8.6?	(56.7)	褐鉄鉱小粒多量、金雲母細粒混じる。骨針微量混じる。		反転復元。	
S1008	2	28	23 S7.13×2・カマド細方一括×3	土師器	杯	ヨコナデ。底部から体部中央位にかけて右回転ヘラケズリ。ヘラミを施す。黒色処理。ネズミ咬痕と思われる連続した傷あり。	ヨコナデ。口唇部をナデ、口唇部を尖らす。ヘラミを施す。黒色処理。ネズミ咬痕と思われる連続した傷あり。	1/4	良好 10YR7/4 にぶい黄褐	良好 10YR7/4 にぶい黄褐	16.8?	16.9?	5.0	7.3?	(46.1)	白色細粒・骨針多量混じる。		反転復元。	
S1008	3	28	23 S7.12 区一括	土師器	杯	ヨコナデ。口縁部を直立気味とする。口唇部を赤彩。ネズミ咬痕と思われる連続した傷あり。	ヨコナデ。口縁部を直立気味とする。口唇部を赤彩。ネズミ咬痕と思われる連続した傷あり。	1/4	良好 S1YR5/4 にぶい赤褐	良好 S1YR5/4 にぶい赤褐	13.5?	13.7?	-	-	(7.4)	白色小粒混じる。		反転復元。	
S1008	4	28	23 S7.2・3	土師器	蓋	ヨコナデ。中央部を回転ヘラケズリ。ツマミを貼り付けるが欠損。ネズミ咬痕と思われる連続した傷あり。	ヨコナデ。中央部を回転ヘラケズリ。ツマミを貼り付けるが欠損。ネズミ咬痕と思われる連続した傷あり。	1/4	良好 S1YR7/6 褐	良好 S1YR7/6 褐	16.4?	16.6?	(2.9)	-	(99.5)	白色小粒・細礫混じる。		反転復元。	
S1008	5	28	23 S7.1	土師器	甕	胴部に輪縁が残る。頸部横方向ナデ。胴部下方向ヘラケズリ。	ヨコナデ。頸部横方向ナデ。	未滿	良好 S1YR5/8 明赤褐	良好 S1YR5/8 明赤褐	19.8?	20.0?	-	-	(69.5)	褐鉄鉱中粒・石英細粒混じる。骨針・角閃石微量混じる。		反転復元。	
S1008	6	28	23 S7.4	土製品	転冒	平行タタキ。	同公円文状当肩直上を丁寧に横方向ナデ。硯としての使用により磨け、部分的に量が付着。	小片	良好 S1G/1 灰	良好 S1G/1 灰	箱径 10.6	箱径 9.6	0.8	-	(110.3)	白色小粒・細礫混じる。	東海産	須臾器腹を転用。	
S1008	7	28	23 S7.8 区一括	瓦	塀	表面ナデ調整。	表面ナデ調整。	小片	良好 S1YR5/1 地灰	良好 S1YR5/1 地灰	箱径 (3.1)	箱径 (3.1)	-	-	(16.3)	褐鉄鉱小粒・長石小粒・白色小粒・細礫混じる。砂っぽい。		鉄軸系。	
S1009	1	28	23 S12.5×2	須臾器	甕	平行タタキ。	丁寧な横方向ナデ。	1/5 未滿	良好 2SYR5/4 にぶい赤褐	良好 2SYR5/4 にぶい赤褐	-	-	-	-	(139.0)	白色小粒混じる。硬密。	猪牧産	鉄軸系。	
S1009	2	28	23 S12.2・3・8 区一括	土師器	甕	頸部横方向ナデ。胴部縦方向ヘラケズリ。	胴部横方向ナデ。胴部縦方向ナデ。	1/5 未滿	良好 S1YR6/6 褐	良好 S1YR6/6 褐	20.9?	-	-	-	(141.4)	褐鉄鉱小粒・長石小粒・白色細粒混じる。やや粗い。		反転復元。	
S1009	3	28	17 S12.4・8 区一括×6	土師器	台付甕	頸部胴部下位を横方向ヘラケズリ。台部ヨコナデ。	胴部へラ状工具で横方向ナデ。	1/5 未滿	良好 S1YR6/6 褐	良好 S1YR6/6 褐	-	-	-	-	8.3	(73.1)	白色小粒・細礫混じる。	武蔵型	
S8001	1	34	23 S8.27 3×2	土師器	杯	ヨコナデ。底部から体部下位にかけて右回転ヘラケズリ。	ヨコナデ。	1/4	良好 S1YR7/6 褐	良好 S1YR7/6 褐	12.4?	12.5?	3.7	6.5?	(61.4)	白色小粒多量、石英小粒・骨針含む。硬い。		反転復元。	
S8001	2	34	23 S8.27 2	土師器	杯	ヨコナデ。口縁部下位を強くナデ締め。底部右回転糸切縁無調整。	ヨコナデ。	1/4	良好 S1YR7/6 褐	良好 S1YR7/6 褐	12.1?	12.3?	3.8	7.2?	(55.5)	褐鉄鉱大～中粒・白色小粒・石英細粒・骨針混じる。		反転復元。	
S8002	1	34	17 S8.32 2・5	須臾器	杯	ヨコナデ。底部右回転糸切縁無調整。	ヨコナデ。見込み扁平。見込み境をやや強くヨコナデ。	1/3	良好 N4/1 灰	良好 N4/1 灰	11.7?	11.8?	4.0	6.5	(74.3)	白色細粒・骨針混じる。焼き締まる。	永田・不入IV 期	一部復元。	

遺構 No.	構 成 No.	注記	器種	器種 類別	外面の特徴	内面の特徴		焼成 度	器面色调	寸法 (cm)			重量 (g)	胎土	産地 型式	備 考	
						口径	最大径			器高	底径						
S8002	2	34	23	SK23 3	平行タタキ。	当鼻端上を丁寧に横方向にナデ、滑らかにする。赤色顔料付着。	小片 良好	25Y6/1 黄灰	-	-	-	-	(22.9)	微黒粒混じる。硬密。	湖西産	矢重ハレットに転用した可能性あり。	
S8002	3	34	23	SK39 3	平行タタキ。赤色顔料付着。	丁寧に横方向にナデ、滑らかにする。	小片 良好	75YR7/2 明褐灰 (顔料付着部)	-	-	-	-	(47.5)	白色細粒混じる。硬密。	湖西産	矢重ハレットに転用した可能性あり。	
S8002	4	34	17	SK39 4	ヨコナデ。底部から体部下位にかけて回転ヘラケズリ。底部に軸状の屈成前線跡。	ヨコナデ。見込み境をやや強くヨコナデ。	1/3 良好	75YR7/6 褐	120?	12.2?	3.9	7.5?	(67.4)	白色細粒・細鉄鉱中粒・骨針混じる。		反転復元。	
S8002	5	34	23	SK2 2	底部から体部下位にかけて回転ヘラケズリ。	ヨコナデ。見込み境をやや強くヨコナデ。	1/5 良好	10YR7/4 に近い黄褐	-	-	-	6.4	(58.3)	白色細粒混じる。骨針微量混じる。		反転復元。	
S8002	6	34	23	SK13	底部から体部下位にかけて回転ヘラケズリ。底部に「十」字状の屈成前線跡。	ヨコナデ。	1/5 良好	75YR7/6 褐	-	-	-	6.8?	(33.6)	小粒混じる。		反転復元。	
S8002	7	34	23	SK34 1一括	ヨコナデ。黒墨らしき痕跡を認めるが判断不能。	ヨコナデ。見込み扁平。	小片 良好	10YR7/6 明黄褐	-	-	-	-	(1.3)	白色小粒・細鉄鉱小粒混じる。		反転復元。	
S8003	1	34	23	SK33 2	底部右回転糸切無調整で体部下位を回転ヘラケズリ。	ヨコナデ。見込み扁平。	小片 良好	25Y7/1 灰白	-	-	-	8.2?	(27.7)	白色細粒多量。骨針混じる。		反転復元。	
S8003	2	34	23	SK37	頸部横方向ナデ。横指波状文入る。折り返し口縁。	横方向ナデ。	小片 良好	25Y5/1 黄灰	-	-	-	-	(37.3)	小粒・白色大粒・長石中粒混じる。	黒金子産		
S8003	3	34	23	SK31	回転ヘラ削り。口縁部ヨコナデ。全面灰釉施釉 (5Y7/2 灰白)。	ヨコナデ。口縁部の灰釉施釉 (10Y7/2 灰白)。	小片 良好	5YR2 灰白	127?	12.9?	1.6	12.0?	(18.0)	微黒粒・白色細粒混じる。硬密。		反転復元。	
S8003	4	34	23	SK33	底部から体部下位にかけて回転ヘラケズリ。	ヨコナデ。	1/5 未滿	5YR6/6 褐	-	-	-	8.0?	(39.0)	白色小粒多量、金雲母細粒微量混じる。		反転復元。	
S8003	5	34	23	SK39 9一括×4	ヨコナデ。	ヨコナデ。口縁部をやや強くナデ締める。	1/5 未滿	75YR7/6 褐	123?	12.5?	4.5?	-	(28.3)	白色小粒・細鉄鉱中～小粒・石英小粒混じる。		反転復元。	
S8003	6	34	17	SK3 6一括	ヨコナデ。底部手持ちヘラケズリをするが若干突出気味。底部に「本」か「巻」の墨書。	ヨコナデ。見込み扁平。	1/4 良好	5YR7/6 褐	15.9	16.0	2.9	7.0	(73.5)	細鉄鉱中粒多量、白色細粒混じる。やや軟質。			
S8003	7	34	23	SK3 5・PK 一括×2・P3 一括・S15・S16・S18 区一括	ヨコナデ。底部から体部下位にかけて左回転ヘラケズリ。	ヨコナデ。全面ヘラミガキ後、工具のヘラ先で溝巻状のナデ。黒色処理。	1/3 良好	5YR6/6 褐	17.4?	17.7?	3.5	7.2	(123.0)	細鉄鉱中粒多量、白色細粒・石英細粒混じる。		一部復元。	
S8004	1	34	23	SK41	ヨコナデ。底部左回転糸切無調整。	ヨコナデ。	1/5 未滿	75YR7/6 褐	-	-	-	5.8?	(21.5)	白色小粒・細鉄鉱中～小粒・石英小粒混じる。		反転復元。	
S8005	1	34	23	SK5 1一括	ヨコナデ。	ヨコナデ。	小片 良好	10YR4/2 灰黄褐	146?	14.7?	-	-	(10.3)	白色小粒混じる。		反転復元。	
S8005	2	34	23	SK41 一括・SK5 1一括	ヨコナデ。底部右回転糸切無調整。	ヨコナデ。見込み境をやや強くヨコナデ。	1/4 良好	10YR6/3 に近い黄褐	-	-	-	6.1	(45.9)	白色細粒多量、細鉄鉱小粒・石英細粒混じる。		一部復元。	
S8005	3	34	23	SK5 2	ヨコナデ。底部右回転糸切無調整。底部に墨書らしき痕跡を認めるが判断不能。	ヨコナデ。	1/4 良好	75YR6/6 褐	-	-	-	6.0	(50.1)	細粒・白色小粒多量、角閃石微量混じる。硬い。		一部復元。	
SA001	1	34	23	SA2 3一括×2	頸部ヨコナデ。肩距腕方向ヘラケズリ。	横方向ナデ。	小片 良好	5YR5/4 に近い赤褐	-	-	-	-	(13.0)	白色小粒多量混じる。やや粗く硬い。			
SD001	1	38	24	SD17	ヨコナデ。口縁部下位を強くナデ締める。	ヨコナデ。全面灰釉施釉。	小片 良好	25Y7/2 灰黄	14.9?	15.0?	-	-	(4.8)	微黒粒・白色小粒混じる。硬密。	猫投産 K-14 ～90		
SD001	2	38	24	SD18	平行タタキ。	同心円状当具痕。	小片 良好	5Y7/2 灰白	-	-	-	-	(14.3)	微黒粒・白色小粒混じる。	猫投産		
SD001	3	38	24	SD1 2	頸部横方向ナデ。折り返し口縁。	頸部横方向ナデ。	小片 良好	75Y3/1 オリーブ黒	-	-	-	-	(59.9)	白色大～中粒・小粒混じる。硬密。	北沢蔵産		
SD001	4	38	24	SD1 24	ヨコナデ。	ヨコナデ。	小片 良好	5YR6/6 褐	15.2?	15.3?	-	-	(15.3)	白色小粒多量、細鉄鉱中～小粒・骨針混じる。		反転復元。	
SD001	5	38	24	SD1 3・4	頸部縦方向ヘラケズリ。頸部を強くナデ締め、口縁部下面ができる。	頸部ヘラ状工具で横方向ナデ。	小片 良好	75YR6/4 に近い褐	19.9?	-	-	-	(30.5)	白色小粒多量、石英小粒・細粒混じる。やや粗い。		反転復元。	
SD001	6	38	24	SD1 21	平行タタキ。後面 1 面を磨る。	剥落顕著。	小片 普通	5YR4/3 に近い赤褐	長軸 3.6 短軸 3.7	厚さ 0.7	-	-	12.5	白色小粒多量、細鉄鉱大～小粒混じる。やや粗い。		千原須磨器壁を転用。	
SD002	1	38	24	SD2 8	平行タタキ。	丁寧に横方向ナデ。	小片 良好	25Y7/1 灰白	-	-	-	-	(18.4)	白色小粒混じる。硬密。	湖西産		
SD002	2	38	24	SD2 12	ヨコナデ。口縁部を中心に油煙痕付着。	ヨコナデ。口縁部を中心に油煙痕付着。	小片 良好	75YR6/6 褐	12.2?	12.4?	-	-	(5.5)	白色細粒・石英細粒混じる。		灯明用途。反転復元。	
SD002	3	38	24	SD2 9	底部から体部下位にかけて手持ちヘラケズリ。底部に油煙痕付着。	ヘラミガキ。黒色処理。見込みに油煙痕付着。	小片 良好	75YR4/2 灰褐	-	-	-	6.0?	(16.2)	白色小粒・石英細粒混じる。		反転復元。	
SD002	4	38	24	SD2 10	ヨコナデ。口縁部下位を強くナデ締める。体部下位を手持ちヘラケズリ。	ヘラミガキ。黒色処理。	小片 良好	10YR7/4 に近い黄褐	13.1?	13.2?	-	-	(15.0)	白色細粒・石英細粒混じる。骨針微量混じる。		反転復元。	
SD002	6	38	24	SD2 1 一括	正面・裏面・両側面を磨る。		1/3	5YR5/4 に近い赤褐	長径 (5.2) 短径 (2.3)	厚さ 3.6	厚さ 1.4	(49.6)	頁岩。				
SD002	7	38	24	SD2 1 一括	正面・裏面を磨る。		完形	5YR3 淡黄	長径 6.4 短径 3.0	厚さ 3.0	厚さ 1.4	27.2	流紋岩質凝灰岩。				
SD003	1	38	24	SD4 10	底部から体部下位にかけて回転ヘラケズリ後、高台貼り付け。境界をヨコナデ。高台部は断面三日月状を呈する。体部に灰釉施釉毛盃 (5Y6/3 オリーブ黄)。	ヨコナデ。4 × 2.5mm 木の炭道痕跡が認められる。全面灰釉施釉毛盃 (5Y6/3 オリーブ黄)。	1/5 未滿	良好	25Y7/2 灰黄	-	-	-	9.1?	(52.9)	微黒粒・白色小粒混じる。硬密。	猫投産 K-14 後半	
SD003	2	38	24	SD4 9	平行タタキ。	横方向ナデ。	小片 良好	25Y7/1 灰白	-	-	-	-	(28.9)	微黒粒・白色小粒混じる。硬密。	猫投産		
SD003	3	38	24	SD4 一括	平行タタキ。	無当具痕。	小片 普通	10YR5/3 に近い黄褐	-	-	-	-	(24.3)	金雲母小粒多量混じる。	新治産		
SD003	4	38	24	SD4 7	ヨコナデ。底部回転ヘラケズリ。	ヨコナデ。見込み扁平。口縁部付近に油煙痕付く。	1/5 未滿	良好	25Y7/1 灰白	12.3?	12.4?	2.8	9.0?	(16.5)	白色細粒混じる。やや軟質。	永田・不入 III～IV 期前半	
SK001	1	47	24	SK10 1一括	底部から体部下位にかけて回転ヘラケズリ。	ヨコナデ。	1/5 未滿	良好	5YR6/6 褐	-	-	-	6.6?	(18.0)	白色小粒・細鉄鉱小粒・金雲母細粒混じる。		反転復元。
SK004	1	47	24	SK28 3	高台貼り付け。ヨコナデ。	ヘラミガキ。黒色処理。	小片 良好	75YR4/3 褐	-	-	-	7.7?	(14.3)	白色細粒・骨針混じる。		反転復元。	
SK010	1	47	24	SK35 一括	頸部ヨコナデ。	頸部ヨコナデ。	小片 良好	5YR6/6 褐	-	-	-	7.0?	(6.4)	白色小粒・石英小粒混じる。硬密。		反転復元。	
SK015	1	47	24	SK74 一括×2	ヨコナデ。一部油煙痕付く。	ヨコナデ。一部油煙痕付く。	小片 良好	75YR6/4 に近い褐	11.9?	12.0?	-	-	(25.6)	白色細粒・細粒混じる。		反転復元。	
SK031	1	47	24	SK34 2	折り返し口縁。頸部屈曲状文入る。	横方向ナデ。	小片 良好	25Y7/1 灰白	-	-	-	-	(25.9)	微黒粒・白色小粒混じる。硬密。	猫投産		
SK036	1	47	24	SK18 一括	小型杯	ヨコナデ。	1/5 未滿	良好	75YR7/6 褐	9.8?	10.0?	-	(13.0)	白色小粒・細粒混じる。		反転復元。	
SK036	2	47	24	SK18 一括	高台貼り付け。	ヘラミガキ。黒色処理。	1/5 未滿	良好	10YR6/6 明黄褐	-	-	-	(45.1)	白色小粒・骨針混じる。		一部復元。	

遺構 No.	構 成 No.	図 版 No.	注 記	種別	器種	外面の特徴	内面の特徴	遺存 度	焼成 度	器面色调	寸法 (cm)			重量 (g)	胎土	産地 型式	備 考	
SK036	3	47	24	SK18一括	瓦	凸面：縄タタキ。擦し、10条8筋(5cm四方)。 ヨコナデ。底部から体部下位にかけて回転ヘラクスリ により、ややれを帯びる。	凹面：布目鹿。経糸14本、緯糸16本(2cm四方)。	小片 良好	10R6/1 褐灰	-	底径	器高 中笠原 2.0 (3.0×3.8)	-	(38.5)	白色細粒混じる。ザリザリした感じ。	村田川系胎土		
SK038	1	47	24	SK771	土師器	ヨコナデ。底部から体部下位にかけて手持ちヘラクス リ調整するが、底部中央に反回転糸状の痕残る。	ヨコナデ。見込み扁平。	1/4	良好	5YR6/6 橙	-	-	-	10.27	白色小粒・石英小粒多量、小礫混じる。硬い。		一部復元。 永田・不入機敏系。	
SK039	1	47	24	SK751一括×2	土師器	ヨコナデ。底部右転系切底無調整。	ヨコナデ。見込み境をややくヨコナデ。	1/4	良好	5YR6/6 橙	-	-	-	6.8	白色細粒・石英細粒混じる。骨針微量混じる。硬い。		一部復元。	
SK039	2	47	24	SK754・5	土師器	ヨコナデ。底部から体部下位にかけて手持ちヘラクス リ調整するが、底部中央に反回転糸状の痕残る。	ヨコナデ。	1/5	良好	5YR5/3にぶい赤褐	12.07	3.8	4.1	(32.1)	白色小粒→細粒・石英細粒混じる。		反転復元。	
SK039	3	47	17	SK753	土師器	ヨコナデ。底部右転系切底無調整。	ヨコナデ。底部に墨書あるがほとんど遺存せず判読 ヘラミガキ。	劣形 良好	10R7/4にぶい黄褐	11.2	11.4	4.1	5.1	106.8	白色細粒・細粒缸中粒・石英細粒混じる。		反転復元。	
SK039	4	47	24	SK75一括	土師器	高台貼り付け。	高台貼り付け。	小片 良好	5YR7/6 橙	-	-	-	-	7.97	白色細粒・石英細粒・骨針混じる。		反転復元。	
SK043	1	47	24	SK8一括	土師器	胴部ヨコナデ。	胴部ヨコナデ。	小片 良好	5YR5/6 明赤褐	-	-	-	-	10.87	白色小粒・骨針混じる。		反転復元。	
SK048	1	47	24	SK68一括	土師器	底部右転系切底無調整。	ヨコナデ。墨書あるが判読不能。 ヨコナデ。底部右転系切底無調整。火焼入る。	小片 良好	10R7/4にぶい黄褐	-	-	-	-	(14.0)	細粒缸中粒、白色小粒混じる。		永田・不入 IV 明	
遺構外	1	47	24	ゼン体一括2	須恵器	ヨコナデ。底部右転系切底無調整。火焼入る。	ヨコナデ。見込み境を強くヨコナデする。	1/2	良好	2.5Y6/1 黄灰	11.87	3.4	6.47	(51.9)	白色細粒・骨針混じる。		反転復元。	
遺構外	2	47	24	全体一括	須恵器	ヨコナデ。口唇部に浅い沈線入る。 底部右転系切底無調整。体部下位を幅狭く1段の回転 ヘラクスリ。底部に墨書あるがほとんど遺存せず判読 不能。	ヨコナデ。陶灰。	小片 良好	2.5Y7/2 灰黄	19.87	12.07	-	-	(22.9)	微黒粒・白色細粒混じる。硬密。		焼成確	
遺構外	3	47	24	SK66一括	土師器	底部右転系切底無調整。体部下位を幅狭く1段の回転 ヘラクスリ。底部に墨書あるがほとんど遺存せず判読 不能。	ヘラミガキ。	小片 良好	5YR5/6 明赤褐	-	-	-	-	8.27	白色小粒・細粒缸中粒混じる。硬い。		反転復元。	
遺構外	4	47	24	ゼン体一括	土師器	ヨコナデ。	ヨコナデ。墨書があるがほとんど遺存せず判読不能。 ヨコナデ。高台貼り付け。	小片 良好	5YR6/6 橙	-	-	-	-	(1.5)	白色細粒・骨針混じる。			
遺構外	5	47	24	ゼン体一括1	土師器	小笠原	ヨコナデ。高台貼り付け。	1/2	良好	7.5YR6/4にぶい黄	11.27	11.47	4.6	6.27	(40.3)	白色細粒・骨針混じる。		反転復元。
遺構外	6	47	24	2T一括×2	土師質土 器	口縁部をタガ状に欠く作る。ヨコナデ。	横方向ナデ。	1/5	良好	5YR6/6 橙	19.17	19.87	-	-	(71.5)	金雲母小粒多量混じる。		中・近世
遺構外	10	47	24	全体一括	瓦	凸面：ナデ調整。	凹面：布目鹿。経糸12本、緯糸12本(2cm四方)。 右側面との境を幅6mmほどヘラクスリ。	未測	良好	2.5Y6/1 黄灰	-	布長 (13.5×8.0)	-	(44.57)	白色小粒→細粒多量、小礫混じる。粗くザリザリし た印象。	村田川系胎土	側面分類B(側面ほか 2016)。	

第7表 出土鉄製品観察表

遺構 No.	図 版 No.	注 記	種別	名 称	遺存状態	特 徴	寸 法 (cm)		重量 (g)	備 考
S1001	6	18	S12ADベルト2	鉄	錆	錆割れ(切先・刃の一部遺存)	長軸	短軸	厚さ	
S1001	7	18	S12BCベルト一括	鉄	板状製品	剥落	(3.9)	(1.1)	(0.4)	(3.2)
S1001	8	18	新道徳館跡し中出土	鉄	釘	錆割れ(部分)	(2.4)	(2.1)	(0.2)	(1.6)
S1001	11	18	S12ABベルト一括	鉄	釘	細かく剥落	(5.0)	1.2	1.1	(6.4)
S1001A	24	7	18	S12 カマド1ー1	鉄	釘	3.1	0.5	0.3	1.1
S1001A	25	7	18	S12 カマド1ー2	鉄	釘	(2.9)	(0.4)	(0.3)	(1.5)
S1001A	26	7	18	S12ADベルト3	鉄	釘	(2.4)	(0.5)	(0.5)	(2.0)
S1001A	27	7	18	S12C60	鉄	釘	(2.7)	(0.4)	(0.4)	(2.5)
S1001B	12	8	19	S12CDベルト6	鉄	刀子	(7.5)	(0.8)	0.4	(5.6)
S1001B	13	8	19	S12 壁面下(E区)3	鉄	鋸銚	8.5	5.0	2.2	14.50
S1001B	14	8	19	S12D区51	鉄	棒状物?	(4.3)	1.9	0.2	(4.9)
S1002	51	16	20	S18D一括	鉄	鋸	(7.9)	(0.7)	(0.6)	(9.2)
S1002	52	16	20	S18B41	鉄	刀子	(9.9)	1.6	0.3	(13.4)
S1002	53	16	20	S11 45	鉄	鋸銚	7.9	3.6	1.6	10.55
S1002	54	16	20	S11 10	鉄	棒状製品	(10.6)	0.7	0.7	(17.1)
S1002	55	16	20	S18 サブプレート一括	洋銅	鉄塊系遺物	2.1	1.5	1.3	7.7
S1002	56	16	20	S18D	洋銅	鉄塊系遺物	2.9	2.5	1.6	17.3
S1002	57	16	20	S18D4	洋銅	棒形滓	(7.4)	(4.4)	(1.7)	(88.9)
S1002	58	16	20	S18B41	洋銅	棒形滓	(6.4)	(5.3)	(2.2)	(92.0)
S1003	18	20	21	T7トレ10	鉄	刀子	(5.4)	(1.1)	(0.5)	(7.7)
S1004A	7	20	21	T8トレ1	鉄	刀子	(3.5)	(0.8)	(0.4)	(3.0)
S1004A	8	20	21	T8トレ2	鉄	刀子	(4.0)	1.0	0.3	(3.0)
S1005	13	22	22	S61 カマドの西脇	鉄	刀子	(12.0)	1.3	0.4	(11.8)
S1005	14	22	22	S63 フカ土中層	鉄	刀子	(4.0)	(0.5)	(0.3)	(2.7)
S1005	15	22	22	S62 フカ土上層	鉄	釘	(9.2)	1.0	0.9	(43.7)
S1005	16	22	22	S66 廃土35	鉄	釘	(1.4)	(0.5)	(0.3)	(1.1)
S1007	6	22	S111 カマド1ノウ44	洋銅	鋸造別片×4	錆割れ	3.5	2.9	0.3	6.2
S1002	8	34	23	SK39.2	鉄	板状製品	2.7	2.4	2.9	(15.0)
S1002	5	38	24	S021一括	洋銅	鉄塊系遺物	(2.9)	(0.4)	(0.3)	(2.3)
S1003	5	38	24	S04.2	鉄	釘	2.9	1.6	1.0	4.9
S1010	2	24	SK35一括	洋銅	滓	滓	4.3	3.7	0.6	8.7
S1039	5	47	24	SK75.2	鉄	帯金具	(5.0)	(0.6)	(0.2)	(3.2)
遺構外	7	47	24	全体一括	鉄	板状製品	(2.8)	(0.4)	(0.4)	(1.7)
遺構外	8	47	24	全体一括	鉄	部分遺存				
遺構外	9	47	24	全体一括	鉄	錆割れ(顕著)	(2.9)	(0.7)	(0.6)	(4.2)

第8表 出土種子観察表

遺構 No.	図 版 No.	注 記	種類	備 考
S1001	12	18	S12CDベルト一括	樹核
S1001	13	18	S19一括	樹核
S1002	65	20	S17 9	樹核
S1002	66	20	S11 一括	樹核
S1002	67	20	S18一括	樹核
S1002	68	20	S18一括	樹核
S1002	69	20	S18一括	樹核

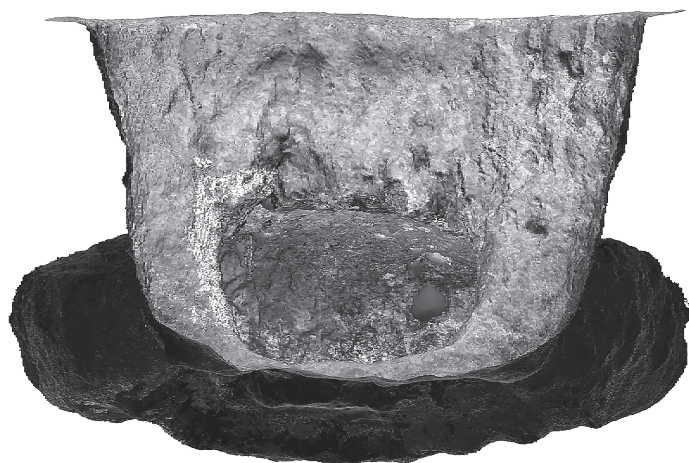


写真図版

稻荷台遺跡周辺航空写真(昭和36年撮影)



調査区全体 3 次元データ (オルソ画像)



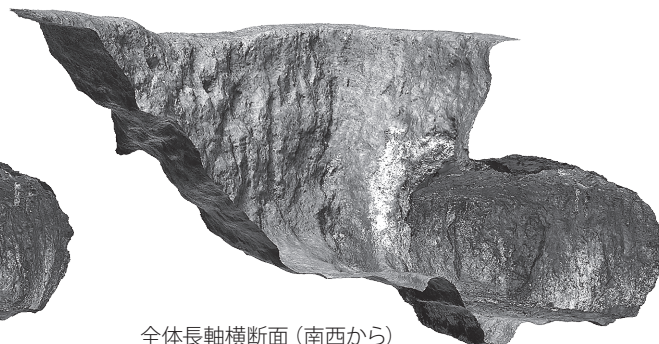
竪坑横断面・玄門（西から）



全体（北東から）



全体長軸横断面（南から）



全体長軸横断面（南西から）

SK043 3次元データ（オルソ画像）



SI001A・001B・002・003 確認状況（東から）



SI001A・001B 土層断面（西から）



SI001A 遺物出土状況（西から）



SI001A カマド土層断面（東から）



SI001A カマド袖検出状況（東から）



SI001B 床面検出状況（北から）



SI001B 北東隅遺物出土状況（東から）



SI001B 調査区際遺物出土状況（北から）



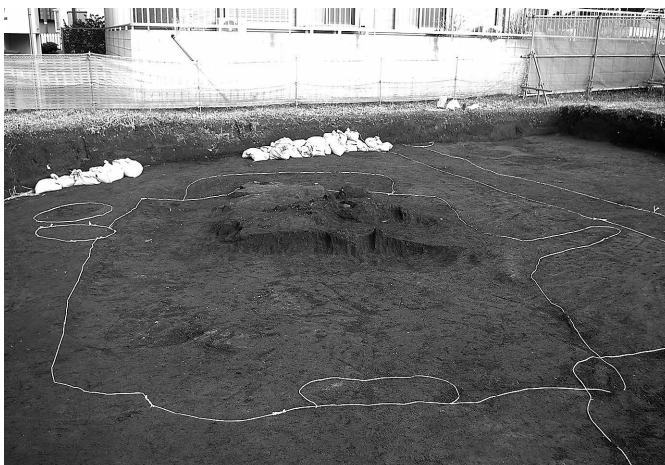
SI001B 遺物 13 出土状況（北から）



SI001 P4 土層断面（南から）



SI001A・001B 完掘状況（北から）



SI002 確認状況（南から）



SI002 土層断面 (東から)



SI002 P9 検出状況 (南から)



SI002 北カマド袖検出状況 (南から)



SI002 北カマド煙道検出状況 (西から)



SI002 北カマド煙道検出状況 (南東から)



SI002 北カマド煙道検出状況 (東から)



SI002 東カマド袖検出状況 (西から)



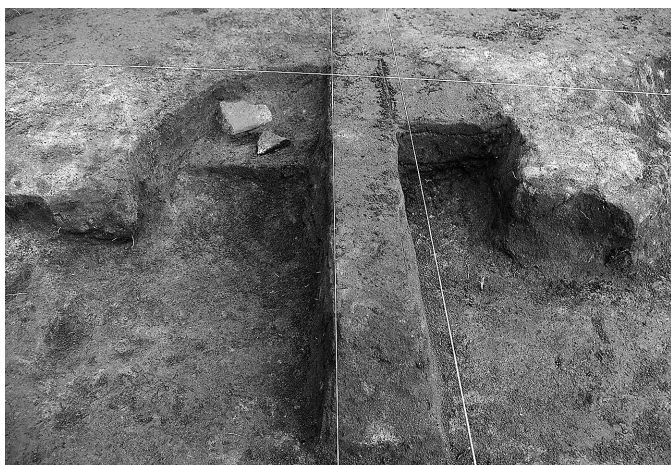
SI002 東カマド完掘状況 (西から)



SI002 完掘状況 (北西から)



SI003 床面検出状況 (南東から)



SI003 カマド土層断面 (南から)



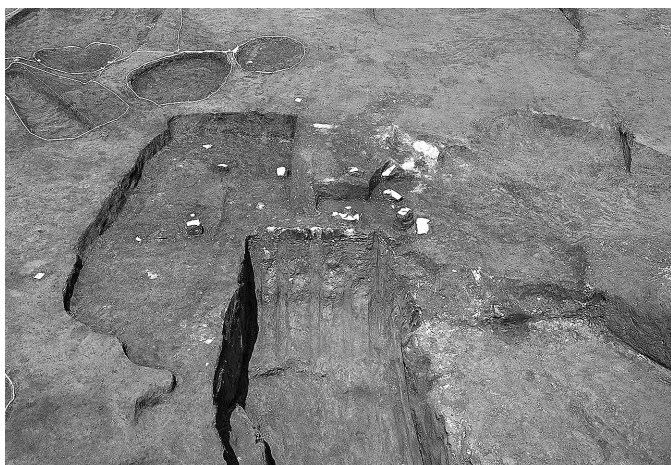
SI003 カマド袖検出状況 (南から)



SI001A・001B・002・003 完掘状況 (北西から)



SI004A・004B・005 確認状況 (南から)



SI004A 遺物出土状況 (南から)



SI004A カマド袖検出状況 (南西から)



SI004A 完掘状況 (南から)



SI004B 完掘状況 (北から)



SI005 焼土・遺物出土状況 (南から)



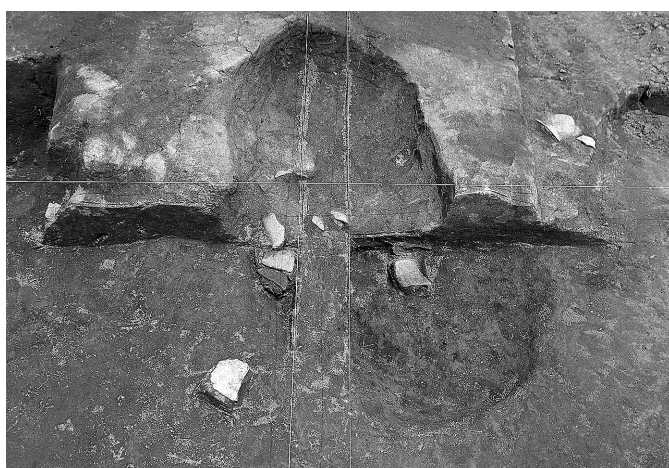
SI005 遺物 17 出土状況 (北西から)



SI005 カマド袖検出状況 (南から)



SI005 カマド煙道遺物出土状況 (南から)



SI005 カマド土層断面 (南から)



SI005 完掘状況 (南から)



SI006・007、SK043 確認状況（南西から）



SI006 土層断面・遺物出土状況（南東から）



SI006 遺物 1 出土状況（南から）



SI006 遺物 3 出土状況（東から）



SI006 カマド袖検出・カマド煙道上層遺物出土状況（南西から）



SI006 カマド煙道中層遺物出土状況（南西から）



SI006 遺物 4・5・8・13 出土状況（東から）



SI006 カマド土層断面（南から）



SI006 カマド煙道下層遺物出土状況 (南から)



SI006 完掘状況 (南から)



SI007 土層断面 (西から)



SI007 遺物出土状況① (南から)



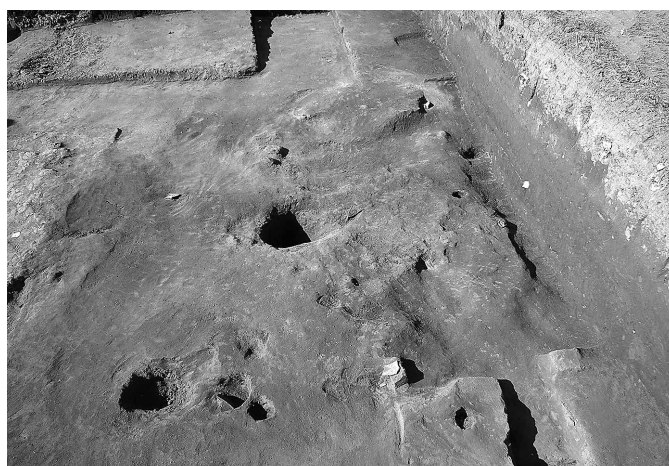
SI007 遺物出土状況② (南から)



SI008・009 確認状況 (北東から)



SI008 土層断面 (西から)



SI008 遺物出土状況 (南から)



SI008 カマド袖検出状況 (南から)



SI008、SK046 完掘状況 (南から)



SI009 土層断面 (西から)



SI009 遺物出土状況 (南西から)



SI009、SK048 完掘状況 (南から)



SI008・009 完掘状況 (北東から)



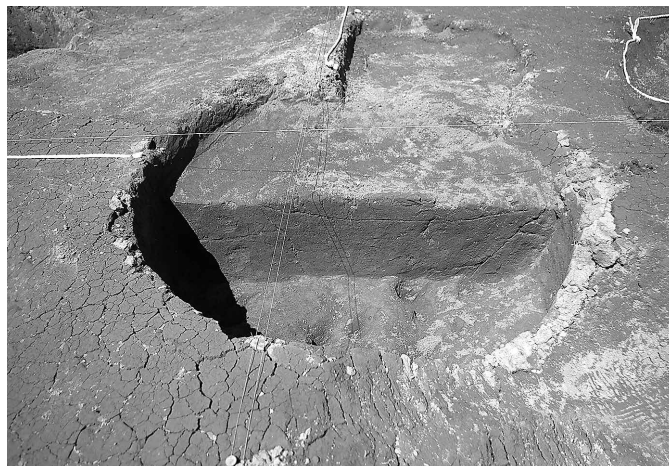
SB001 検出状況 (西から)



SB001 P4 土層断面 (南から)



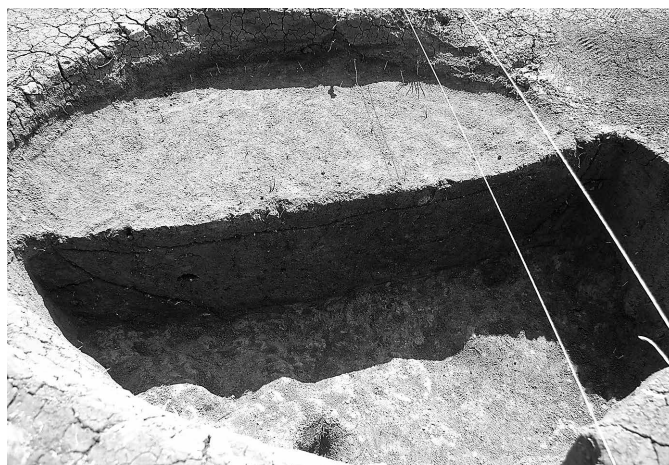
SB001 完掘状況 (南東から)



SB002 P1 土層断面 (東から)



SB002 P3 土層断面 (東から)



SB002 P7 土層断面 (西から)



SB002 P10 遺物出土状況 (西から)



SB002 完掘状況 (南から)



SB003 P4 土層断面 (北から)



SB003 P6 遺物出土状況 (西から)



SB003 P9 土層断面 (南から)



SB003 P9 遺物出土状況 (南から)



SB003 完掘状況 (南から)



SB001 ~ 003, SA001 ~ 002 完掘状況 (南から)



SB004 P1 ~ 005 P1 遺物出土状況 (北から)



SB004 P1 ~ 005 P1 土層断面 (北から)



SB004 ~ 005 完掘状況 (北から)



SK001 完掘状況 (北西から)



SK005 完掘状況 (西から)



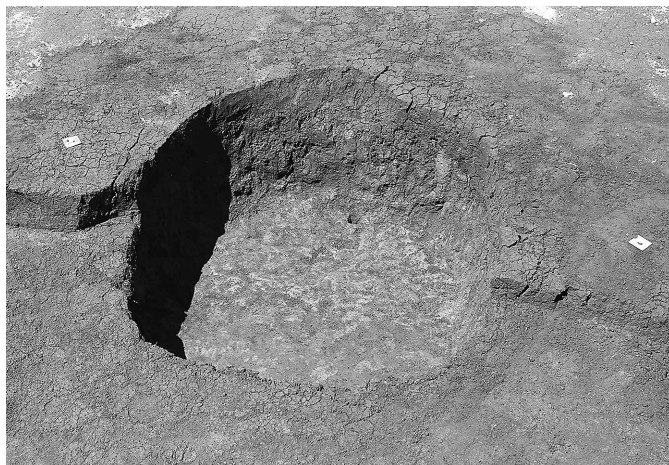
SK006 完掘状況 (北から)



SK010 土層断面 (南から)



SK036 土層断面 (東から)



SK036 完掘状況 (東から)



SK039 土層断面 (西から)



SK039 遺物出土状況 (北から)



SK039 遺物 1・3・5 出土状況 (北西から)



SK039 完掘状況 (南から)



SK041 土層断面 (西から)



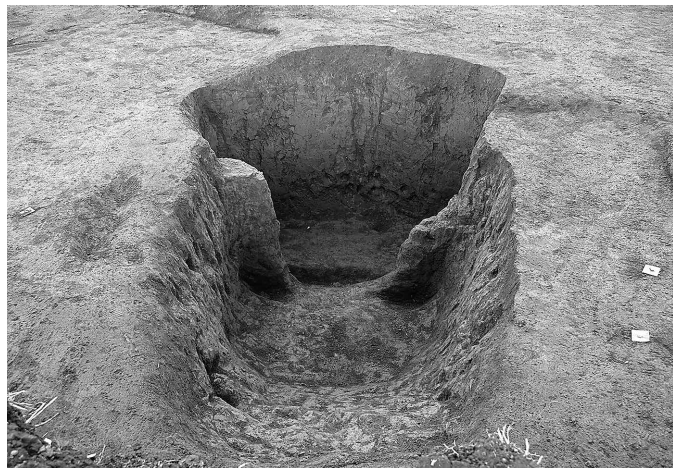
SK041 完掘状況 (南西から)



SK043 竪坑土層断面 (北から)



SK043 竪坑・玄門 (南西から)



SK043 主室天井除去状況 (西から)



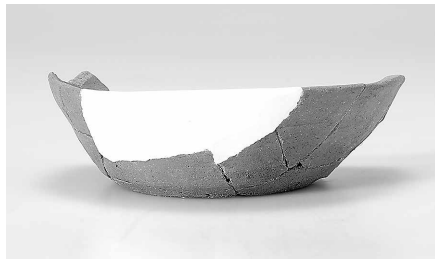
SK043 主室天井除去状況 (北から)



SK047 完掘状況 (西から)



SI001A-11



SI001A-12



SI001A-17



SI001B-6



SI001B-7



SI001B-8



SI001B-16



SI001B-11



SI002-2



SI002-3



SI002-8



SI002-11



SI002-12



SI002-13



SI002-14



SI002-15



SI002-16



SI002-17



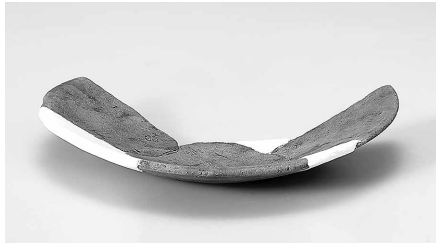
SI002-18



SI002-20



SI002-22



SI002-23



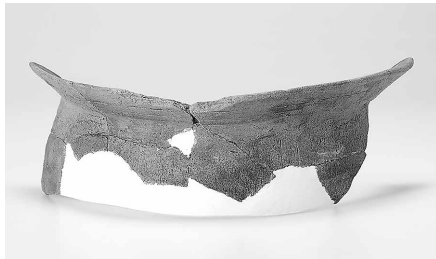
SI002-25



SI002-27



SI002-28



SI002-29



SI002-31



SI002-34



SI002-35



SI002-36



SI002-37



SI002-38



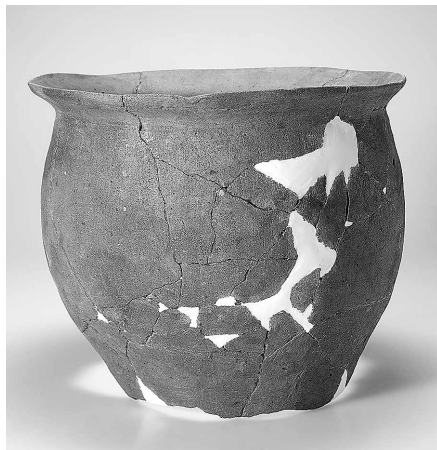
SI002-39



SI002-40



SI002-41



SI002-43



SI002-49



SI003-4



SI005-1



SI006-1



SI006-3



SI006-5



SI006-7



SI006-11



SI006-12



SI006-13



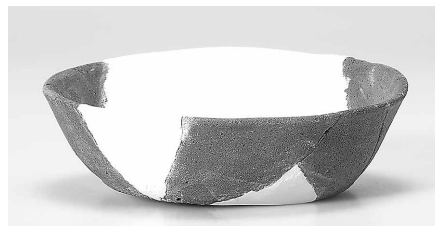
SI006-14



SI007-2



SI007-4



SI008-1



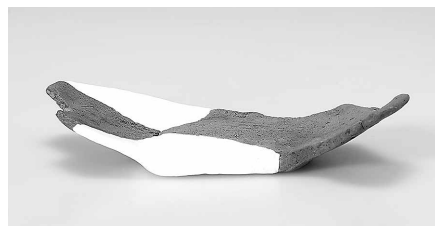
SI009-3



SB002-1



SB002-4



SB003-6

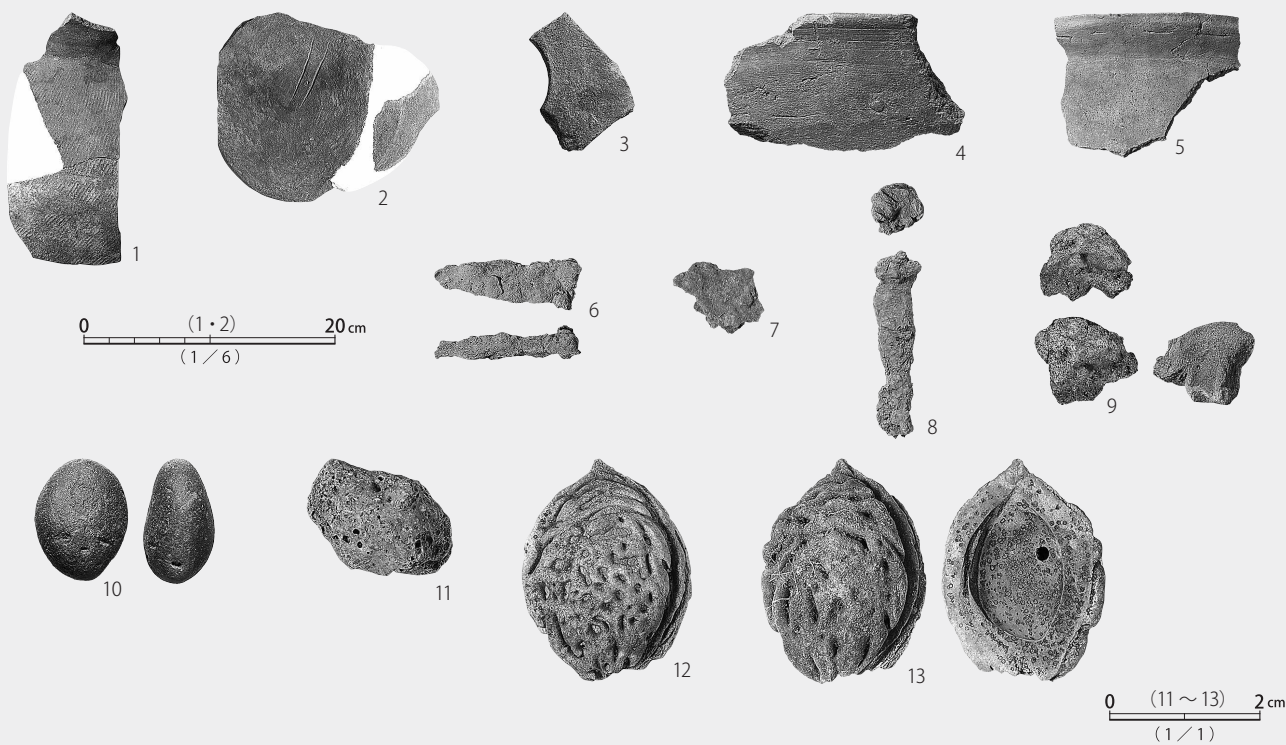


SB003-7

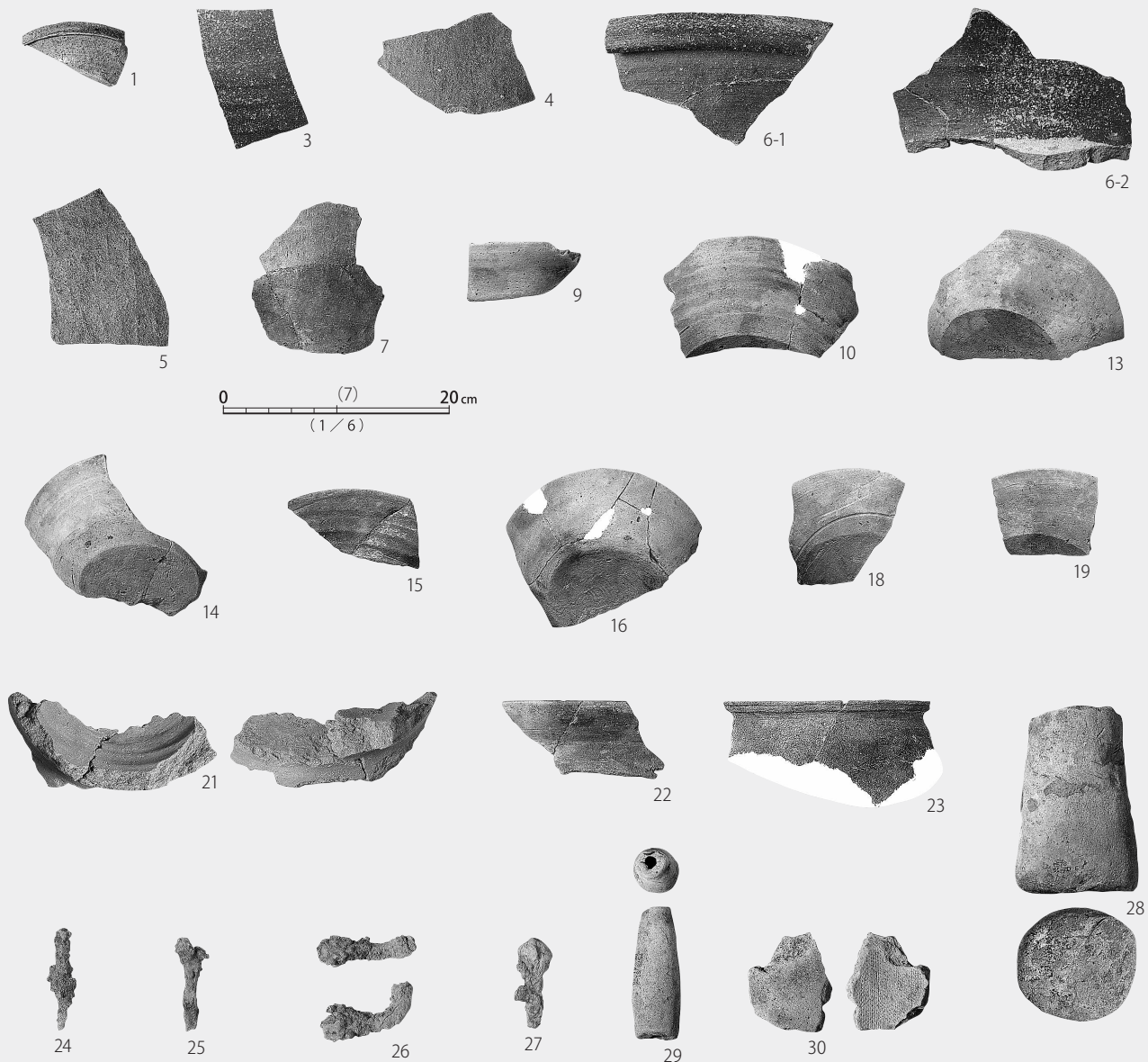


SK039-3

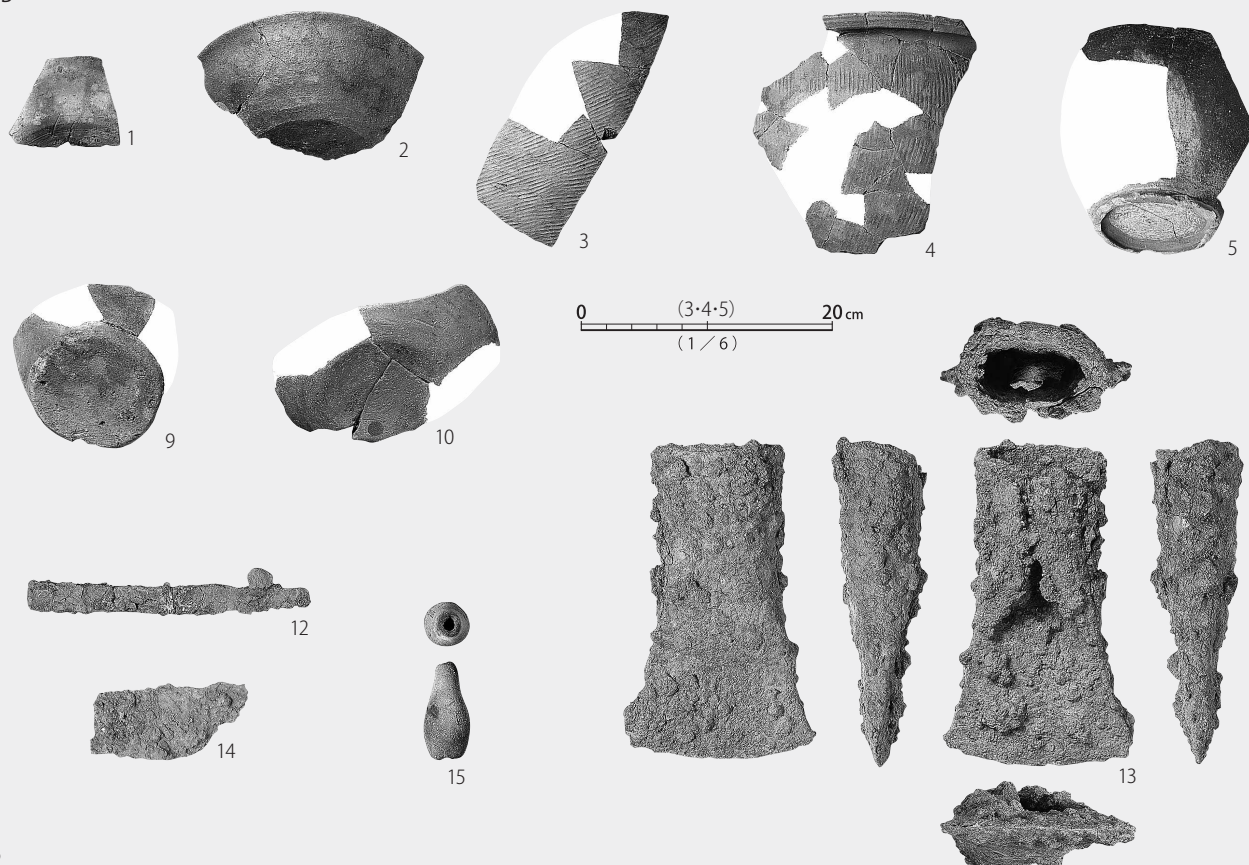
SI001



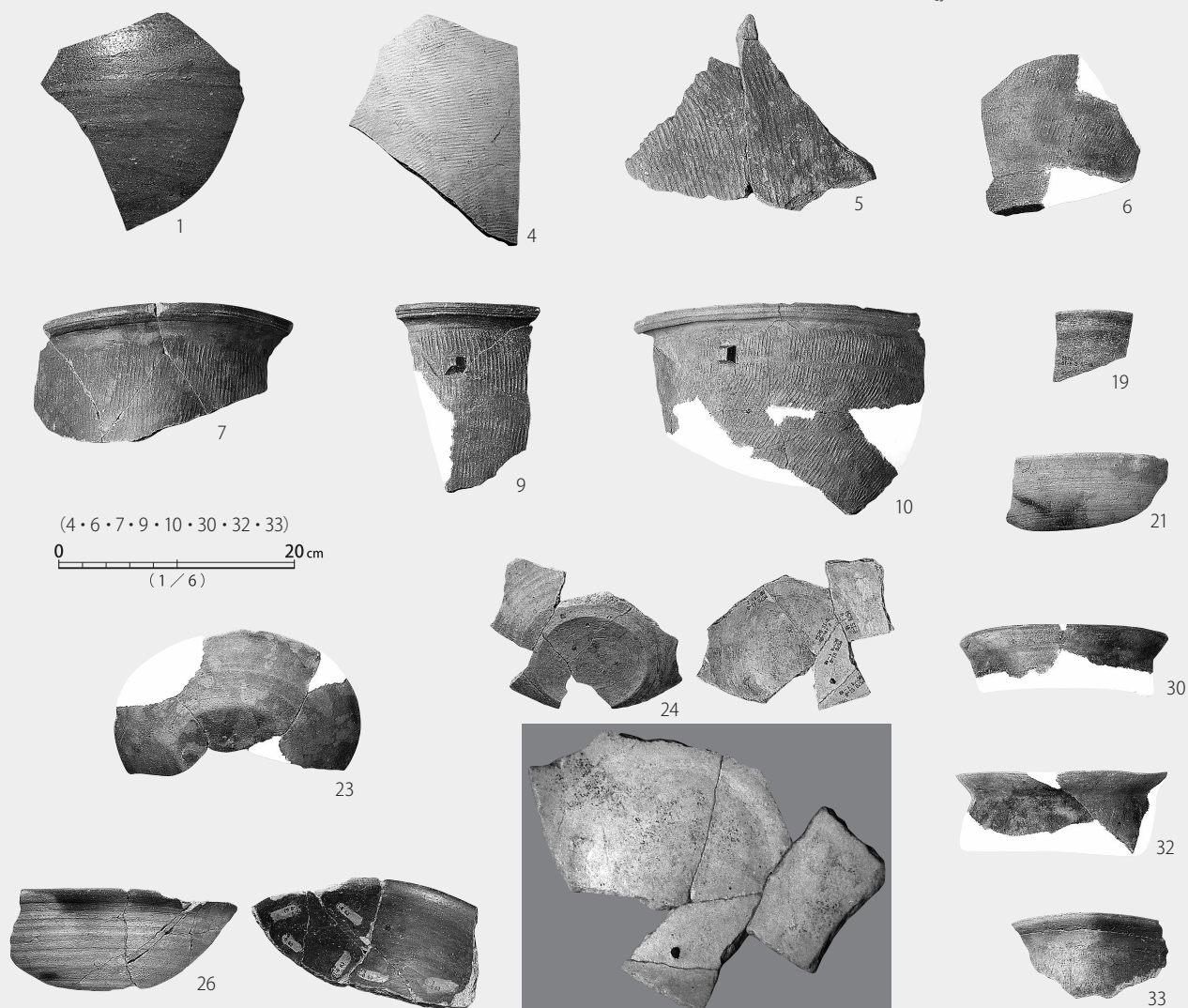
SI001A



SI001B

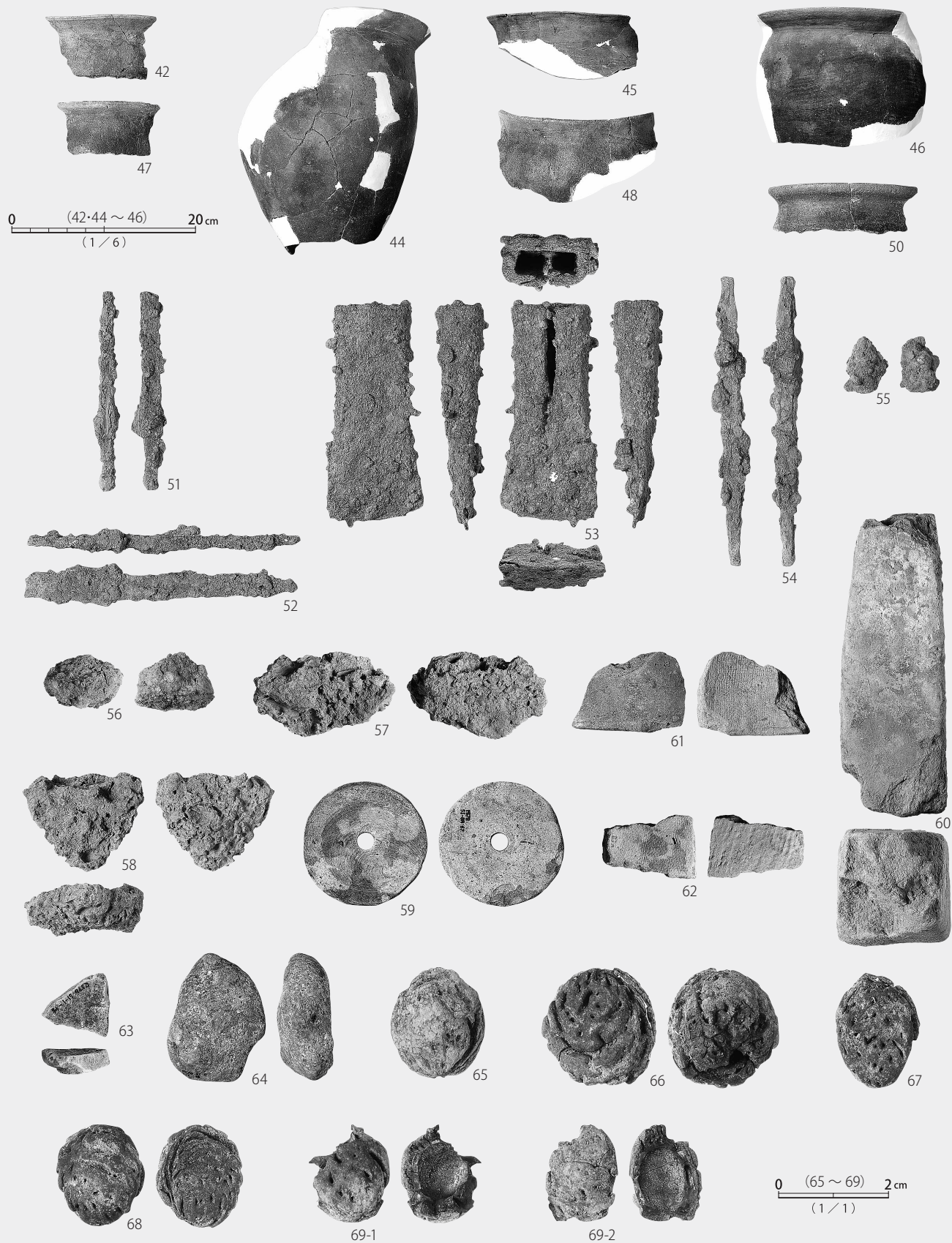


SI002



墨書 (赤外線)

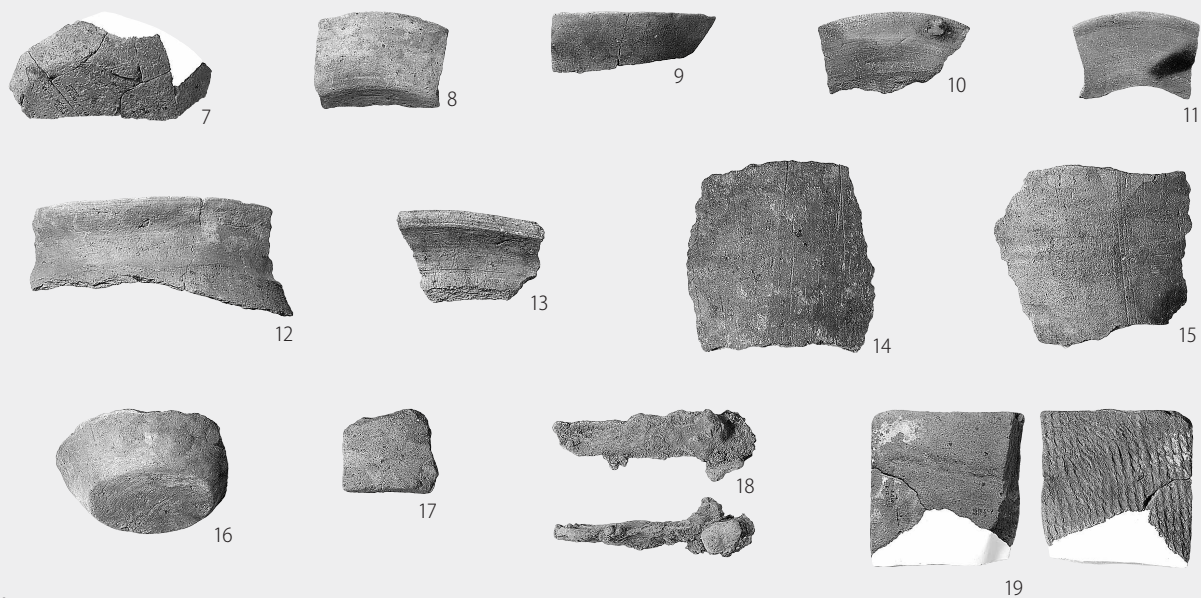
SI002



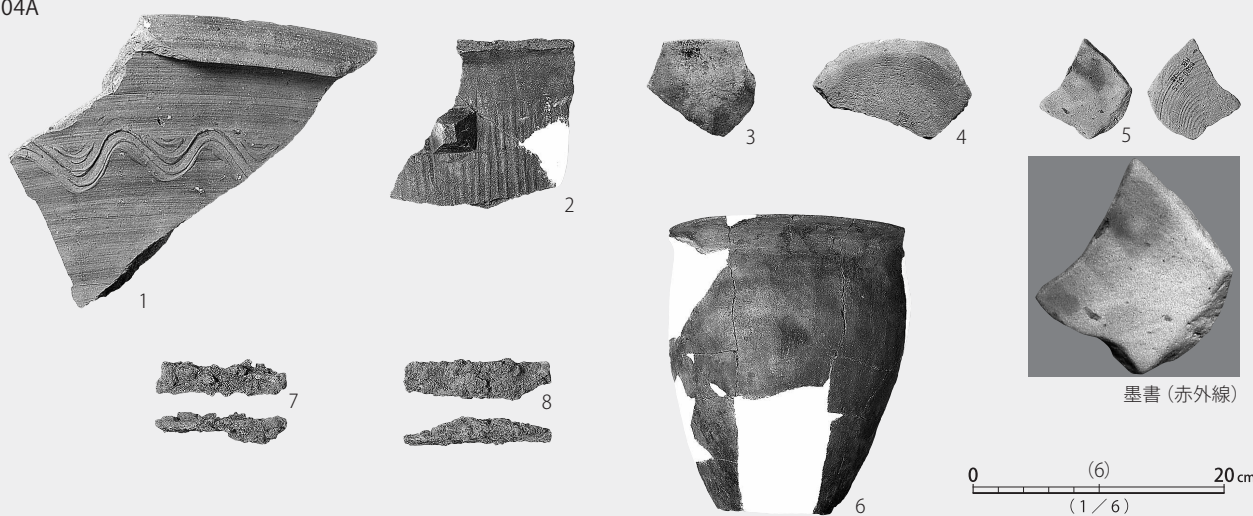
SI003



SI003

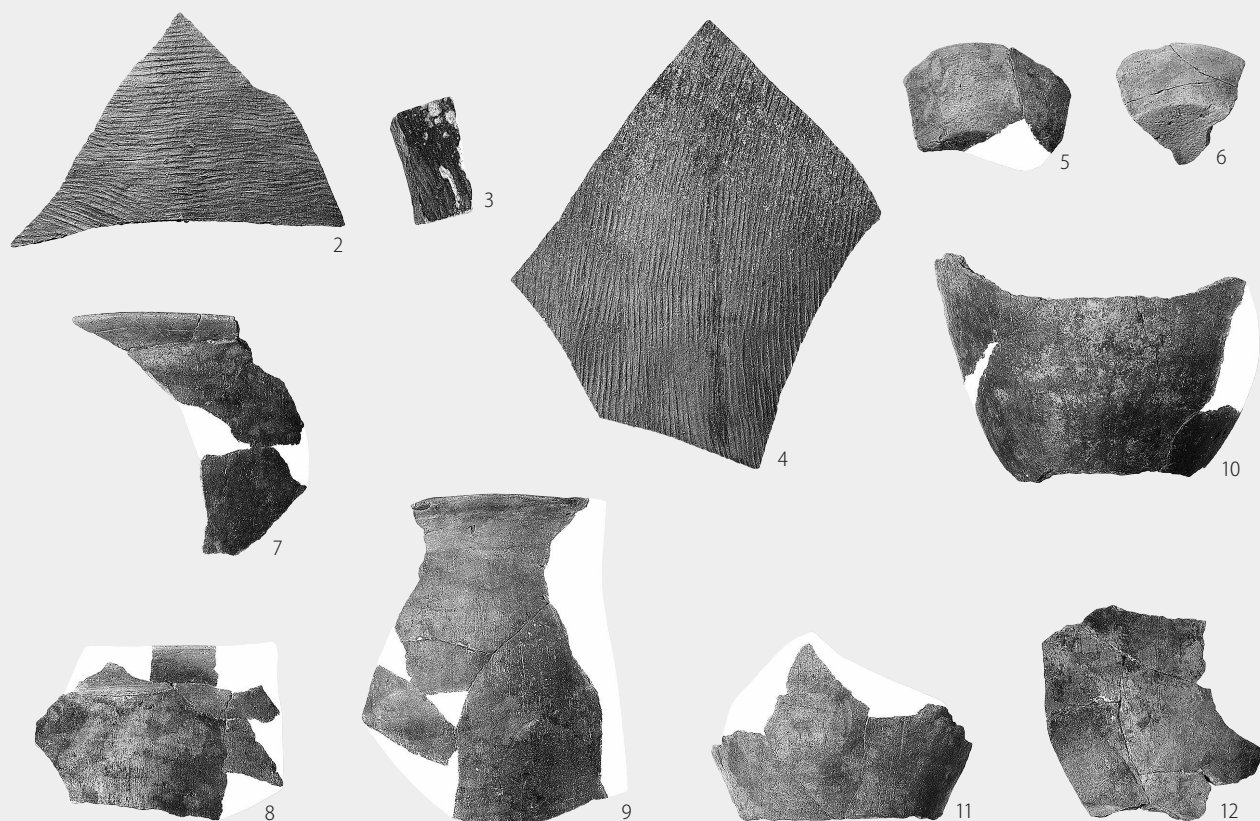


SI004A



墨書 (赤外線)

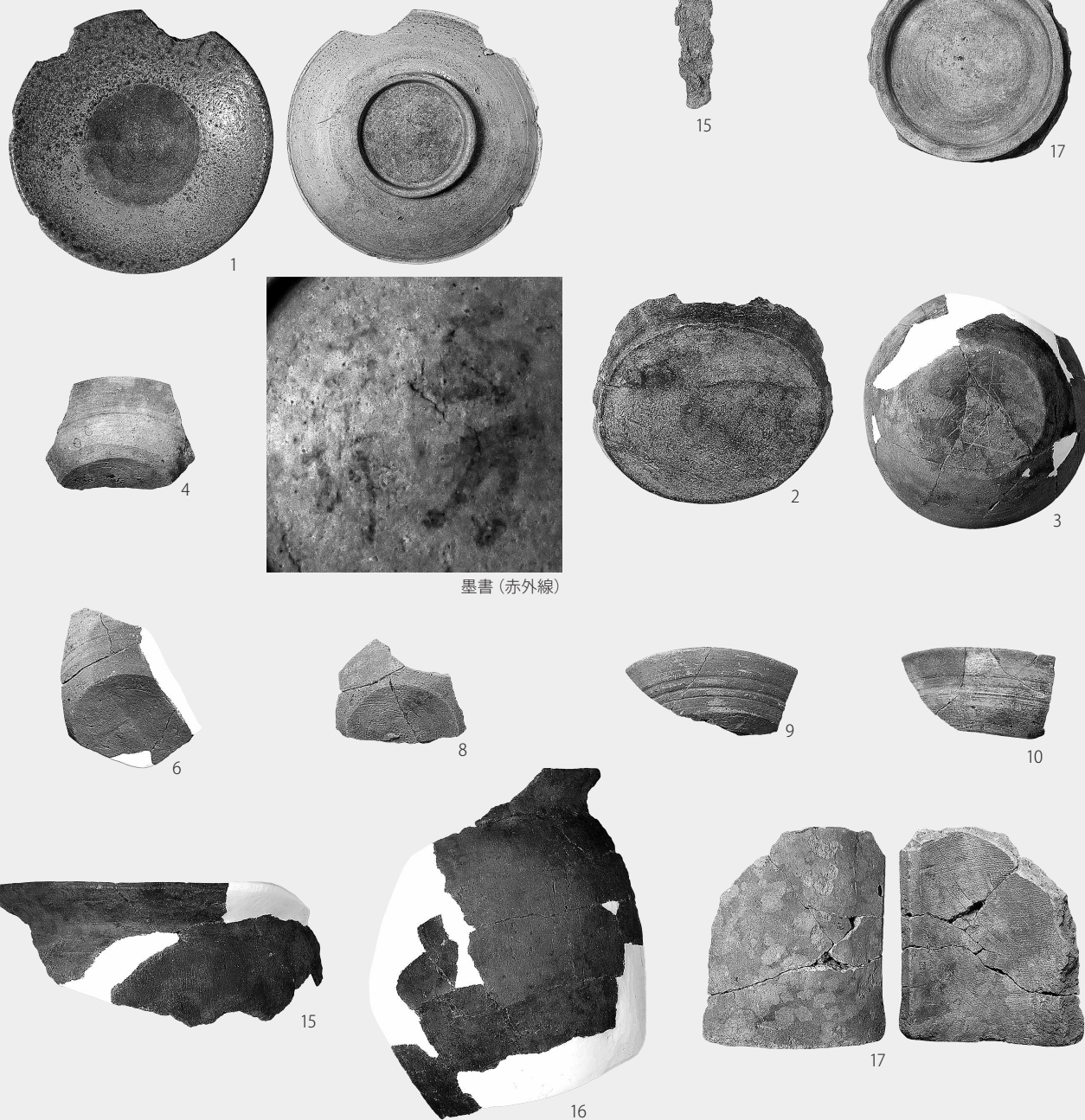
SI005



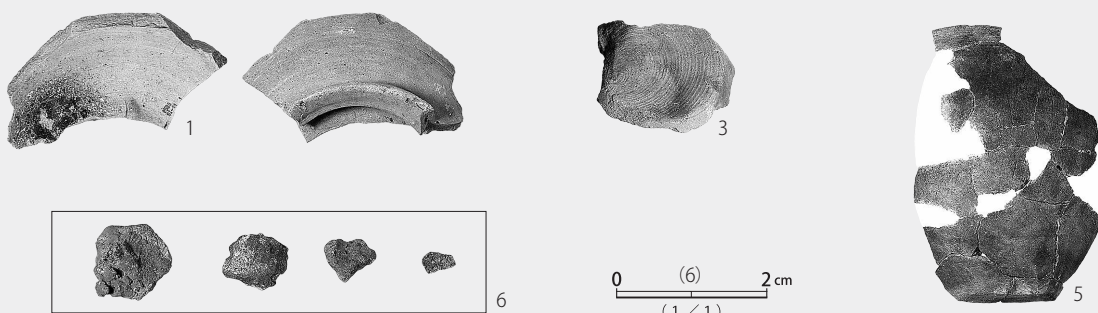
SI005



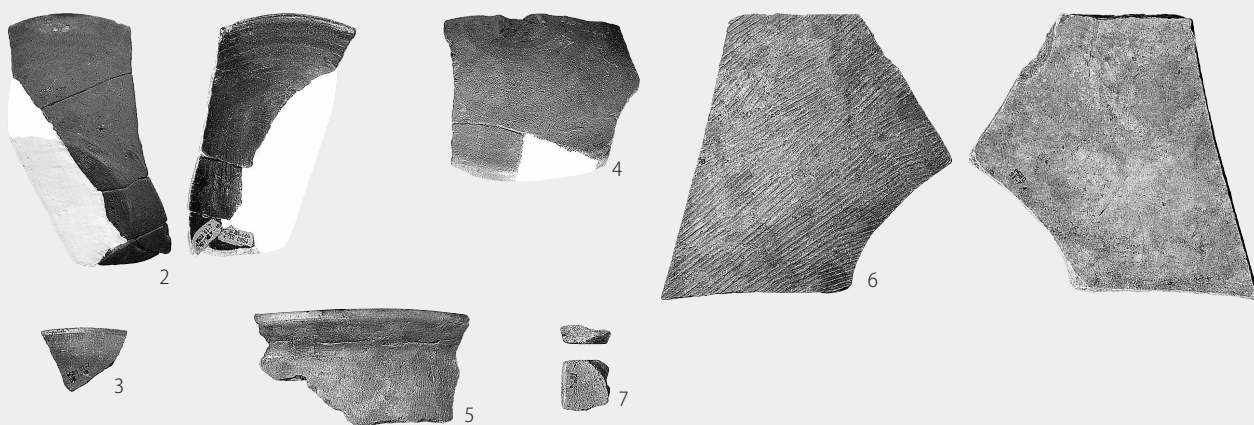
SI006



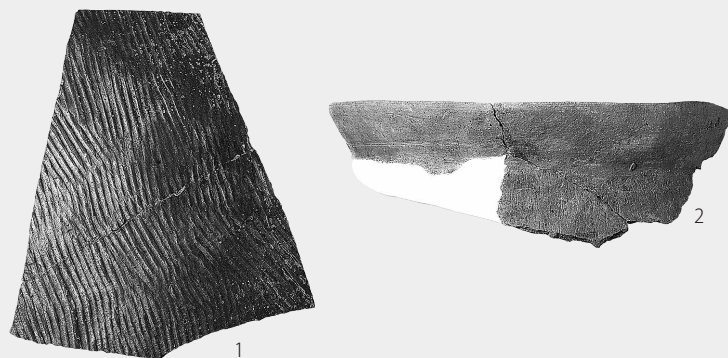
SI007



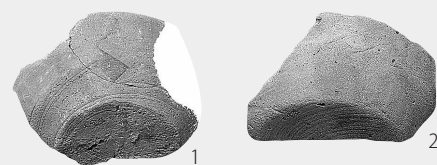
SI008



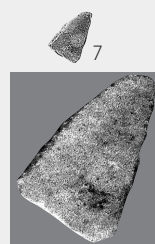
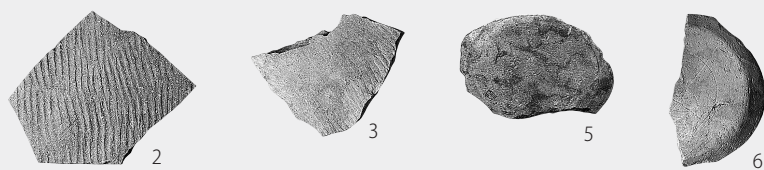
SI009



SB001



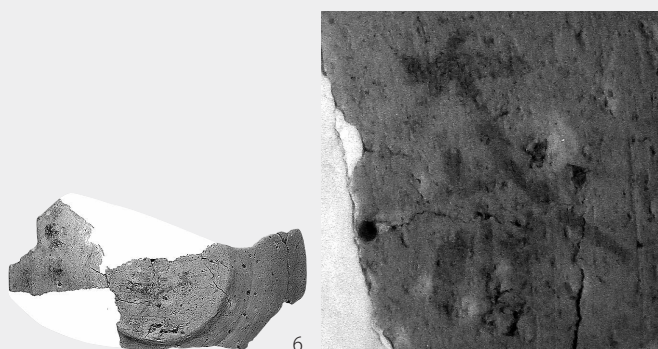
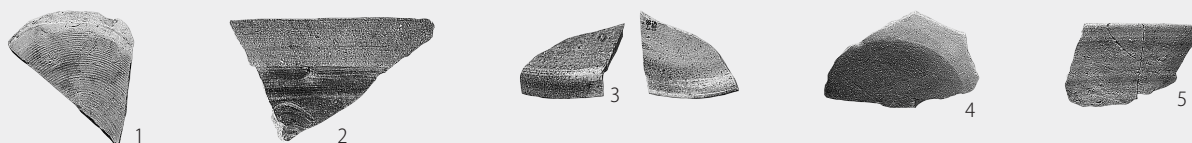
SB002



墨書 (赤外線)

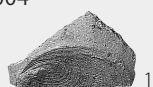


SB003



墨書 (赤外線)

SB004



SA001



SB005

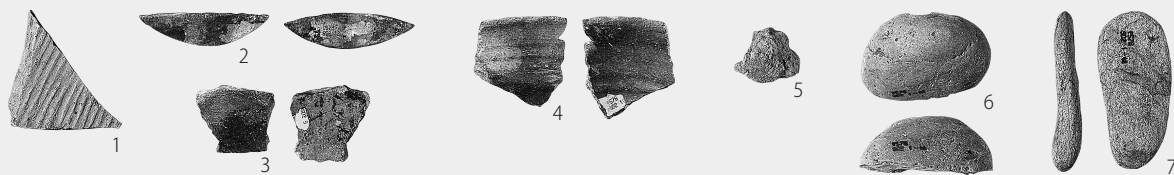


墨書 (赤外線)

SD001



SD002



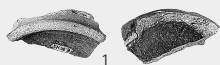
SD003



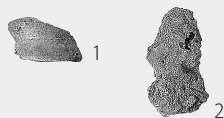
SK001



SK004



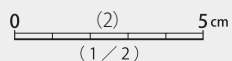
SK010



SK015



SK031



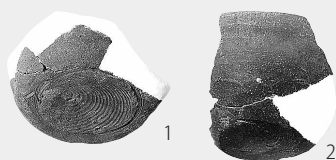
SK036



SK038



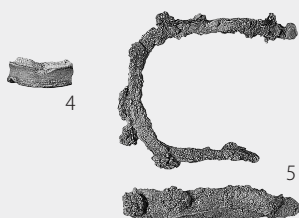
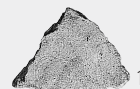
SK039



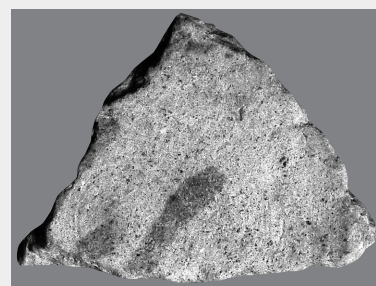
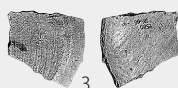
SK043



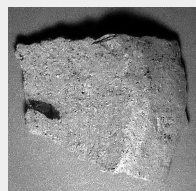
SK048



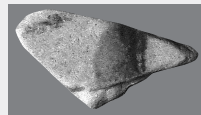
遺構外



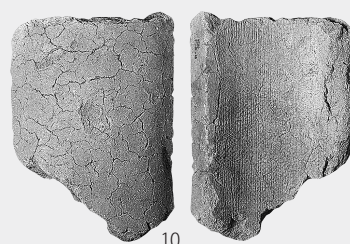
墨書 (赤外線)



墨書 (赤外線)



墨書 (赤外線)



報 告 書 抄 録

ふりがな	いちはらしいなりだいいせきびーちてん								
書 名	市原市稲荷台遺跡 P 地点								
副書名									
巻 次									
シリーズ名	市原市埋蔵文化財調査センター調査報告書								
シリーズ番号	第 52 集								
編著者名	齊木 誠								
編集機関	市原市教育委員会（市原市埋蔵文化財調査センター）								
所在地	〒 290-0011 千葉県市原市能満 1489 番地 TEL 0436（41）9000								
発行年月日	2021 年（令和 3 年）3 月 26 日								
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		世界測地系		調査期間	調査面積	調査原因	
		市町村	遺跡番号	北緯	東経				
いなりだいいせきびーちてん 稲荷台遺跡 P 地点	いちはらしやまだぼし 市原市山田橋 2 丁目 4 番地 5 ほか	12219	792	35° 30′ 12″	140° 07′ 22″	20200124 ～ 20200327 20200402 ～ 20200529	836.8 m ²	保育所建設	
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項		
稲荷台遺跡 P 地点	集落、 古墳	縄文時代、 古墳時代～ 奈良時代、 奈良時代～ 平安時代、 中近世、 近世	縄文時代土坑 1 基、古墳時代～奈良時代土坑 6 基、奈良時代～平安時代竪穴建物跡 11 棟、平安時代掘立柱建物跡 5 棟・柵列跡 2 列・土坑 4 基、中近世溝 2 条、近世溝 1 条、時期不明溝 2 条・土坑 37 基		縄文土器、弥生土器、土師器（古墳・奈良～平安時代）、須恵器（奈良～平安時代）、灰釉陶器、土師質土器（中近世）、鉄製品（鉄斧・帯金具など）、滓類（椀形滓など）、土製品（支脚など）、瓦、石器（磨石など）、石製品（砥石など）、種子（桃核）		SI002 では土師器の甕を筒状に繋ぎ合わせてカマドの煙道を構築する。竪穴内からは鉄滓・鉄塊系遺物・鍛造剥片が出土した。SI005 からは須恵器の杯を転用した朱墨パレットが、SI006 からは「西万」の墨書を有する灰釉陶器の皿と「大及」の線刻が施される土師器の杯が出土している。SK039 からは鉄製の帯金具が出土した。		
要 約	稲荷台遺跡 P 地点は、市原台地上の白幡川水系によって開析された標高 26 ～ 27m 程度の台地縁辺部に位置する。調査の結果、平安時代を中心とする竪穴建物跡や平安時代の掘立柱建物跡などを検出した。SI001・002 からは滓類や鍛造剥片などの製鉄関連遺物が出土し、SI002 ではカマドのほかに炉が存在することから、これらは鍛冶工房とみられる。また、隣接する SB001・002・003 は鍛冶工房に関連した建物と思われる。上記から、当地点一帯は稲荷台遺跡の維持・管理集落であったと考えられる。								

市原市埋蔵文化財調査センター調査報告書第 52 集

市原市稲荷台遺跡 P 地点

令和 3 年 3 月 26 日 発行

編 集	市原市埋蔵文化財調査センター 千葉県市原市能満 1489 TEL 0436（41）9000
発 行	社会福祉法人おもいやり福祉会 市原市教育委員会 千葉県市原市国分寺台中央 1-1-1 TEL 0436（22）1111
印 刷	株式会社 弘 文 社 千葉県市川市市川南 2-7-2 TEL 047（324）5977

